

Gentran:Server® for Windows®

アプリケーション
インテグレーション
ユーザー ガイド

バージョン 5.0

Sterling Commerce
An IBM Company

著作権に関する表示

Gentran:Server for Windows

© Copyright 1995 - 2004
Sterling Commerce, Inc.
ALL RIGHTS RESERVED

スターリング コマース ソフトウェア

営業秘密に関する表示

GENTRAN:SERVER FOR WINDOWS ソフトウェア (「スターリング コマース ソフトウェア」) は、米国スターリング コマース社、その関連企業またはそのライセンスの機密と営業秘密を有する財産であり、プロダクト使用契約の条件に基づいて提供されます。事前の書面による許可のない複製または開示は禁じられています。権利は制限されています。

本資料、本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェア、およびそれらに含まれる情報とノウハウは、スターリング コマース、その関連企業またはそのライセンスの専有的な、秘密の、財産的価値を有する営業秘密であり、許可されていない目的のために使用することおよび適正なスターリング コマースからの事前の書面による承認を受けることなく第三者に開示することは禁じられています。本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは、その複製、変更および使用を禁止または規制する条項が規定されたプロダクト使用契約に基づいて提供されます。複製を許可された場合には、複製が部分的であるか全体的であるかを問わず、その複製物にこの営業秘密表示とスターリングコマースの著作権表示を表示するものとします。

FAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料が提供された場合は、Title 48 CFR 52.227-19 による制限付きの権利として提供されます。また、DFAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料とスターリング コマース ソフトウェアが提供された場合は、商業用ソフトウェアと商業用ソフトウェア資料に関する Title 48 CFR 227-7202 の記載に基づくスターリング コマースの一般的な実施許諾契約に基づいて提供されます。

これらの条件の準拠法は、米国オハイオ州法 (法の抵触に関する規定を除く) が適用されます。締結済みの契約に基づいてスターリング コマース ソフトウェアを使用している場合には、これらの条件は当該締結済み契約に優先するものではなく、また、これを修正するものでもありません。

本資料に記載されている製品名は、該当各社の商標または登録商標である場合があります。Gentran 及び Gentran:Server はスターリングコマースの登録商標です。

サードパーティソフトウェア

スターリング コマース ソフトウェアの一部には、サードパーティ (「サードパーティ ライセンサ」) から提供された製品 (「サードパーティソフトウェア」) が含まれる場合や、サードパーティソフトウェアと同一の記録媒体で配布される場合があります。

保証の放棄

本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは「現状のもの」として、またはスターリング コマースのプロダクト使用契約で規定された「限定保証」とともに提供されるものとします。「限定保証」以外には、商品性および特定目的への適合性を含みいかなる明示的および黙示的保証も行われません。スターリングコマースは適宜本表示を改訂し、又はその内容を変更できるものとし、その改訂又は変更をいかなる個人又は法人に対しても通知する義務を負わないものとします。

サードパーティソフトウェアは、商品性の黙示的保証および特定目的への適合性を含めて (ただしこれらに限定されない)、いかなる保証ならびに明示的および黙示的保証も伴わずに「現状のもの」として提供され、いかなる保証も行われません。また、米国国内に居住するか、本ソフトウェアを米国国内で使用している場合、所有権または権利の非侵害に関する明示的および黙示的保証は行われません。

目次

本書について

- ▶ はじめに viii
- ▶ 本書の構成 ix
- ▶ サポート情報 xi

アプリケーション インテグレーションについて

マッピングについて 1-2

- ▶ 主な用語と概念 1-2
- ▶ アプリケーション インテグレーションおよびフォーム インテグレーションの使用方法 1-4
- ▶ インバウンド トランスレーション プロセスおよびアウトバウンド トランスレーション プロセス 1-5
- ▶ アプリケーション ファイル形式 1-6
- ▶ EDI ファイル形式 1-8

アプリケーション インテグレーション サブシステムについて 1-12

- ▶ 概要 1-12
- ▶ アプリケーション インテグレーションの操作方法 1-13
- ▶ アプリケーション インテグレーションによるマップの作成方法 1-14

マップの設計

概要 2-3

- ▶ はじめに 2-3
- ▶ 準備と分析 2-4

グローバルな既定値の設定 2-6

- ▶ 表示のカスタマイズ 2-6
- ▶ グローバル表示オプションのカスタマイズ方法 2-7
- ▶ グローバルな色のカスタマイズ方法 2-9
- ▶ グローバルなフォントのカスタマイズ方法 2-11
- ▶ 連結のグローバルな表示のカスタマイズ方法 2-13
- ▶ マップ バージョンの自動増分のカスタマイズ方法 2-15
- ▶ マップの入力側と出力側のサイズの均等化 2-17
- ▶ 既定の日付書式の設定方法 2-18

マップの作成と詳細の定義 2-20

- ▶ マップの新規作成方法 2-20
- ▶ トランスレーション オブジェクトの詳細の定義方法 2-29

▶	定義ファイルの読み込み方法	2-37
▶	定義ファイルの保存方法	2-39
▶	EDI マップ コンポーネントをアクティブにする方法	2-41
▶	自動整列の使用法	2-43
▶	グループおよび繰り返しセグメントのプロモート方法	2-45
▶	グループおよび繰り返しセグメントの分割方法	2-48
▶	コピー、切り取り、貼り付け機能の使用法	2-52
固定形式ファイルの使い方		2-56
▶	概要	2-56
▶	ファイル形式のプロパティの調整方法	2-57
▶	最初のレコードの作成方法	2-59
▶	2つ目以降のレコードの作成方法	2-62
▶	一時レコードの作成方法	2-64
▶	グループの作成方法	2-69
▶	フィールドの作成方法	2-71
EDI ファイルの使い方		2-76
▶	概要	2-76
▶	EDI 区切文字の検証方法	2-77
▶	グループ プロパティの修正方法	2-80
▶	セグメント プロパティの修正方法	2-82
▶	ループ開始とループ終了セグメントの使用法	2-85
▶	複合プロパティの修正方法	2-91
▶	エレメント プロパティの修正方法	2-93
CII ファイルの使い方		2-98
▶	概要	2-98
▶	CII ファイル プロパティの修正方法	2-99
▶	グループの作成方法	2-101
▶	TFD の作成方法	2-103
データの書式		2-108
▶	概要	2-108
▶	文字列型の使用法	2-109
▶	シンタックス トークンの削除方法	2-115
▶	シンタックス トークンの使用法	2-116
▶	番号型の使用法	2-118
▶	日/時型の使用法	2-121
マップの完成		2-125
▶	シンプルな連結の作成方法	2-125
▶	バイナリ セグメントのマッピング方法	2-127
▶	マップのコンパイル方法	2-131
▶	コマンドラインを使用したマップのコンパイル方法	2-134
▶	マッピング レポートの印刷方法	2-135

スタンダード ルールの使い方

概要	3-3
▶ はじめに	3-3
Select スタンダード ルールの使い方	3-4
▶ 概要	3-4
▶ パートナーの定義情報の使用方法	3-11
▶ クロスリファレンス テーブル情報の使用方法	3-13
▶ 所在地テーブル情報の使用方法	3-16
▶ 照合テーブル情報の使用方法	3-18
Update スタンダード ルールの使い方	3-20
▶ 概要	3-20
▶ ドキュメント名と参照の設定方法	3-23
System Variable スタンダード ルールの使い方	3-26
▶ 概要	3-26
▶ システム日付 / 時刻の使用方法	3-27
Use Constant スタンダード ルールの使い方	3-28
▶ 概要	3-28
▶ マップ内での定数の使用方法	3-32
▶ 修飾関係の定義方法	3-33
▶ リテラル定数の定義方法と編集方法	3-35
▶ リテラル定数の削除方法	3-36
▶ リテラル定数のマッピング方法	3-37
▶ 修飾子の生成方法	3-38
Loop Count スタンダード ルールの使い方	3-39
▶ 概要	3-39
▶ Loop Count 機能の使用方法	3-41
Use Accumulator スタンダード ルールの使い方	3-42
▶ 概要	3-42
▶ ライン アイテムのカウンタ方法	3-48
▶ ハッシュ トータルの計算方法	3-51
▶ 合計値のリセット方法および計算方法	3-54
Use Code スタンダード ルールの使い方	3-62
▶ 概要	3-62
▶ コードリスト テーブルと照合するデータの検証方法	3-68
▶ コードリストの定義方法と修正方法	3-70
▶ コードリストまたはコードリスト登録の削除方法	3-71
▶ コードリストのインポート方法	3-72
▶ コードリストのエクスポート方法	3-74
▶ スタンダードからのコードリスト テーブルの読み込み方法	3-76
▶ コードリストのコピー方法と貼り付け方法	3-78
▶ コードリスト テーブルと照合するデータの検証方法	3-79
▶ コード アイテムの説明のマッピング方法	3-80

インポート処理の設定

- ▶ 概要 4-2
- ▶ データのインポート 4-3
- ▶ システム構成の修正方法 4-5
- ▶ システム インポート マップの作成方法 4-6
- ▶ 6つのフィールド キーの定義方法 4-8
- ▶ 代用キーの定義方法 4-15
- ▶ システム インポート トランスレーション オブジェクトのコンパイル方法 4-22

エクスポート処理の設定

- ▶ 概要 5-2
- ▶ データのエクスポート前のインバウンド処理 5-3
- ▶ エンベロープの補足情報の使用方法 5-5

拡張ルールの使い方

拡張ルールについて 6-4

- ▶ 概要 6-4
- ▶ 宣言のセクション 6-5
- ▶ ステートメントのセクション 6-6
- ▶ 拡張ルールを処理する場合 6-7

拡張ルールの定義 6-11

- ▶ 概要 6-11
- ▶ セッション ルールの定義方法 6-12
- ▶ マップ コンポーネント ルールの定義方法 6-14

拡張ルール シンタックス 6-16

- ▶ 概要 6-16
- ▶ キーワードとコマンド 6-17
- ▶ オペレータ 6-19
- ▶ 記号 6-20

一般的なステートメントと例 6-24

- ▶ 概要 6-24
- ▶ 割り当て 6-25
- ▶ 日/時表現 6-26
- ▶ 条件付き論理 6-28
- ▶ 条件を表す文字列と関数 6-30
- ▶ 数値の関数 6-32
- ▶ エラーを発生させる関数 (CERROR) 6-33
- ▶ フィールド値を削除する関数 (EMPTY) 6-34
- ▶ データの存在の関数 (EXIST) 6-35
- ▶ カウントの関数 (COUNT) 6-36
- ▶ 削除の関数 (DELETE) 6-37
- ▶ ファイル ポインタの関数 (FSEEK, FTELL) 6-38

▶ データのブロックの関数 (READBLOCK, WRITEBLOCK)	6-39
▶ 選択の関数 (SELECT)	6-40
▶ 更新の関数 (UPDATE)	6-41
▶ 挿入の関数 (INSERT)	6-42
▶ User Exit の関数 (EXEC)	6-43
▶ ActiveX と User Exit の関数	6-44
アルファベット順リファレンス	6-46
▶ 概要	6-46
▶ atoi	6-47
▶ aton	6-48
▶ auditlog	6-49
▶ begin	6-51
▶ break	6-52
▶ cerror	6-53
▶ concat	6-60
▶ continue	6-61
▶ count	6-62
▶ createobject	6-63
▶ date	6-64
▶ delete	6-66
▶ deleteobject	6-67
▶ empty	6-68
▶ end	6-69
▶ exec	6-70
▶ exist	6-71
▶ fseek	6-72
▶ ftell	6-73
▶ get	6-74
▶ getiid	6-75
▶ if then...else	6-76
▶ index	6-77
▶ insert	6-78
▶ left	6-80
▶ len	6-81
▶ messagebox	6-82
▶ mid	6-84
▶ ntoa	6-85
▶ param	6-86
▶ queryobject	6-87
▶ readblock	6-88
▶ readbytes	6-89
▶ right	6-90
▶ select	6-91

▶ set	6-92
▶ strdate	6-93
▶ strstr	6-95
▶ unreadblock	6-96
▶ update	6-97
▶ while...do	6-98
▶ winexec	6-99
▶ writeblock	6-102
▶ writebytes	6-103
▶ " 選択 " および " 更新 " で使用できるオプション	6-104

エラー メッセージ

▶ 概要	A-2
▶ コンパイル エラー メッセージ	A-3
▶ Gentran:Server エラー メッセージ	A-20
▶ トランスレータ レポート エラー メッセージ	A-27

User Exit

▶ 概要	B-2
▶ ActiveX 用語の定義	B-3
▶ Gentran:Server User Exit の概要	B-4
▶ User Exit の使用例	B-7
▶ オートメーション サーバーの例	B-12
▶ User Exit の作成方法	B-16

GentranEx.DLL の使い方

概要	C-2
▶ はじめに	C-2
データベース アクセス	C-3
▶ 概要	C-3
▶ データベース アクセスの実装	C-4
デバッグ	C-6
▶ 概要	C-6
▶ デバッグの実装	C-7
ルール拡張	C-10
▶ 概要	C-10
▶ ルール拡張の実装	C-11

トランスレータ コマンドライン インターフェイスの使い方

▶ はじめに	D-2
▶ コマンドライン シンタックス	D-3

用語解説

本書について

目次

▶ はじめに	viii
▶ 本書の構成	ix
▶ サポート情報	xi

はじめに

はじめに

スターリング コマースの Windows 用電子データ インターチェンジ (EDI) マッピング ソフトウェア、Gentran:Server[®] for Windows[®] アプリケーション インテグレーション サブシステムをお買い上げいただきありがとうございます。

Gentran:Server は、次のトランスレーションに必要なツールを提供します。

- ▶ 使用しているアプリケーション ファイルを、パートナーに送信する EDI スタンダード形式のドキュメントに変換 (アウトバウンド マッピング)
- ▶ パートナーから受信する EDI スタンダード形式のドキュメントを、使用しているアプリケーションのファイルに変換 (インバウンド マッピング)

このソフトウェアおよびサポート ツールは使いやすく、業務にすぐ役立てることができます。

本書の構成

前提知識

このマニュアルの前提知識として、PC および Microsoft® Windows の次の機能に関する知識が必要です。

- ▶ マウスおよびカーソルの動作を説明する用語。
- ▶ Windows の属性を説明する用語 (ダイアログ ボックス、アイコン、ウィンドウ、およびボタンなど)。

また、このマニュアルの前提知識として、EDI のコンセプト、EDI スタンダード構造、内部アプリケーション形式、データ マッピングのコンセプト、および Gentran:Server 製品に関する知識が必要です。

本書の内容

このマニュアルの内容の大半がオンライン ヘルプ システムにも記載されています。このマニュアルでは、オンライン ヘルプを補完することを目的に、アプリケーション インテグレーション サブシステムで実行できる各種タスクについて、その実行手順を含め詳しく解説しています。タスクの手順を解説しているこのマニュアルは、ステップバイステップ方式で Gentran:Server のインストールに関するあらゆる質問に答えることを目的としています。

この『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』は、次の章から構成されています。各章の概要を説明します。

- ▶ 第 1 章「アプリケーション インテグレーションについて」では、このマニュアルの内容、構成、表記、およびシステム要件について説明します。また、この章には、詳しいオンライン ヘルプ システムの使用方法、サポート情報、およびアプリケーション インテグレーション サブシステムを使用したマップのビルド方法のほか、マッピングおよび Gentran:Server for Windows の基本的な説明も記載されています。
- ▶ 第 2 章「マップの設計」では、新規マップの作成、固定書式、EDI、および CII ファイルの使用、マップの基本操作 (開く、保存、名前を付ける)、マップのコンパイル、マッピング レポートの印刷など、アプリケーション インテグレーション サブシステムの基本的な機能の操作方法について説明します。また、この章には、表示オプションのカスタマイズ、既定の日付書式の設定、使用するマップ コンポーネントの選択、切り取り、コピー、貼り付け、ドキュメントの名前と参照のセットアップ、データの書式設定、およびフィールド間のリンクに関する説明も記載されています。
- ▶ 第 3 章「スタンダード ルールの使い方」では、アプリケーション インテグレーションのスタンダード ルール (select、update、constant、use accum、loop count、および use code) の使用方法について説明します。また、この章には特定のスタンダード ルールをいつ使用するのかを示す例も記載されています。

(次のページへ続く)

本書の内容 (続き)

- ▶ 第4章「インポート処理の設定」では、インポート処理をあらゆる角度から説明、インポートファイルに関する制限の定義、およびシステムインポートマップの作成方法について説明します。
- ▶ 第5章「エクスポート処理の設定」では、エクスポート処理に関する詳細、エンベロープ情報の使用方法について説明します。
- ▶ 第6章「拡張ルールの使い方」では、拡張ルールとは何か、いつ使用するのか、および専用プログラミング言語のシンタックスについて説明します。
- ▶ 付録A「エラーメッセージ」では、Gentran:Server - アプリケーションインテグレーションのエラーメッセージおよびその修正方法を解説します。
- ▶ 付録B「User Exit」では、Gentran:Server での user exit の使用方法を説明します。
- ▶ 付録C「GentranEx.DLL の使い方」では、Gentran:Server インプロセスオートメーションサーバーである GentranEx.DLL の使用方法について説明します。
- ▶ 付録D「トランスレータ コマンドライン インターフェイスの使い方」では、トランスレータ コマンドライン インターフェイスを使用して、TX32.EXE トランスレータのサービスを呼び出し、XML 形式によるトランスレータレポートの生成などの Gentran:Server 外部でのトランスレーションの実行について説明します。
- ▶ 「用語解説」では、マッピングと Gentran:Server の用語や概念について解説します。

オンライン ヘルプシステム

このマニュアルの内容の大半がオンライン ヘルプシステムにも記載されています。このマニュアルに記載されている全ダイアログ ボックス要素の定義、処理の詳細情報、操作手順の説明は、すべてオンライン ヘルプにも含まれています。

サポート情報

はじめに

スターリング コマース社では、Gentran:Server ソフトウェアに関する質問や問題についてお答えするため、熟練した製品サポート担当者によるサポートを提供しています。

メモ

Gentran:Server のカスタマ サポートは、スターリング コマース社以外の製品 (SQL Server、Oracle など) のサポートは行っていません。ただし、他社の製品を Gentran:Server と併用できるように構成するサポートは提供しています。

電話番号

ご利用になるサポート電話番号は、『インストール準備 カード』を参照してください。

サポートに連絡する前に

迅速なサポートを提供するため、次の事項についてご協力をお願いします。

- まず、発生した問題を再現してみて、イベントの正確な順序を記録してください。
- 製品サポートへのお問い合わせの際には、下記の情報をご用意ください。

情報	説明
ユーザー情報	会社名、氏名、電話番号および内線番号、およびケース番号 (以前に報告された問題を照会する場合)。
システム構成	Gentran:Server バージョン (およびインストールされているサービス パック)、プライマリ Gentran システム コントローラおよび問題が発生しているすべてのコンピュータの情報。Windows オペレーティング システムのバージョン、搭載メモリ、有効ディスク容量、データベース バージョン、Microsoft Data Access (MDAC) のバージョン、および Internet Explorer のバージョン。 ハードウェア、ソフトウェア、およびシステムの構成に対して加えた最近の変更も記入してください。
システム データ ストア	どのコンピュータがシステム データ ストア内にフォルダを格納しているのか。 (次のページへ続く)

情報	説明
エラー メッセージ	表示されたエラー メッセージの正確な語句表現とソフトウェアでのエラーが発生した時点、およびログファイルも記録してください。
試みた解決策	問題の解決を試みた際の手順とその結果の記録、推定される問題の発生回数と問題を再生することができるかどうかを報告してください。

スターリング コマース社 Support Web Site (英語)へのアクセス

スターリング コマース社 Customer Support Web Site は Gentran:Server for Windows のサポートに関する次の重要な情報が記載されています。

- ▶ サポート サービスの範囲
- ▶ カスタマ サポート ポリシー
- ▶ 優先コール
- ▶ カスタマ サポートの電話番号一覧
- ▶ Support on Demand ケースの作成方法
- ▶ Support on Demand ケースのステータスの確認方法
- ▶ Support on Demand ケースへの情報追加の方法

Customer Support Web Site は常にアップデートされており、スターリング コマース製品のユーザーの皆様にご利用いただけます。この Web サイトには、最新の製品アップデート情報が記載されています。製品情報に関する重要な情報源としてご活用ください。

参照

Customer Support World Wide Web Site へのアクセス方法に関する情報については、『インストール準備 カード』を参照してください。

マニュアル

Customer Support Web Site にはドキュメント ライブラリがあり、Gentran:Server for Windows マニュアル セットがすべて含まれています。随時このライブラリから製品マニュアルを PDF フォーマットでダウンロードできます。

アプリケーション インテグレーション について

目次

マッピングについて	2
▶ 主な用語と概念	2
▶ アプリケーション インテグレーションおよび フォーム インテグレーションの使用方法	4
▶ インバウンド トランスレーション プロセスおよび アウトバウンド トランスレーション プロセス	5
▶ アプリケーション ファイル形式	6
▶ EDI ファイル形式	8
アプリケーション インテグレーション サブシステムについて	12
▶ 概要	12
▶ アプリケーション インテグレーションの操作方法	13
▶ アプリケーション インテグレーションによるマップの作成方法 ..	14

マッピングについて

主な用語と概念

マップ

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムで定義する一連の手順。自社のアプリケーション ファイルと EDI スタンダード (日本産業情報化推進センター (CII : Center for the Information of Industry) スタンダードを含む) 間の対応関係を示し、システムがデータをトランスレーションする方法を定義します。

インバウンド マッピング

インバウンド マッピングでは、トレーディング パートナーの EDI スタンダード形式のビジネス ドキュメントが自社のアプリケーション ファイル形式にトランスレーションされます。インバウンド データをトランスレーションするには、Gentran:Server アプリケーション インテグレーションでエクスポート マップを作成する必要があります (アプリケーション ファイルへの "エクスポート処理" が、システムによって実行されるためです)。

アウトバウンド マッピング

アウトバウンド マッピングでは、ドキュメントをパートナーへ送信できるように、自社で使用されているアプリケーション ファイル形式が EDI スタンダード形式にトランスレーションされます。アウトバウンド データをトランスレーションするには、Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムでインポート マップとシステム インポート マップを作成する必要があります。

インポート マップ

システムによって、アプリケーション ファイルからの "インポート処理" が実行されるので、インポート マップを作成する必要があります。インポート マップは、自社のアプリケーション ファイル (複数のドキュメントで構成される場合もある) のデータを、パートナーが受け取る EDI スタンダード形式ドキュメントへ変換する方法を定義します (フラット ファイル定義)。

システム インポート マップ

ドキュメントの処理に使用するインポート マップをシステムが特定できるように、アプリケーション ファイル内の各ドキュメントに対応する取引関係 (パートナー エディタで作成) を指定するシステム インポート マップを作成する必要があります。

参照

システム インポート マップを作成する方法の詳細については、「[システム インポート マップの作成方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

ソース

アプリケーション インテグレーション サブシステムに作成されたマップは、トランスレーション オブジェクトのコンパイル元である "ソース" になります。

**トランスレーション
オブジェクト**

ファイルをある形式から別の形式に変換する方法をトランスレータに指示する一連のルール。トランスレーション中に実行するすべての機能には、トランスレーション オブジェクトが必要です。トランスレーション オブジェクトを使用して、Gentran:Server EDI トランスレーションのすべての機能を制御します。トランスレーション オブジェクトは、2つのカテゴリ (システム トランスレーション オブジェクトまたはユーザー トランスレーション オブジェクト) のいずれかに属します。

システム トランスレーション オブジェクト

システム トランスレーション オブジェクトでは、インターチェンジ、ファンクショナル グループ、およびトランザクション セットの作成と分割を制御します。また、ファンクショナル受信確認を生成したり、ファンクショナル受信確認との整合性をとるためにも使用されます。

ユーザー トランスレーション オブジェクト

ユーザー トランスレーション オブジェクトでは、データ入力、インポート、エクスポート、ターンアラウンド ドキュメント、および印刷レポート作成を制御します。必要なシステム トランスレーション オブジェクトはすべて、Gentran:Server システムによって自動的にインストールされます。

アプリケーション インテグレーションおよび フォーム インテグレーションの使用方法

はじめに

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、インポート、エクスポート、およびターンアラウンド ドキュメントのトランスレーション オブジェクトを作成できます。Gentran:Server フォーム インテグレーション サブシステムでは、データ入力および印刷のトランスレーション オブジェクトを作成できます。

トランスレーション オブジェクトの登録

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステム (または、Gentran:Server フォーム インテグレーション サブシステム) を使用してトランスレーション オブジェクトを作成したら、トランスレーション オブジェクトを Gentran:Server に登録する必要があります。

参照

詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「[トランスレーション オブジェクトの使い方](#)」を参照してください。

パートナー関係

さらに、データの送信先または受信元となるすべてのトレーディング パートナーに適切な取引関係を設定する必要があります。取引関係を設定する際に、トランスレータがデータのトランスレーションに使用する適切なトランスレーション オブジェクト名を指定する必要があります。

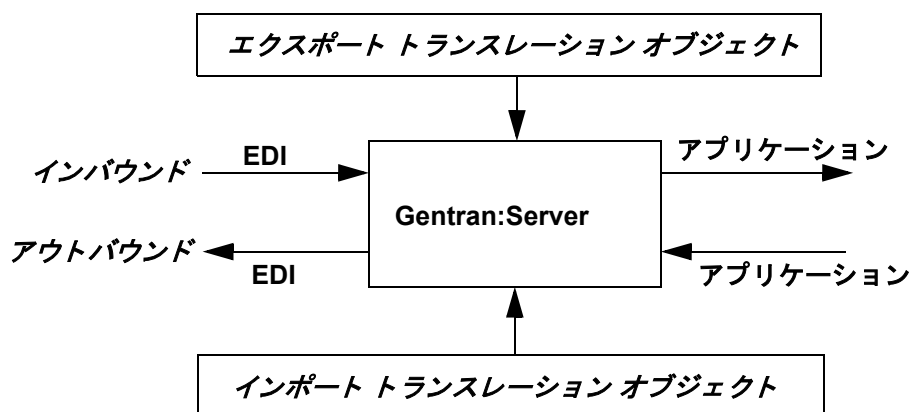
参照

詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「[パートナーの使い方](#)」を参照してください。

インバウンド トランスレーション プロセスおよび アウトバウンド トランスレーション プロセス

図

次の図に、インバウンド トランスレーション プロセスおよびアウトバウンド トランスレーション プロセスを示します。



アウトバウンド トランスレーション

インポート マップを作成する際、Gentran:Server に対して、自社のアプリケーション ファイル形式 (パートナーに送信するデータ) と EDI スタンダード形式 (パートナーが受信するドキュメント) を定義する必要があります。

インバウンド トランスレーション

エクスポート マップを作成する際、Gentran:Server に対して、EDI スタンダード形式 (パートナーが送信するドキュメント) と自社のアプリケーション ファイル形式 (自社のアプリケーションが処理できるデータ形式) を定義する必要があります。




アプリケーション ファイル形式

はじめに

インポート マップまたはエクスポート マップを作成する場合、Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムに対して、アプリケーション を定義する必要があります。Gentran:Server 用語では、アプリケーション ファイルは "固定形式ファイル" または "固定長ファイル" とも呼ばれます。データが正確に処理されるためには、アプリケーション ファイルに、パートナーのドキュメントから抽出するために必要な情報 (マップがインバウンドの場合)、またはパートナーに送信するために必要な情報 (マップがアウトバウンドの場合) のいずれかのすべての情報が含まれている必要があります。

マップ コンポーネント

次の表に、アプリケーション ファイルを定義するのに使用するマップ コンポーネントをわかりやすく表したアイコンを示します。

アイコン	説明
	<p>グループとは、ループ構造のことです。この構造には、グループ データが終了するまで、あるいはループの繰り返し可能最大数に達成するまで順次繰り返される関連レコードやグループが含まれます。</p> <p>他のグループに従属するグループ (サブグループ) を作成する場合、このグループはネストされたループ構造 (ループ内のループ) に対応します。</p>
	<p>レコードには、関連フィールドのグループが含まれます。レコードは一度だけ実行される場合と、複数回繰り返される場合があります。</p>
	<p>フィールドとは、アプリケーション ファイルで定義されている情報の最小単位のことです。また、フィールドとはアプリケーション マップ コンポーネントのことで、対応する EDI エレメントにマッピング (連結) して、アプリケーション ファイルとの間でデータをやり取りします。</p> <p>フィールドにマッピング処理が実行されている場合、フィールドのアイコンの上に赤いチェックマークが表示されます。</p>

(次のページへ続く)

始める前に

アプリケーションを定義する前に、必要なレコード、フィールド、およびグループのレイアウトを取得する必要があります。各マップ コンポーネントは、システムが処理するのに最も論理的な順番で並べられます。したがって、アプリケーションの各レベルは順次作成される必要があります。

例

アプリケーション ファイルには、レコードとグループが含まれます。レコードにはフィールドが、グループにはレコードとサブグループまたはどちらか一方が含まれます。つまり、レコードとグループを作成してから、それらに付属するフィールドを作成する必要があります。

参照

アプリケーション ファイル形式を定義する方法の詳細については、「[固定形式ファイルの使い方](#)」を参照してください。

EDI ファイル形式

はじめに

データが正確に処理されるためには、EDI ファイルに、パートナーから受信する情報 (マップがインバウンドの場合)、またはパートナーに送信する情報 (マップがアウトバウンドの場合) のいずれかのすべての情報が含まれている必要があります。

CII スタンドアードでない場合、選択したスタンドアード (エージェンシー)、バージョン、トランザクションセット、およびリリース (TRADACOMS スタンドアードの場合のみ) に基づいて、Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムが EDI ファイルを生成します。システムには、選択したドキュメントのバージョンのスタンドアード エージェンシーによって定義されたすべてのグループ、セグメント、複合、およびエレメントが含まれます。新しいマップを作成する際に EDI ファイルを生成する方法の詳細については、「[マップの新規作成方法](#)」を参照してください。

インポート マップまたはエクスポート マップを作成する場合、通常、システムが生成した EDI ファイルをカスタマイズする必要があります。EDI ファイルはマップ コンポーネントのプロパティを修正したり、Gentran:Server の専用機能を使用して EDI ファイル構造を使用してカスタマイズできます。

ただし、Gentran:Server スタンドアード データベース (CII スタンドアードを含む) では使用できない EDI スタンドアードの特殊なバージョンを使用する場合、EDI ファイルをユーザーが定義する必要があります。

EDI ファイルをシステムが生成するか、ユーザーが定義するかどうかにかかわらず、作成しているマップの種類によって、使用する EDI マップ コンポーネントが異なります。マップの種類は、選択したスタンドアード、バージョン、およびトランザクションセット (ドキュメント)、また自社が必要としているグループ、セグメント、TFD (CII スタンドアードの場合)、複合、およびエレメントの種類により決まります。




始める前に


EDI ファイルを生成または定義する前に、どのマップ コンポーネントを使用しているか確認することをお勧めします。

(次のページへ続く)

マップ コンポーネント

次の表に、Gentran:Server が EDI ファイル形式をわかりやすく表すために使用するマップ コンポーネントのアイコンを示します。

アイコン	説明
	<p>グループとは、ループ構造のことです。この構造には、グループ データが終了するまで、あるいはループの繰り返し可能最大数に達成するまで順次繰り返される、関連セグメントやグループが含まれます。</p> <p>グループは EDI スタンドによって定義されます。他のグループに従属するグループは、サブグループ (ネストされたループ構造、つまりループ内のループに対応するサブグループ) になります。</p>
	<p>セグメントには、関連するエレメント、または有用なデータをやり取りするために組み合わせられた複合データ エレメントのグループが含まれます。セグメントは EDI スタンドによって定義されます。セグメントは一度だけ実行される場合と、複数回繰り返される場合があります。</p>
	<p>TFD (Transfer Form Data) は、CII スタンドでのみ使用されます。TFD は、データ タグ (データ識別子)、データ エレメント長、および可変長データ エレメント TFD から構成されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) アイコン	説明
	<p>複合とは、2つ以上のコンポーネント データ エlement またはサブElement を含むデータ Element です。複合は、それらの複合を使用する EDI スタンド (EDIFACT、TRADACOMS、および一部の ANSI X12 スタンド) によって定義されます。</p> <p>繰り返し複合とは、特定の EDI セグメント内で全体としてループを実行できる (1 回以上) EDI サブElement の関連グループのことです。複合がセグメント内で複数回繰り返されるようにするには、複合が実行されるたびに特別な区切文字 (繰り返しElement 区切文字) で区切られる必要があります。</p> <p>例 区切文字は、次のように設定されています。</p> <p>セグメント ~ Element * タグ * サブElement : 繰り返しElement ^</p> <p>BGM セグメントに、データ内で 3 回実行される繰り返し複合と、それに続く 1 つの正規Element が含まれ、その複合に 2 つのサブElement が含まれている場合、セグメントは次の形式になります。</p> <p>BGM*SubA-1:SubB-1^SubA-2:SubB-2^SubA-3:SubB-3*Field2~</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) アイコン	説明
■	<p>エレメントとは、EDI スタンドードによって定義される情報の最小単位です。個々のエレメントは、それぞれの状況に応じて意味合いが異なります。したがって、エレメントは通常、組み合わせられてセグメントとなるまでは、有用な意味を持つものとはみなされません。</p> <p>また、エレメントとはEDI マップ コンポーネントのことで、対応するアプリケーション フィールドにマッピング (連結) し、EDI ファイルとの間でデータをやり取りします。</p> <p>繰り返しエレメントとは、特定の EDI セグメント内でループを実行できる (1 回以上) EDI エレメントのことです。1 つのエレメントがセグメント内で複数回繰り返されるようにするには、各エレメントは特別な区切文字 (繰り返しエレメント区切文字) で区切られる必要があります。この区切文字を使用することで、システムが繰り返しエレメントを通常のエレメントと誤認するのを防ぎます。</p> <p>例 区切文字は、次のように設定されています。</p> <p>セグメント ~ エレメント * タグ * サブエレメント : 繰り返しエレメント ^</p> <p>BGM セグメントに 3 つのエレメントが含まれ、2 番目のエレメントが 4 回発生する繰り返しエレメントの場合、セグメントは次の形式になります。</p> <p>BGM*Field1*Field2.1^Field2.2^Field2.3^Field2.4*Field3~</p>

参照

マップ コンポーネントのプロパティをカスタマイズする方法と、Gentran:Server の専用機能を使用して EDI ファイル構造を操作する方法の詳細については、「[EDI ファイルの使い方](#)」および「[CII ファイルの使い方](#)」を参照してください。

アプリケーション インテグレーション サブシステム について

概要

はじめに

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムを使用すると、パートナーにドキュメントを送信するときに自社のアプリケーション ファイルを EDI スタンダード形式にトランスレート (アウトバウンド マッピング) し、パートナーからドキュメントを受信するときに EDI スタンダード形式を自社のアプリケーション形式にトランスレート (インバウンド マッピング) できます。

アプリケーション インテグレーションの操作方法

はじめに

[Gentran:Server アプリケーション インテグレーション] ウィンドウでは、次の 4 通りの方法でその機能にアクセスできます。

- ▶ メイン メニュー バーからメニュー オプションをクリックします。
- ▶ メイン ツールバー上の適切なボタンをクリックします。
- ▶ マップの適切な部分をクリックします。
- ▶ マップ コンポーネントをマウスの右ボタンでクリックして、ショートカット メニューを表示します。ショートカット メニューには、マップ コンポーネントで現在使用できるすべての機能が含まれています。ショートカット メニューを使用すると、使用できる機能にすぐにアクセスできます。選択したマップ コンポーネントの種類とレベルによって、ショートカット メニューの内容は異なります。

メモ

Gentran:Server アプリケーション インテグレーションを起動すると、メイン メニュー バーには、メニュー アイテムのサブセットが表示されます。新しいマップを作成するか、既存のマップを開く (読み込む) と、すべてのメニュー アイテムが表示されます。

[アプリケーション インテグレーション] ウィンドウ

次の表に、[Gentran:Server アプリケーション インテグレーション] ウィンドウの各部を示します。

各部	機能
メイン メニュー バー	ドロップダウン メニューが表示されます。使用できない項目はグレー表示になっています。 参照 これらのメニューに表示されるコマンドの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
メイン ツールバー	アプリケーション インテグレーション サブシステムで頻繁に使用する機能にアクセスできます。使用できない項目はグレー表示になっています。 メモ メイン ツールバーはドッキング可能なツールバーなので、クライアント ウィンドウの端に配置することができます。
ステータス バー	選択、コマンド、およびプロセスのステータス情報が表示されます。また、メニューで反転表示したアイテムの定義、現在のキーボードの入力モードも表示されます。

アプリケーション インテグレーションによる マップの作成方法

マップの作成手順

次の表に、Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムを使用してマップを作成する手順を示します。

段階	説明
1	<p>準備と確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ アプリケーション ファイルのレイアウトを取得して、使用している EDI スタンドとどのように対応しているかを判断します。 ▶ データを各アプリケーション フィールドとの間でやり取りする方法を判断します。
2	<p>グローバル既定値の設定 (1 回のみ)</p> <p>Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムを初めて使用するとき、システムが使用する既定値の日付書式を設定します。</p> <p>参照 グローバル日付の既定値を設定する方法の詳細については、「既定の日付書式の設定方法」を参照してください。</p>
3	<p>新しいマップの作成</p> <p>参照 マップを作成する方法の詳細については、「マップの新規作成方法」を参照してください。</p>
4	<p>サンプル EDI ファイルに基づく、適切な EDI グループ、セグメント、およびエレメントまたは自動整列のアクティブ化 または CII EDI ファイルの定義</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ アクティブ化の詳細については、「EDI マップ コンポーネントをアクティブにする方法」を参照してください。 ▶ 自動整列の詳細については、「自動整列の使用方法」を参照してください。 ▶ CII マップ コンポーネントを作成する方法の詳細については、「CII ファイルの使い方」を参照してください。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 段階	説明
5	アプリケーションの定義 参照 アプリケーションを定義する方法の詳細については、「 固定形式ファイルの使い方 」を参照してください。
6	各アプリケーション フィールドへの適切なデータのマッピング 参照 <ul style="list-style-type: none">▶ シンプルなマッピング (連結) 方法の詳細については、「シンプルな連結の作成方法」を参照してください。▶ スタンダード ルールの使用方法の詳細については、「スタンダード ルールの使い方」を参照してください。▶ 拡張ルールの使用方法の詳細については、「拡張ルールの使い方」を参照してください。
7	トランスレーション オブジェクトのコンパイル 参照 トランスレーション オブジェクトをコンパイルする方法とトランスレーション オブジェクトの命名規則の詳細については、「 マップのコンパイル方法 」を参照してください。
8	マッピング レポートの印刷 マップを確認、検討し、必要に応じて修正します。 参照 マッピング レポートを印刷する方法の詳細については、「 マッピング レポートの印刷方法 」を参照してください。
9	トランスレーション オブジェクトの Gentran:Server への登録 参照 トランスレーション オブジェクトを登録する方法の詳細については、『 Gentran:Server ユーザーガイド 』の「 新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法 」を参照してください。
10	適切な取引関係の作成 Gentran:Server で、トレーディング パートナーに対する適切な取引関係を確立します。 参照 取引関係を作成する方法の詳細については、『 Gentran:Server ユーザーガイド 』の「 パートナーの使い方 」を参照してください。 (次のページへ続く)

(続き) 段階	説明
11	トランスレーション オブジェクトのテスト パートナーからテスト データを取得して、データを処理します。 受信確認処理を確認します (該当する場合)。ネットワークの コミュニケーションを確認します。

マップの設計

目次

概要	3
▶ はじめに	3
▶ 準備と分析	4
グローバルな既定値の設定	6
▶ 表示のカスタマイズ	6
▶ グローバル表示オプションのカスタマイズ方法	7
▶ グローバルな色のカスタマイズ方法	9
▶ グローバルなフォントのカスタマイズ方法	11
▶ 連結のグローバルな表示のカスタマイズ方法	13
▶ マップバージョンの自動増分のカスタマイズ方法	15
▶ マップの入力側と出力側のサイズの均等化	17
▶ 既定の日付書式の設定方法	18
マップの作成と詳細の定義	20
▶ マップの新規作成方法	20
▶ トランスレーション オブジェクトの詳細の定義方法	29
▶ 定義ファイルの読み込み方法	37
▶ 定義ファイルの保存方法	39
▶ EDI マップ コンポーネントをアクティブにする方法	41
▶ 自動整列の使用方法	43
▶ グループおよび繰り返しセグメントのプロモート方法	45
▶ グループおよび繰り返しセグメントの分割方法	48
▶ コピー、切り取り、貼り付け機能の使用方法	52
固定形式ファイルの使い方	56
▶ 概要	56
▶ ファイル形式のプロパティの調整方法	57
▶ 最初のレコードの作成方法	59
▶ 2つ目以降のレコードの作成方法	62
▶ 一時レコードの作成方法	64
▶ グループの作成方法	69
▶ フィールドの作成方法	71

EDI ファイルの使い方	76
▶ 概要	76
▶ EDI 区切文字の検証方法.....	77
▶ グループ プロパティの修正方法.....	80
▶ セグメント プロパティの修正方法.....	82
▶ ループ開始とループ終了セグメントの使用法	85
▶ 複合プロパティの修正方法	91
▶ エレメント プロパティの修正方法.....	93
CII ファイルの使い方	98
▶ 概要	98
▶ CII ファイル プロパティの修正方法.....	99
▶ グループの作成方法	101
▶ TFD の作成方法	103
データの書式	108
▶ 概要	108
▶ 文字列型の使用法	109
▶ シンタックス トークンの削除方法.....	115
▶ シンタックス トークンの使用法.....	116
▶ 番号型の使用法	118
▶ 日 / 時型の使用法.....	121
マップの完成	125
▶ シンプルな連結の作成方法	125
▶ バイナリ セグメントのマッピング方法.....	127
▶ マップのコンパイル方法	131
▶ コマンドラインを使用したマップのコンパイル方法	134
▶ マッピング レポートの印刷方法.....	135

概要

はじめに

本章の内容

この章では、基本的なマッピング機能について説明します。基本的なマッピング機能には、最初に行われる機能 (マップの作成)、マップの定義時に実行される機能、マップの完成後に実行される機能 (マッピング レポートのコンパイルや印刷) が含まれます。

準備と分析

はじめに

マップ作成の最初のステップは、マッピングに何が必要であるかを分析することです。これは、マッピングを成功させるうえで最も重要なステップです。分析を徹底的に行えば、マップを効率的および論理的に作成するために必要な情報がすべて得られます。しかし、この重要なステップを割愛して、すぐにマップの作成を開始しようとする、作業に時間がかかり、手間がかかりがちになります。また、見落としや抜けが発生し、作成したマップが使用不可となる場合もあります。

トランスレーションされるデータがインバウンドかアウトバウンドかにかかわらず、マッピングの分析は次の表に示す段階を踏みます。

段階	説明
1	アプリケーションのファイル形式の分析
2	パートナーの EDI ファイル形式の分析
3	アプリケーションのファイル形式と EDI ファイル形式の関連付け

マップの作成は、上記のステップが完了してから開始します。

アプリケーションの ファイル形式の分析

マッピングの分析は、一般にユーザーに最も馴染みのあるコンポーネント、つまりアプリケーションのファイル形式を分析することから始めます。アプリケーションのファイル形式には、パートナーが送信する発注書から抽出する必要がある情報すべてが収まっています。この抽出された情報を基に、システムは発注書を適切に処理し、企業は注文に適切に応じることができます。

アプリケーションのファイル形式を Gentran:Server 用に定義する必要があります。既存のアプリケーションファイル形式がある場合は、担当者からそのレコード配置を入手してください。既存のファイル形式がない場合は、データを適切に処理するために必要なフィールドを特定し、それらのフィールドをレコードとして論理的にグループ化して、アプリケーションファイル形式を作成する必要があります。

(次のページへ続く)

EDI ファイルの分析

EDI ファイルを分析するには、まずトレーディング パートナーからどのようなデータが送信されるのかを調べる必要があります。使用するスタンダード、バージョン、およびトランザクションセットについては、パートナーの同意を得なければなりません。また、パートナーが送信する発注書に含まれる情報、および使用されている各エレメントに格納されるデータについて把握しておくことも大切です。

EDI ファイルを分析する前に、現在使用している EDI スタンダードについて再確認しておくことも助けになります。使用している各スタンダードおよびバージョンの EDI スタンダード マニュアルを入手してください。マニュアルは EDI スタンダードの各機関から入手できます。

パートナーから送信されるデータについてパートナーと協議して、必要なセグメントやエレメントを決定し、EDI スタンダードを再度確認したなら、使用できるようにする (アクティブにする) マップ コンポーネントをリストアップします。

アプリケーション ファイルと EDI ファイルとの整合

アプリケーションのファイル形式と EDI ファイルとの整合するには、各アプリケーション ファイルとそれに対応する EDI ファイルのエレメントを指定して、マッピングの方法を選択する必要があります。情報をフィールドにマッピングするには、連結、スタンダード ルール、拡張ルール、またはこれら 3 つを組み合わせたものを使用します。

連結

連結 (シンプルなマッピング) を使用すると、マップの入力側のフィールドまたはエレメントを出力側のフィールドまたはエレメントにマッピングすることができます。2 つのマップ コンポーネント (フィールド) 間の連結は、2 つのフィールドをつなぐ線として表示されます。

スタンダード ルール

スタンダード ルールを使用すると、拡張ルールほど複雑ではないものの、シンプルな連結よりは複雑なマッピング機能を実行できます。

拡張ルール

拡張ルールを使用すると、Gentran:Server 用プログラミング言語を使用して、ほとんどすべてのマッピング処理を実行できます。

さらに、EDI データのグループから拡張ルールを使用して抽出される出荷先や請求先の名前、住所などのアイテムをマップが処理できるように、一時記憶 (作業) 領域を設定することもできます。

推奨事項

いずれのマッピング操作が必要であるのかをアプリケーション ファイルのフィールドごとに指定してください。

準備完了後の手順

アプリケーションのファイル形式をどのように EDI ファイルと関連付けるのか計画した後に、実際にマップの作成を開始します。

グローバルな既定値の設定

表示のカスタマイズ

はじめに

Gentran:Server のアプリケーション インテグレーション サブシステムを使用すると、マップの表示を次のような方法でカスタマイズできます。

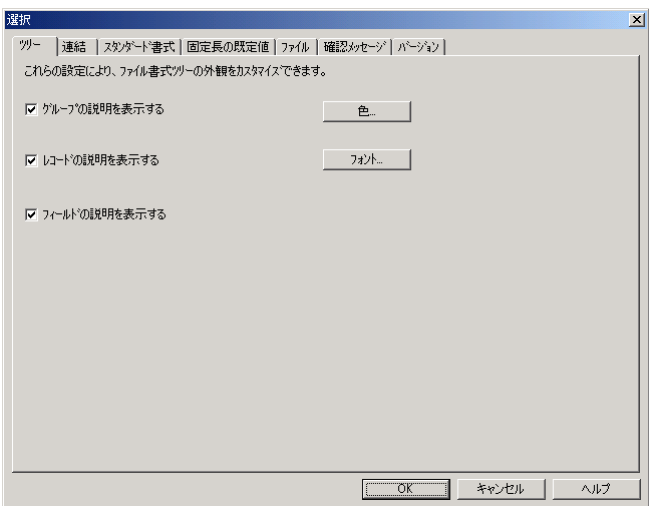
- ▶ グローバル表示オプションのカスタマイズ
- ▶ 色のカスタマイズ (グローバル オプション)
- ▶ フォントのカスタマイズ (グローバル オプション)
- ▶ 連結の表示 (グローバル オプション)
- ▶ マップ バージョン自動増分のカスタマイズ
- ▶ マップの入力側と出力側のサイズの均等化

Gentran:Server のグローバルな既定値は、[選択] ダイアログ ボックスで設定できます。マップの表示オプションは、いつでも設定および変更できます。

グローバル表示オプションのカスタマイズ方法

手順

すべてのマップに適用されるグローバルな表示オプションをカスタマイズするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[オプション]メニューから[選択]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [選択]ダイアログボックスが表示されます(既定では[ツリー]タブが表示されます)。</p>  <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>グループ、レコード (セグメント)、およびフィールド (エレメント) に関する説明を既定で表示するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示する場合は、ダイアログ ボックスの [リスト] セクションにある各項目のチェックボックスをクリックします (チェックボックスにチェックマークが表示されます)。 <p>グループ、レコード (セグメント)、フィールド (エレメント) に関する説明を既定で非表示に変更するには、該当するチェックボックスを再度クリックして、チェックマークを外してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示しない場合は、次のステップに進みます。 <p>メモ 通常は、参照情報として、すべての説明を表示します。しかし、何らかの理由で、説明を非表示にする場合があります。たとえば、画面のサイズによっては、説明を非表示にしたほうがマップ全体を簡単に表示できる場合があります。</p> <p>マップのフォントのサイズを小さくして、マップを表示してみることもできます。説明を非表示にする前に、「グローバルなフォントのカスタマイズ方法」を参照してください。</p>
3	<p>既定の表示の色を変更するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更する場合は、「グローバルな色のカスタマイズ方法」を参照してください。 ▶ 変更しない場合は、次のステップに進みます。
4	<p>既定の表示フォントを変更するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更する場合は、「グローバルなフォントのカスタマイズ方法」を参照してください。 ▶ 変更しない場合は、次のステップに進みます。
5	<p>[OK] をクリックして変更内容を保存し、[選択] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

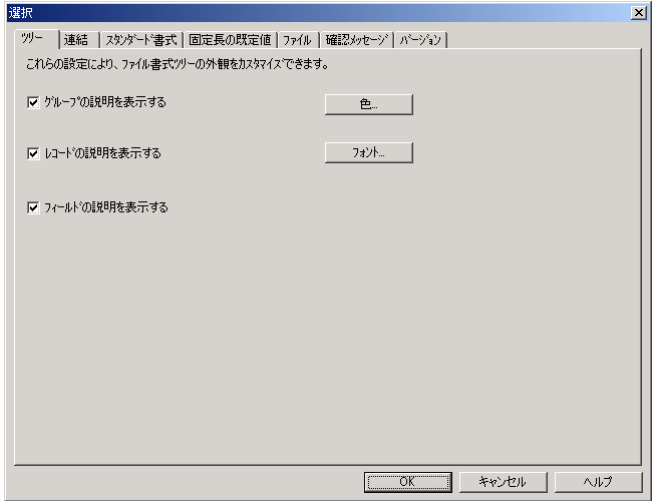
グローバルな色のカスタマイズ方法

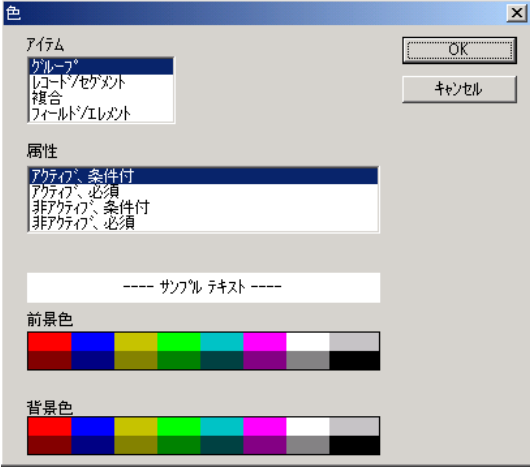
はじめに

色機能を使用すると、前景色や背景色を選択して、さまざまなマップ コンポーネントを視覚的に定義することができます。色の使用は、オプションです。

手順

すべてのマップの色をカスタマイズするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[オプション] メニューから [選択] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [選択] ダイアログ ボックスが表示されます (既定では [ツリー] タブが表示されます)。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>[色] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [色] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
3	<p>[アイテム] リストから、マップ コンポーネントの種類 (グループ、レコード / セグメント、複合、フィールド / エレメント) を選択します。</p>
4	<p>[属性] リストから、アクティブまたは非アクティブ、条件付きまたは必須を選択して、マップ コンポーネントの種類をさらに詳しく定義します。</p> <p>有効な選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アクティブ、条件付き] ▶ [アクティブ、必須] ▶ [非アクティブ、条件付] ▶ [非アクティブ、必須]
5	<p>前景色と背景色を選択します。</p>
6	<p>[OK] をクリックして、すべてのマップに選択した色をグローバルに定義します。</p>

グローバルなフォントのカスタマイズ方法

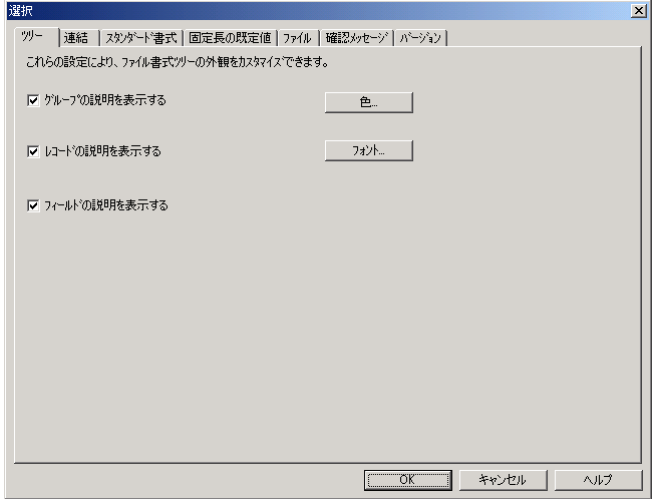
はじめに

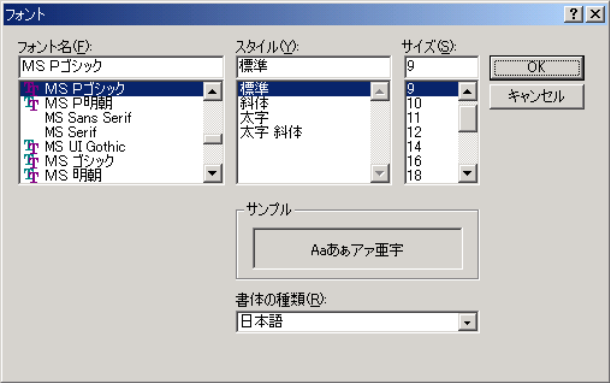
フォント機能を使用すると、すべてのマップの表示に使用されるフォントをグローバルに変更できます。Gentran:Server の既定のフォントは、9 ポイントの MS Pゴシックです。

フォント機能を使用すると、フォントの種類、スタイル、およびポイント サイズを変更できます。この機能によって、フォントを自由にカスタマイズすることが可能になります。たとえば、マップのより広い範囲を画面に表示する必要がある場合にフォントを小さくしたり、またはフォントを大きくしたり、さらにまたフォントをより読みやすい種類やスタイルに変更したりできます。

手順

すべてのマップの表示フォントをカスタマイズするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[オプション] メニューから [選択] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [選択] ダイアログ ボックスが表示されます (既定では [ツリー] タブが表示されます)。</p>  <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>[フォント] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [フォント] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
3	<p>[フォント] ボックスから、フォントの種類を選択します。</p> <p>メモ 既定値は、[MS P ゴシック] です。</p>
4	<p>[スタイル] ボックスから、スタイルを選択します。</p> <p>メモ 既定値は、[標準] です。</p>
5	<p>[サイズ] ボックスから、ポイント サイズを選択します。</p> <p>メモ 既定値は 9 です。</p>
6	<p>[OK] をクリックして、すべてのマップへのグローバルなフォントの変更を適用し、[フォント] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

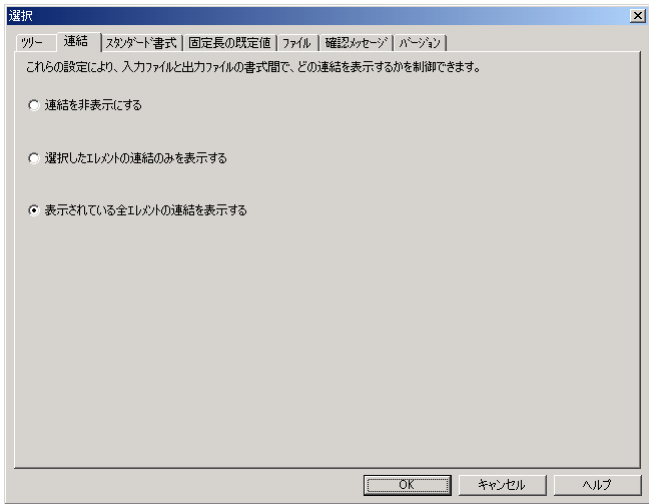
連結のグローバルな表示のカスタマイズ方法

はじめに

マッピングの連結は、マップの入力側にある各フィールド / エlement / TFD と、出力側にあるマップ先のフィールド / エlement / TFD とを結ぶ線として表示されます。

手順

マッピング連結のグローバルな表示をカスタマイズするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[オプション] メニューから [選択] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [選択] ダイアログ ボックスが表示されます (既定では [ツリー] タブが表示されます)。</p>
2	<p>[連結] タブを選択します。</p> <p>システムからの応答 連結のオプションが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>すべてのマップの既定値として設定する連結オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ [連結を非表示にする] マッピングの連結は画面に表示されません。▶ [選択したエレメントの連結のみを表示する] 現在選択しているフィールドのマッピング連結のみを表示します (一度に多くの連結を表示することによる混乱を避けるため、このオプションにより、選択したフィールドに注意を集中することができます)。▶ [表示されている全エレメントの連結を表示する] マッピングの連結をすべて表示します。
4	<p>[OK] ボタンをクリックして変更内容を保存し、[選択] ダイアログボックスを閉じます。</p>

マップバージョンの自動増分のカスタマイズ方法

はじめに

Gentran:Server では、ユーザーが設定するグローバル オプションに基づいて、マップのバージョン番号を自動的に増加できるようになりました。これまでは、アプリケーション インテグレーションの [トランスレーション オブジェクトの詳細] ダイアログ ボックスで、バージョン番号を手動で設定または増分する必要がありました。

ユーザーは、アプリケーション インテグレーションの [選択] ダイアログ ボックスでグローバル オプションを設定することで、マップのバージョン番号をいつ増分するのか指定できます。マップのバージョン番号を自動的に増分するオプションについて、次のリストで説明します。

- ▶ 自動増分しません。
- ▶ マップの保存時に、増分するかどうか確認が行われます。
- ▶ マップのコンパイル時に、自動増分するかどうか確認が行われます。
- ▶ マップの保存時には常に自動増分します。
- ▶ マップのコンパイル時には常に自動増分します。

メモ

自動増分機能では、[トランスレーション オブジェクトの詳細] ダイアログ ボックスのマップの副版を 255 まで増分します。副版の番号が 255 を超えると、副版の番号は 0 となり、主版の番号が増加します。

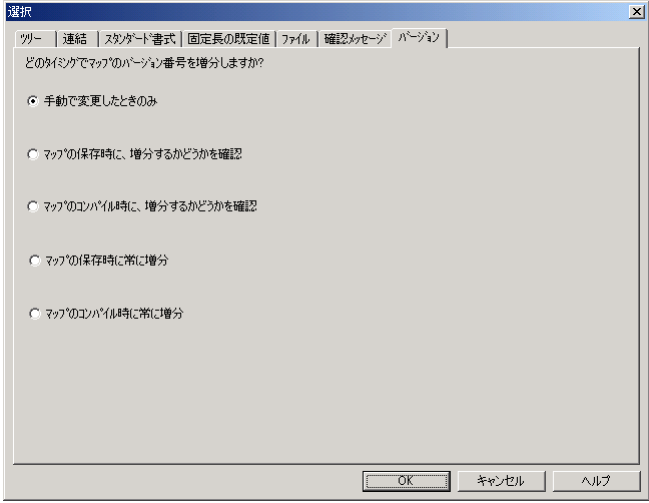
例

バージョン番号 1.255 は、次に自動増分されると 2.0 になります。

自動増分の設定

マップバージョン番号の自動増分機能を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[オプション] メニューから [選択] を選択します。 システムからの応答 [選択] ダイアログ ボックスが表示されます (既定では [ツリー] タブが表示されます)。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
2	<p>[バージョン] タブを選択します。</p> <p>システムからの応答 バージョンの自動増分オプションが表示されます。</p> 
3	<p>適切なオプションを選択し、[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択したグローバルな自動増分が設定されます。</p>

マップの入力側と出力側のサイズの均等化

はじめに

マップを開くと、マップの入力側と出力側はまったく同じサイズで表示されま
す。マップを操作したり、入力側と出力側の表示を隔てる中央のバーを移動し
たりした後で、入力側と出力側のサイズをもう一度同じサイズに戻す場合があ
ります。

均等化機能を使用すると、フォーカスされているマップの入力側と出力側のサイ
ズを同じサイズに戻すことができます。均等化機能の使用は、オプションです。

手順

マップの入力側と出力側のサイズを均等化するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[表示]メニューから[均等化]を選択します。 メモ この機能を実行すると、フォーカスされているマップの入力側と出力側の中央境界線が移動し、入力側と出力側のサイズが等しくなります。

既定の日付書式の設定方法

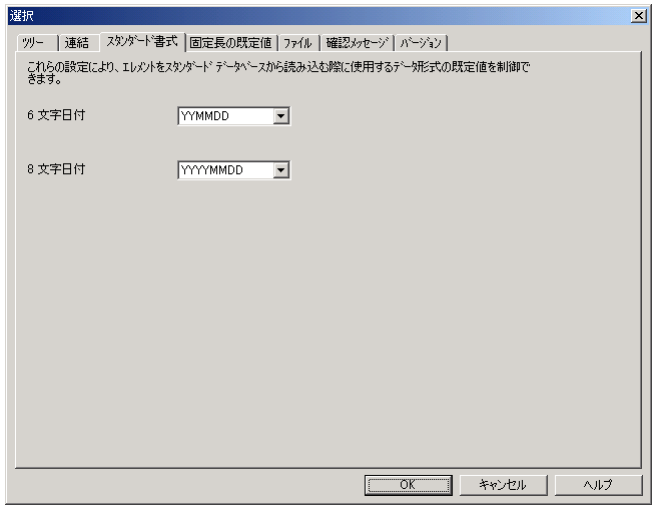
はじめに

すべての日付フィールドで使用される既定の日付書式は、通常 "一度だけ" 設定します。この既定の書式は、EDI ドキュメントが初めてスタンダードから読み込まれるときに使用されます。この既定値は、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスでオーバーライドできます。

このグローバル オプションの変更は、すべてのマップの既定の日付書式に反映されます。ただし、既存の日付フィールドの書式には影響を与えません。変更された既定値は、新しいマップだけに適用されます。

手順

既定の日付書式を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[オプション] メニューから [選択] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [選択] ダイアログ ボックスが表示されます (既定では [ツリー] タブが表示されます)。</p>
2	<p>[スタンダード書式] タブを選択します。</p> <p>システムからの応答 日付書式のオプションが表示されます。</p> 
3	<p>[6 文字日付] および [8 文字日付] リストから、それぞれ既定とする日付書式を選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>[OK] をクリックして、[6 文字日付] および [8 文字日付] ボックスの既定とする日付書式を確定し、[選択] ダイアログ ボックスを閉じます。</p> <p>ヒント [6 文字日付] および [8 文字日付] リストに表示される書式の順番を変更する、または新しい書式をこれらのリストに追加するには、[オプション] メニューの [日付書式] を選択します。</p>

マップの作成と詳細の定義

マップの新規作成方法

はじめに

作成できるマップには、システム インポート (インポート マップのヘッダー情報を含みます)、インポート (アウトバウンド マップ用)、エクスポート (インバウンド マップ用)、およびターンアラウンド (EDI から EDI へのマップ用) の 4 種類があります。4 種類のマップの新規作成手順は、途中まですべて共通です。

手順

新しいマップを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ファイル]メニューの [新規作成] を選択します。 システムからの応答 [新規マップ ウィザード] が表示されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作	
2	次の質問に答えた後、[次へ] をクリックします。 ▶ 作成するマップの種類を指定してください。 選択肢は、次の表のとおりです。	
	各部	機能
	インポート	アウトバウンド マップで使用されます。
	エクスポート	インバウンド マップで使用されます。
	インターチェンジ ブレイク	アドバンスド マッピングで、インターチェンジを区切るために使用されます。
	F/A インバウンド	アドバンスド マッピングで、ファンクショナル受信確認との整合性をとるために使用されます。
	F/A アウトバウンド	アドバンスド マッピングで、ファンクショナル受信確認を生成するために使用されます。
	システムインポート ヘッダ	アプリケーション ファイル内の各ドキュメントに対応する取引関係 (パートナー エディタで確立) を識別するために使用されます。これにより、ドキュメントの処理にどのインポート トランスレーション オブジェクトを使用するかが識別されます。
	ターンアラウンド	EDI から EDI へのマップで使用されます。
	トランザクション ビルド	アドバンスド マッピングで、トランザクション エンベロープを作成するために使用されます。
	トランザクション ブレイク	アドバンスド マッピングで、ドキュメントを区切るために使用されます。
	ファンクショナル グループ ビルド	アドバンスド マッピングで、ファンクショナルグループ エンベロープを作成するために使用されます。
	ファンクショナル グループ ブレイク	アドバンスド マッピングで、ファンクショナルグループを区切るために使用されます。
	インターチェンジ ビルド	アドバンスド マッピングで、インターチェンジ エンベロープを作成するために使用されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
2 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ マップの名前を指定してください。 マップの一意の名前を入力します。自動的に .MAP 拡張子が追加されます。 ▶ ユーザー名を入力してください。 画面上に提示される名前が正しくない場合は、ユーザー名を入力します。 <p>システムからの応答 [新規マップ ウィザード - 入力書式] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ マップの入力側の書式設定を完了する必要があります。入力側の書式とは、Gentran:Server システムによってトランスレーションされるデータの書式です。</p>
3	<p>マップの入力側の書式を設定します。ユーザー定義のシンタックスを使用して新しいデータ書式を作成するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、次のいずれかの入力書式オプションを選択して、ステップ 4 に進みます。 [Delimited EDI] (電子データ交換ファイル) [Positional] (VDA、GENCOD、アプリケーション ファイルなど) [CII] (日本固有の標準) [CII Positional] (CII Build/Break マップ用) <p>メモ インバウンド マップ (エクスポート) の入力書式の種類は、[CII] または [EDI] です。 アウトバウンド マップ (システム インポートまたはインポート) の入力書式の種類は、[Positional] です。 ターンアラウンド マップの入力書式の種類は、[EDI] または [CII] です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成しない (保存されている定義からデータ書式を読み込む) 場合は、[保存されている定義からデータ形式を読み込む] オプションを選択し、保存されている定義のパスとファイル名を入力します (または、[参照] をクリックして、[定義ファイルを開く] ダイアログ ボックスを表示します)。ステップ 6 に進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>[Delimited EDI] または [CII] を選択した場合、その書式をカスタマイズするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ カスタマイズする場合は、[カスタマイズ] をクリックし、次のステップに進みます。 <p>システムからの応答 [新規 Delimited EDI ウィザード] または [新規 CII ウィザード] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ Delimited EDI および CII のウィザードを使用すると、スタンダード データベースを基に独自の書式を作成することができます。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ カスタマイズしない場合は、[次へ] をクリックして、ステップ 7 に進みます。 <p>システムからの応答 [新規マップ ウィザード - 出力書式] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
5	該当するダイアログ ボックスの手順を実行し、ステップ 7 に進みます。	
	表示される ダイアログ ボックス	実行する手順
	新規 Delimited EDI ウィザード	a. [次へ] をクリックします。 b. スタンダード データベースを含む ODBC データ ソースを選択します。 c. スタンダード エージェンシー、バー ジョン、トランザクション セット、 およびリリース (TRADACOMS の場合 のみ) を選択し、[次へ] をクリックし ます。 d. [完了] をクリックします。
	新規 CII ウィザード	a. [次へ] をクリックします。 b. スタンダード データベースを含む ODBC データ ソースを選択します。 c. 日本語の説明を使用したい場合は、該 当するチェックボックスをオンにし ます (既定は、英語です)。 d. [次へ] をクリックします。 e. スタンダード エージェンシー、バー ジョン、トランザクション セット、 およびリリース (TRADACOMS の場合 のみ) を選択し、[次へ] をクリックし ます。 f. 適切なマルチ明細ヘッダーを選択し、 [次へ] をクリックします。 g. [完了] をクリックします。
	システムからの応答 [新規マップ ウィザード - 出力書式] ダイアログ ボックスが表示 されます。 <div style="text-align: right;">(次のページへ続く)</div>	

(続き) ステップ	操作
6	<p>保存されている定義からデータ書式を読み込むことを選択して、[参照]をクリックして[定義ファイルを開く]ダイアログボックスを表示するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表示する場合は、ファイル名を入力し、[開く]をクリックして、選択したファイル形式の定義を読み込みます。ステップ7に進みます。 <p>メモ この時点で、.DDF または .IFD ファイルのいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表示しない場合は、ステップ7に進みます。 <p>メモ DDF が無効である場合は、問題について説明するメッセージボックスが表示され、インポートは中断されます。</p>
7	<p>マップの出力側の書式を設定します。ユーザー定義のシンタックスを使用して新しいデータ書式を作成するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作成する場合は、次のいずれかの出力書式オプションを選択して、ステップ8に進みます。 [Delimited EDI] (電子データ交換ファイル) [Positional] (VDA、GENCOD、アプリケーションファイルなど) [CII] (日本固有の標準) [CII Positional] (CII Build/Break マップ用) <p>メモ インバウンド マップ (エクスポート) の出力書式の種類は、Positional です。 アウトバウンド マップ (システム インポートまたはインポート) の出力書式の種類は、CII または EDI です。 ターンアラウンド マップの出力書式の種類は、EDI または CII です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作成しない (保存されている定義からデータ書式を読み込む) 場合は、[保存されている定義からデータ形式を読み込む] オプションを選択し、保存されている定義のパスとファイル名を入力します (または、[参照]をクリックして、[定義ファイルを開く]ダイアログボックスを表示します)。ステップ9に進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
8	<p>[Delimited EDI] または [CII] を選択した場合、その書式をカスタマイズするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ カスタマイズする場合は、[カスタマイズ] をクリックし、次のステップに進みます。 <p>システムからの応答 [新規 Delimited EDI ウィザード] または [新規 CII ウィザード] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ Delimited EDI および CII のウィザードを使用すると、スタンダード データベースを基に独自の書式を作成することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ カスタマイズしない場合は、[完了] をクリックして選択したスタンダード情報を読み込み、新しいマップを作成します (この操作には数秒かかる場合があります)。 <p>システムからの応答 アプリケーション インテグレーションのウィンドウに新しいマップが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作	
9	該当するダイアログ ボックスの手順を実行し、ステップ 11 に進みます。	
	表示される ダイアログ ボックス	実行する手順
	新規 Delimited EDI ウィザード	a. [次へ] をクリックします。 b. スタンダード データベースを含む ODBC データ ソースを選択します。 c. スタンダード エージェンシー、バージョン、トランザクション セット、およびリリース (TRADACOMS の場合のみ) を選択し、[次へ] をクリックします。 d. [完了] をクリックします。
	新規 CII ウィザード	a. [次へ] をクリックします。 b. スタンダード データベースを含む ODBC データ ソースを選択します。 c. 日本語の説明を使用したい場合は、該当するチェックボックスをオンにします (既定は、英語です)。 d. [次へ] をクリックします。 e. スタンダード エージェンシー、バージョン、トランザクション セット、およびリリース (TRADACOMS の場合のみ) を選択し、[次へ] をクリックします。 f. 適切なマルチ明細ヘッダーを選択し、[次へ] をクリックします。 g. [完了] をクリックします。
	システムからの応答 [新規マップ ウィザード] ダイアログ ボックスが表示されます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>	

(続き) ステップ	操作
10	<p>保存されている定義からデータ書式を読み込むことを選択した場合、[参照] をクリックして [定義ファイルを開く] ダイアログボックスを表示するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示する場合は、ファイル名を入力し、[開く] をクリックして、選択したファイル形式の定義を読み込みます。ステップ 11 に進みます。 <p>メモ この時点で、.DDF または .IFD ファイルのいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示しない場合は、ステップ 11 に進みます。
11	<p>[完了] をクリックして選択したスタンダード情報を読み込み、新しいマップを作成します (この操作には数秒かかる場合があります)。</p> <p>システムからの応答 アプリケーション インテグレーションのウィンドウに新しいマップが表示されます。</p> <p>メモ 新しいマップの作成および保存が完了したら、マップの入力側と出力側を定義する必要があります。定義の手順は、マップの種類がインポート、システム インポート、エクスポート、またはターンアラウンドのいずれであるかによって異なります。</p>

トランスレーション オブジェクトの詳細の定義方法

はじめに

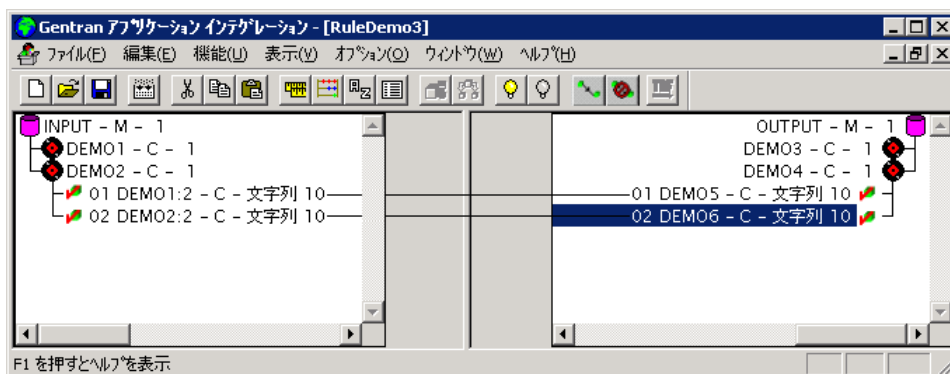
[トランスレーション オブジェクトの詳細]ダイアログ ボックスを使用すると、説明やバージョン情報などのトランスレーション オブジェクトの詳細を編集することができます。また、固定長ファイルまたは CII 固定長ファイルを読み込む際にトランスレータが各文字列フィールドの付け足し文字および配置設定を使用するよう指定することもできます。これにより文字列データから付け足し文字を削除する方法が決定されます。

バージョン 3.0 より前のルールの実行

[トランスレーション オブジェクトの詳細]ダイアログ ボックスでは、トランスレータで Gentran:Server バージョン 3.0 より前と同様の方法でスタンダードルールや拡張ルールを実行するかどうかを決定することができます。Gentran:Server バージョン 3.0 より前の標準的な動作は、次のとおりです。出力レコード / セグメントの連結先である入力フィールドのレコード / セグメントにデータが含まれていない場合でも、その連結先のレコード / セグメントと同じ階層レベルにデータを含む他の入力レコード / セグメントがあれば、出力フィールドのスタンダードルールおよび拡張ルールは実行されます。

例

次の図に示されているように、マップの出力側の DEMO5 フィールドの拡張ルールは、連結先のフィールド (入力側の DEMO1:2) にデータが存在していなくても実行されます。これは、入力側の DEMO2 と同じ階層レベルにある DEMO1 レコードのフィールドにデータが存在するためです。



メモ

マップがバージョン 3.0 より前の Gentran:Server でコンパイルされている場合、[\[マップの詳細\]ダイアログ ボックス](#)の [GENTRAN:Server for Windows 2.x 互換性ルールの実行] チェックボックスは自動的にオンとなり、ルールは以前のバージョンと同様の方法で処理されます。この既定は変更することができます。ただし、変更する場合は、データが入力されるフィールドを持たない出力レコード / セグメントに対してスタンダードルールや拡張ルールを実行するインスタンスを再度マッピングしなければなりません。

(次のページへ続く)

バージョン 3.0 以降 のルールの実行

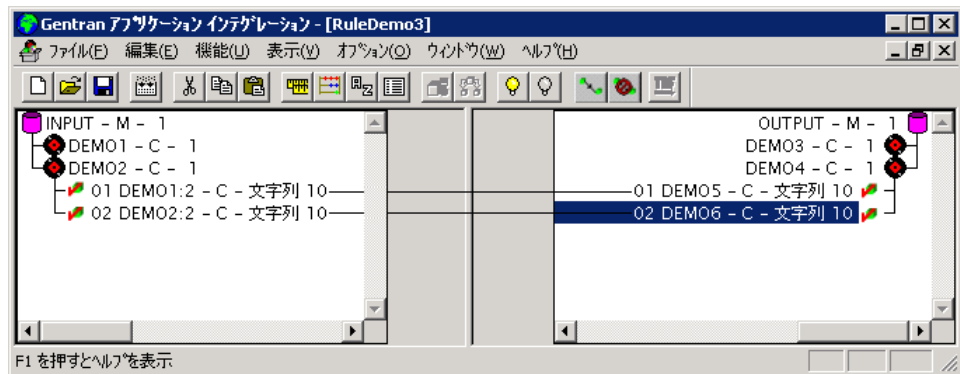
バージョン 3.0 では、スタンダード ルールは次のように実行されます。出力側のレコード / セグメントのスタンダード ルールおよび拡張ルールは、いずれかの連結によってその出力マップ コンポーネントにデータが入力される場合にのみ実行されます。

メモ

マップがバージョン 3.x 以降の Gentran:Server で作成されている場合、既定で [トランスレーション オブジェクトの詳細] ダイアログ ボックスの [Gentran:Server for Windows 2.x 互換性ルールの実行] チェックボックスはオフになります。

例

次の図に示されているように、出力側の DEMO5 フィールドの拡張ルールは、連結先のフィールド (入力側の DEMO1:2) にデータが存在しないため実行されていません。入力側の DEMO2 と同じ階層レベルにある DEMO1 レコードのフィールドにデータが存在する場合でも、このルールはやはり実行されません。



推奨事項

バージョン 3.x 以降では、このチェックボックスをオフにすることをお勧めします。オンにすると、あらかじめ規定されているものとは異なる動作をすることになります。

(次のページへ続く)

[マップの詳細] ダイアログボックス

次の図に、[マップの詳細] ダイアログボックスを示します。

EDI 関連		入力		出力	
エージエンター	X	X12			
バージョン	003030	ERSION 3 RELEASE 3			
トランザクション	850	PURCHASE ORDER			
リリース	0				
ファンクショナルグループ	PO				

(次のページへ続く)

各部と機能

[マップの詳細] ダイアログ ボックスの各部分とその機能は、次の表のとおりです。

各部	機能
作成者	<p>マップを作成したユーザーまたは部門を示します。</p> <p>メモ このボックスは必須です。</p>
説明	<p>一意なマップの説明を含みます。</p> <p>メモ このボックスは必須です。この説明は、システムがマップを識別するのに使用されます。説明には、マップを識別するのに役立つ特徴的な情報を含めることを強くお勧めします。たとえば、どのパートナーに対して使用されるマップであるのかや、マップが使用するスタンダード、バージョン、トランザクションの種類、およびマップの方向 (インポート、エクスポートなど) を含めることができます。</p> <p>例 [MWT X 3030 850 Export] という説明は、このマップが MWT というパートナーに対して、ANSI X.12 バージョン 003030 の発注書 (850) に関連して使用されるマップであり、インバウンドで送信される (エクスポート) ことを示しています。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

各部	機能
<p>マップの機能</p>	<p>リストから、適切なマップの種類を選択します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [Import] — アウトバウンド マップ (アプリケーションから EDI) には、この種類を選択します。 ◆ [Export] — インバウンド マップ (EDI からアプリケーション) には、この種類を選択します。 ◆ [Turnaround] — EDI から EDI へのマップには、この種類を選択します。 ◆ [Transaction build] (アドバンスド マッピングで、トランザクション エンベロープをビルドするのに使用します) ◆ [Transaction break] (アドバンスド マッピングで、ドキュメントを区切るのに使用します) ◆ [Functional group build] (アドバンスド マッピングで、ファンクショナル グループ エンベロープをビルドするのに使用します) ◆ [Functional group break] (アドバンスド マッピングで、ファンクショナル グループを区切るのに使用します) ◆ [Interchange build] (アドバンスド マッピングで、インターチェンジ エンベロープをビルドするのに使用します) ◆ [Interchange break] (アドバンスド マッピングで、インターチェンジを区切るのに使用します) ◆ [F/A Inbound] (アドバンスド マッピングで、ファンクショナル受信確認との整合性をとるために使用します) ◆ [F/A Outbound] (アドバンスド マッピングで、ファンクショナル受信確認を生成するのに使用します) <p>メモ このボックスは必須です。</p>
<p>システム</p>	<p>このマップをシステム トランスレーション オブジェクト (システムによって内部で使用されるオブジェクト) として指定します。</p> <p>注意 このチェックボックスは、このトランスレーション オブジェクトをシステム トランスレーション オブジェクトとして定義したい場合にのみ、オンにしてください。一度 Gentran:Server に登録されたシステム トランスレーション オブジェクトは、削除できません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

各部	機能
左右の空白文字の削除方法を設定する	<p>固定長ファイルまたは CII 固定長ファイルを読み込む際に、トランスレータが各文字列フィールドの付け足し文字および配置の設定を使用するよう指定します。これにより、文字列データから付け足し文字を削除する方法が決定されます。</p> <p>例 フィールドのデータの位置合わせが左揃えに設定されている場合、付け足し文字はフィールドの右側から削除されます。フィールドのデータの位置合わせが右揃えに設定されている場合は、付け足し文字がフィールドの左側から削除されます。また、中央揃えに設定されている場合は、付け足し文字がフィールドの左右両側から削除されます。</p> <p>このオプションをオフにする（既定の設定）と、付け足し文字は各固定長文字列フィールドの左右両側から削除されます。これは、現在のシステムの動作です。</p> <p>例 このオプションは、アプリケーションデータの末尾または先頭にある空白のいずれかを残したい場合に使用できます。</p>
Gentran:Server for Windows 2.x 互換性 ルールの実行	<p>トランスレータがマップの出力側に対してスタンダードルールおよび拡張ルールを実行する方法を指定できます。</p> <p>参照 詳細については、「バージョン 3.0 より前のルールの実行」および「バージョン 3.0 以降のルールの実行」を参照してください。</p>
主版 / 副版	<p>トランスレーション オブジェクトのバージョンを変更することができます。</p> <p>メモ これらのボックスには、それぞれ 0 ~ 255 の値を入力することができます。これら 2 つのボックスを使用できるのは、ユーザーのみです。システムによって使用されることはありません。</p> <p>例 [主版] ボックスに「5」、[副版] ボックスに「45」と入力すると、そのトランスレーション オブジェクトのバージョン番号は「5.45」となります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

各部	機能
コンパイル日時	トランスレーション オブジェクトがコンパイルされた日付を表示します。 メモ トランスレーション オブジェクトがまだコンパイルされていない場合は、ブランクになります。
EDI 関連	マップの入力側と出力側またはどちらか一方で [Delimited EDI] を選択すると、このセクションには EDI 情報が表示されます。 注意 これらのボックスに変更を加えるのは、既存のマップの EDI エージェント、バージョン、トランザクション、リリース、またはファンクショナルグループを変更する場合のみです。このセクションを使用すると、既存のマップをコピーして、変更を加えることができます。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

手順

マップの詳細を指定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[編集] メニューから [詳細] を選択します。 システムからの応答 <u>[マップの詳細] ダイアログ ボックス</u> が表示されます。
2	マップの説明を変更するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更する場合は、[説明] ボックスに新しい説明を入力して、次のステップに進みます。 ▶ 変更しない場合は、次のステップに進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作							
3	<p>互換性ルールの実行の指定を変更するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更する場合は、次の表を参照して操作を決定し、次のステップに進みます。 <p>参照 詳細については、「バージョン 3.0 より前のルールの実行」および「バージョン 3.0 以降のルールの実行」を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="603 689 1423 936"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 689 911 813">次のバージョンの動作を 基にルールを実行</th> <th data-bbox="911 689 1423 813">[Gentran:Server for Windows 2.x 互換性ルールの実行] チェックボックス の設定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="603 813 911 875">バージョン 3.0 より前</td> <td data-bbox="911 813 1423 875">オン</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 875 911 936">バージョン 3.0 以降</td> <td data-bbox="911 875 1423 936">オフ</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更しない場合は、次のステップに進みます。 		次のバージョンの動作を 基にルールを実行	[Gentran:Server for Windows 2.x 互換性ルールの実行] チェックボックス の設定	バージョン 3.0 より前	オン	バージョン 3.0 以降	オフ
次のバージョンの動作を 基にルールを実行	[Gentran:Server for Windows 2.x 互換性ルールの実行] チェックボックス の設定							
バージョン 3.0 より前	オン							
バージョン 3.0 以降	オフ							
4	<p>マップのバージョンを変更するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更する場合は、[主版] および [副版] ボックスに適切なバージョン番号を入力し、次のステップに進みます。 ▶ 変更しない場合は、次のステップに進みます。 							
5	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 変更を保存して、[マップの詳細] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>							

定義ファイルの読み込み方法

はじめに

Gentran:Server では、以前に保存したファイル形式の個々の定義を読み込むことができます。この機能を使用すると、マップの入力および出力のいずれの側も簡単に作成できます。

参照

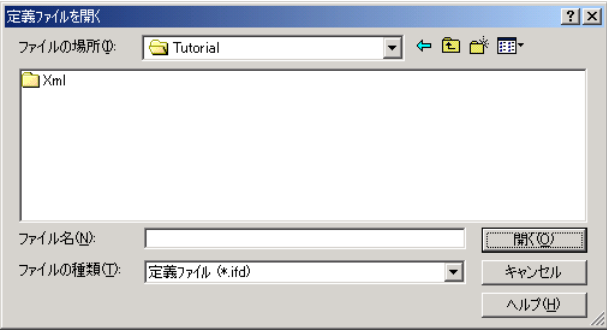
定義ファイルを保存する方法の詳細については、「[定義ファイルの保存方法](#)」を参照してください。

メモ

マップの現在選択されている側は、読み込む定義ファイルによって置換されます。この作業は、置換が行われることをよく理解したうえで実行してください。

手順

ファイル形式の定義を読み込むには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル書式]アイコン (マップの入力または出力側のいずれか) を右クリックして、ショートカットメニューから [定義ファイルを開く] を選択します。</p> <p>メモ マップの現在選択されている側が Gentran:Server を使用して既に作成されている場合は、既存のファイル形式が置換されることを警告するメッセージが表示されます。[はい] をクリックして、次のステップに進みます。</p> <p>システムからの応答 [定義ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。</p>  <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>[ファイルの場所] リストに Gentran:Server がインストールされているドライブ¥フォルダ (既定は GENSrvNT) が表示されているかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 表示されている場合は、ステップ 3 に進みます。▶ 表示されていない場合は、適切なフォルダを選択して、ステップ 3 に進みます。
3	[ファイルの種類] リストから、表示するファイルの種類を選択します。
4	システムに読み込む定義ファイルをリストから選択するか、[ファイル名] ボックスにファイルの名前を入力します。
5	<p>[開く] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択したファイル形式の定義が読み込まれます。</p>

定義ファイルの保存方法

はじめに

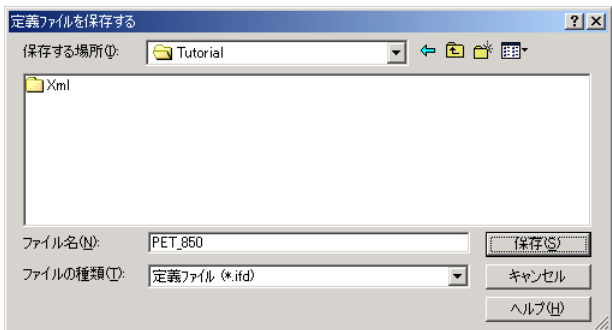
Gentran:Server では、ファイル形式の個々の定義を保存して、その後マップを作成する際の参考とすることができます。この機能を使用すると、マップの入力および出力のいずれの側も簡単に作成できます。

参照

定義ファイルを読み込む方法の詳細については、「[定義ファイルの読み込み方法](#)」を参照してください。

手順

ファイル形式の個々の定義を保存するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル書式]アイコン (マップの入力または出力側のいずれか) を右クリックして、ショートカットメニューから [定義ファイルを保存する] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [定義ファイルを保存する] ダイアログボックスが表示されます。</p> 
2	<p>[保存する場所] リストに Gentran:Server がインストールされているドライブ¥フォルダ (既定は GENSrvNT) が表示されているかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されている場合は、ステップ 3 に進みます。 ▶ 表示されていない場合は、適切なフォルダを選択して、ステップ 3 に進みます。
3	<p>[ファイル名] ボックスにファイル名 (1 ~ 8 文字) を入力するか、リストから保存したい定義ファイルを選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	[保存] をクリックします。 システムからの応答 ファイル形式の定義が保存されます。

EDI マップ コンポーネントをアクティブにする方法

はじめに

Gentran:Server によって生成されるマップの EDI 側には、選択したドキュメントのバージョンのスタンダード エージェンシーで定義されているすべてのグループ、セグメント、複合、およびエレメントが含まれます。スタンダードによって "必須" (必ず使用する) と定義されたグループ、セグメント、複合、およびエレメントはすべてアクティブになります。必須のグループ、セグメント、複合、およびエレメントを非アクティブにすることはできません。

データがトランスレーションされるときに、アクティブでないグループ、セグメント、複合、およびエレメント (またはレコードやフィールド) は処理されません。したがって、スタンダードでは必須と定義されていないものの、マッピングで使用する必要があると判断するグループ、セグメント、複合、およびエレメントは、ユーザーがアクティブにする必要があります。

ヒント

定義済みのサンプル EDI ファイルがある場合は、アクティブにする代わりに、自動整列機能を使用することもできます。

参照

自動整列機能の詳細については、「[自動整列の使用方法](#)」を参照してください。

手順

グループ、セグメント、複合、およびエレメントをアクティブにするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[機能] メニューから [アクティブ] を選択します。
2	<p>アクティブにするセグメントやグループが含まれている各グループを開きます (ダブルクリック)。</p> <p>メモ マップ コンポーネントを 1 つずつ開く (ステップ 2、5、および 7) 代わりに、[表示] メニューから [すべて展開] を選択してすべてのマップ コンポーネントを開くこともできます。また、マップ コンポーネントを選択してから、[表示] メニューの [分岐の展開] を選択してマップ コンポーネントを開くこともできます。</p>
3	<p>使用する必要のある非アクティブなグループをすべて選択します。選択されたグループはアクティブになります。</p> <p>メモ アクティブにするつもりのないグループ、セグメント、複合、またはエレメントを誤ってクリックしてしまった場合は、そのマップ コンポーネントを右クリックして、ショートカット メニューから [非アクティブ] を選択してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	使用する必要のある非アクティブなセグメントをすべて選択します。 メモ 選択されたセグメントはアクティブになります。
5	アクティブにする複合やエレメントが含まれている各セグメントを開きます (ダブルクリック)。
6	使用する必要のある非アクティブな複合をすべて選択します。 メモ 選択された複合はアクティブになります。
7	アクティブにするエレメントが含まれている各複合を開きます (ダブルクリック)。
8	使用する必要のある非アクティブなエレメントをすべて選択します。 メモ 選択されたエレメントはアクティブになります。
9	必要なグループ、セグメント、およびエレメントをすべてアクティブにしたら、[機能] メニューから [アクティブ] を選択してアクティブ モードをオフにします。

自動整列の使用法

はじめに

マップ コンポーネントを手動でアクティブにする代わりに、自動整列機能を使用することもできます。自動整列では、選択するサンプル EDI ファイルに基づいてマップの EDI 側が調整されます。この EDI ファイルは事前に作成しておく必要があります。

自動整列機能は指定された EDI ファイルを調べ、EDI 側のマップ コンポーネントをアクティブか非アクティブにして、2つのファイルのマップ コンポーネントを一致させます。このように自動整列機能ではマップ コンポーネントを一致させるため、サンプル EDI ファイルはマップと同じスタンダード、バージョン、およびトランザクションセット (メッセージ) である必要があります。

注意事項

自動整列を使用するには、セグメント区切文字およびエレメント区切文字を定義する必要があります。タグ区切文字が指定されていない場合は、セグメント区切文字が代用されます。複合エレメントを使用する場合は、サブエレメント区切文字を指定する必要があります。また、リリース文字を使用する場合は、リリース文字を指定する必要があります。

参照

EDI 区切文字の指定の詳細については、「[EDI 区切文字の検証方法](#)」を参照してください。

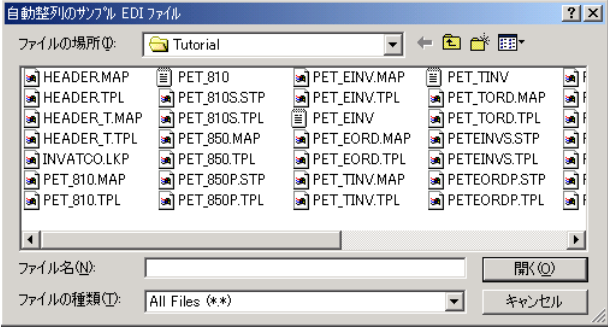
注意

サンプル EDI ファイルは適合ドキュメントである必要があります。また、サンプル EDI ファイルにエンベロープ セグメントを含めることはできません。

(次のページへ続く)

手順

自動整列を使用するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<ul style="list-style-type: none"> ▶ マップの EDI 側で、[EDI ファイル] アイコンを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [自動整列] を選択します。 <p>システムからの応答 [自動整列のサンプル EDI ファイル] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
2	<p>[ファイルの場所] リストから、EDI ファイルが保存されているドライブ ¥フォルダを選択します。</p> <p>メモ 既定の保存場所は、GENSRVNT¥BIN です。</p>
3	<p>必要に応じて、[ファイルの種類] リストから、表示するファイルの種類を選択します。</p>
4	<p>システムに読み込むサンプル EDI ファイルをリストから選択します。</p>
5	<p>[開く] をクリックして、自動整列処理を開始します。</p> <p>メモ 自動整列が完了すると、処理が成功したかどうかを通知するメッセージが表示されます。[OK] をクリックして、メッセージを確認します。</p>

グループおよび繰り返しセグメントのプロモート方法

はじめに

プロモート機能は、グループまたは繰り返しセグメントから1つの繰り返し (インスタンス) を抽出します。この機能を使用すると、アプリケーションファイルから一意のデータをマッピングして、特別な定義を入力することができます。Gentran:Server で有効とされているマッピング関係は、1対1 (ループなし) および複数対複数 (ループ) のみです。

メモ

プロモート機能は、グループまたは繰り返しセグメントが選択されている場合にのみ使用できます。

プロモート機能、コピー機能、分割機能の比較

"コピー" と "貼り付け" 機能を使用しても、([最大使用回数] ボックスの数値を変更して) 同じ作業を実行したことになります。ただし、プロモートは EDI 構造の整合性を確実に維持するための専用機能です。状況によっては、分割機能または "コピー"/"切り取り" と "貼り付け" 機能を使用することもできます。

参照

- ▶ グループや繰り返しセグメントを分割する方法の詳細については、「[グループおよび繰り返しセグメントの分割方法](#)」を参照してください。
- ▶ コピー、切り取り、および貼り付け機能の詳細については、「[コピー、切り取り、貼り付け機能の使用方法](#)」を参照してください。

手順

グループまたは繰り返しセグメントをプロモートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	1つの繰り返しの抽出元として、グループまたは繰り返しセグメントを選択します。
2	メイン ツールバーにある [プロモート] を選択します。 システムからの応答 ループ構造の1つの繰り返し (インスタンス) が抽出されます。

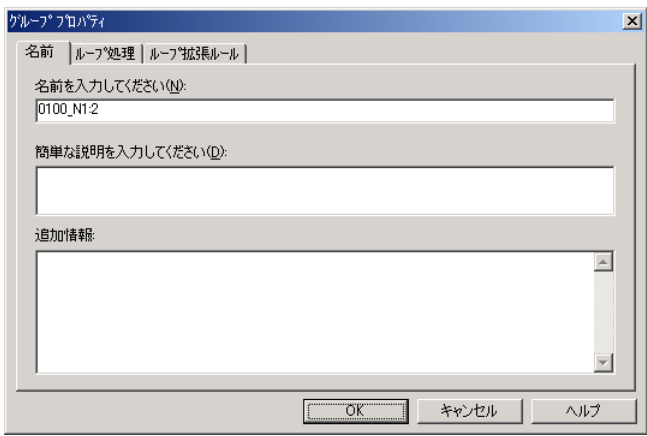
(次のページへ続く)

アウトバウンドの例

この例では、アプリケーション ファイルに、すべての出荷情報がまとめられている出荷先レコードと、すべての請求情報がまとめられている請求先レコードが含まれています。アプリケーションでは、出荷先レコードと請求先レコードはどちらも 1 度だけ出現します。EDI ファイルには、200 回繰り返される N1 グループ (ANSI 用) または NAD グループ (EDIFACT 用) があります。N1/NAD のエンティティ識別子コードが BT である場合、N1/NAD グループには請求情報が含まれます。エンティティ識別子のコードが ST である場合、N1/NAD グループには出荷情報が含まれます。

手順の例

次の手順は、一意のデータをアプリケーション ファイルにマッピングする方法の例です。

ステップ	操作
1	<p>まだアクティブにしていない場合は、N1/NAD ループおよび適切なセグメントやエレメントをアクティブにします。N1/NAD グループが既にアクティブになっている場合は、反転表示してください。</p> <p>参照 アクティブにする方法の詳細については、「EDI マップ コンポーネントをアクティブにする方法」を参照してください。</p>
2	<p>メイン ツールバーの [プロモート] をクリックして、N1/NAD グループのインスタンスを 1 つ抽出します。</p>
3	<p>[編集] メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます (既定では [名前] タブが表示されます)。</p> 
4	<p>説明を入力するボックスに、請求情報を格納するグループであることを識別できるように定義を入力します。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 変更が保存され、[グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ▶ オリジナルの NI/NAD グループ (繰り返される回数は 199 回) を再度右クリックします。 ▶ [編集] メニューから [プロパティ] を選択します。 <p>システムからの応答 [グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます (既定では [名前] タブが表示されます)。</p>
7	<p>説明を入力するボックスに、請求情報を格納するグループであることを識別できるように定義を入力します。</p>
8	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 変更が保存され、[グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メイン ツールバーにある [非アクティブ] ボタンをクリックします。 ▶ オリジナルの NI/NAD グループ (繰り返される回数は 198 回) をクリックします。このグループは処理されなくなります。
10	<p>これで、請求情報が格納されている NI/NAD の 1 つの発生のエレメントを請求先アプリケーション レコードのフィールドに連結することができます。</p> <p>また、出荷情報が格納されている NI/NAD の 1 つの発生のエレメントを出荷先アプリケーション レコードのフィールドに連結することができます。</p>

グループおよび繰り返しセグメントの分割方法

はじめに

分割機能を使用すると、グループや繰り返しセグメントを2つのループに分割することができます。通常この機能は、複数回出現する同じマップコンポーネントのインスタンスが1以上必要な場合に使用します。

分割機能とコピー/貼り付け機能の比較


"コピー"と"貼り付け"機能を使用しても、([最大使用回数]ボックスの数値を変更して)同じ作業を実行したことになります。ただし、分割機能はEDI構造の整合性を確実に維持するための専用機能です。

メモ

分割機能は、グループまたは繰り返しセグメントが選択されている場合にのみ使用できます。

手順

グループまたは繰り返しセグメントを分割するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	1つの繰り返しを抽出するグループまたは繰り返しセグメントを反転表示します。
2	<p>メインツールバーにある[分割]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [分割]ダイアログボックスが表示されます。</p> 
3	<p>[最初のループ回数]ボックスに、何回目の繰り返しでグループや繰り返しセグメントを分割するのかを示す数値を入力します。</p> <p>例 Xループが最大5回繰り返される場合に、[最初のループ回数]ボックスに「2」と入力すると、最大2回繰り返されるXループ1つと、最大3回繰り返される2つ目のXループが1つ生成されます。</p> <p>メモ [最初のループ回数]ボックスに入力する数値は、ゼロより大きく、ループが繰り返される最大数より小さい数である必要があります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>


(続き) ステップ	操作
4	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [分割] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

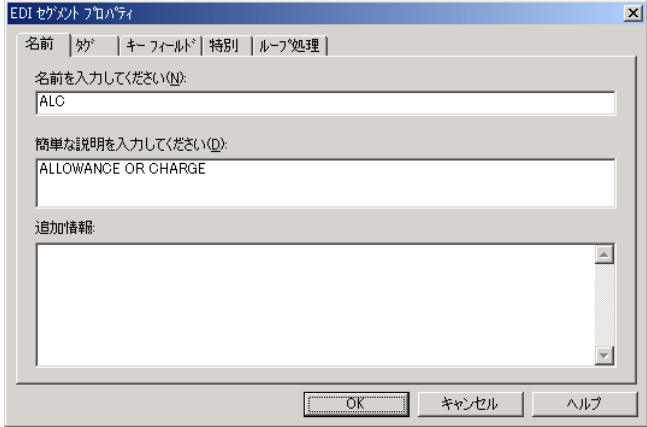
アウトバウンドの例

この例では、アプリケーション ファイルに、すべての値引き情報がまとめられている値引きレコードと、すべての料金情報がまとめられている料金レコードが含まれています。アプリケーション ファイルでは、値引きレコードと料金レコードを 5 回まで繰り返すことができます。EDI ファイルには、10 回繰り返される ALC 繰り返しセグメントが含まれています。この ALC セグメントを 2 つに分割すると、値引き情報を値引きアプリケーションレコードに、また料金情報を料金アプリケーションレコードに直接マッピングすることができます。

手順の例

次の手順は、ALC セグメントを分割する方法の例です。

ステップ	操作
1	<p>まだアクティブにしていない場合は、ALC セグメントおよび適切なエレメントをアクティブにします。ALC セグメントが既にアクティブになっている場合は、反転表示してください。</p> <p>参照 アクティブにする方法の詳細については、「EDI マップ コンポーネントをアクティブにする方法」を参照してください。</p>
2	<p>メイン ツールバーにある [分割] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [分割] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
3	<p>[最初のループ回数] ボックスに「5」と入力します。</p> <p>メモ これは、何回目の繰り返して繰り返しセグメントを分割するのかを指定する数値です。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [分割] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>
5	<p>[編集] メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p> 
6	<p>説明を入力するボックスに、値引き情報を格納するセグメントであることを識別できるように定義を入力します。</p>
7	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 変更が保存され、[EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>
8	<p>オリジナルの ALC セグメント (繰り返される回数は 5 回) を反転表示します。</p>
9	<p>[編集] メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p>
10	<p>説明を入力するボックスに、値引き情報を格納するセグメントであることを識別できるように定義を入力します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
11	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 変更が保存され、[EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>
12	<p>これで、値引き情報を含む ALC セグメントのエレメントを値引きアプリケーションレコードのフィールドに連結することができます。</p> <p>また、料金情報を含む ALC セグメントのエレメントを料金アプリケーションレコードのフィールドに連結できます。</p>

コピー、切り取り、貼り付け機能の使用法

はじめに

通常 "コピー"、"切り取り"、および "貼り付け" 機能は、マップ内で EDI 情報を移動する際に使用します。また、EDI スタンドの使用法が異なる場合や、ネストされたループ構造を作成する必要がある場合にも使用できます。

ユーザーは 1 つのマップ コンポーネント (ループ、セグメント、複合、エレメント、レコード、またはフィールド) を切り取るかコピーして、マップ内の別の場所に貼り付けることができます。コピーされたマップ コンポーネントは、オリジナルのマップ コンポーネントが持っていた情報をすべて維持します。コピーされたマップ コンポーネントに下位マップ コンポーネントがある場合 (セグメントに下位エレメントが含まれる場合のように) は、その下位コンポーネントも共にコピーされます。

切り取った、またはコピーしたマップ コンポーネントを他のマップに貼り付けることもできます。

手順

マップ コンポーネントを切り取って、コピーし、貼り付けるには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	切り取る、またはコピーするマップ コンポーネントを選択します。
2	[編集] メニューから [コピー] を選択します。 メモ マップ コンポーネントを他のマップに貼り付ける場合、そのマップがまだ開いていなければ、ここで開いてください。
3	コピー先となるマップ コンポーネントを選択します。切り取られた、またはコピーされたコンポーネントは、ここで選択するマップ コンポーネントの後ろに貼り付けられます。 メモ EDI コンポーネントを切り取った、またはコピーした場合、そのコンポーネントを貼り付けられるのはマップの EDI 側のみです。また、固定長コンポーネントを切り取った、またはコピーした場合は、マップの固定長側にのみ貼り付けることができます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
4	<p>メイン ツールバーの [貼り付け] をクリックして、クリップボードのデータを貼り付けます。</p> <p>システムからの応答 選択したマップ コンポーネントがグループである場合、クリップボードの中身をグループの子 (下位) として貼り付けるか、グループと同じレベルに貼り付けるかを指定するよう促すメッセージが表示されます。適切なオプションを選択し、[OK] をクリックします。</p>

例

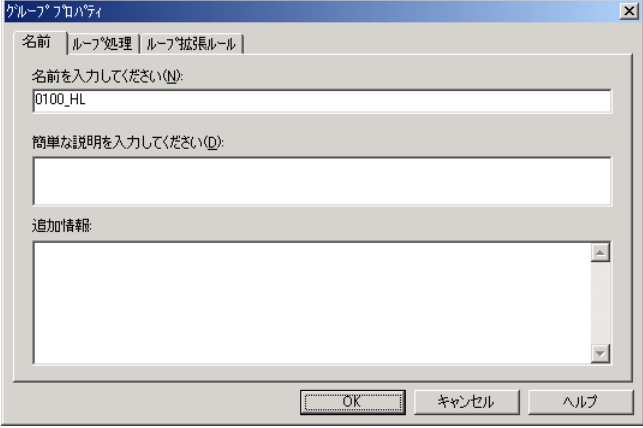
この例では、ANSI X12 Ship Notice/Manifest (856) を定義します。生成される 856 ドキュメントには、1 つの HL グループが含まれます。HL グループは、階層的に関連付けられたセグメント グループ間の依存関係、およびそれらのグループの内容を指定します。

しかし、EDI ファイルでは、追加の詳細情報レベルを定義する必要があります。定義が必要な詳細情報には、出荷、受注、品目名などが含まれます。EDI ファイルの構造を変更してこれらの情報を含めるには、" コピー " 機能と " 貼り付け " 機能を使用して、HL グループのネストされたループ構造を作成する必要があります。

手順の例

次の手順は、ネストされたループ構造を作成する方法の例です。

ステップ	操作
1	<ul style="list-style-type: none"> ▶ HL グループを反転表示します。 ▶ メイン ツールバーにある [コピー] をクリックします。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>[編集] メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
3	<p>[名前] タブの 2 番目のボックスに、出荷情報を格納するグループであることを識別できるような定義を入力します。</p>
4	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 変更が保存され、[グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ コピー先となる HL 内のマップ コンポーネントを選択します。ネストされた HL グループ (受注情報) は、ここで選択するコンポーネントの後ろに貼り付けられます。 ▶ [貼り付け] をクリックします。 <p>システムからの応答 2 つ目の HL グループがネストされたループとしてオリジナルの HL ループに追加されます。</p>
6	<p>[編集] メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 2 つ目の HL グループの [グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
7	<p>[名前] タブの 2 番目のボックスに、出荷情報を格納するグループであることを識別できるような定義を入力します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
8	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 変更が保存され、[グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>
9	<p>2 つ目の HL グループ (受注情報) をダブルクリックして開きます。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ▶ コピー先となる HL 内のマップ コンポーネントを選択します。ネストされた HL グループ (品目名情報) は、ここで選択するコンポーネントの後ろに貼り付けられます。 ▶ [貼り付け] をクリックします。 <p>システムからの応答 3 つ目の HL グループ (品目名情報) は、2 つ目の HL グループのネストされたループとして追加されます。</p>
11	<p>[編集] メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 3 つ目の HL グループの [グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
12	<p>[名前] タブの 2 番目のボックスに、出荷情報を格納するグループであることを識別できるような定義を入力します。</p>
13	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 変更が保存され、[グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>
14	<p>これで、新しい HL のネストされたループ構造で適切なグループ、セグメント、およびエレメントをアクティブにすることができます。</p> <p>参照 アクティブにする方法の詳細については、「EDI マップ コンポーネントをアクティブにする方法」を参照してください。</p>

固定形式ファイルの使い方

概要

はじめに

マップの一方の側が固定長 (固定形式) である場合、アプリケーションを Gentran:Server 用に定義するか、または以前に保存した定義ファイルを読み込む必要があります。アプリケーション ファイルには、パートナーのドキュメントから抽出するために必要なすべての情報 (マップがインバウンドの場合)、またはパートナーに送信するために必要なすべての情報 (マップがアウトバウンドの場合) が含まれている必要があります。

始める前に

アプリケーションを定義する前に、必要なレコード、フィールド、およびグループのレイアウトを取得する必要があります。レコードには関連するフィールドが、そしてグループには関連するレコードが含まれます。たとえば、アプリケーションにはレコードとグループが含まれます。レコードにはフィールドが、グループにはレコードとサブグループ両方またはどちらか一方が含まれます。つまり、レコードとグループを作成してから、それらに従属するフィールドを作成する必要があります。

各マップ コンポーネントは、システムが処理するのに最も論理的な順番で順次並べられます。したがって、アプリケーションの各レベルは順次作成される必要があります。

配下に作成機能 および挿入機能

必要なグループやレコードを作成するには、配下に作成と挿入という Gentran:Server の 2 つの機能を使用します。次の表に、これらの機能をどのように使用できるかを示します。

次のようなグループまたはレコードを作成する場合	マップ コンポーネントを右クリックして、実行する内容
同じレベル (対等の関係)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ショートカット メニューから [挿入] を選択します。 ▶ サブメニューの [グループ] または [レコード] を選択します。
選択したマップ コンポーネントに従属	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ショートカット メニューから [配下に作成] を選択します。 ▶ サブメニューの [グループ] または [レコード] を選択します。

ファイル形式のプロパティの調整方法

レコードの区切文字の変更

レコードの区切文字を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	アプリケーション インテグレーションで、固定長ファイルを開きます。
2	ファイル形式のアイコンを右クリックし、ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 [固定長ファイルプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[レコード] タブで、必要に応じて [レコード 区切文字 1] および [レコード 区切文字 2] を変更します。
4	[OK] をクリックします。区切文字のフィールドが空である場合でも [OK] をクリックして、区切文字をリセットする必要があります。
5	マップを保存します。
6	マップをコンパイルします。 システムからの応答 行末区切文字が変更されます。

小数点の変更

データで既定の小数点であるピリオド (.) 以外の記号を小数点として定義および生成する必要がある場合は、[小数点] タブで指定できます。

既定の小数点設定を変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	アプリケーション インテグレーションで、固定長ファイルを開きます。
2	ファイル形式のアイコンを右クリックし、ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 [固定長ファイルプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
3	[小数点] タブで、[小数点を定義してください] チェックボックスをオンにします。
4	[小数点文字] ボックスに、小数点として使用する値を入力します (たとえば、コンマ (,) を使用することができます)。既定の小数点のリセットされ、ピリオドの代わりにユーザーが指定した値が使用されます。
5	[OK] をクリックします。区切文字のフィールドが空である場合でも [OK] をクリックして、区切文字を変更する必要があります。
6	マップを保存します。
7	マップをコンパイルします。 システムからの応答 小数点の設定が適切に変更され、ユーザーが指定した値が使用されるようになります。

最初のレコードの作成方法

はじめに

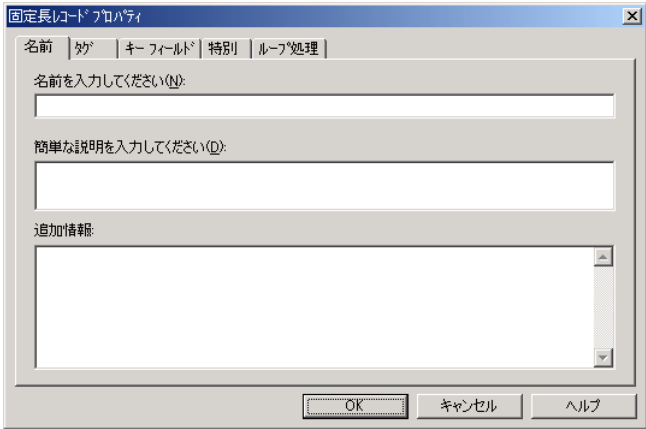
通常アプリケーションの最初のレコードは、ヘッダーレコードです。最初のレコードは、マップのアプリケーション側のアイコンに従属します。これにより、アプリケーションファイルに含まれるレコード（およびグループ）の構造を知ることができます。

ヒント

アプリケーションファイルごとに1つのヘッダーレコードを含めることをお勧めします。ヘッダーレコードは必須であり、一度だけ実行されます（ループ構造ではありません）。

手順

最初のアプリケーションレコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [固定長ファイル]アイコンをクリックして反転表示します（インバウンドマップの場合は出力側、アウトバウンドマップの場合は入力側）。 ▶ [編集]メニューから[配下に作成]を選択します。 ▶ サブメニューから、[レコード]を選択します。 <p>システムからの応答 [固定長レコードプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。</p> 
2	<p>[名前]タブの最初のボックスに、レコード名を入力します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[名前] タブの 2 番目のボックスに、レコードの説明を入力します。</p> <p>メモ このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他のレコードとこのレコードを区別するために使用されます。</p>
4	<p>[タグ] タブを選択して、タグ情報を表示します。</p>
5	<p>[タグ] ボックスに、レコードの ID コード、<TAG> を入力します。システムは各レコードのレコード タグによりレコードを識別し、マッピング条件を決定します。</p> <p>例 システムはレコードを次のように識別します。</p> <p><TAG>[Field_1][Field_2]</p> <p>推奨事項 レコード タグは、フィールドの定義時に明示的に含めるのではなく、[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスで定義してください。</p>
6	<p>[配置] ボックスに、データ レコードにおけるタグの開始列の場所を入力します。</p>
7	<p>浮動オプション (ファイルにおけるレコードの位置が固定されません) またはワイルドカード オプション (通常ビルド マップやブレーク マップ以外では使用されません) を指定する場合のみに、[特別] タブを選択します。浮動オプションやワイルドカード オプションを指定しない場合は、既定値のままにしておきます。</p>
8	<p>レコードがループ構造である場合のみに、[ループ処理] タブを選択します。レコードがループ構造でない場合は、既定値のままにしておき、ステップ 11 に進みます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
9	<p>レコードがループ構造であるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">ループ構造である場合は、[ループ処理] タブの [最小使用回数] ボックスに、レコードが繰り返される最小回数を入力します。 <p>推奨事項 必須のヘッダーレコードを作成する場合は、「1」と入力します。</p> <p>メモ [最小使用回数] ボックスに「0」(ゼロ)と入力すると、レコードは "条件付き" になります。[最小使用回数] ボックスに「1」、またはそれより大きい値を入力すると、レコードは "必須" になります。</p> <ul style="list-style-type: none">ループ構造でない場合は、ステップ 11 に進みます。
10	<p>レコードがループ構造であるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">ループ構造である場合は、[ループ処理] タブの [最大使用回数] ボックスに、レコードが繰り返される最大回数を入力します。 <p>推奨事項 ヘッダーレコードの場合は、既定値の "1" をそのまま使用し、一度しか実行されない (ループ構造ではない) レコードを作成することをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none">ループ構造でない場合は、ステップ 11 に進みます。
11	[OK] をクリックして、レコードを作成します。

2つ目以降のレコードの作成方法

はじめに

最初のレコードを作成したら、最初のレコードと同じレベルの以降のレコードを定義できます。アプリケーションにループ構造が含まれる場合は、グループも定義できます。また、順次繰り返される関連レコードのグループ（またはサブグループ）をアプリケーションが要求する場合は、ループを定義する必要があります。

参照

グループを定義する方法の詳細については、「[グループの作成方法](#)」を参照してください。

手順

追加のアプリケーションレコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ファイルレイアウトで、これから作成するレコードの前に位置するマップコンポーネントを反転表示します。 ▶ レベルに応じて、[編集]メニューから[挿入]または[配下に作成]を選択します。 ▶ サブメニューから、[レコード]を選択します。 <p>システムからの応答 [固定長レコード プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	[名前]タブの最初のボックスに、レコード名を入力します。
3	[名前]タブの2番目のボックスに、レコードの説明を入力します。
	<p>メモ このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他のレコードとこのレコードを区別するために使用されます。</p>
4	[タグ]タブを選択して、タグ情報を表示します。
	(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
5	<p>[タグ] ボックスに、レコードの ID コード、<TAG> を入力します。システムは各レコードのレコード タグを使用してレコードを識別し、マッピング条件を決定します。</p> <p>例 システムはレコードを次のように識別します。</p> <p><TAG>[Field_1][Field_2]</p> <p>推奨事項 レコード タグは、フィールドの定義時に明示的に含めるのではなく、[固定長レコード プロパティ] ダイアログ ボックスで定義してください。</p>
6	<p>[配置] ボックスに、データ レコードにおけるタグの開始列の場所を入力します。</p>
7	<p>浮動オプション (ファイルにおけるレコードの位置が固定されません) またはワイルドカード オプション (通常ビルド マップやブレーク マップ以外では使用されません) を指定する場合は、[特別] タブを選択します。その他の場合は、既定値のままにしておきます。</p>
8	<p>レコードがループ構造である場合は、[ループ処理] タブを選択します。その他の場合は、既定値のままにしておき、ステップ 11 に進みます。</p>
9	<p>レコードがループ構造であるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ループ構造である場合は、[ループ処理] タブの [最小使用回数] ボックスに、レコードが繰り返される最小回数を入力します。 <p>推奨事項 必須のヘッダーレコードを作成する場合は、「1」と入力します。</p> <p>メモ [最小使用回数] ボックスに「0」(ゼロ) と入力すると、レコードは " 条件付き " になります。[最小使用回数] ボックスに「1」、またはそれより大きい値を入力すると、レコードは " 必須 " になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ループ構造でない場合は、ステップ 11 に進みます。
10	<p>[OK] をクリックして、レコードを作成します。</p> <p>メモ 追加のレコードを作成する場合は、この手順を使用してください。</p>

一時レコードの作成方法

はじめに

シンプルな連結を使用できない場合や、データファイルからレコードの特定の発生だけを抽出する必要がある場合は、一時レコードや一時フィールドを作成する必要があります。シンプルな連結では、1対1(いずれの側のマップコンポーネントも一度だけ出現する場合)または複数対複数(いずれの側のマップコンポーネントも同じ数だけ繰り返される場合)の関係にあるマップの入力側と出力側のデータを連結することができます。

参照

シンプルな連結の詳細については、「[シンプルな連結の作成方法](#)」を参照してください。

一時レコードや一時フィールドを使用するケース

一度しか出現しない入力側のマップコンポーネントを、複数回繰り返される出力側のマップコンポーネントに連結すると、マップのトランスレーション時に無限ループが発生します。また、複数回繰り返される入力側のマップコンポーネントを一度しか出現しない出力側のマップコンポーネントに連結すると、入力側のデータは出力側に挿入されません。このような場合には、一時レコードや一時フィールドを使用する必要があります。

次のような一般的なケースでも、一時レコードや一時フィールドをマップに組み込むことができます。

- ▶ マップの入力側の階層レベルが出力側の階層レベルと一致しない場合。
- ▶ 特定の修飾子を使用されるか、特定の条件が満たされるときに出力フィールドにのみデータを挿入する場合。

一時レコードや一時フィールドの作成に加えて、拡張ルールの使用が必要となる場合もあります。

参照

拡張ルールを使用する方法の詳細については、「[拡張ルールの使い方](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

一時レコードや一時フィールドを使用する場所

一時レコードおよび一時フィールドは、マップのどの階層レベルにでも追加できます。ただし、一時レコードや一時フィールドは、必要なデータが含まれるマップコンポーネントの直後に配置する必要があります。

一時レコードを使用する際には、次の注意事項に留意してください。

- ▶ レコードタグは、入力ファイルで受信される可能性のないものを使用する必要があります。推奨されている既定値は、**\$\$\$** です。
- ▶ XML ファイル用の一時レコードを作成する場合は、**XXX** というタグを使用します。これは、XML では **\$\$\$** がタグとして認められないためです。
- ▶ システムは、一時レコードに対してスタンダードルールや拡張ルールを実行しません。

例

入力側の出荷情報 (最大 200 回繰り返される N1 グループ) をアプリケーションファイル形式の出荷先レコード (繰り返しなし) にマッピングするには、マップの EDI 側に、一度しか実行されない一時記憶レコードと一時フィールドを作成する必要があります。次に、拡張ルールを使用して N1 グループから出荷情報と請求情報を抽出し、適切な一時記憶エレメントにそれらの情報を移します。最後に、出荷情報と請求情報を一時記憶エレメントからアプリケーションのフィールドに直接マッピングします。

ステップ 1

まず、マップの EDI 側で、一度しか実行されない一時記憶レコードとフィールドを作成する必要があります。一時レコードは、N1 グループの外に配置しますが、N1 グループと同じ階層レベルに置きます。繰り返しの最大回数は 1 (繰り返しなし) に設定します。次に、適切な一時フィールドを作成します。

参照

フィールドを作成する方法の詳細については、「[フィールドの作成方法](#)」を参照してください。

次の表に、作成する一時記憶レコードを示します。

名前	説明	タグ	最小使用回数	最大使用回数
ShipToDet	出荷先の詳細	\$\$\$	0	1

(次のページへ続く)

ステップ 1 (続き)

手順の例

ShipToDet 一時記憶レコードを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	N1 グループを反転表示します。2 つの一時記憶セグメントは N1 グループの後ろに配置します。レベルは、N1 グループと同じレベルです。
2	[編集] メニューから [挿入] を選択します。サブメニューから [セグメント] を選択します (マップの EDI 側で一時レコードを作成しているので、[レコード] ではなく [セグメント] を選択します)。 システムからの応答 [EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[名前] ボックスに、「ShipToDet」と入力します。
4	[説明] ボックスに、「出荷先の詳細」と入力します。
5	[タグ] タブを選択します。
6	[タグ] ボックスに、「\$\$\$」と入力します。 メモ システムは、[タグ] ボックスに「\$\$\$」という値が入力されているセグメントを読み込みません。したがって、チェック時に、この一時記憶セグメントにエラー フラグが立てられることはありません。
7	[OK] をクリックして、ShipToDet 一時記憶セグメントを作成します。
8	適切な一時フィールドを作成します。 例 <ul style="list-style-type: none"> ▶ SHIPTONAME ▶ SHIPTOADDR1 ▶ SHIPTOADDR2 ▶ SHIPTOCITY ▶ SHIPTOSTATE ▶ SHIPTOPCODE メモ フィールドを作成する方法の詳細については、「 フィールドの作成方法 」を参照してください。

(次のページへ続く)

ステップ 2

N1 グループに ON_END 拡張ルールを作成し、必要な情報を一時フィールドに割り当てます。

手順の例

拡張ルールを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	N1 グループを右クリックして、ショートカット メニューを表示します。
2	ショートカット メニューから [拡張ルール] を選択して、[グループ プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。
3	[終了時] オプションを選択します。これにより、ルールはループの終了時に実行されるように指定されます。N1 グループの発生 (請求または出荷情報を格納) が読み込まれ、このルールが実行されます。
4	<p>[エディタ] リストに、次のコードを入力します。</p> <pre> IF #0098 = "BT" THEN BEGIN \$850.#BILLTONAME = #0093; \$850.#BILLTOADDR1 = #0166; \$850.#BILLTOADDR2 = #0166:2; \$850.#BILLTOCITY = #0019; \$850.#BILLTOSTATE = #0156; \$850.#BILLTOPCODE = #0116; END IF #0098 = "ST" THEN BEGIN \$850.#SHIPTONAME = #0093; \$850.#SHIPTOADDR1 = #0166; \$850.#SHIPTOADDR2 = #0166:2; \$850.#SHIPTOCITY = #0019; \$850.#SHIPTOSTATE = #0156; \$850.#SHIPTOPCODE = #0116; END </pre> <p>メモ マップ内に一度以上出現するセグメント / レコードやエレメント / フィールドは、名前の <ID> によって識別されます。2 番目以降の発生は <ID>:n という名前によって識別されず (n は、マップにおける出現回数を表します)。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[コンパイル] をクリックして、拡張ルールのシンタックスを検証します。マップの完成後にトランスレーションオブジェクトをコンパイルすると、マップ内のすべてのルールがコンパイルされます。作成したルールの正確性を確認するために、ルールを個々にコンパイルすることもできます。</p> <p>メモ ルールは対話形式でコンパイルされるので、発生するエラーを修正することができます。コンパイル時に発生したエラーおよび警告は、[エラー] リストに表示されます。</p>
6	[OK] をクリックして、拡張ルールを N1 グループに追加します。

ステップ 3

マップの入力側の一時フィールドを、対応する出力側のフィールドに連結します。

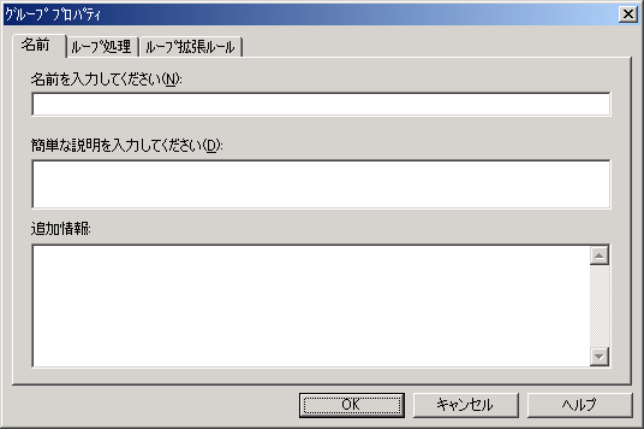
グループの作成方法

はじめに

グループには、データが終了するまで、あるいはループの繰り返し可能最大数に達するまで、順次繰り返される関連レコード、グループ、またはその両方が含まれます。他のグループに従属するグループを作成する場合、このグループはネストされたループ構造(ループ内のループ)に対応します。

手順

グループを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ファイルレイアウトで、作成するグループの前に位置するマップコンポーネントを反転表示します。 ▶ レベルに応じて、[編集]メニューから[挿入]または[配下に作成]を選択します。 ▶ サブメニューから、[グループ]を選択します。 <p>システムからの応答 [グループプロパティ]ダイアログボックスが表示されます(既定では[名前]タブが表示されます)。</p> 
2	<p>[名前]タブの最初のボックスに、グループ名を入力します。</p> <p>メモ グループ名にはスペースやダッシュ(-)を使用できません。単語を区切るために下線(_)を使用することはできます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[名前] タブの 2 番目のボックスに、ループの説明を入力します。</p> <p>メモ このボックスは、ループの簡単な説明を示すのに使用されます。</p>
4	<p>[ループ処理] タブを選択して、ループのオプションを表示します。</p>
5	<p>[最小使用回数] ボックスに、ループが繰り返される最小回数を入力します。</p> <p>メモ 条件付きループの場合、このボックスには必ず「0」(ゼロ)を入力する必要があります。必須ループの場合、このボックスには「1」、またはそれより大きい値を入力する必要があります。</p>
6	<p>[最大使用回数] ボックスに、ループが繰り返される最大回数を入力します。</p>
7	<p>これが、繰り返しを 1 つしか持たないグループかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 繰り返しを 1 つしか持たないグループの場合で、グループのコンパイル時に従属するレコードやグループを抽出して親グループ内に配置するよう指定したい場合は、[レコードを親フレームにプロモート] を選択します。 ▶ 繰り返しを 1 つしか持たないグループでない場合は、次のステップに進みます。
8	<p>このグループに拡張ルールを指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[ループ拡張ルール] タブを選択します。 <p>参照 拡張ルールの詳細については、「拡張ルールの定義」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
9	<p>[OK] をクリックして、グループを作成します。</p>

フィールドの作成方法

はじめに

ユーザーが作成する各レコードには、論理的に関連付けられたアプリケーションフィールドのグループが含まれます。これらのフィールドは、システムに対してデータの構造と内容を定義します。

アプリケーションフィールドをレコードに追加する最も簡単な方法は、固定長フィールドエディタを使用することです。通常は、まずアプリケーションファイルの最初のレコードでフィールドを作成し、次に2つ目以降の各レコードのフィールドを作成します。

推奨事項

フィールドを使用してレコードタグを明示的に含めるために、フィールドを定義することはできません。これは、自動配置 (Auto Position) 機能の使用時に、レコードで定義されているタグがシステムによって参照されるためです。レコードタグは、[固定長レコードプロパティ]ダイアログボックスで定義することをお勧めします。


参照

[固定長レコードプロパティ]ダイアログボックスの詳細については、「[2つ目以降のレコードの作成方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

手順

レコードのアプリケーション フィールドを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>アプリケーションレコードを右クリックし、ショートカットメニューから [フィールドの編集] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [固定長フィールド エディタ] ダイアログボックスが表示されます。</p> 
2	<p>作成するフィールドがレコードの最初のフィールドであるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初のフィールドである場合は、[新規作成] をクリックして、次のステップに進みます。 最初のフィールドでない場合は、レコードレイアウトで、作成するフィールドの前に位置するフィールドを反転表示し、[新規作成] をクリックします。 <p>システムからの応答 新しいフィールドが配置される [フィールド] セクションに反転表示バーが表示されます。</p> <p>メモ [フィールドの詳細] セクションのフィールドに値を入力する必要があります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[名前] ボックスにフィールド名を入力します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none">各アプリケーションフィールドには、一意の名前を付ける必要があります。複数のレコードに出現するフィールドには、どのレコードに含まれるフィールドであるのかを識別できるようなサフィックスを名前の末尾に付けると便利です。フィールド名にはスペースやダッシュ (-) を使用できません。単語を区切るために下線 (_) を使用することはできます。
4	<p>フィールドを " 必須 " (必ず使用する) として指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">指定する場合は、[必須] チェックボックスをオンにします。指定しない場合は、次のステップに進みます。
5	<p>[説明] ボックスに、フィールドの説明を入力します。</p> <p>メモ</p> <p>このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他のフィールドとこのフィールドを区別するために使用されます。</p>
6	<p>[データ型] リストで、フィールドの種類を選択します。</p> <p>メモ</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">[String] = 文字の要素[Number] = 数値または実数の要素[Date/Time] = 日付または時刻の要素 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	<p>[書式] リストで、フィールドの書式を選択します。</p> <p>メモ このフィールドで選択する書式は、[データ型] リストで選択したフィールドの種類によって異なります。[データ型] ボックスで [Number] または [Date/Time] を選択した場合は、[書式] リストから適切なデータ書式を選択できます。[データ型] ボックスで [String] を選択した場合は、シンタックス トークンを入力して、指定されているシンタックス トークン (既定のシンタックス トークンは X) に従ってこのフィールドを書式化するよう指定する必要があります。</p> <p>ユーザーは Gentran:Server のインストール時に、文字列フィールドに既定の書式を割り当てます。文字の検証は、この書式を基に実行されます。通常、米国のユーザーは、ASCII 文字に対応する既定の書式 (X シンタックス トークンなど) を使用します。アジアやヨーロッパの言語およびエンコード文字セットを使用するユーザーは、通常 Free Format (0x01 ~ 0xFF) を使用する必要があります。</p> <p>参照 シンタックス トークンを定義および使用方法の詳細については、「シンタックス トークンの使用方法」を参照してください。</p>
8	<p>レコードにおけるフィールドの正確な位置を指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[開始位置] ボックスにフィールドの開始位置を入力します。 ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。 <p>メモ フィールドの開始位置の指定は、使用するフィールドの数は少ないものの、それらのフィールドをレコードに正確に配置したい場合などに実行します。各フィールドの開始位置を指定する代わりに、フィールドを順序に従ってレコードに追加してから [自動配置] 機能を使用することもできます。</p> <p>参照 自動配置機能の詳細については、ステップ 13 を参照してください。</p>
9	<p>[最小長] ボックスに、このフィールドで許容される最小文字数を入力します。</p>
10	<p>[最大長] ボックスに、フィールドの最大長を入力します。</p>
11	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 フィールドが追加されると、そのフィールドの下に新しいフィールドが作成されます。新しいフィールドの値は、ユーザーが指定できるようブランクになっています。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
12	<p>レコード レイアウトに従って、残りのフィールドを作成します。</p> <p>メモ フィールドの追加を中止するには、[削除] をクリックしてください。</p>
13	<p>最後のフィールドを追加した後に、レコード内のフィールドを自動配置するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動配置する場合は、[自動配置] をクリックします。 <p>メモ [最大長] ボックスで指定された長さのフィールドが前のフィールドのすぐ後ろに配置されるという条件に基づいて、各フィールドのレコードの開始位置が自動的に計算されます。[はい] をクリックして、フィールドが順に配列されることを通知する警告メッセージを確認します。</p> <p>注意 自動配置機能を使用できるのは、レコード タグが定義されており、レコード内のすべてのフィールドがフィールドの出現する順序に従って定義されている場合のみです。</p> <p>参照 レコード タグを定義する方法の詳細については、「2つ目以降のレコードの作成方法」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動配置しない場合は、次のステップに進みます。
14	<p>レコードにフィールドをすべて追加し終えたかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 追加し終えた場合は、[閉じる] をクリックします。 ▶ 追加し終えていない場合は、ステップ 2 ~ 13 を繰り返します。 <p>メモ 定義した他のレコードにフィールドを追加する際にも、この手順を使用してください。</p> <p>インバウンド マップで、対応する EDI データのないアプリケーションフィールドに値を挿入する場合は、フィールドを直接 EDI エlement に連結できないため、リテラル定数を使用することができます。</p> <p>参照 フィールドに定数をマッピングする方法の詳細については、「リテラル定数のマッピング方法」を参照してください。</p>

EDI ファイルの使い方

概要

はじめに

Gentran:Server では、ユーザーが選択するスタンダード (エージェンシー)、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに基づいて、EDI ファイルが生成されます。システムには、選択されるドキュメントのバージョンのスタンダード エージェンシーによって定義されたすべてのグループ、セグメント、複合、およびエレメントが含まれます。

参照

新しいマップを作成する際に EDI ファイルを生成する方法の詳細については、「[マップの新規作成方法](#)」を参照してください。

システムによって生成された EDI ファイルは、マップ コンポーネントのプロパティを変更したり、プロモート、分割、コピー、切り取り、貼り付けなどの機能を使用したりすることによって修正できます。

ただし、Gentran:Server スタンダード データベースで使用できない EDI スタンダードの特殊なバージョンを使用する場合は、EDI ファイルの定義を読み込むか、EDI ファイルをユーザーが定義することが適切な場合があります。

参照

CII ファイルを定義する方法の詳細については、「[CII ファイルの使い方](#)」を参照してください。

EDI ファイルをシステムが生成するか、ユーザーが読み込みまたは定義するかどうにかかわらず、作成しているマップの種類によって、使用する EDI マップ コンポーネントが異なります。マップの種類は、選択したスタンダード、バージョン、およびトランザクション セット (ドキュメント)、また自社が必要としているグループ、セグメント、複合、およびエレメントの種類などにより決まります。EDI ファイルを生成または定義する前に、どのマップ コンポーネントを使用しているか確認することをお勧めします。

EDI 区切文字の検証方法

はじめに

複合エレメントやサブエレメントを含む EDI スタンドを使用している場合は、Gentran:Server で適切な区切文字が指定されているかどうか検証する必要があります。区切文字とは、システムで定義されているフラグであり、特定の EDI コンポーネントを区切るために使用されます。

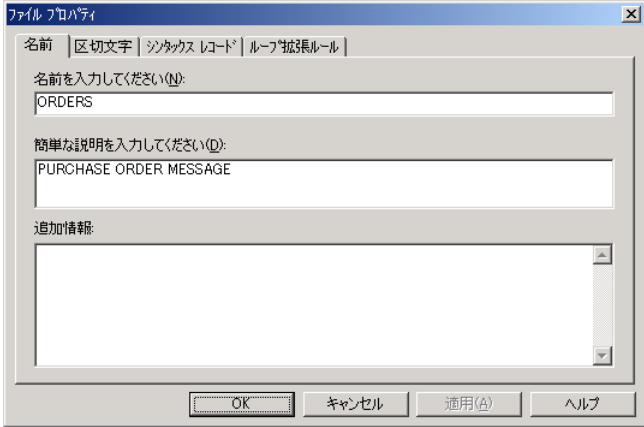
データは圧縮され、先頭にあるゼロや末尾にある空白が削除されるので、すべてのフィールド長のスタンダードで必ず区切文字が必要となります。フィールドの長さが一定でないため、システムがエレメント間の区切を識別するにはフラグが必要です。たとえば、エレメント区切文字は、新しいエレメントが開始される場所を示します。

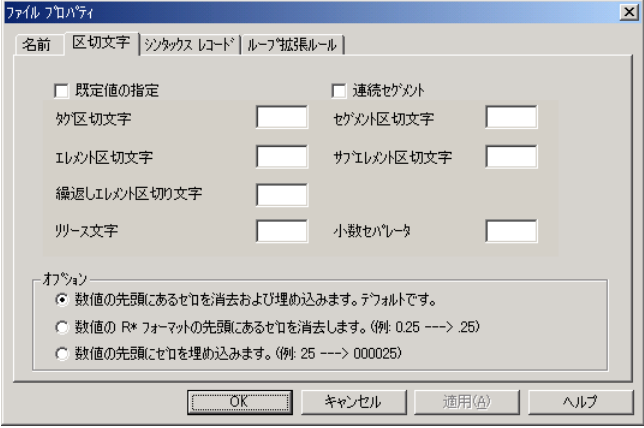
推奨事項

Gentran:Server で EDI 区切文字の検証が必須となるのは使用しているスタンダードに複合エレメントやサブエレメントが含まれている場合のみですが、どのスタンダードを使用しているかにかかわらず、この手順を実行することをお勧めします。

手順

EDI 区切文字を検証するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[EDI ファイル] のアイコンを右クリックし、ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ファイルプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>[区切文字] タブを選択して、区切文字のオプションを表示します。</p> 
3	<p>[既定値の指定] チェックボックスがオンになっていることを確認します。</p>
4	<p>使用している EDI スタンドアードの必須の区切文字を確認します。</p> <p>メモ 区切文字が指定されている既定の文字と異なっている場合は、適切なボックスに文字、または 16 進数を入力してください。</p>
5	<p>マップの出力側で X12、EDIFACT、または TRADACOMS スタンドアードを使用しており、R 書式の数値 (1 未満の小数値も含む) を使用する EDI エレメントで先頭のゼロを削除するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 削除する場合は、[数値の先頭にあるゼロを抑制およびパッド] オプションを選択します。(例: 0.25->.25) ▶ 削除しない場合は、ステップ 6 に進みます。
6	<p>マップの出力側で X12、EDIFACT、または TRADACOMS スタンドアードを使用しており、書式に関係なく、EDI エレメントの数値の先頭にゼロを埋め込むかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 埋め込む場合は、[数値の先頭にゼロをパッド] オプションを選択します。(例: 25->000025) <p>メモ このオプションを選択すると、書式に関係なく数値の先頭には、フィールドの最大長に達するまでゼロが埋め込まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 埋め込まない場合は、ステップ 7 に進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	[OK] をクリックして、[ファイルプロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

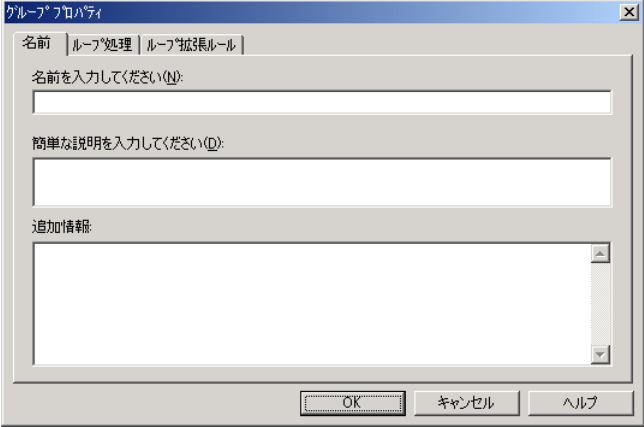
グループ プロパティの修正方法

はじめに

グループにはグループ データが終了するまで、あるいはループの繰り返し可能最大数に達するまで、順次繰り返される関連するセグメントとグループまたはどちらか一方が含まれます。他のグループに従属するグループを作成する場合、このグループはネストされたループ構造 (ループ内のループ) になります。

手順

グループのプロパティを修正するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>修正するグループを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます (既定では [名前] タブが表示されます)。</p> 
2	<p>グループ名を修正する場合は、[名前] タブの最初のボックスに新しい名前を入力します。</p> <p>メモ グループ名にはスペースやダッシュ (-) を使用できません。単語を区切るために下線 (_) を使用することはできません。</p>
3	<p>グループの説明を修正する場合は、[名前] タブの 2 番目のボックスに新しい説明を入力します。</p>
4	<p>[ループ処理] タブを選択して、ループのオプションを表示します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[最小使用回数] ボックスに、ループが繰り返される最小回数を入力します。</p> <p>メモ 条件付きループの場合、このボックスには必ず「0」(ゼロ)を入力する必要があります。必須ループの場合、このボックスには「1」、またはそれより大きい値を入力する必要があります。</p>
6	<p>[最大使用回数] ボックスに、ループが繰り返される最大回数を入力します。</p>
7	<p>これが、繰り返しを1つしか持たないグループかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 繰り返しを1つしか持たないグループで、グループのコンパイル時に、従属するレコードやグループを抽出して親グループ内に配置するよう指定したい場合は、[レコードを親フレームにプロモート]を選択します。▶ 作成しない場合は、次のステップに進みます。
8	<p>このグループに拡張ルールを指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 指定する場合は、[ループ拡張ルール]タブを選択します。 <p>参照 拡張ルールの詳細については、「拡張ルールの定義」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
9	<p>[OK] をクリックして、グループへの変更を保存します。</p>

セグメント プロパティの修正方法

はじめに

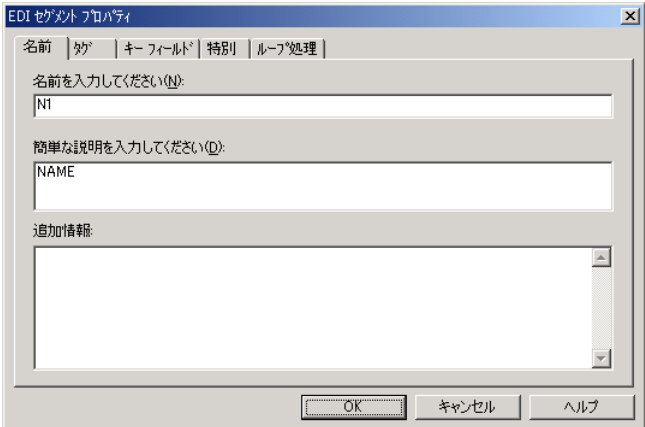
セグメントが繰り返される最小および最大回数などのセグメント プロパティは、セグメントが必須、条件付き、ループ開始、あるいはループ終了のいずれであっても修正することができます。

参照

ループ開始およびループ終了セグメントを使用する方法の詳細については、「[ループ開始とループ終了セグメントの使用方法](#)」を参照してください。

手順

セグメントのプロパティを修正するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>修正するセグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
2	<p>セグメント名を修正する場合は、[名前] タブの最初のボックスにセグメント名を入力します。</p> <p>メモ マップ内に 1 度以上出現するセグメントは、名前の <ID> によって識別されます。2 度目以降の発生は <ID>:n という名前によって識別されます ("n" は、マップにおける出現回数を表します)。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>セグメントの説明を修正する場合は、[名前] タブの 2 番目のボックスに新しい説明を入力します。</p> <p>メモ このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他のセグメントとこのセグメントを区別するために使用されます。</p>
4	<p>タグ情報を表示する場合は、[タグ] タブを選択します。</p>
5	<p>セグメント タグを修正する場合は、[タグ] ボックスにセグメント ID コード、<TAG> を入力します。</p> <p>メモ システムは各セグメントのタグを使用して、セグメントを識別します。</p> <p>例 システムはレコードを次のように識別します。</p> <pre><TAG>[Delimiter]<DATA>[Delimiter] <DATA>.....<DATA>[Segment Terminator]</pre>
6	<p>キー フィールドを使用する場合は、[キー フィールド] タブを選択します。</p> <p>メモ キー フィールド機能を使用すると、セグメントを選択する 2 番目の条件を指定できます (1 番目の条件は、セグメント名です)。データは、キー フィールドによって示される順序で指定される必要があります。</p>
7	<p>浮動オプション (ファイルにおけるセグメントの位置が固定されません) またはワイルドカード オプション (通常ビルド マップやブレイク マップ以外では使用されません) を指定する場合、あるいはこのセグメントにバイナリ データが含まれていることを示すフラグを立てる場合は、[特別] タブを選択します。その他の場合は、既定値のままにしておきます。</p> <p>メモ Binary を選択する場合は、"Bin Length" および "Bin Data" というデータ型のエレメントをそれぞれ定義する必要があります。また、"Bin Length" エレメントは、"Bin Data" エレメントの前に配置する必要があります。</p> <p>参照 エレメントのデータ型を定義する方法の詳細については、「エレメントプロパティの修正方法」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
8	セグメントがループ構造であるかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ループ構造である場合は、[ループ処理] タブを選択します。 ▶ ループ構造でない場合は、既定値のままにしておき、ステップ 12 に進みます。
9	[最小使用回数] ボックスに、セグメントが繰り返される最小回数を入力します。 <p>メモ</p> [最小使用回数] ボックスに「0」(ゼロ)と入力すると、セグメントは "条件付き" になります。[最小使用回数] ボックスに「1」、またはそれより大きい値を入力すると、セグメントは "必須" になります。
10	セグメントを繰り返す (ループ) かどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 繰り返す場合は、[最大使用回数] ボックスに繰り返す最大回数を入力します。 ▶ 繰り返さない場合は、次のステップに進みます。
11	このセグメントをループの先頭 (ループ開始) または最後 (ループ終了) に位置することを指定するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、次のいずれかのオプションを選択します。 [ループ開始] (ループの開始を示すセグメント) [ループ終了] (ループの終了を示すセグメント) ▶ 指定しない場合は、[正常]、[ループ開始]、[ループ終了] のオプションのうち、既定値の [正常] をそのまま選択します。 [正常] は、このセグメントがループに含まれるものの、開始または終了セグメントではないことを示します。
12	[OK] をクリックして、セグメントへの変更を保存します。

ループ開始とループ終了セグメントの使用法

はじめに

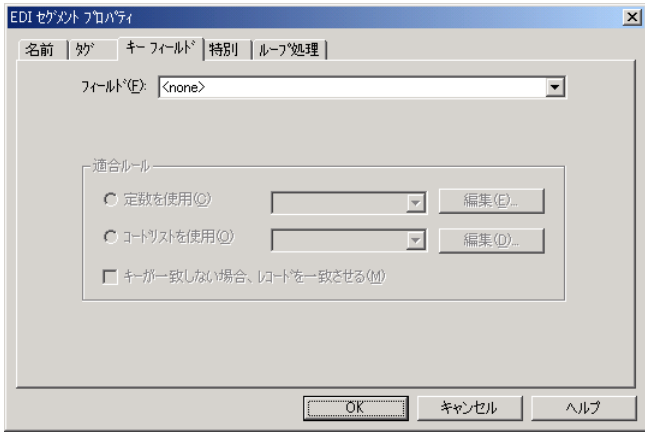
一部の EDI スタンダードでは、ループ開始 (LS) およびループ終了 (LE) セグメントが使用されます。同じタイプのループが複数ある場合、LS および LE セグメントによって区別されます。トランザクションに LS および LE セグメントが含まれている場合、マップで使用しているループの LS および LE セグメントを定義する必要があります。マップがインバウンドかアウトバウンドかによって、2つのうちいずれか1つの方法で定義します。

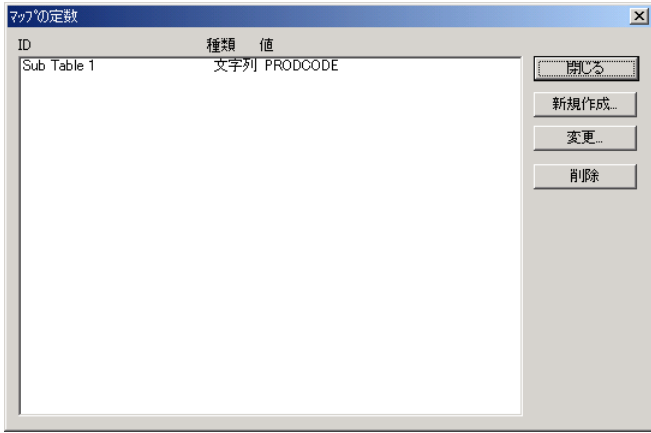

ヒント

パートナーから送信される (インバウンド マップ)、またはパートナーが受信する (アウトバウンド マップ) ループ識別コードについては、トレーディングパートナーに連絡を取り、使用する ID コードを決定する必要があります。

手順：インバウンドの LS セグメントの定義

インバウンド マップの LS セグメントを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>該当する LS セグメントを右クリックし、ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [EDI セグメント プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [ループ処理] タブを選択して、ループのオプションを表示します。 ▶ [ループ開始] オプションが選択されていることを確認します。
3	<p>[キーフィールド] タブを選択します。</p> <p>システムからの応答 キーフィールドのオプションが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>[フィールド] リストで、[ループ識別コード] を選択します。</p> <p>メモ このリストには、セグメントに含まれるエレメントがすべて表示されます。またループ識別コードが [適合ルール] セクションで指定する値を持っている必要があることを指定して、ループ開始セグメントを定義することができます。</p>
5	<p>[定数を使用] オプションを選択します。</p> <p>メモ [適合ルール] セクションでは、現在このマップ用に定義されているすべてのリテラル定数とコードのリストを表示できます。</p>
6	<p>[編集] をクリックします ([定数を使用] リストの右側)。</p> <p>システムからの応答 [マップの定数] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
7	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [定数の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
8	<p>[ID] ボックスに、リテラル定数識別子を入力します。</p>
9	<p>[種類] リストで、[String] を選択します。これは、リテラル定数のカテゴリです。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
10	[値] ボックスに、リテラル定数の値を入力します。 メモ インバウンド マップの場合、トレーディング パートナーから受信するループ識別コードはこの値と一致することが求められます。
11	[OK] をクリックして、システムに定数を追加します。
12	作成した定数をリストから選択します。 メモ システムは、選択された定数とループ識別コードを照合します。
13	[OK] をクリックして、[EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

**手順：インバウンド
の LE セグメントの
定義**

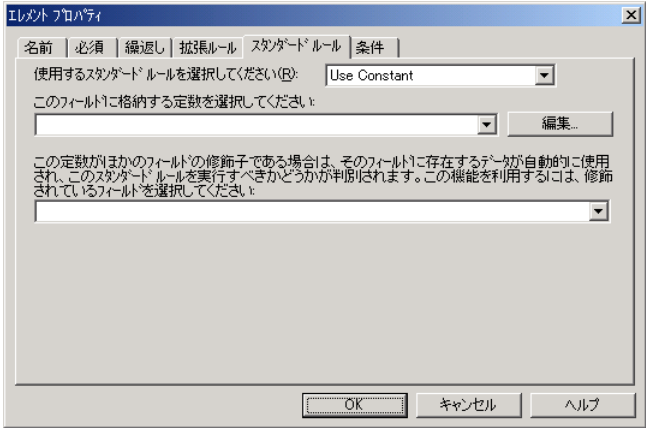
インバウンド マップの LE セグメントを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	該当する LE セグメントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 [EDI セグメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [ループ処理] タブを選択して、ループのオプションを表示します。 ▶ [ループ終了] オプションが選択されていることを確認します。
3	[キー フィールド] タブを選択します。 システムからの応答 キー フィールドのオプションが表示されます。
4	[フィールド] リストで、[ループ識別コード] を選択します。 メモ このリストには、セグメントに含まれるエレメントがすべて表示されます。また、[適合ルール] セクションで指定される値とループ識別コードが一致する必要があることを指定して、ループ終了セグメントを定義することができます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
5	リストから、LS セグメント用に作成した定数を選択します。 メモ <ul style="list-style-type: none"> ▶ システムは、選択された定数とループ識別コードを照合します。 ▶ [適合ルール] セクションからは、現在このマップ用に定義されているすべてのリテラル定数とコードのリストを表示できます。
6	[OK] をクリックして、[EDI セグメント プロパティ] ダイアログボックスを閉じます。

手順 : アウトバウン ドの LS セグメント の定義

アウトバウンド マップの LS セグメントを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LS セグメントのループ識別コード エレメントをダブルクリックします。 システムからの応答 [エレメントプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルール リストで、[定数を使用] を選択します。 システムからの応答 定数オプションが表示されます。  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	[編集] をクリックします。 システムからの応答 [マップの定数] ダイアログ ボックスが表示されます。
5	[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 [定数の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
6	[ID] ボックスに、リテラル定数識別子を入力します。
7	[種類] リストで、[String] を選択します。これは、リテラル定数のカテゴリです。
8	[値] ボックスに、リテラル定数の値を入力します。アウトバウンド マップの場合、パートナーに送信するループ識別コードはこの値と一致することが求められます。
9	[OK] をクリックして、システムに定数を追加します。
10	[閉じる] をクリックして、[マップの定数] ダイアログ ボックスを閉じます。
11	定数リストで、作成した定数を選択します。 メモ システムは、選択された定数とループ識別コードを照合します。
12	[OK] をクリックして、[エlement プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

手順 : アウトバウンドの LE セグメントの定義

アウトバウンド マップの LE セグメントを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	LE セグメントのループ識別コード エlement をダブルクリックします。 システムからの応答 [エlement プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
3	スタンダード ルール リストで、[定数を使用] を選択します。 システムからの応答 定数オプションが表示されます。
4	定数リストで、作成した定数を選択します。 メモ システムは、選択された定数とループ識別コードを照合します。
5	[OK] をクリックして、[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

複合プロパティの修正方法

はじめに

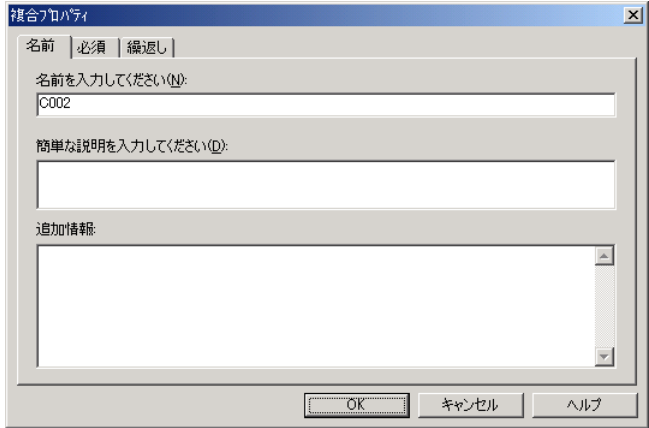
複合とは、2つ以上のコンポーネント データ エレメントまたはサブエレメントを含むデータ エレメントのことです。複合の名前と説明は、複合が必須であるかどうかにかかわらず修正することができます。

メモ

複合エレメントが使用されるのは、EDI マップのみです。

手順

複合のプロパティを修正するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>修正する複合を右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [複合プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
2	<p>複合の名前を変更する場合は、[名前] タブの最初のボックスにデータ エレメント ID 番号を入力します。</p> <p>メモ マップ内に 1 度以上出現する複合は、名前の <ID> によって識別されます。2 度目以降の発生は <ID>:n という名前によって識別されます (n は、マップにおける出現回数を表します)。</p>
3	<p>複合の説明を変更する場合は、[名前] タブの 2 番目のボックスに新しい説明を入力します。</p>
4	<p>複合を必須として指定する場合は、[必須] タブを選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	[必須] タブのチェックボックスをオンにして、この複合を必ず使用することを指定します。
6	[OK] をクリックして、複合への変更を保存します。

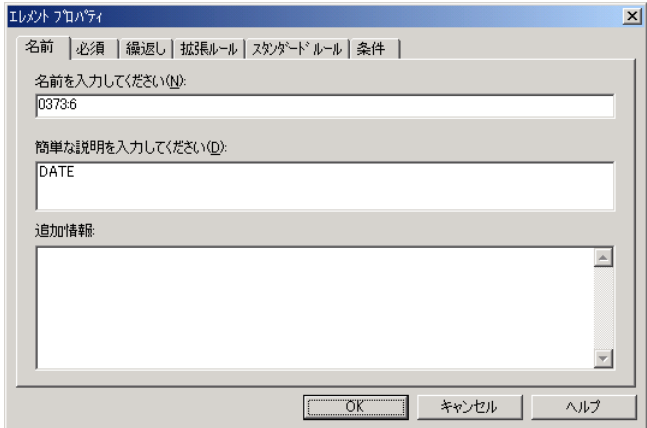
エレメント プロパティの修正方法

はじめに

各セグメントまたは複合には、論理的に関連付けられたエレメントのグループが含まれます。これらのエレメントは、ドキュメントを処理する際に必要となる EDI データの構造を定義します。

手順：エレメント プロパティの修正

エレメントのプロパティを修正するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>修正するエレメントをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
2	<p>エレメントの名前を変更するには、[名前] タブの最初のボックスに新しい名前を入力します。通常、この名前はエレメントの順序番号です。</p> <p>メモ マップ内に 1 度以上出現するエレメントは、名前の <ID> によって識別されます。2 度目以降の発生は <ID>:n という名前によって識別されます ("n" は、マップにおける出現回数を表します)。</p>
3	<p>エレメントの説明を変更するには、[名前] タブの 2 番目のボックスに新しい説明を入力します。</p> <p>メモ このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他のエレメントとこのエレメントを区別するために使用されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	[必須] タブを選択して、検証のオプションを表示します。
5	エレメントを " 必須 " (必ず使用する) として指定する場合は、[必須] タブの最初のチェックボックスをオンにします。
6	<p>エレメントの最小長を変更するには、[最小長] ボックスに最小長を入力します。</p> <p>メモ データが最小長に満たない場合は、トランスレーションの実行時にエラーが生成されます。</p>
7	エレメントの最大長を変更するには、[最大長] ボックスに最大長を入力します。
8	<p>[データ型] リストで、エレメントの型を選択します。</p> <p>メモ 有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [String] = 文字のエレメント ▶ [Number] = 数値または実数のエレメント ▶ [Date/Time] = 日付または時刻のエレメント ▶ [Bin Data] = バイナリ データ ([EDI セグメント プロパティ] ダイアログボックスの [特別] タブで [バイナリ] を選択している場合にのみ使用可能です) ▶ [Bin Length] = バイナリ データの長さ ([EDI セグメント プロパティ] ダイアログボックスの [特別] タブで [バイナリ] を選択している場合にのみ使用可能です) <p>参照 [特別] タブの [バイナリ] を選択する方法の詳細については、「セグメント プロパティの修正方法」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
9	<p>[書式] リストで、データ エレメントの書式を選択します。</p> <p>メモ このフィールドで選択する書式は、[データ型] リストで選択したフィールドの種類によって異なります。[データ型] ボックスで [Number] または [Date/Time] を選択した場合は、[書式] リストから適切なデータ書式を選択できます。[データ型] ボックスで [String] を選択した場合は、シンタックス トークンを入力して、指定されているシンタックス トークンに従ってこのフィールドを書式化するよう指定する必要があります。</p> <p>ユーザーは Gentran:Server のインストール時に、文字列フィールドに既定の書式を割り当てます。文字の検証は、この書式を基に実行されます。通常、米国のユーザーは、ASCII 文字に対応する既定の書式 (X シンタックス トークンなど) を使用します。アジアやヨーロッパの言語およびエンコード文字セットを使用するユーザーは、通常 Free Format (0x01 ~ 0xFF) を使用する必要があります。</p> <p>参照 シンタックス トークンを定義および使用方法の詳細については、「シンタックス トークンの使用方法」を参照してください。</p>
10	[OK] をクリックして、エレメントへの変更を保存します。

手順 : 関連付ける条件の定義と修正

関連付ける条件を使用すると、シンタックス上のまたは適合性の理由のために、フィールドを結びつけることができます。たとえば、フィールド A はフィールド B が存在しないと無効になります。したがって、フィールド A とフィールド B を組みとする条件を設定した場合、どちらか片方のフィールドが存在しないときに、エラーが生成されます。

また、スタンダードによって指定されるエレメント間の条件付き関係を表示することもできます。

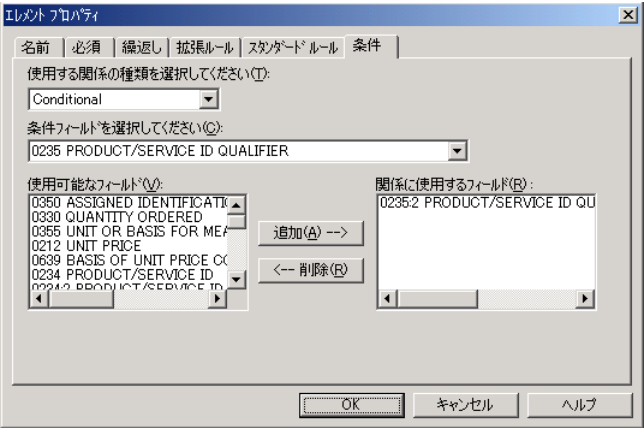
注意

ユーザーは EDI の条件付き関係を編集することができますが、編集を実行するとエラーが生成されます。EDI 条件は、参照のみとすることをお勧めします。

(次のページへ続く)

手順

フィールドおよびエレメントの関連付ける条件を定義、修正、表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>修正するフィールドまたはエレメントをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] または [エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[条件] タブを選択します。</p> <p>システムからの応答 関連付ける条件のオプションが表示されます。</p> 
3	<p>関係の種類のリストで、フィールドを結びつける条件を選択します。</p> <p>メモ 有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Paired/Multiple] — 指定されているフィールドのいずれか 1 つが存在する場合は、他のすべてのフィールドも存在する必要があります。 ▶ [Required] — 指定されているフィールドのうち、少なくとも 1 つは必ず存在する必要があります。 ▶ [Exclusion] — 指定されているフィールドのうち、いずれか 1 つだけが存在できます。 ▶ [Conditional] — 最初の条件フィールドが存在する場合は、残りのフィールドも必ず存在する必要があります。 ▶ [List Conditional] — 最初の条件フィールドが存在する場合は、指定されているフィールドのうち少なくとも 1 つが存在する必要があります。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>条件フィールドのリストで、最初のフィールドを選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none">関係の種類で [Conditional] または [List Conditional] を選択している場合は、このフィールドが条件付き関係の基準となります。条件フィールドのリストは、関係の種類で [Conditional] または [List Conditional] を選択した場合にのみ、アクティブになります。
5	<p>[使用可能なフィールド] リストで、1 つ以上のフィールドを選択し、[追加] をクリックします。</p> <p>システムからの応答</p> <p>選択されたフィールドは [関係に使用するフィールド] リストに移動し、条件付き関係に含まれます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none">[使用可能なフィールド] リストには、トランスレーション オブジェクト内の、現時点の条件で使用できるすべてのフィールドが含まれます。[関係に使用するフィールド] リストには、条件付き関係に含めるためにユーザーが選択したフィールドが含まれます。条件付き関係からフィールドを削除するには、[関係に使用するフィールド] リストでフィールドを選択し、[削除] をクリックして、それらのフィールドを [使用可能なフィールド] リストに戻します。
6	<p>[OK] をクリックして、フィールドに条件付き関係を追加します。</p>

CII ファイルの使い方

概要

はじめに

マップの一方の側が CII である場合、CII を Gentran:Server 用に定義するか、または以前に保存した定義ファイルを読み込む必要があります。CII メッセージには、メッセージヘッダー、TFD 領域、およびメッセージトレーラが 1 つずつ含まれます。

CII ファイルを定義する前に、どのようなグループや TFD が必要となるのか確認しておく必要があります。グループには、関連するグループと TFD が含まれます。つまり、グループを作成してから、従属するサブグループと TFD を作成する必要があります。

各マップコンポーネントは、システムが処理するのに最も論理的な順番で順次並べられます。したがって、アプリケーションの各レベルは順次作成される必要があります。

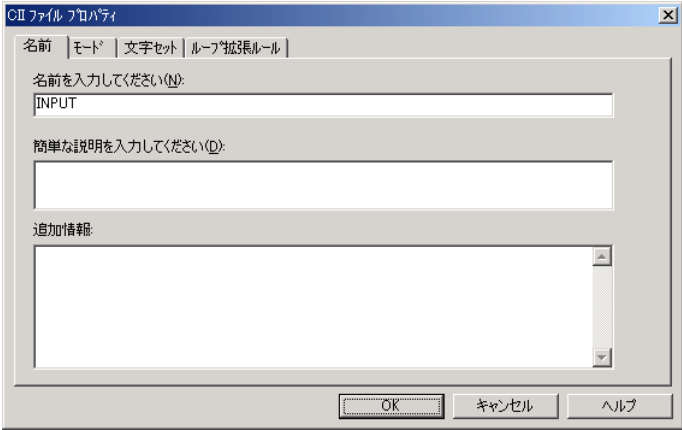
CII ファイル プロパティの修正方法

はじめに

[CII ファイル プロパティ] ダイアログ ボックスを使用すると、マップの CII 側または CII 固定長側の設定を修正できます。このダイアログ ボックスでは、分割モード (CII データを 251 バイトの固定長レコードに書式化する方法) や、非透過モード (コミュニケーションファイル転送プロトコルでエラーが発生しないように CII データの文字をエンコードするモード) の使用を切り替えることができます。また、データトランスレーションで使用する 1 バイトまたは 2 バイトの文字セットを指定することもできます。

手順

CII ファイル プロパティを修正するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[CII ファイル] アイコンを右クリックし、ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [CII ファイル プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p>メモ 既定で [名前] タブが表示されます。このタブでは、CII ファイルの名前と説明を修正できます。</p>
2	<p>[モード] タブを選択して、モード オプションを表示します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>可変長レコードを処理できない伝送システムとコミュニケーションするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ コミュニケーションする場合は、分割モード (CII データを 251 バイトに固定された複数のレコードに書式化する方法) の [On] オプションを選択します。 ▶ コミュニケーションしない場合は、次のステップに進みます。
4	<p>コミュニケーションファイル転送プロトコルのコミュニケーション制御文字の問題が発生しないよう CII データの文字をエンコードするため、非透過モードを使用するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、[非透過モード] チェックボックスをオンにします。 ▶ 使用しない場合は、既定のオフのままにします。これは、透過モードを使用することを意味します。
5	<p>[文字セット] タブを選択して、文字セットのオプションを表示します。</p>
6	<p>1 バイトまたは 2 バイト文字のトランスレーションを使用するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、[8 ビット文字セット] および [16 ビット文字セット] リストから適切なオプションを選択します。 ▶ 使用しない場合は、次のステップに進みます。
7	<p>このグループに拡張ルールを指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[ループ拡張ルール] タブをクリックします。 <p>参照 拡張ルールの詳細については、「拡張ルールの定義」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
8	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 修正が保存され、[CII ファイル プロパティ] ダイアログ ボックスが閉じます。</p>

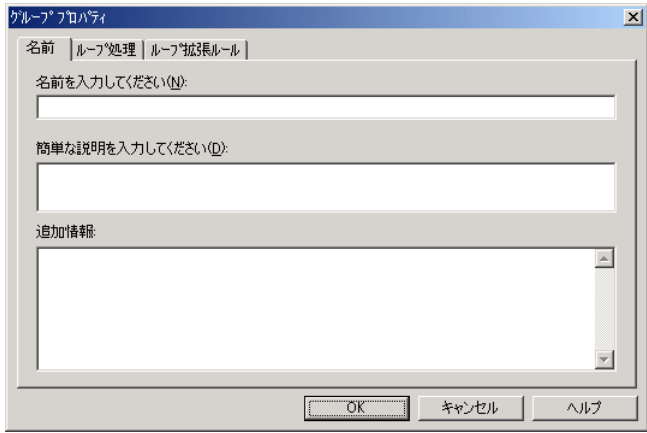
グループの作成方法

はじめに

グループには、データが終了するまで、あるいはループの繰り返し可能最大数に達するまで、順次繰り返される関連 TFD、グループ、またはその両方が含まれます。他のグループに従属するグループを作成する場合、このグループはネストされたループ構造(ループ内のループ)になります。

手順

グループを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ファイルレイアウトで、これから作成するグループの前に位置するマップ コンポーネントを反転表示します。 ▶ レベルに応じて、[編集] メニューから [挿入] または [配下に作成] を選択します。 ▶ サブメニューから、[グループ] を選択します。 <p>システムからの応答 [グループ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます (既定では [名前] タブが表示されます)。</p> 
2	<p>[名前] タブの最初のボックスに、グループ名を入力します。</p> <p>メモ グループ名にはスペースやダッシュ (-) を使用できません。単語を区切るために下線 (_) を使用することはできます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[名前] タブの 2 番目のボックスに、ループの説明を入力します。</p> <p>メモ このボックスは、ループの簡単な説明を示すのに使用されます。</p>
4	<p>[ループ処理] タブを選択して、ループのオプションを表示します。</p>
5	<p>[最小使用回数] ボックスに、ループが繰り返される最小回数を入力します。</p> <p>メモ 条件付きループの場合、このボックスには必ず「0」(ゼロ)を入力する必要があります。必須ループの場合、このボックスには「1」、またはそれより大きい値を入力する必要があります。</p>
6	<p>[最大使用回数] ボックスに、ループが繰り返される最大回数を入力します。</p>
7	<p>これが、繰り返しを 1 つしか持たないグループかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 繰り返しを 1 つしか持たないグループで、グループのコンパイル時に、従属するレコードやグループを抽出して親グループ内に配置するよう指定したい場合は、親となるプロモートレコードを選択します。 ▶ 繰り返しを 1 つしか持たないグループでない場合は、次のステップに進みます。
8	<p>このグループに拡張ルールを指定するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[ループ拡張ルール] タブを選択します。 <p>参照 拡張ルールの詳細については、「拡張ルールの定義」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
9	<p>[OK] をクリックして、グループを作成します。</p>

TFD の作成方法

はじめに

CII ファイルの最初の TFD は、マップの CII 側のアイコンに従属します。このようにグラフィックは、CII ファイルに含まれる TFD (およびグループ) の構造を示しています。

最初の TFD を作成したら、最初の TFD と同じレベルの他の TFD を定義できます。アプリケーションにループ構造が含まれる場合は、グループも定義できます。また、順次繰り返される関連 TFD のグループ (またはサブグループ) がアプリケーションに必要な場合は、グループを定義する必要があります。グループを定義する方法の詳細については、「[グループの作成方法](#)」を参照してください。

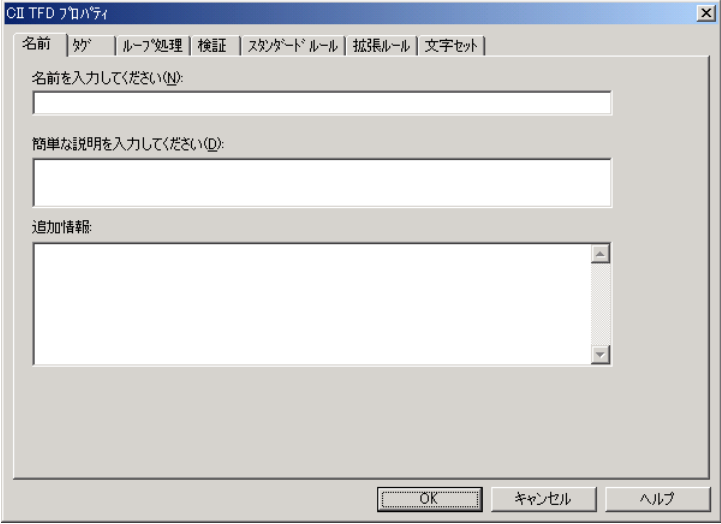
メモ

TFD を作成するときには、既定のデータ型が String であるため、[文字セット] タブが表示されます。TFD データのタイプを Number や Date/Type に変更すると、[文字セット] タブは削除されます。

(次のページへ続く)

手順

TFD を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>作成する TFD がファイルの最初の TFD であるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初の TFD である場合は、[CII ファイル] アイコン (インバウンド マップの場合は入力側、アウトバウンド マップの場合は出力側) を選択し、[編集] メニューから [配下に作成] を選択します。次に、サブメニューから [TFD] を選択します。 最初の TFD でない場合 (2 つ目以降の TFD を作成する場合は、ファイルレイアウトで、これから作成する TFD の前に位置する TFD を選択します。次に、[編集] メニューから [挿入] を選択し、サブメニューから [TFD] を選択します。 <p>システムからの応答 [CII TFD プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
2	<p>[名前] タブの最初のボックスに、TFD 名を入力します。</p> <p>注意 TFD 名にはスペースやダッシュ (-) を使用できません。単語を区切るために下線 (_) を使用することはできません。</p>
3	<p>[名前] タブの 2 番目のボックスに、TFD の説明を入力します。</p> <p>メモ このボックスに入力される簡単な説明は、類似する他の TFD とこの TFD を区別するために使用されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>[タグ] タブを選択して、タグ情報を表示します。</p> <p>メモ データ タグは、データ エLEMENTの属性を表す識別子です。</p>
5	<p>データ タグの入力方法に応じて、[16 進] または [10 進] オプションを選択します。</p> <p>メモ 既定値は [16 進] です。</p>
6	<p>タグの値の範囲を拡張したい場合は、[Extended Mode] チェックボックスをオンにします。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Extended Mode] チェックボックスをオンにすると、[タグ] ボックスには 16 進数で 7FFF (10 進数では 524287) までの値を入力することができます。圧縮モードでは、16 進で EF (10 進では 239) までの値しか使用できません。 ▶ 既定はオフです。これは、データ タグが圧縮モードで指定されることを示します。 ▶ Extended Mode の場合、TFD タグとして使用できる値の範囲は、10 進数では 61440 ~ 65535、16 進数では F000 ~ FFFF に制限されます。
7	<p>[タグ] ボックスに、ID タグを入力します。このボックスには、必ずタグを入力する必要があります。</p>
8	<p>[ループ処理] タブを選択して、ループのオプションを表示します。</p>
9	<p>セグメント がループの先頭 (ループ開始) または最後 (ループ終了) に位置すること、あるいはループが繰り返される (ループの繰り返し) ことを指定するとき以外は、既定の [正常] のままにします。</p> <p>メモ [ループ開始] を選択すると、[キーフィールド] タブが表示されます。</p>
10	<p>[必須] タブを選択して、オプションを表示します。</p>
11	<p>TFD を " 必須 " (必ず使用する) として指定する場合は、[必須] タブの最初のチェックボックスをオンにします。</p>
12	<p>TFD の最小長を変更するには、[最小長] ボックスに最小長を入力します。</p> <p>メモ データが最小長に満たない場合は、トランスレーションの実行時にエラーが生成されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
13	TFD の最大長を変更するには、[最大長] ボックスに最大長を入力します。
14	<p>[データ型] リストで、TFD の型を選択します。</p> <p>メモ 有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [String] = 文字 ▶ [Number] = 数値または実数 ▶ [Date/Time] = 日付または時刻
15	<p>[書式] リストで、TFD の書式を選択します。</p> <p>メモ このフィールドで選択する書式は、[データ型] リストで選択したフィールドの種類によって異なります。[データ型] ボックスで [Number] または [Date/Time] を選択した場合は、[書式] リストから適切なデータ書式を選択できます。[データ型] ボックスで [String] を選択した場合は、シンタックス トークンを入力して、指定されているシンタックス トークン (既定のシンタックス トークンは X) に従ってこのフィールドを書式化するように指定する必要があります。</p> <p>ユーザーは Gentran:Server のインストール時に、文字列フィールドに既定の書式を割り当てます。文字の検証は、この書式を基に実行されます。通常、米国のユーザーは、ASCII 文字に対応する既定の書式 (X シンタックス トークンなど) を使用します。アジアやヨーロッパの言語およびエンコード文字セットを使用するユーザーは、通常 Free Format (0x01 ~ 0xFF) を使用する必要があります。</p> <p>参照 シンタックス トークンを定義および使用方法の詳細については、「シンタックス トークンの使用方法」を参照してください。</p>
16	<p>TFD のデータ型が [Number] または [String] であり、データをバイナリ形式で読み込み / 書き込みする場合は、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [raw bytes] のチェックボックスをオンにします。 ▶ [幅] リスト (書式が [Number] である場合のみ) で、数値を表すのに使用するバイト数を選択します。 ▶ [little-endian] または [big-endian] オプションを選択して、バイトを読み込む順序を指定します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
17	[文字セット] タブが使用できる場合は、この文字列に対して1バイトまたは2バイト文字のトランスレーションを設定できます。既定の文字セットは [8 ビット] です。[8 ビット文字セット] および [16 ビット文字セット] リストで、適切なオプションを選択してください。
18	[OK] をクリックして、TFD を作成します。

データの書式

概要

はじめに

フィールド、エレメント、または TFD を定義または修正するには、種類や書式を指定する必要があります。フィールド、エレメント、TFD の書式として使用できるオプションは、どの型 (string, number, または Date/Time) を選択するかによって異なります。

文字列型の使用方法

はじめに

文字列型のフィールドまたはエレメントには、1つ以上の印刷可能文字が入りません。フィールドまたはエレメントを文字列型と指定する場合は、シンタックストークンを指定して、書式を決める必要があります。

シンタックストークンを使用すると、文字列型のエレメントやフィールドで使用できる文字や数字の範囲を定義する "トークン" を指定できます。その後、指定したシンタックストークンを [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [書式] フィールドで使用できます。これにより、各エレメント / フィールドをチェックする際に使用する文字の種類 (ある範囲内の英数字または数字など) を定義できます。

メモ

設定するトークンは、そのマップにのみ適用されます。したがって、作成するマップごとに1つのトークンを設定する必要があります。

文字の範囲

Gentran:Server では、ANSI 文字セットを使用して、範囲の開始と終了を決定します。

西ヨーロッパ言語の場合は、ANSI 文字コード表 (1252 Windows Latin 1) を参照してください。この表には範囲も表示されるので、使用する言語の文字の適切な範囲を入力することができます。表が使用できない場合は、次の規則を使用してください。

- 西ヨーロッパの主な言語のアクセント記号付き文字をすべて含めるには、次の範囲を追加します。

開始	終了
0xC0	0xD6
0xD8	0xF6
0xF8	0xFC

- スκανジナビアのユーザーは、**Æ** や **æ** を含めるために、次の範囲も追加する必要があります。

開始	終了
0x8C	0x8C
0x9C	0x9C

(次のページへ続く)

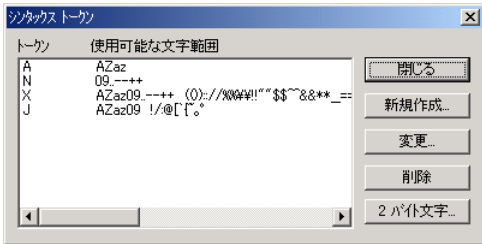
文字の範囲 (続き)

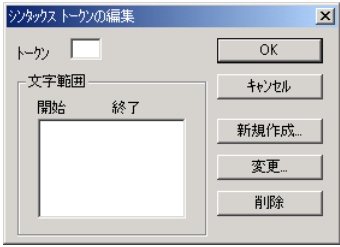

- ユーロ記号 (€) を含めるには、次の範囲を使用します。

開始	終了
0x80	0x80

手順: シンタックス
トークンの作成
または編集
(西ヨーロッパ言語)

シンタックス トークンを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[編集] メニューから [シンタックス トークン] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [シンタックス トークン] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> [トークン] 列には、既存の各シンタックス トークンのトークンとして指定されている値が表示されます。トークンをエレメントに適用すると、そのトークンに含まれる文字範囲によってエレメントの書式が指定されます。エレメントの書式が指定と異なる場合は、エラーが生成されます。 [使用可能な文字範囲] 列には、既存の各シンタックス トークンで使用できる文字の範囲が表示されます。それぞれの範囲は、範囲の開始と終了を定義する 1 組の文字によって表されます。 [2 バイト文字] を使用できるのは、2 バイトのバージョンの Windows 2000 または Windows 98/Me を実行している場合のみです。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>新しいシンタックス トークンを作成するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、[新規作成] をクリックします。 ▶ 作成しない場合は、編集するトークンを選択して、[編集] をクリックします。 <p>システムからの応答 [シンタックス トークンの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
3	<p>[トークン] ボックスに、他と重複しない英数字 1 文字の値を入力します。この値は、ユーザーが指定する使用可能な文字範囲を含むトークンとして認識されます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ トークンは、他と重複しない大文字または小文字のアルファベットか 1～9 までの数字 1 文字である必要があります。 ▶ [文字範囲] リストには、このトークンのために定義される文字範囲が 1 つ以上表示されます。1 つのトークンに対して複数の文字の範囲を定義することができます。たとえば、トークン "A" の使用可能な文字範囲として A～Z と a～z の 2 つの範囲を定義することができます。この場合、トークン A では大文字と小文字のアルファベットのみが許可されることになります。
4	<p>新しい文字範囲を作成するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、[新規作成] をクリックします。 <p>システムからの応答 [文字範囲の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成しない場合は、ステップ 8 に進みます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>[開始文字] ボックスに、使用可能なトークン範囲の最初の文字を入力します。</p> <p>例 たとえば、定義したい文字範囲が B ~ D である場合は、[開始文字] ボックスに「B」と入力します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ é などの文字は使用できないので、これらの文字を入力する場合は、16 進数のコードで入力する必要があります。16 進数の文字を入力するには、16 進数のコードの前に「0 (ゼロ) x」または「0X」を付けます。たとえば、é に相当する 16 進数のコードは 0xE9 です。 ▶ [開始文字] および [終了文字] の値は、大文字または小文字のアルファベットか 1 ~ 9 までの数値 1 文字である必要があります。
6	[終了文字] ボックスに、使用可能なトークン範囲の最後の文字を入力します。ステップ 5 の規則を使用してください。
7	[OK] をクリックし、[シンタックス トークンの編集] ダイアログ ボックスに戻ります。
8	シンタックス トークンに文字の範囲をさらに追加する場合は、必要に応じて、ステップ 4 ~ 7 を繰り返します。
9	[OK] をクリックしてシンタックス トークンを保存し、[シンタックス トークン] ダイアログ ボックスに戻ります。
10	[閉じる] をクリックして、[シンタックス トークン] ダイアログ ボックスを閉じます。

(次のページへ続く)

**手順: シンタックス
トークンの作成
または編集
(極東圏の言語)**

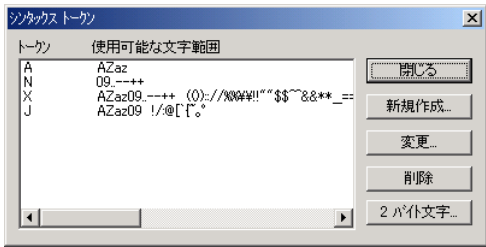

2 バイト文字シンタックス トークン機能を使用すると、2 バイトの文字を使用できるマップを作成できます。中国語、日本語、または韓国語バージョンの Windows/Windows 2000 または Windows 98/Me で Gentran:Server を実行している場合は、[シンタックス トークン] ダイアログ ボックスの [2 バイト文字] ボタンを使用できます。


2 バイト文字トークンは [2 バイト文字シンタックス トークン] ダイアログ ボックスだけに表示されます。[シンタックス トークン] ダイアログ ボックスのリストには含まれません。

メモ

設定する 2 バイト文字トークンは、そのマップにのみ適用されます。したがって、作成するマップごとに 1 つのトークンを設定する必要があります。

2 バイト文字シンタックス トークンを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[編集] メニューから [シンタックス トークン] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [シンタックス トークン] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
2	<p>[2 バイト文字] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [2 バイト文字シンタックス トークン] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [2 バイト文字シンタックス トークンの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>  <p>メモ 2 バイト文字は、1 バイト目と 2 バイト目で構成されます。上記の例では、文字 A のコード ポイントは 0041 となります。</p>
4	<p>[トークン] ボックスに、他と重複しない英数字 1 文字の値を入力します。この値は、ユーザーが指定する使用可能な文字範囲を含むトークンとして認識されます。</p>
5	<p>ダイアログ ボックスの [2 バイト目] セクションにあるすべての文字を含めるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 含める場合は、ステップ 7 に進みます。 ▶ 含めない場合は、ステップ 6 に進みます。
6	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [1 バイト目] リストを使用して、システムのコード ページにある他の文字を参照します。 ▶ 特定の文字や文字のグループをトークンから除外するには、それらの文字またはグループを選択し、グレイアウトします。
7	<p>[閉じる] をクリックしてシンタックス トークンを保存し、[シンタックス トークン] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
8	<p>[閉じる] をクリックして、[シンタックス トークン] ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

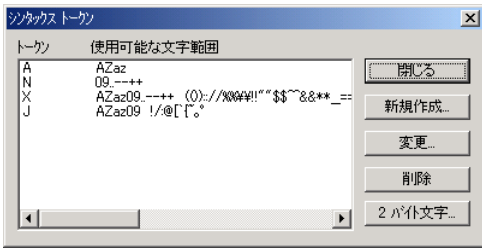
シンタックス トークンの削除方法

はじめに

シンタックス トークンはシステムから削除することができます。また、シンタックス トークンから特定の文字範囲を削除することもできます。

手順: シンタックス トークンの削除

シンタックス トークンを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[編集]メニューから[シンタックス トークン]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [シンタックス トークン]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
2	<p>削除するトークンを選択し、[削除]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択されたエント리는、警告なしに削除されます。</p>

手順: 文字範囲の削除

シンタックス トークンから文字範囲を削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[編集]メニューから[シンタックス トークン]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [シンタックス トークン]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>シンタックス トークンを選択し、[変更]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [シンタックス トークンの編集]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>削除する文字範囲を選択し、[削除]をクリックします。</p>

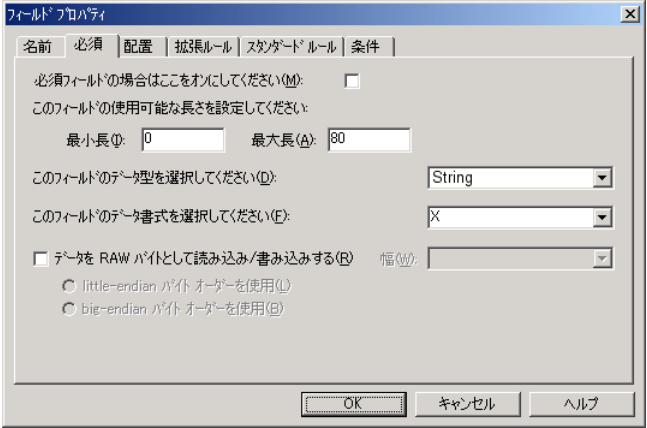
シンタックス トークンの使用方法

はじめに

シンタックス トークンは、[フィールド プロパティ] (または [エレメント プロパティ] か [CII Record Properties]) ダイアログ ボックスの [書式] ボックスで使用できます。この機能を使用すると、文字列型のフィールド、エレメント、または TFD に使用できる文字と数字またはその一方の範囲を定義する "トークン" を指定できます。シンタックス トークンを使用することにより、このフィールド、エレメント、または TFD をチェックする際に使用する文字 (ある範囲の英数字または数字など) を定義できます。

手順

シンタックス トークンを使用するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>既存のフィールド、エレメント、または TFD をダブルクリックするか、新規作成します。</p> <p>参照 フィールド、エレメント、または TFD を作成する方法の詳細については、「固定形式ファイルの使い方」、「EDI ファイルの使い方」、または「CII ファイルの使い方」を参照してください。</p> <p>システムからの応答 [エレメント プロパティ] (または [フィールド プロパティ] か [CII Record Properties]) ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[必須] タブを選択します。</p> <p>システムからの応答 必須のオプションが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
3	<p>[データ型] リストで、[String] を選択します。</p> <p>メモ これは、このフィールド、エレメント、または TFD に文字が含まれることを示します。</p>
4	<p>データ書式のリストで、自由書式または定義済みのシンタックス トークンを選択して、このフィールド、エレメント、または TFD が指定されているシンタックス トークンに従って書式化されるよう指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none">▶ ユーザーは Gentran:Server のインストール時に、文字列フィールドに既定の書式を割り当てます。文字の検証は、この書式を基に実行されます。通常、米国のユーザーは、ASCII 文字に対応する既定の書式 (X シンタックス トークンなど) を使用します。アジアやヨーロッパの言語およびエンコード文字セットを使用するユーザーは、通常 Free Format (0x01 ~ 0xFF) を使用する必要があります。▶ Free Format を選択すると、すべての種類の文字をフィールドで使用することができます。そのフィールドの文字は、トランスレータによってチェックされません。 <p>参照 シンタックス トークンを作成する方法の詳細については、「手順: シンタックス トークンの作成 または編集 (西ヨーロッパ言語)」を参照してください。</p>
5	<p>[OK] をクリックして、[エレメント プロパティ] (または [フィールド プロパティ] か [CII Record Properties]) ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

番号型の使用方法

はじめに

番号型のフィールド、エレメント、または TFD には、数値演算処理できる固定小数または実数が含まれます。フィールド、エレメント、または TFD を番号型と指定する場合、N (固定小数) または R (実数) のいずれかの書式を指定し、小数点以下の桁数を指定して、書式を決めます。

実数または数値

N 書式の数字には、含意の小数点があります (たとえば、2.01 を N2 として書式化すると 201 になります)。R 書式の数字には、明示的な小数点があり、末尾のゼロが切り捨てられます (たとえば、2.123 を R2 として書式化すると 2.12 になり、3.10 を R2 として書式化すると 3.1 になります)。N と R のいずれの書式を使用するかは、ドキュメントの必要に応じて決定します。N および R のいずれの書式を使用する場合でも、フィールドの小数点以下の桁数を指定する必要があります。

次のリストに、使用できる実数と数値のオプションを示します。

- ▶ R0 (このフィールド / エレメント / TFD には明示的な小数点があります。小数点以下の桁数はありません)
- ▶ R1 (このフィールド / エレメント / TFD には明示的な小数点があります。小数点第 1 位までの値を持ちます)
- ▶ R2 (このフィールド / エレメント / TFD には明示的な小数点があります。小数点第 2 位までの値を持ちます)
- ▶ R3 (このフィールド / エレメント / TFD には明示的な小数点があります。小数点第 3 位までの値を持ちます)
- ▶ R4 (このフィールド / エレメント / TFD には明示的な小数点があります。小数点第 4 位までの値を持ちます)
- ▶ R5 (このフィールド / エレメント / TFD には明示的な小数点があります。小数点第 5 位までの値を持ちます)
- ▶ R6 (このフィールド / エレメント / TFD には明示的な小数点があります。小数点第 6 位までの値を持ちます)
- ▶ R7 (このフィールド / エレメント / TFD には明示的な小数点があります。小数点第 7 位までの値を持ちます)
- ▶ R8 (このフィールド / エレメント / TFD には明示的な小数点があります。小数点第 8 位までの値を持ちます)
- ▶ R9 (このフィールド / エレメント / TFD には明示的な小数点があります。小数点第 9 位までの値を持ちます)

(次のページへ続く)

**実数または数値
(続き)**

- ▶ N0 (このフィールド / エレメント / TFD には含意の小数点があります。小数点以下の桁数はありません)
- ▶ N1 (このフィールド / エレメント / TFD には含意の小数点があります。小数点第 1 位までの値を持ちます)
- ▶ N2 (このフィールド / エレメント / TFD には含意の小数点があります。小数点第 2 位までの値を持ちます)
- ▶ N3 (このフィールド / エレメント / TFD には含意の小数点があります。小数点第 3 位までの値を持ちます)
- ▶ N4 (このフィールド / エレメント / TFD には含意の小数点があります。小数点第 4 位までの値を持ちます)
- ▶ N5 (このフィールド / エレメント / TFD には含意の小数点があります。小数点第 5 位までの値を持ちます)
- ▶ N6 (このフィールド / エレメント / TFD には含意の小数点があります。小数点第 6 位までの値を持ちます)
- ▶ N7 (このフィールド / エレメント / TFD には含意の小数点があります。小数点第 7 位までの値を持ちます)
- ▶ N8 (このフィールド / エレメント / TFD には含意の小数点があります。小数点第 8 位までの値を持ちます)
- ▶ N9 (このフィールド / エレメント / TFD には含意の小数点があります。小数点第 9 位までの値を持ちます)

メモ

フィールドで固定小数 (N 書式) を選択している場合、そのフィールドのデータが書式で指定されている小数点の桁数に満たないときは、データを指定されている書式で解釈するために、値の左側にゼロが埋め込まれます。たとえば、フィールドの書式を N3 に指定している場合、フィールドのデータが 1 であれば、トランスレータはそのデータを .001 と解釈します。

手順

番号型を使用するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>既存のフィールド、エレメント、または TFD をダブルクリックするか、新規作成します。</p> <p>参照 フィールド、エレメント、または TFD を作成する方法の詳細については、「固定形式ファイルの使い方」、「EDI ファイルの使い方」、または「CII ファイルの使い方」を参照してください。</p> <p>システムからの応答 [エレメントプロパティ] (または [フィールドプロパティ] か [CII Record Properties]) ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>



(続き) ステップ	操作
2	[必須] タブを選択します。 システムからの応答 必須のオプションが表示されます。
3	[データ型] リストで、[Number] を選択します。 メモ これは、フィールド、エレメント、または TFD が、数値演算処理できる数値または実数であることを示します。
4	データ書式のリストで、適切な実数または数値のオプションを選択します。
5	[OK] をクリックして、[エレメント プロパティ] (または [フィールド プロパティ] か [CII Record Properties]) ダイアログ ボックスを閉じます。

日 / 時型の使用方法

はじめに

日 / 時型フィールド、エレメント、TFD には、日付または時刻が含まれます。フィールド、エレメント、または TFD を日 / 時型に指定する場合、日付または時刻の書式を正確に指定します。

メモ

他の日 / 時書式を作成して、その書式をマップ エディタに追加できます。

日 / 時書式

次の表に、有効な日 / 時書式を示します。

書式	説明
YYMMDD	2 桁表記の年、2 桁表記の月、2 桁表記の日
MMDDYY	2 桁表記の月、2 桁表記の日、下 2 桁表記の年 (例、121599)
YYYYMMDD	4 桁表記の年、2 桁表記の月、2 桁表記の日 (例、19991215)
DDMMYYYY	2 桁表記の日、2 桁表記の月、4 桁表記の年 (例、15121999)
MMDDYYYY	2 桁表記の月、2 桁表記の日、4 桁表記の年 (例、12151999)
DDMMYY	2 桁表記の日、2 桁表記の月、下 2 桁表記の年 (例、151299)
YYMMMDD	下 2 桁表記の年、3 文字略称表記の月、2 桁表記の日 (例、99JAN02)
DDMMYY	2 桁表記の日、3 文字略称表記の月、下 2 桁表記の年 (例、02JAN99)
MMMDDYY	3 文字略称表記の月、2 桁表記の日、下 2 桁表記の年 (例、JAN0299)
YYYYMMMDD	4 桁表記の年、3 文字略称表記の月、2 桁表記の日 (例、2003JUL04)
DDMMYYYY	2 桁表記の日、3 文字略称表記の月、4 桁表記の年 (例、04JUL2003)

(次のページへ続く)

(続き) 書式	説明
MMMDDYYYY	3 文字略称表記の月、2 桁表記の日、4 桁表記の年 (例、JUL042003)
YYDDD	下 2 桁表記の年、3 桁表記のユリウス日 (例、1999 年の 349 日目は、99349)
DDDY	3 桁表記のユリウス日、下 2 桁表記の年 (例、34999)
YYYYDDD	4 桁表記の年、3 桁表記のユリウス日 (例、1999349)
DDYYYY	3 桁表記のユリウス日、4 桁表記の年 (例、3491999)
YY/MM/DD	下 2 桁表記の年、セパレータ、2 桁表記の月、セパレータ、 2 桁表記の日 (例、99/12/05)
DD/MM/YY	2 桁表記の日、セパレータ、2 桁表記の月、セパレータ、 下 2 桁表記の年 (例、05/12/99)
MM/DD/YY	2 桁表記の月、セパレータ、2 桁表記の日、セパレータ、 下 2 桁表記の年 (例、12/15/99)
YYYY/MM/DD	4 桁表記の年、セパレータ、2 桁表記の月、セパレータ、 2 桁表記の日 (例、1999/12/15)
DD/MM/YYYY	2 桁表記の日、セパレータ、2 桁表記の月、セパレータ、 4 桁表記の年 (例、15/12/1999)
MM/DD/YYYY	2 桁表記の月、セパレータ、2 桁表記の日、セパレータ、 4 桁表記の年 (例、12/15/1999)
YY/MMM/DD	2 桁表記の年、セパレータ、3 文字略称表記の月、セパ レータ、2 桁表記の日 (例、99/JUL/20)
DD/MMM/YY	2 桁表記の日、セパレータ、3 文字略称表記の月、セパ レータ、2 桁表記の年 (例、20/JUL/99)
MMM/DD/YY	3 文字略称表記の月、セパレータ、2 桁表記の日、セパ レータ、2 桁表記の年 (例、JUL/20/99)
YYYY/MMM/DD	4 桁表記の年、セパレータ、3 文字略称表記の月、セパ レータ、2 桁表記の日 (例、2003/JUL/25)
DD/MMM/YYYY	2 桁表記の日、セパレータ、3 文字略称表記の月、セパ レータ、4 桁表記の年 (例、25/JUL/2003)
MMM/DD/YYYY	3 文字略称表記の月、セパレータ、2 桁表記の日、セパ レータ、4 桁表記の年 (例、JUL/25/2003)

(次のページへ続く)

(続き) 書式	説明
YY/DDD	下 2 桁表記の年、セパレータ、3 桁表記のユリウス日 (例、99/349)
DDD/YY	3 桁表記のユリウス日、セパレータ / 下 2 桁表記の年 (例、349/99)
YYYY/DDD	4 桁表記の年、セパレータ、3 桁表記のユリウス日 (例、1999/349)
DDD/YYYY	3 桁表記のユリウス日、セパレータ、4 桁表記の年 (例、349/1999)
MONTH	月 (例、December)
DAY	曜日 (例、Friday)
HHMM	2 桁表記の時間、2 桁表記の分 (例、3 時 30 分は 0330)
HHMMSS	2 桁表記の時間、2 桁表記の分 2 桁表記の秒 (例、3 時 30 分 45 秒は 033045)
HH:MM	2 桁表記の時間、セパレータ、2 桁表記の分 (例、03:30)
HH:MM:SS	2 桁表記の時間、セパレータ、2 桁表記の分、セパレータ、 2 桁表記の秒 (例、03:30:45)
ISO-8601	YYYYMMDDTHHMMSS.mmmZ 書式。世界標準時 (Zulu 時間、グリニッジ標準時とも呼ばれる) で表される 4 桁表記の年次、2 桁表記の月、2 桁表記の日、T (時刻) 指示記号、2 桁表記の時間、2 桁表記の分、2 桁表記の秒、Z (Zulu 時間) 指示記号 (例、20031209T123000.000Z)
YYYYMMDDZ	ISO-8601 日付書式。4 桁表記の年、2 桁表記の月、2 桁表記の日、Z (Zulu 時間) 指示記号 (例、20031209Z)
MM/DD/YY HH:MM:SS	2 桁表記の月、セパレータ、2 桁表記の日、セパレータ、 下 2 桁表記の年、2 桁表記の時間、セパレータ、2 桁表記の分、セパレータ、2 桁表記の秒 (例、12/15/99 03:30:45)
YYMMDD HHMMSS	下 2 桁表記の年、2 桁表記の月、2 桁表記の日、2 桁表記の時間、2 桁表記の分、2 桁表記の秒 (例、991025 033045)
YYYY-MM-DDTHH:MM:SS	4 桁表記の年、セパレータ、2 桁表記の月、セパレータ、 2 桁表記の日、ブランク セパレータを意味する T、2 桁表記の時間、セパレータ、2 桁表記の分、セパレータ、2 桁表記の秒 (例、2002-02-02 03:30:45)

(次のページへ続く)

(続き) 書式	説明
YYYY-MM-DD	4 桁表記の年、セパレータ、2 桁表記の月、セパレータ、2 桁表記の日 (例、2002-02-02)
YYYY-MM	4 桁表記の年、セパレータ、2 桁表記の月 (例、2002-02)
YYYY	4 桁表記の年 (例、2002)
--MM-DD	ダッシュ記号 2 つ、2 桁表記の月、セパレータ、2 桁表記の日 (例、--12-02)
---DD	ダッシュ記号 3 つ、2 桁表記の日 (例、---02)

手順

日 / 時型を使用するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>既存のフィールド、エレメント、または TFD をダブルクリックするか、新規作成します。</p> <p>参照 フィールド、エレメント、または TFD を作成する方法の詳細については、「固定形式ファイルの使い方」、「EDI ファイルの使い方」、または「CII ファイルの使い方」を参照してください。</p> <p>システムからの応答 [エレメントプロパティ] (または [フィールドプロパティ] か [CII Record Properties]) ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[必須] タブを選択します。</p> <p>システムからの応答 必須のオプションが表示されます。</p>
3	<p>データ型リストで、[Date/Time] を選択します。</p> <p>メモ これにより、フィールド、エレメント、または TFD が、日付か時刻になります。</p>
4	<p>データ書式リストで、適切な日 / 時オプションを選択します。</p>
5	<p>[OK] をクリックして、[エレメントプロパティ] (または [フィールドプロパティ] か [CII Record Properties]) ダイアログ ボックスを閉じます。</p>

マップの完成

シンプルな連結の作成方法

はじめに

連結機能を使用すると、マップの入力側のフィールド、エレメント、またはTFDを、出力側のフィールド、エレメント、またはTFDにマッピングすることができます。2つのマップコンポーネント(以下フィールドと呼ぶ)間の連結は、2つのフィールドをつなぐ線として表示されます。


使用するマップで設定されている条件のために、2つの入力フィールドを同じ出力フィールドへ連結する必要がある場合は、拡張ルールを使用してください。

メモ

トランスレータがレコード/セグメントを作成するには、マップの出力側の各レコードまたはセグメントに対して、少なくとも1つの直接連結が必要です(リンク機能を使用)。

手順

2つのフィールドを連結するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[機能]メニューから[連結]を選択します。
2	マップの入力側のフィールド(入力側がCIIの場合はTFD)を選択します。 システムからの応答 カーソルが、"連結の矢印"に変わります。  (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
3	<p>マップ入力側で選択したフィールドのデータのマッピング先となる、マップ出力側のフィールド (出力側が CII の場合は TFD) を選択します。</p> <p>システムからの応答 2つのフィールドを連結する線が表示されます。</p> <p>メモ 2つのフィールドを連結しても線が表示されない場合は、[選択] ダイアログ ボックスを確認してください。</p> <p>参照 詳細については、「連結のグローバルな表示のカスタマイズ方法」を参照してください。[選択] ダイアログ ボックスの [連結] タブで、[連結を表示する] を選択する必要があります。</p>

バイナリ セグメントのマッピング方法

はじめに

一部の EDI スタンダードではバイナリ セグメントが使用されています。
Gentran:Server では、バイナリ データを処理するためのマップ コンポーネントを作成および構成することができます。

Gentran:Server 付属の Standards CD からバイナリ セグメントを含む EDI スタンダードを読み込むと、必要な要素は自動的に作成されます。ただし、バイナリ セグメントを手動で作成する場合は、この項で説明する手順に従います。

例

マップの出力側に ANSI X12 275 トランザクション セットを読み込むとき、そのトランザクション セットに2つの要素 (バイナリ データの長さ要素とバイナリ データ要素) を含むバイナリ データ セグメントが含まれているとします。長さ要素の既定のデータ型は **Number** で、最大長は 15 に設定されています。バイナリ データ要素の既定のデータ型は **String** で、既定の長さは 760 です。

必須のセグメントと要素

インバウンド EDI セグメント用に受信したバイナリ データを処理するには、マップの入力側に正規のセグメントおよび要素を作成または構成する必要があります。

バイナリ データを含む EDI セグメントを生成するには、マップの出力側にバイナリ データ セグメントを作成する必要があります。次いで、次のデータ型のバイナリ セグメント内に、2つの要素を作成する必要があります。

- ▶ バイナリ セグメントの長さ用 (文字数) の **Bin_Len**
- ▶ バイナリ データ用の **Bin_Data**

次の表に、バイナリ データ用マップの入力および出力要素を示します。

入力データ型	連結の状態	出力データ型
Number	未連結	Bin_Len
String	連結済み	Bin_Data

(次のページへ続く)

入力側の設定

マップの入力側でコンポーネントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	マップの入力側で、データのセグメントを作成または選択します。
2	コンポーネントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 コンポーネントの [プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	ダイアログ ボックスのタブを使って、コンポーネント プロパティを設定します。 メモ [名前] タブと [ループ処理] タブで、設定を完了します。
4	作成したコンポーネントに、新しいエレメントまたはフィールドを追加します。
5	エレメントまたはフィールドを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 コンポーネントの [プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
6	ダイアログ ボックスのタブを使って、コンポーネント プロパティを設定します。 メモ [必須] タブで、データ型として [Number] を指定する必要があります。
7	セグメントまたはレコードに、2 番目の新しいエレメントまたはレコードを追加します。
8	コンポーネントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。
9	ダイアログ ボックスのタブを使って、コンポーネントのプロパティを設定します。 メモ [必須] タブで、データ型として [String] を指定する必要があります。

(次のページへ続く)

出力側の設定

マップの出力側でコンポーネントを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	マップの出力側で、バイナリ データのセグメントまたはレコードを作成するか、または選択します。
2	コンポーネントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 コンポーネントの [プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	ダイアログ ボックスのタブを使って、コンポーネント プロパティを設定します。 メモ [特別] タブで、[バイナリ] チェックボックスをクリックします。
4	バイナリ コンポーネントに新しいエレメントまたはフィールドを追加するか、既存のエレメントまたはフィールドを選択します。
5	コンポーネントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 [プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
6	ダイアログ ボックスのタブを使って、コンポーネントのプロパティを設定します。 メモ [必須] タブで、データ型として [Bin_Len] を指定する必要があります。
7	セグメントに 2 番目の新しいエレメントまたはフィールドを追加するか、既存のエレメントまたはフィールドを選択します。
8	コンポーネントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。
9	ダイアログ ボックスのタブを使って、コンポーネント プロパティを設定します。 メモ [必須] タブで、データ型として [Bin_data] を指定する必要があります。 (次のページへ続く)

ステップ	操作
10	<p>マップの入力側コンポーネントと、マップの出力側コンポーネントを連結します。</p> <p>重要 マップ入力側の文字列フィールド (バイナリ データ ファイル名を含むために作成されたフィールド) を、マップ出力側の bin_data フィールドに連結する必要があります。</p>
11	<p>マップを完成し、コンパイルしてトランスレーション オブジェクトを作成します。</p>

マップのコンパイル方法

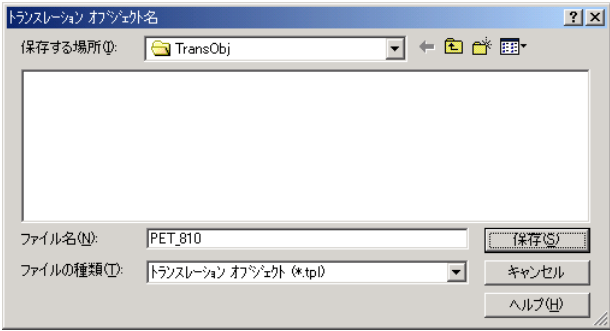
はじめに

コンパイル機能は、マップをコンパイルしたりトランスレーションオブジェクトを作成したりします。Gentran:Server を使用して作成したマップは、"ソースマップ"と呼ばれます。ソースマップがコンパイルされると、"コンパイルされたトランスレーションオブジェクト"となります。

作成されたトランスレーションオブジェクトは、使用する前に Gentran:Server システムに登録する必要があります。コンパイル機能は、マップを完了および保存した後で使用します。

手順

マップをコンパイルして、トランスレーションオブジェクトを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル]メニューの[コンパイル]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [トランスレーションオブジェクト名]ダイアログボックスが表示されます。</p>  <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	<p>[ファイル名]ボックスに、トランスレーション オブジェクトの名前を入力します。</p> <p>メモ トランスレーション オブジェクトの名前は、1～8文字で入力します。既定の .TPL ファイル拡張子を使用します。</p> <p>推奨事項 トランスレーション オブジェクト (.TPL ファイル) の名前は、マップ (.MAP ファイル) に付けた名前と同じファイル名 (1～8文字) にします。同じファイル名に (異なるファイル拡張子を付けて) することで、ソース マップとコンパイルされたトランスレーション オブジェクトとの関係が一目で分かります。</p> <p>例 ソース マップ名が MWT_850.MAP の場合、コンパイルされるトランスレーション オブジェクトの名前を MWT_850.TPL にします。</p> <p>注意 コンパイルされるトランスレーション オブジェクトで、ソース マップを上書きしないよう十分に注意してください。ソース マップと区別するため、トランスレーション オブジェクト名には .TPL というファイル拡張子を使用してください。</p>
3	<p>必要に応じて、[保存する場所] リストを使用し、コンパイルされるトランスレーション オブジェクトの保存先ドライブ¥フォルダを指定します。</p> <p>注意 コンパイルされたトランスレーション オブジェクトは、GENSRVNT¥RegTransObj フォルダに保存しないでください。このフォルダは、Gentran:Server に登録した各トランスレーション オブジェクトのコピーを保存するため場所です。</p>
4	<p>[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 マップがコンパイルされ、トランスレーション オブジェクトが作成されます。[コンパイル エラー] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
5	<p>エラーが発生しないことを確認し、[OK] をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。</p> <p>メモ トランスレーション オブジェクトがコンパイルされた日付が、自動的に [トランスレーション オブジェクトの詳細] ダイアログ ボックスの [コンパイル日時] ボックスに読み込まれます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	[ファイル]メニューの[保存]を選択して、[コンパイル日時]ボックスの日付でソース マップを保存します。
7	作成されたトランスレーション オブジェクトは、使用する前に Gentran:Server システムに登録する必要があります。 参照 トランスレーション オブジェクトの登録方法については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「 新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法 」を参照してください。

コマンドラインを使用したマップのコンパイル方法

はじめに

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステム (MAPPER.EXE) では、コマンドラインから単一のマップ (または、指定されたディレクトリに格納されている複数のマップ) を自動的にコンパイルすることができます。

メモ

コンパイルされたトランスレーション オブジェクトは、マップ ソース ファイルとして、同じディレクトリに書き込まれます。

シンタックス

コマンドライン シンタックス (GENSRVNT¥Bin サブディレクトリから) は次のとおりです。

```
mapper.exe -c [mapSourceFile]
```

メモ

mapSourceFile には、単一のマップ、またはワイルドカード文字 (*) を含むマップ ファイル名が入ります。ワイルドカード文字を使用すると、MAPPER.EXE により指定されたディレクトリにある、同じファイル名パターンを持つすべてのマップをコンパイルできます。MAPPER.EXE は、サブディレクトリでは再帰されません。

例 1

```
mapper.exe -c c:¥GENSRVNT¥tutorial¥\*.map
```

メモ

この例では、tutorial ディレクトリにあるすべてのマップがコンパイルされます。

例 2

```
mapper.exe -c c:¥GENSRVNT¥tutorial¥pet*.map
```

メモ

この例では、tutorial ディレクトリにある、pet で始まる名前を持つすべてのマップがコンパイルされます。

マッピング レポートの印刷方法

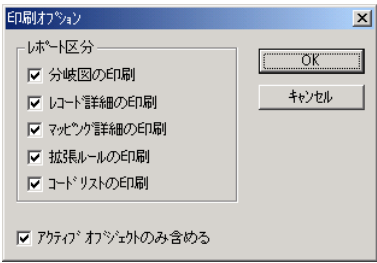
はじめに

印刷機能を使用すると、現在のマップのマッピング レポートを印刷することができます。

メモ

[ファイル]メニューの [ファイルへ出力] を選択して、マッピング レポートをファイルに印刷できます。 [印刷オプション] ダイアログ ボックスの既定値を変更して、[OK] をクリックし、 [ファイルへ出力] ダイアログ ボックスを表示します。 レポートを印刷するファイル名を入力し、 [OK] をクリックします。

マッピング レポートを印刷するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル]メニューの [印刷] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [印刷オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [レポート]セクションの該当するチェックボックスをクリックして、印刷するレポートを選択します。 ▶ [OK] をクリックします。 <p>システムからの応答 [印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>適切なオプションを設定し、セットアップ オプションを変更する必要がない場合は、[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 マッピング レポートが印刷されます。</p>

スタンダード ルールの使い方

目次

概要	3
▶ はじめに	3
Select スタンダード ルールの使い方	4
▶ 概要	4
▶ パートナーの定義情報の使用方法	11
▶ クロスリファレンス テーブル情報の使用方法	13
▶ 所在地テーブル情報の使用方法	16
▶ 照合テーブル情報の使用方法	18
Update スタンダード ルールの使い方	20
▶ 概要	20
▶ ドキュメント名と参照の設定方法	23
System Variable スタンダード ルールの使い方	26
▶ 概要	26
▶ システム日付 / 時刻の使用方法	27
Use Constant スタンダード ルールの使い方	28
▶ 概要	28
▶ マップ内での定数の使用方法	32
▶ 修飾関係の定義方法	33
▶ リテラル定数の定義方法と編集方法	35
▶ リテラル定数の削除方法	36
▶ リテラル定数のマッピング方法	37
▶ 修飾子の生成方法	38
Loop Count スタンダード ルールの使い方	39
▶ 概要	39
▶ Loop Count 機能の使用方法	41
Use Accumulator スタンダード ルールの使い方	42
▶ 概要	42
▶ ライン アイテムのカウント方法	48
▶ ハッシュトータルの計算方法	51
▶ 合計値のリセット方法および計算方法	54

Use Code スタンダード ルールの使い方	62
▶ 概要	62
▶ コードリスト テーブルと照合するデータの検証方法.....	68
▶ コードリストの定義方法と修正方法	70
▶ コードリストまたはコードリスト登録の削除方法	71
▶ コードリストのインポート方法	72
▶ コードリストのエクスポート方法	74
▶ スタンダードからのコードリスト テーブルの読み込み方法.....	76
▶ コードリストのコピー方法と貼り付け方法	78
▶ コードリスト テーブルと照合するデータの検証方法.....	79
▶ コード アイテムの説明のマッピング方法.....	80

概要

はじめに

スタンダード ルール について

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、フィールドやエレメントに使用することができるスタンダード ルールが用意されています。スタンダード ルールを使用すると、拡張ルールほど複雑ではないものの、連結より複雑なマッピング機能を実行できます。

各スタンダード ルールは、互いに対して排他的です (1 つのフィールド、エレメント、または TFD に使用できるスタンダード ルールは 1 つだけです)。

メモ

エレメントがスタンダード ルールを含む場合、エレメントのアイコンの右に、黒色のアスタリスクが表示されます。

関連トピック

拡張ルールを使用すると、Gentran:Server 用プログラミング言語を使用して、ほとんどすべてのマッピング処理を実行できます。

参照

連結方法の詳細については、「[シンプルな連結の作成方法](#)」を参照してください。拡張ルールの詳細については、「[拡張ルールについて](#)」を参照してください。

Select スタンダード ルールの使い方

概要

はじめに

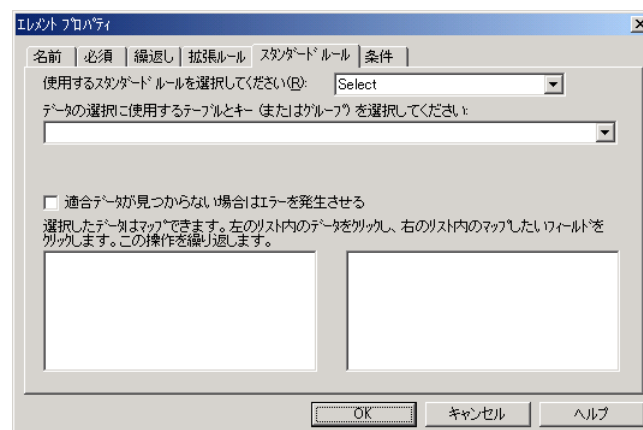
Select 機能を使用すると、Gentran:Server パートナー エディタで作成した所在地テーブル、クロスリファレンス テーブル、パートナー テーブル、または照合テーブルからエントリを選択することができます。選択後、これらのテーブルのフィールドをデータ内の 1 つ以上のフィールドにマッピングできます。Select 機能では、現在のフィールド、エレメント、または TFD の値が使用されて、選択が実行されます。

Select 機能では、Gentran:Server パートナー エディタからの情報を、マップ内で使用することができます。パートナー エディタのパートナー プロファイルまたは内部システム パートナーからの情報をマップ内で選択されているエレメントまたはフィールドにマッピングできます。内部システム パートナー用に定義した定義情報や所在地テーブルは、すべてのパートナーに使用できます。使用できる情報には、次のようなものがあります。

- ▶ パートナーまたは内部システム パートナーの定義 (名前、EDI コード、アプリケーション コード)
- ▶ パートナーまたは内部システム パートナーの所在地テーブルのフィールド
- ▶ 照合テーブルのフィールド
- ▶ クロスリファレンス テーブルのフィールド
- ▶ インターチェンジ、グループ、またはドキュメント レコード

[スタンダード ルール] タブ (Select)

次の図に、Select 機能を選択した場合の [スタンダード ルール] タブを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、Select スタンダード ルールの各部とその機能を示します。

各部	機能								
テーブルとキー (またはグループ)	システムがデータを選択するときに使用するテーブルおよびキーを指定します。このテーブルには、有効な値がリストされます。								
サブテーブルの名前	<p>サブテーブル名が入ります (該当する場合)。</p> <p>メモ</p> <p>サブテーブル ボックスは、テーブルとキーのリストで [Partner Lookup]、[Partner cross-reference by my item]、[Partner xref by partner item]、[Division lookup]、[Division cross-reference by my item]、または [Division cross-reference by partner item] が選択された場合にアクティブになります。</p>								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>各部</th> <th>機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Partner by EDI code</td> <td>パートナーの EDI コードがキーであることを示します。パートナー テーブルのこのパートナーに対する 3 つのフィールド (名前、EDI コード、代用コード) のいずれかをマップ元にすることができます。</td> </tr> <tr> <td>Partner by alternate code</td> <td>パートナーのアプリケーション コードがキーであることを示します。パートナー テーブルのこのパートナーに対する 3 つのフィールド (名前、EDI コード、代用コード) のいずれかをマップ元にすることができます。</td> </tr> <tr> <td>Partner by partner key</td> <td> <p>パートナーのプロファイル ID がキーであることを示します。パートナー テーブルのこのパートナーに対する 3 つのフィールド (名前、EDI コード、代用コード) のいずれかをマップ元にすることができます。</p> <p>(次のページへ続く)</p> </td> </tr> </tbody> </table>	各部	機能	Partner by EDI code	パートナーの EDI コードがキーであることを示します。パートナー テーブルのこのパートナーに対する 3 つのフィールド (名前、EDI コード、代用コード) のいずれかをマップ元にすることができます。	Partner by alternate code	パートナーのアプリケーション コードがキーであることを示します。パートナー テーブルのこのパートナーに対する 3 つのフィールド (名前、EDI コード、代用コード) のいずれかをマップ元にすることができます。	Partner by partner key	<p>パートナーのプロファイル ID がキーであることを示します。パートナー テーブルのこのパートナーに対する 3 つのフィールド (名前、EDI コード、代用コード) のいずれかをマップ元にすることができます。</p> <p>(次のページへ続く)</p>
各部	機能								
Partner by EDI code	パートナーの EDI コードがキーであることを示します。パートナー テーブルのこのパートナーに対する 3 つのフィールド (名前、EDI コード、代用コード) のいずれかをマップ元にすることができます。								
Partner by alternate code	パートナーのアプリケーション コードがキーであることを示します。パートナー テーブルのこのパートナーに対する 3 つのフィールド (名前、EDI コード、代用コード) のいずれかをマップ元にすることができます。								
Partner by partner key	<p>パートナーのプロファイル ID がキーであることを示します。パートナー テーブルのこのパートナーに対する 3 つのフィールド (名前、EDI コード、代用コード) のいずれかをマップ元にすることができます。</p> <p>(次のページへ続く)</p>								

(続き) 各部	機能	
サブテーブルの名前 (続き)	Partner location by name	パートナー エディタの [所在地] ダイアログ ボックスの名前 (内部システム) がキーであることを示します。テーブルの任意のフィールドからマッピングできます。
	Partner lookup	このパートナーのパートナー照合テーブル名がキーであることを示します。テーブルの任意のフィールドからマッピングできます。
	Partner cross-reference by my item	このパートナーのパートナー クロスリファレンス テーブルにある自社のアイテム (値) がキーであることを示します。テーブルの任意のフィールドからマッピングできます。
	Partner cross-reference by partner item	このパートナーのパートナー クロスリファレンス テーブルにあるパートナーのアイテム (値) がキーであることを示します。テーブルの任意のフィールドからマッピングできます。
	Division	テーブルの <内部システム ユーザー> (システム パートナー) に対する 3 つのフィールド (名前、EDI コード、代用コード) のいずれかをマップ元にすることができます。
	Division location by name	パートナー エディタの [所在地] ダイアログ ボックスの名前 <内部システム ユーザー> がキーであることを示します。テーブルの任意のフィールドからマッピングできます。
	Division lookup	<内部システム ユーザー> パートナーのパートナーの照合テーブル名がキーであることを示します。テーブルの任意のフィールドからマッピングできます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能	
サブテーブルの名前 (続き)	Division cross-reference by my item	<内部システム ユーザー>パートナーのパートナー クロスリファレンス テーブルにある自社のアイテム (値) がキーであることを示します。テーブルの任意のフィールドからマッピングできます。
	Division cross-reference by partner item	<内部システム ユーザー>パートナーのパートナー クロスリファレンス テーブルにあるパートナーのアイテム (値) がキーであることを示します。テーブルの任意のフィールドからマッピングできます。
	Document record	<p>現在のドキュメント レコード内にある任意のフィールドからマッピングできます。</p> <p>メモ このサブテーブルには、次のマップ タイプからのみアクセス可能です。トランザクションブレイク、トランザクションビルド、インポート、エクスポート、印刷、画面、グループビルド、およびインターチェンジビルドの7種類のマップタイプです。</p> <p>このサブテーブルには、ルールがアクセスするテーブルレベルで、最後に処理されたドキュメントの情報が表示されます。これらのテーブルにアクセスするルールを使用する場合は注意が必要です。</p> <p>アクセス例については、「テーブルアクセス例」を参照してください。</p>
	Generic envelope segment	<p>使用されている EDI スタンダードにかかわらず、現在のエンベロープ情報に含まれる任意のフィールドからマッピングできます。</p> <p>メモ この機能は、通常、指定されたスタンダードの一般的なエンベロープ テーブル構造に詳しいユーザー以外は使用することはありません。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能	
サブテーブルの名前 (続き)	Interchange	<p>現在のインターチェンジレコード内にある任意のフィールドからマッピングできます。</p> <p>メモ このサブテーブルには、次のマップタイプからのみアクセス可能です。インターチェンジブレイク、インターチェンジビルド、グループブレイク、トランザクションブレイク、およびエクスポートの4種類のマップタイプです。</p> <p>このサブテーブルには、ルールがアクセスするテーブルレベルで、最後に処理されたインターチェンジの情報が表示されます。これらのテーブルにアクセスするルールを使用する場合は注意が必要です。</p> <p>アクセス例については、「テーブルアクセス例」を参照してください。</p>
	Group	<p>現在のグループレコード内にある任意のフィールドからマッピングできます。</p> <p>メモ このサブテーブルには、次のマップタイプからのみアクセス可能です。グループブレイク、グループビルド、トランザクションブレイク、エクスポート、およびインターチェンジビルドの4種類のマップタイプです。</p> <p>このサブテーブルには、ルールがアクセスするテーブルレベルで、最後に処理されたグループの情報が表示されます。これらのテーブルにアクセスするルールを使用する場合は注意が必要です。</p> <p>アクセス例については、「テーブルアクセス例」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
Raise compliance error	<p>有効なテーブル エントリが見つからなかった場合に、エラーを生成するかどうかを指定します。</p> <p>メモ 既定では、オフになっています (選択に失敗した場合にエラーを生成しません)。</p>
Map from	<p>指定されたテーブル エントリから、コンテンツのマップ元となるエレメント / フィールド / TFD を指定します。</p> <p>メモ テーブルおよびキーが選択されると、リストからのエントリがマップに表示されます。</p>
Map to	<p>マップ元ボックスのコンテンツのマップ先となるエレメント / フィールド / TFD を指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リストには、現在作業している側 (入力側または出力側) の各エレメント / フィールド / TFD が表示されます。 ▶ Select ルールを 1 つ使用するだけで、合計 8 つのフィールドをマップすることができます。 ▶ マップ先リストのエントリは、テーブルおよびキーが選択されると表示されます。また、これらのエントリをアクティブにするには、マップ元ボックスでエントリを反転表示させる必要があります。

(次のページへ続く)

テーブル アクセス 例

例 1

インターチェンジビルド マップからドキュメント テーブルにアクセスすると、トランザクションビルド マップを介して最後に処理されたドキュメントの情報が取得されます。ドキュメントがすべて同じインターチェンジ内で送信され、インポート マップが `appfield6` に一意な値を各ドキュメントに更新するように設定されている場合、インターチェンジビルド マップがこの情報を取得しようとすると、最後に送信されたドキュメントの `appfield6` 情報だけが取得されます。

各ドキュメントの `appfield6` 値を取得するには、ドキュメントを別々のインターチェンジで送信する必要があります。詳細設定のインターチェンジ定義内のアウトバウンド パートナー関係で、ドキュメントを別々のインターチェンジで送信するよう設定できます ([1 つのインターチェンジにおけるドキュメントの最大数を設定] を 1 に設定する必要があります)。

例 2

エクスポート マップからグループ テーブルにアクセスすると、グループ ブレーク マップを介して処理された最後のグループの情報が取得されます。たとえば、インバウンド インターチェンジ ファイルに 2 つのグループが含まれているとします。1 番目のグループには 850 情報が、また 2 番目のグループには 810 情報が含まれています。グループ ブレーク マップを介して最後に処理されたグループが 810 グループだった場合、850 エクスポート マップ内のルールにより取得される情報は 810 情報です。

パートナーの定義情報の使用方法

はじめに

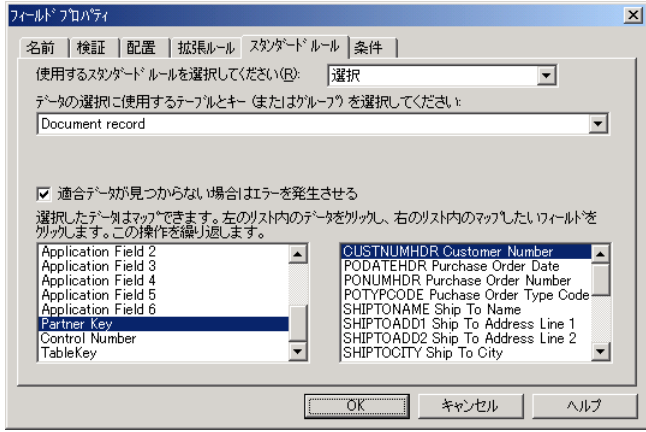
Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、Select スタンダード ルールにより、Gentran:Server パートナー エディタから選択した情報をマップ内で使用することができます。パートナー エディタのトレーディング パートナー プロファイルからの情報をマップ内で選択されているエレメント、フィールド、または TFD にマッピングできます。マップ内で使用できる情報には、テーブル (Location、Lookup、クロスリファレンス) のフィールドや、パートナー テーブルのデータなどがあります。

この例では、マップのアプリケーション側の [Customer Number (CUSTNUMHDR)] フィールドに入力するために、パートナー定義から情報を取得する必要があります。パートナーの顧客番号により、どのトレーディング パートナーがその発注書を送信したかが分かります。顧客番号は既に、このパートナーのパートナー定義に含まれています。このため、パートナー定義の顧客番号を Customer Number のフィールドにマッピングできます。

手順

Select 機能を使用して、パートナー定義の顧客番号をマッピングするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>既存のエレメントまたはフィールドをダブルクリックするか、新しいエレメントまたはフィールドを作成します。</p> <p>参照 フィールドおよびエレメントを作成する方法の詳細については、「固定形式ファイルの使い方」および「EDI ファイルの使い方」を参照してください。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] (または [エレメント プロパティ] か [CII TFD プロパティ]) ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Select] を選択します。
4	<p>テーブルとキーのリストで、[Document record] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、ドキュメント レコードから選択した情報によって、このフィールドが更新されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	有効なエントリが見つからなかった場合にエラーが生成されるように、エラーチェックボックスをオンにします。
6	<p>マップ元リストで、[Partner Key] を選択します。</p> <p>メモ このフィールドには、このパートナーの顧客番号が入ります。</p>
7	<p>マップ先リストで、[CUSTNUMHDR] を選択します。</p> <p>メモ このフィールドに、ドキュメントレコードのパートナーキーからの情報がマッピングされます。</p> <p>システムからの応答 [スタンダード ルール] タブは、次の図のようになります。</p> 
8	[OK] をクリックして、スタンダード ルールを追加します。

クロスリファレンス テーブル情報の使用方法

はじめに

この例では、パートナーの購入商品コードを対応する自社の商品コードにトランスレーションするときに、クロスリファレンス テーブルの情報をマッピングする必要があります。パートナー側では、各商品に独自の customer product code (CUSTPROCEDURE) を使用しています。一方、自社では、各商品に UPC コード (UPCCODE) を使用しています。ユーザーは、各 UPC コードに対応する customer product code をパートナーに確認した後、パートナー エディタでクロスリファレンス テーブルを作成して、その情報をマップ内で使用することができます。

クロスリファレンス テーブルは、自社とパートナーが異なる名前 (または番号) でアイテムを参照している場合に使用します。たとえば、自社側の "widget" に対する一意な名前が "wid" であっても、パートナー側の "widget" に対する一意な名前が "1234" である場合があります。この場合、システムは、クロスリファレンス テーブルを使用することで、"widget" アイテムに対する 2 つの名前をトランスレーションすることができます。

この例では、自社は受注した各アイテムに対して 1 つのコード (UPC コード) を使用しています。一方、パートナーは、同じアイテムを異なるコード (customer product code) で識別しています。自社は、customer product code を Product/Service ID エlement からマップのアプリケーション側の [customer product code (CUSTPROCEDURE)] フィールドにマッピングする必要があります。また、customer product code を UPC コードにトランスレーションするためのクロスリファレンス テーブルを作成する必要があります。

ヒント

クロスリファレンス テーブルを作成する前に、ユーザーは各 UPC コードに対応する customer product code をパートナーに確認する必要があります。確認後、パートナー エディタでクロスリファレンス テーブルを作成して、その情報をマップ内で使用できます。

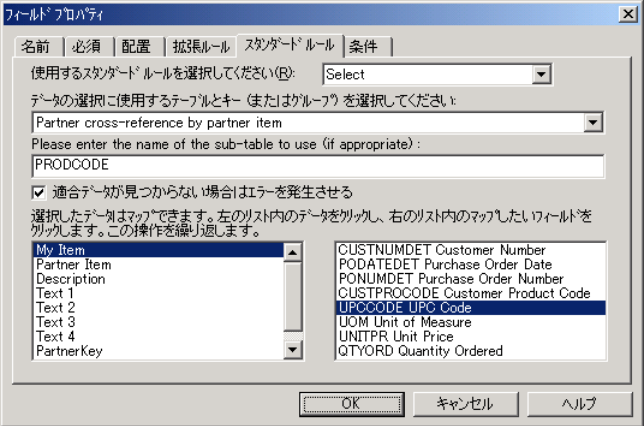
最後に、スタンダード ルールを使用して、トランスレーションした値を [CUSTPROCEDURE] フィールドから [UPCCODE] フィールドにマッピングする必要があります。

(次のページへ続く)

手順

パートナーが注文した各アイテムのパートナー側 customer product code を自社側 UPC コードにトランスレーションするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>customer product code を Product/Service ID エlementから [CUSTPROCEDURE] フィールドにマッピングします。</p> <p>参照 連結方法の詳細については、「シンプルな連結の作成方法」を参照してください。</p>
2	<p>パートナー エディタで、PRODCODE という名前のクロスリファレンス テーブルを作成します。</p> <p>参照 クロスリファレンス テーブルを作成する方法の詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「テーブルの作成方法」を参照してください。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成したクロスリファレンス テーブルには、6つのエントリしか含まれていません。これは一例であり、実際のテーブルでは、自社が提供していて、パートナーが購入することができるアイテムすべてが含まれます。 ▶ [クロスリファレンス] テーブルの [自社の値] ボックスには、アイテムの自社側 UPC コードが表示されます。[パートナーの値] ボックスには、アイテムのパートナー側 customer product code が表示されます。[説明] ボックスには、アイテムの説明 (およびサイズ、該当する場合) が表示され、[参照データ] ボックスには、追加数量または商品の色に関する情報などが表示されます。
3	<p>[CUSTPROCEDURE] フィールドをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。</p>
5	<p>スタンダード ルールのリストで、[Select] を選択します。</p>
6	<p>テーブルとキーのリストで、[Partner cross-reference by partner item] を選択します。</p> <p>メモ この操作により、クロスリファレンス テーブルを使用して、パートナーのアイテム別にトランスレーションされます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	サブテーブル ボックスに、「PRODCODE」と入力します。 メモ この名前は、作成したクロスリファレンス テーブルの名前です。
8	トランスレーションに失敗した場合にエラーが生成されるように、エラー チェックボックスをオンにします。
9	マップ元リストで、[My Item] を選択します。 メモ このフィールドが、コンテンツのマップ元になります。
10	マップ先リストで、[UPCCODE] を選択します。 メモ このフィールドに、照合テーブルの情報がマッピングされます。 システムからの応答 [スタンダード ルール] タブは、次のようになります。 

所在地テーブル情報の使用方法

はじめに

各パートナー プロファイルおよび内部システム パートナー プロファイルには、多数の関連付けられた所在地テーブルを含めることができます。所在地テーブルには、パートナーの住所関連情報を格納できます。たとえば、パートナーの店舗、倉庫、または請求先住所などを格納できます。

所在地テーブルの情報を使用するには、パートナー エディタで所在地テーブルを作成しておく必要があります。パートナー所在地テーブルを作成する方法の詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「[テーブルの作成方法](#)」を参照してください。

手順

所在地テーブルの情報をマッピングするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>既存の要素またはフィールドをダブルクリックするか、新しい要素またはフィールドを作成します。</p> <p>参照 フィールドおよび要素を作成する方法の詳細については、「固定形式ファイルの使い方」および「EDIファイルの使い方」を参照してください。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] (または [要素 プロパティ] か [CII TFD プロパティ]) ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Select] を選択します。
4	<p>テーブル リストで、パートナー所在地の登録を検索するときに使用するキーを選択します。</p> <p>メモ [所在地] ダイアログ ボックスのフィールドからマッピングできます。有効な選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Partner location by name] ▶ [Division location by name]
5	<p>検索に失敗した場合にエラーが生成されるように、エラー チェックボックスをオンにします。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	マップ元リストで、コンテンツのマップ元となるフィールドを選択します。 メモ 次のフィールドから選択することができます。[名前]、[住所 1]、[住所 2]、[住所 3]、[市]、[都道府県]、[郵便番号]、[国]、[電話番号]、[FAX 番号]、[担当者名]、[Primary Reference]、[Secondary Reference] の 13 のフィールドです。
7	マップ先リストで、パートナー エディタの情報のマップ先となるエレメント、フィールド、または TFD を選択します。
8	[OK] をクリックして、スタンダード ルールを追加します。

照合テーブル情報の使用方法

はじめに

照合テーブルは、インバウンドまたはアウトバウンド データの値に関連した情報を選択するのに使用します。各パートナー プロファイルおよび内部システムパートナー プロファイルでは、多数の照合テーブルを関連付けることができます。

照合テーブルの情報を使用するには、パートナー エディタで照合テーブルを作成しておく必要があります。パートナーの照合テーブルを作成する方法の詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「[テーブルの作成方法](#)」を参照してください。

手順

照合テーブルの情報をマッピングするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>既存の要素またはフィールドをダブルクリックするか、新しい要素またはフィールドを作成します。</p> <p>参照 フィールドおよび要素を作成する方法の詳細については、「固定形式ファイルの使い方」および「EDI ファイルの使い方」を参照してください。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] (または [要素 プロパティ]) か [CII TFD プロパティ]) ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Select] を選択します。
4	<p>テーブル リストで、トレーディング パートナーを検索するキーを選択します。</p> <p>メモ 有効な選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Partner lookup] ▶ [Division lookup]
5	サブテーブル ボックスに、照合テーブルの名前を入力します。
6	<p>検索に失敗した場合にエラーが生成されるように、エラー チェックボックスをオンにします。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	マップ元リストで、コンテンツのマップ元となるフィールド ([Item]、 [Description]、 [Text 1]、 [Text 2]、 [Text 3]、 [Text 4]) を選択します。
8	マップ先リストで、パートナー エディタの情報のマップ先となるエレメント、フィールド、または TFD を選択します。
9	[OK] をクリックして、スタンダード ルールを追加します。

Update スタンダード ルールの使い方

概要

はじめに

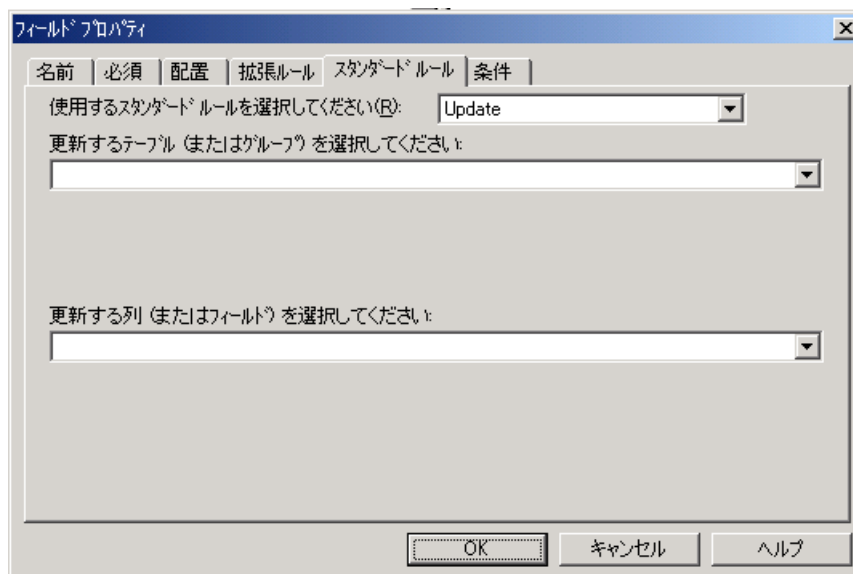
Update 機能を使用すると、ドキュメント レコード、エンベロープ セグメント、インターチェンジ、グループ、現在のパートナー、またはドキュメント (マップの作業側の形式が EDI の場合) の特定のフィールドを、エレメント、フィールド、または TFD のコンテンツで更新することができます。

注意

この機能は、内部 Gentrans:Server データベース テーブルを更新します。内部データベース テーブルを更新するときだけに、この機能を使用するようお勧めします。この機能は、通常、ドキュメント テーブルのドキュメント名や参照を更新するとき以外は使用されません。

[スタンダード ルール] タブ (Update)

次の図に、Update 機能を選択した場合の [スタンダード ルール] タブを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、Update スタンダード ルールの各部とその機能を示します。

各部	機能
<p>テーブル</p>	<p>現在のフィールド、エレメント、TFD のコンテンツによって更新されるテーブルが表示されます。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Document record] (ドキュメント名および参照を更新する場合) <p>メモ このテーブルには、次のマップ タイプからのみアクセス可能です。トランザクションブレイク、トランザクションビルド、インポート、エクスポート、印刷、画面、グループビルド、およびインターチェンジビルドの7種類のマップタイプです。</p> <p>このサブテーブルには、ルールがアクセスするテーブルレベルで、最後に処理されたドキュメントの情報が表示されます。これらのテーブルにアクセスするルールを使用する場合は注意が必要です。</p> <p>アクセス例については、「テーブルアクセス例」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Generic envelope segment] (詳細設定の場合のみ使用可) ▶ [Interchange] <p>メモ このサブテーブルには、次のマップ タイプからのみアクセス可能です。インターチェンジブレイク、インターチェンジビルド、グループブレイク、トランザクションブレイク、およびエクスポートの4種類のマップタイプです。</p> <p>このサブテーブルには、ルールがアクセスするテーブルレベルで、最後に処理されたインターチェンジの情報が表示されます。これらのテーブルにアクセスするルールを使用する場合は注意が必要です。</p> <p>アクセス例については、「テーブルアクセス例」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
テーブル (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [Group] <p>メモ このサブテーブルには、次のマップ タイプからのみアクセス可能です。グループブレイク、グループビルド、トランザクションブレイク、エクスポート、およびインターチェンジビルドの4種類のマップ タイプです。</p> <p>このサブテーブルには、ルールがアクセスするテーブルレベルで、最後に処理されたグループの情報が表示されます。これらのテーブルにアクセスするルールを使用する場合は注意が必要です。</p> <p>アクセス例については、「テーブルアクセス例」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Partner] (詳細設定の場合のみ使用可) ▶ [Document] (詳細設定の場合のみ使用可 — マップの作業側の形式が EDI である場合)
列	<p>現在のフィールド / エレメントのコンテンツによって更新される、列 (またはフィールド) リストのデータベースフィールドが表示されます。</p> <p>メモ このリストで選択できるフィールドは、選択されたテーブルによって異なります。</p>

ドキュメント名と参照の設定方法

はじめに

[ドキュメント名]と[参照]の2つのフィールドを、アプリケーション インテグレーション サブシステムで指定するよう推奨します。通常、このフィールドは、請求書の場合は請求書番号に、また、発注書の場合は発注書番号になります。ドキュメント名または参照のいずれかを指定すると、Gentran:Server ドキュメント ブラウザの対応するフィールド ([インドキュメント]、[? インドキュメント]、[アウトドキュメント]、[? アウトドキュメント]、[ワークスペース]、[インドローワ]、[アウトドローワ]、[送信キュー]、[インターチェンジ]) にデータが入力されます。"ドキュメント名"および"参照"により、マップによって作成されたドキュメントを Gentran:Server でより簡単に識別することができます。

Gentran:Server のドキュメント ブラウザでドキュメントを識別できるように、ドキュメント名を設定するよう強くお勧めします。アプリケーション インテグレーション サブシステムでドキュメント名を設定すると、Gentran:Server でこのドキュメントを含むドキュメント ブラウザの [名前] ボックスに、マッピングされたフィールドのデータが含まれます。アプリケーション インテグレーション サブシステムで参照を設定すると、Gentran:Server でこのドキュメントを含むドキュメント ブラウザの [参照データ] ボックスに、マッピングされたフィールドのデータが含まれます。

ドキュメント名には、任意の要素を選択することができますが、マップ内で1度だけ使用される要素を選択するよう強くお勧めします。また、データ型が "文字列" の要素を選択してください (データ型は [要素プロパティ] ダイアログ ボックスで指定されています)。ドキュメント名または参照に、データ型が Date/Time または Number の要素を使用する場合は、次のいずれかの操作を実行します。

- ▶ [要素プロパティ] ダイアログ ボックスでデータ型を String に変更します。
- ▶ ドキュメント レコードを更新する拡張ルールを設定します。

注意

要素のデータ型を Date/Time または Number から "String" に変更すると、オリジナルのデータ型のチェックは行われません。

(次のページへ続く)

手順：ドキュメント 名の設定

ドキュメント名を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	ドキュメントの EDI 側のヘッダーまたはトレーラ セグメントから、非繰り返しエレメントを選択します。 メモ 選択するエレメントは、ドキュメントの種類によって異なります。Gentran:Server でこのドキュメントを識別することができるエレメントを選択してください。 例 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 請求書の場合は、通常、請求書番号になります。 ▶ 発注書の場合は、通常、発注書番号になります。
2	該当するエレメントを右クリックし、ショートカット メニューから [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 [エレメント プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。
3	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
4	スタンダード ルールのリストで、[Update] を選択します。
5	更新テーブルリストで、[Document record] を選択します。
6	更新列リストで、[Document Name] を選択します。
7	[OK] をクリックして、ドキュメント名を設定します。

(次のページへ続く)

手順：参照の設定

参照を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>ドキュメントの EDI 側の最初のセグメントからエレメントを選択します。</p> <p>メモ 選択するエレメントは、ドキュメントの種類によって異なります。 Gentran:Server でこのドキュメントを識別することができるエレメントを選択してください。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 請求書の場合は、通常、発注書番号になります。 ▶ 発注書の場合は、通常、発注日になります。ただし、発注日を使用する場合は、次の手順に従う代わりに、エレメントに対して拡張ルールを使用する必要があります。
2	<p>該当するエレメントを右クリックし、ショートカットメニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [エレメントプロパティ] ダイアログボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p>
3	<p>[スタンダードルール] タブを選択して、スタンダードルールオプションを表示します。</p>
4	<p>スタンダードルールのリストで、[Update] を選択します。</p>
5	<p>更新テーブルリストで、[Document record] を選択します。</p>
6	<p>更新列リストで、[Reference Data] を選択します。</p>
7	<p>[OK] をクリックして、参照を設定します。</p>

System Variable スタンダード ルールの使い方

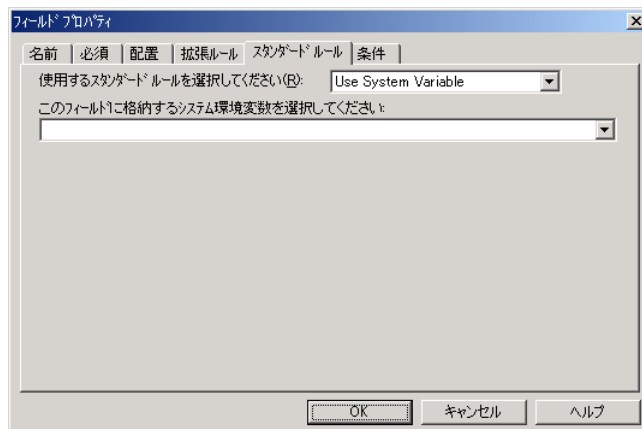
概要

はじめに

Use System Variable 機能を使用すると、選択されているエレメント、フィールド、または TFD に現在の日時をマッピングする変数を設定できます。選択されているマップ コンポーネントのデータ型は、"Date/Time" である必要があります。

[スタンダード ルール] タブ (System Variable)

次の図に、System Variable 機能を選択した場合の [スタンダード ルール] タブを示します。



[スタンダード ルール] タブ (System Variable) の各部と機能

次の表に、System Variable スタンダード ルールの各部とその機能を示します。

各部	機能
システム変数	Current date and time 変数をエレメント、フィールド、または TFD にマッピングできます。

システム日付 / 時刻の使用方法

手順

システム日付 / 時刻を使用するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	既存の要素、フィールド、または TFD をダブルクリックするか、新規作成します。 参照 フィールド、要素、および TFD を作成する方法の詳細については、「 固定形式ファイルの使い方 」、「 EDI ファイルの使い方 」、および「 CII ファイルの使い方 」を参照してください。 システムからの応答 [フィールド プロパティ] (または [要素 プロパティ] か [CII TFD プロパティ]) ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Use System Variable] を選択します。
4	システム変数リストで [Current date and time] を選択して、変数を要素、フィールド、または TFD にマッピングします。
5	[OK] をクリックして、システム変数を設定します。

Use Constant スタンダード ルールの使い方

概要

はじめに

Use Constant 機能を使用すると、指定したエレメント、フィールド、または TFD にリテラル定数値を渡すことができ、別のエレメント、フィールド、または TFD との修飾関係を指定できます。

定数の使用目的

定数には、マップ内で使用され、マップ内で後で必要になる情報が保持されません。格納された情報は、出力フィールドに渡されるか、条件付きステートメントで使用されます。通常、定数はリテラル定数値をインバウンド マップの指定されたエレメント、フィールド、または TFD に渡すために使用されます。アウトバウンド EDI 修飾子は、通常、定数から生成され、別のエレメントやフィールドとの修飾関係を指定します。

リテラル定数は、マップ内で後で使用される情報を格納するための保存場所としてシステム内で使用されます。通常、定数は、共通データをマップ上の各アプリケーションレコードに読み込むときに使用します。リテラル定数は、作成して名前を付けることができます。定数を使用しているエレメント、フィールド、または TFD に読み込まれた値を "ハード コード" (入力) することもできます。ただし、定数 (定数に格納されている情報) を "使用" するには、次に説明するように、スタンダード ルールを使用する必要があります。

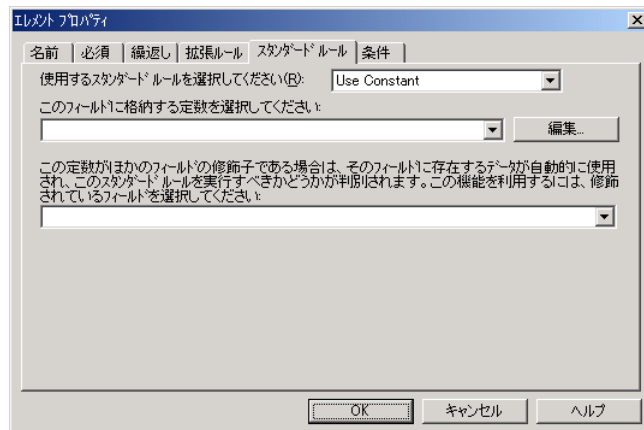
インバウンド マップの場合、通常、定数はレコード タイプを定義するために使用されます。アウトバウンド マップの場合、通常、定数は修飾関係を定義するために使用されます。

修飾関係により、エレメントとその修飾子との関係が構築されます。修飾子には、エレメントをさらに詳細に定義するコードが含まれています。修飾関係は、通常、アウトバウンド マップで定義されます。

(次のページへ続く)

**[スタンダード
ルール] タブ (Use
Constant)**

次の図に、Use Constant 機能を選択した場合の [スタンダード ルール] タブを示します。



**[スタンダード
ルール] タブ (Use
Constant) の各部と
機能**

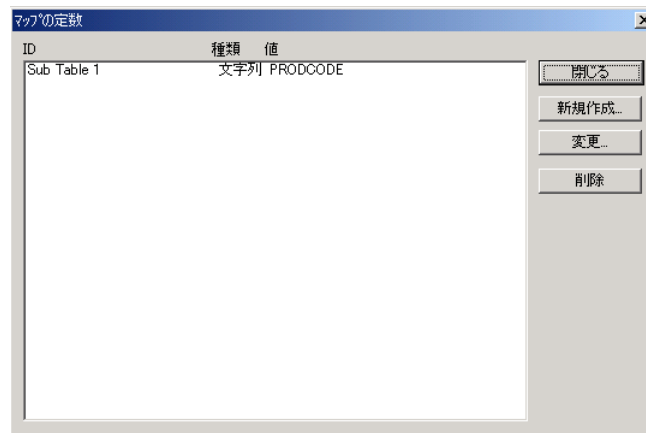
次の表に、[スタンダード ルール] タブ (Use Constant スタンダード ルールが選択されている場合) の各部とその機能を示します。

各部	機能
定数	有効な定数がリストされます。選択した定数が、現在のエレメント、フィールド、または TFD にマッピングされます。 メモ 必要な定数が定数リストにない場合は、[マップの定数] ダイアログ ボックスを使用して作成する必要があります。[マップの定数] ダイアログ ボックスを表示するには、[編集] をクリックします。
編集	[マップの定数] ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスでは、リテラル定数を作成、編集、および削除できます。
修飾子	選択されているマップ コンポーネントとの修飾関係を構築するために使用することができるエレメント、フィールド、または TFD がリストされます。 メモ 修飾されたエレメントがデータ不足のために生成されなかった場合、定数は現在のエレメント、フィールド、または TFD に渡されません。

(次のページへ続く)

[マップの定数] ダイアログ ボックス

次の図に、[マップの定数]ダイアログ ボックスを示します。



[マップの定数] ダイアログ ボックス の各部と機能

次の表に、[マップの定数]ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
定数リスト	現在、システムで定義されているすべてのリテラル定数のリストが表示されます。
閉じる	[マップの定数]ダイアログ ボックスを閉じます。
新規作成	[定数の編集]ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスでは、新しい定数を作成できます。
削除	選択されている定数をシステムから削除します。

(次のページへ続く)

[定数の編集]ダイアログボックス

次に、[定数の編集]ダイアログボックスを示します。



[定数の編集]ダイアログボックスの各部と機能

次の表に、[定数の編集]ダイアログボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
ID	<p>リテラル定数識別子が表示されます。</p> <p>メモ 識別子は、通常、定数が使用されるフィールドまたはエレメントの説明になります。拡張ルールで定数を参照する必要がある場合は、このフィールドのデータを使用します。</p>
種類	<p>このリテラル定数のカテゴリを指定します。有効な選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Integer] (正か負の自然数(分数でない数)または0(ゼロ)である数値定数の場合に選択) ▶ [Real] (明示的な小数点が付けられている、正か負の整数である数値定数の場合に選択) ▶ [String] (英数字定数の場合に選択)
値	<p>実際の定数表現を指定します。</p> <p>メモ この値が、リテラル定数の値になります。</p>

マップ内での定数の使用方法

手順

マップ内で定数を使用するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>既存の要素、フィールド、または TFD をダブルクリックするか、新規作成します。</p> <p>参照 フィールド、要素、および TFD を作成する方法の詳細については、「固定形式ファイルの使い方」、「EDI ファイルの使い方」、および「CII ファイルの使い方」を参照してください。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] (または [要素 プロパティ] か [CII TFD プロパティ]) ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	<p>スタンダード ルールのリストで、[Use Constant] を選択します。</p> <p>システムからの応答 定数オプションが表示されます。</p>
4	<p>現在の要素、フィールド、または TFD に使用する定数を作成または編集する必要があるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成または編集する場合は、[編集] をクリックして、[マップの定数] ダイアログ ボックスを表示します。 <p>参照 定数を作成または編集する方法の詳細については、「リテラル定数の定義方法と編集方法」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成または編集しない場合は、次のステップに進みます。
5	定数のリストで、現在の要素、フィールド、または TFD にマッピングする定数を選択します。
6	<p>現在のマップ コンポーネントと別のコンポーネントとの間に修飾関係を構築するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 修飾関係を構築する場合は、システムがこのスタンダード ルールを実行するかどうかの判断に使用する、要素、フィールド、または TFD を修飾リストから選択します (修飾しているコンポーネントにデータが含まれる場合)。 ▶ 修飾関係を構築しない場合は、次のステップに進みます。
7	[OK] をクリックしてスタンダード ルールを保存し、[プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

修飾関係の定義方法

はじめに

リテラル定数は、マップ内で後で使用する情報を格納するための保存場所としてシステム内で使用されます。通常、定数は、アウトバウンド マップで使用され、修飾子を生成します。修飾子は、コードで表された値を持つエレメントで、このコードにより、別のエレメントの機能に特定の意味を持たせます。修飾関係は、エレメントとその修飾子の相互関係を表します。エレメントの機能は、修飾子に含まれるコードに従って変化します。

この例では、定数を使用して、製品 / サービス ID の修飾子を定義します。

手順

修飾関係を定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>製品 / サービス ID をさらに詳細に定義 (修飾) するために製品 / サービス ID 修飾子をダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [エレメントプロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p>
2	<p>[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。</p>
3	<p>スタンダード ルールのリストで、[Use Constant] を選択します。</p>
4	<p>[編集] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [マップの定数] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
5	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [定数の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
6	<p>[ID] ボックスに、リテラル定数識別子を入力します。</p> <p>メモ 識別子は、通常、定数が使用されるフィールドまたはエレメントの説明になります。拡張ルールで定数を参照する必要がある場合は、このボックスのデータを使用します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	[種類] リストで、[String] を選択します。 メモ 製品 / サービス ID 修飾子の string データ型として、書式化されま す。この操作により、リテラル定数のカテゴリが指定されます。
8	[値] ボックスに、「UI」と入力します。 メモ この操作により、製品 / サービス ID フィールドに UPC コードが 含まれるよう指定されます。この値が、リテラル定数の値になり ます。
9	[OK] をクリックして、システムに定数を追加します。
10	[閉じる] をクリックして、[マップの定数] ダイアログ ボックス を閉じます。
11	修飾リストで、[Product/Service ID] を選択します。このエレメント が、製品 / サービス ID 修飾子によって修飾されます。 メモ このリストには、同じレコードまたはセグメントで、修飾フィー ルドとして "アクティブである" その他のフィールドまたはエレ メントだけがリストされます。
12	[エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスの [OK] をクリック して、2つのエレメントの修飾関係を構築します。

リテラル定数の定義方法と編集方法

手順

リテラル定数を作成または編集して情報を保存するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[編集]メニューで、[Constants]を選択します。 システムからの応答 [マップの定数]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	新しい定数を作成するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、[新規作成]をクリックします。 ▶ 作成しない(既存の定数を編集する)場合は、定数を選択して、[編集]をクリックします。 システムからの応答 [定数の編集]ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[ID]フィールドに、リテラル定数識別子を入力します。
4	[種類]リストで、このリテラル定数のカテゴリを選択します。
5	[値]フィールドに、実際の定数表現を入力します。
6	[OK]をクリックして、システムに定数を追加します。
7	[閉じる]をクリックして、[マップの定数]ダイアログ ボックスを閉じます。

リテラル定数の削除方法

手順

リテラル定数を削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[編集]メニューで、[Constants]を選択します。 システムからの応答 [マップの定数]ダイアログボックスが表示されます。
2	削除する定数を選択します。
3	[削除]をクリックします。 システムからの応答 警告なしに定数が削除されます。

リテラル定数のマッピング方法

手順

拡張ルールにより情報が既に保存されている定数をマッピングするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	定数を使用するエレメント、フィールド、または TFD をダブルクリックします。 システムからの応答 [フィールド プロパティ](または[エレメント プロパティ])か [CII TFD プロパティ]) ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Use Constant] を選択します。
4	定数のリストで、使用する定数を選択します。
5	[OK] をクリックします。 システムからの応答 選択された定数に保存されていたデータが、エレメント、フィールド、または TFD に読み込まれます。

修飾子の生成方法

はじめに

修飾子は、通常、コードで表された値を持つエレメントで、このコードにより、別のエレメントの機能に特別な意味を持たせます。修飾関係は、エレメントとその修飾子の相互関係を表します。エレメントの機能は、修飾子に含まれるコードに従って変化します。

手順

修飾関係を定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	別のエレメントをさらに詳細に定義 (修飾) するためにエレメントをダブルクリックします。 システムからの応答 [エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Use Constant] を選択します。
4	修飾のリストで、このエレメントが修飾するエレメントを選択します。 メモ このリストには、同じレコードまたはセグメントで、修飾エレメントとして "アクティブである" その他のエレメントだけがリストされます。
5	[OK] をクリックします。 システムからの応答 2つのエレメント間に修飾関係が構築されます。

Loop Count スタンダード ルールの使い方

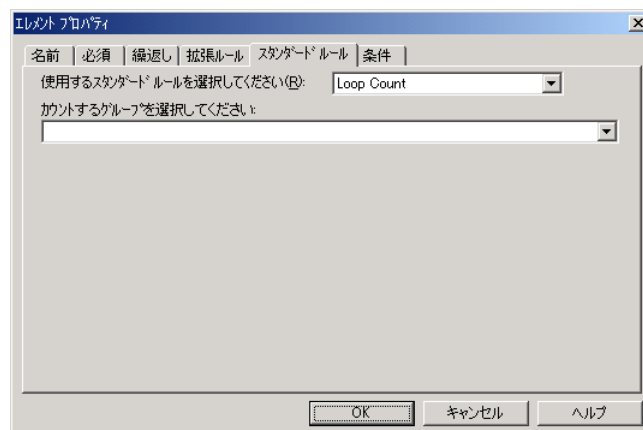
概要

はじめに

Loop Count 機能を使用すると、エレメント、フィールド、または TFD がループに含まれる場合に、ループの繰り返し回数をカウントできます。ループがネストされている場合、現在のループまたはアウターループをトラックできます。たとえば、Y ループが X ループにネストされていて、Y ループが 15 回、また X ループが 3 回繰り返されています。この場合、ユーザーは、15 (Y ループ) または 3 (X ループ) のいずれかをカウントすることができます。

[スタンダード ルール] タブ (Loop Count)

次の図に、Loop Count 機能を選択した場合の [スタンダード ルール] タブを示します。



(次のページへ続く)

**[スタンダード
ルール] タブ
(Loop Count) の
各部と機能**

次の表に、[スタンダード ルール] タブ (Loop Count スタンダード ルールが選択されている場合) の各部とその機能を示します。

各部	機能
グループ	カウントするループが表示されます。 メモ ループがネストされている場合、現在のループまたはアウトーループをトラックできます。 例 Y ループが X ループにネストされていて、Y ループが 15 回、また X ループが 3 回繰り返されています。この場合、ユーザーは、15 (Y ループ) または 3 (X ループ) のいずれかをカウントすることができます。

Loop Count 機能の使用方法

手順

Loop Count 機能を使用するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	既存の要素、フィールド、または TFD をダブルクリックするか、新規作成します。 参照 フィールド、要素、および TFD を作成する方法の詳細については、「 固定形式ファイルの使い方 」、「 EDI ファイルの使い方 」、および「 CII ファイルの使い方 」を参照してください。 システムからの応答 [フィールド プロパティ] (または [要素 プロパティ] か [CII TFD プロパティ]) ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Loop Count] を選択します。
4	カウントするループを選択します。
5	[OK] をクリックして、スタンダード ルールを追加します。

Use Accumulator スタンダード ルールの使い方

概要

はじめに

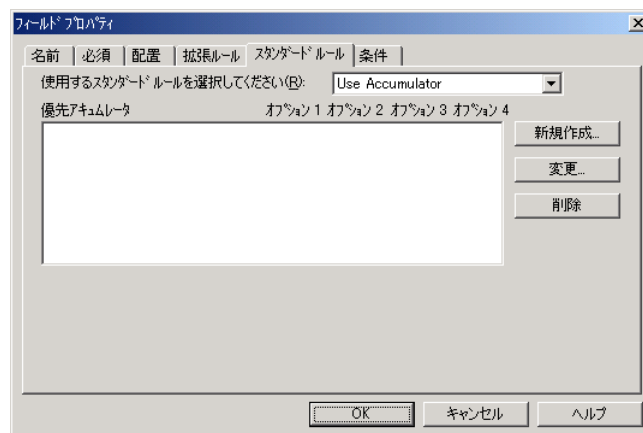
Use Accumulator 機能では、数値演算により操作できる一連の数値変数を利用できます。その後、その変数をフィールド間でやり取りできます。この機能を使用すると、ハッシュトータル(たとえば、数量や価格など数値フィールドの値の累積に使用)を含むエレメント、フィールド、または TFD の計算を追加、変更、または削除できます。また、累積したトータルを Control の総数のフィールドにマッピングし、アキュムレータを使用できます。通常、アキュムレータは、特定のエレメントが実行される回数を数えたり、増加/連続レコード番号またはライン アイテム番号を生成したりするのに使用されます。

メモ

- アキュムレータは、グローバル変数です。
- 計算に使用する前のアキュムレータは、ゼロに設定されています。
- アキュムレータ操作の実行順番は、マップ コンポーネントの階層レベルに従って決定されます。

[スタンダード ルール] タブ (Use Accumulator)

次に、Use Accumulator 機能を選択した場合の [スタンダード ルール] タブを示します。



(次のページへ続く)

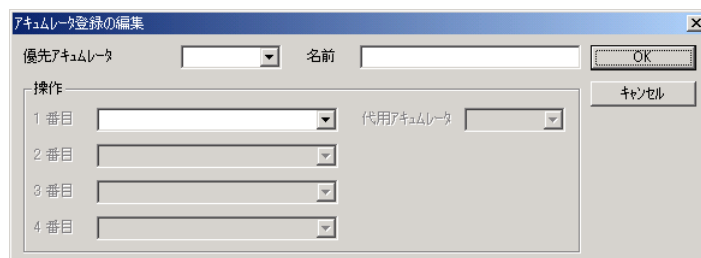
**[スタンダード
ルール] タブ (Use
Accumulator) の
各部と機能**

次の表に、[スタンダード ルール] タブ (Use Accumulator スタンダード ルールが
選択されている場合) の各部とその機能を示します。

各部	機能
優先 アキュムレータ	このエレメント、フィールド、または TFD に作成されて いる既存の計算がすべて表示されます。
新規作成	[アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスが表示 され、このエレメント、フィールド、または TFD に新し い計算を作成できます。
変更	[優先アキュムレータ] リストで計算を反転表示して、こ のボタンをクリックすると、[アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスが表示され、選択した計算を編集で きます。
削除	[優先アキュムレータ] リストで計算を反転表示して、 このボタンをクリックすると、選択した計算が削除され ます。 注意 選択された計算は、警告なしに削除されます。

**[アキュムレータ
登録の編集] ダイ
アログ ボックス**

次に、[アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)

[アキュムレータ登録の編集]ダイアログボックスの各部と機能

次に、[アキュムレータ登録の編集]ダイアログボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
優先 アキュムレータ	<p>優先アキュムレータを指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ アキュムレータでまだ計算が実行されていない場合、アキュムレータのコンテンツは0(ゼロ)です。アキュムレータが使用されると、新しいアキュムレータがこのリストの最後に追加されます。 ▶ アキュムレータは、各マップに1組しか存在しません。つまり、アキュムレータ0は、[優先アキュムレータ]または[代用アキュムレータ]ボックスのどちらで使用されていても、同じコンテンツを持つ同じアキュムレータです。マップの最初で、アキュムレータ0に計算を割り当て、その後、マップ内でアキュムレータ0を使用する場合は、アキュムレータのコンテンツは、前の計算の結果になります。アキュムレータに追加の計算を割り当てると、それ以前の計算により生成されているコンテンツに対して計算が実行されます。
名前	<p>作成するアキュムレータの使用目的を説明する別名が表示されます。</p>
1 番目	<p>最初に行う操作を指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [1 番目]ボックスは、優先アキュムレータを選択するとアクティブになります。 ▶ アキュムレータでまだ計算が実行されていない場合、アキュムレータのコンテンツは0(ゼロ)です。アキュムレータが使用されると、新しいアキュムレータがこのリストの最後に追加されます。 <p>参照 有効なアキュムレータ操作については、「アキュムレータ操作」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 各部	機能
2 番目	<p>最初の操作が完了した後、2 番目に行う操作を指定します。</p> <p>メモ [2 番目] ボックスは、最初の操作に、代用アキュムレータを使用しない操作を選択するとアクティブになります。</p> <p>参照 有効なアキュムレータ操作については、「アキュムレータ操作」を参照してください。</p>
3 番目	<p>2 番目の操作が完了した後、3 番目に行う操作を指定します。</p> <p>メモ [3 番目] ボックスは、2 番目の操作を選択するとアクティブになります。</p> <p>参照 有効なアキュムレータ操作については、「アキュムレータ操作」を参照してください。</p>
4 番目	<p>3 番目の操作が完了した後、4 番目に行う操作を指定します。</p> <p>メモ [4 番目] ボックスは、3 番目の操作を選択するとアクティブになります。</p> <p>参照 有効なアキュムレータ操作については、「アキュムレータ操作」を参照してください。</p>
代用 アキュムレータ	<p>アキュムレータ操作に使用する代用アキュムレータを指定します。</p> <p>メモ [代用アキュムレータ] ボックスは、[1 番目] フィールドで代用被演算子を含む操作が選択されるとアクティブになります。</p> <p>参照 有効なアキュムレータ操作については、「アキュムレータ操作」を参照してください。</p>

アキュムレータ操作

次の表に、有効なアキュムレータ操作とその機能を示します。

各部	機能
Increment primary	優先アキュムレータのコンテンツに 1 を足します (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ + 1)。
Decrement primary	優先アキュムレータのコンテンツから 1 を引きます (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ - 1)。
Sum in primary	優先アキュムレータのコンテンツに、フィールドの数値 (正負記号が有効) を足します (優先アキュムレータ = (+ または -) 優先アキュムレータ + (+ または -) フィールド)。
Hash sum in primary	優先アキュムレータのコンテンツに、フィールドの絶対値 (正負記号が無効) を足します (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ + フィールド)。
Load primary	フィールドのコンテンツを優先アキュムレータに読み込みます (優先アキュムレータ = フィールド)。
Use primary	優先アキュムレータのコンテンツをフィールドに読み込みます (フィールド = 優先アキュムレータ)。
Zero primary	優先アキュムレータの値をゼロに設定します (優先アキュムレータ = 0)。
Multiply with primary	フィールドに優先アキュムレータのコンテンツを掛けて、結果を優先アキュムレータに保存します (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ x フィールド)。
Divide by primary	フィールドを優先アキュムレータのコンテンツで割って、結果を優先アキュムレータに保存します (優先アキュムレータ = フィールド / 優先アキュムレータ)。
Divide primary by field	優先アキュムレータのコンテンツをフィールドで割って、結果を優先アキュムレータに保存します (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ / フィールド)。
Modulo with primary	優先アキュムレータのコンテンツをフィールドのコンテンツで割った " 余り " を優先アキュムレータに保存します (優先アキュムレータ = フィールド % 優先アキュムレータ)。
Modulo with field	フィールドのコンテンツを優先アキュムレータのコンテンツで割った " 余り " を優先アキュムレータに保存します (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ % フィールド)。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
Negate primary	<p>優先アキュムレータのコンテンツの符号を負にします (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ x -1)。</p> <p>メモ フィールドから優先アキュムレータを引く唯一の方法として、この操作を使用して優先アキュムレータの符号を " 負に変えた " 後、Sum in primary 操作を使用して負の優先アキュムレータをフィールドに足します。</p>
Move primary to alternate	<p>優先アキュムレータのコンテンツを代用アキュムレータにコピーします。代用アキュムレータ フィールドの現在のコンテンツを上書きします (代用アキュムレータ = 優先アキュムレータ)。</p>
Add primary to alternate	<p>優先アキュムレータのコンテンツを代用アキュムレータのコンテンツに足して、結果を優先アキュムレータに保存します (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ + 代用アキュムレータ)。</p>
Multiply primary by alternate	<p>優先アキュムレータのコンテンツに代用アキュムレータのコンテンツを掛けて、結果を優先アキュムレータに保存します (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ x 代用アキュムレータ)。</p>
Divide primary by alternate	<p>優先アキュムレータのコンテンツを代用アキュムレータのコンテンツで割って、結果を優先アキュムレータに保存します (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ / 代用アキュムレータ)。</p>
Modulo primary with alternate	<p>優先アキュムレータのコンテンツを代用アキュムレータのコンテンツで割った " 余り " を優先アキュムレータに保存します (優先アキュムレータ = 優先アキュムレータ % 代用アキュムレータ)。</p>

ライン アイテムのカウント方法

はじめに

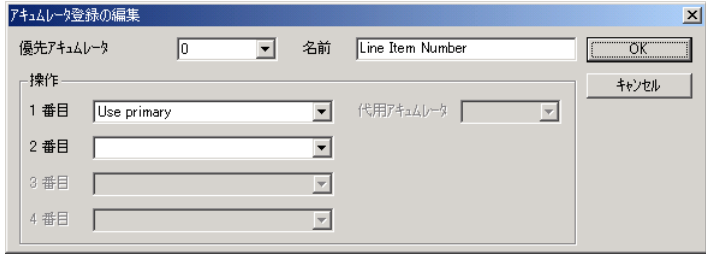
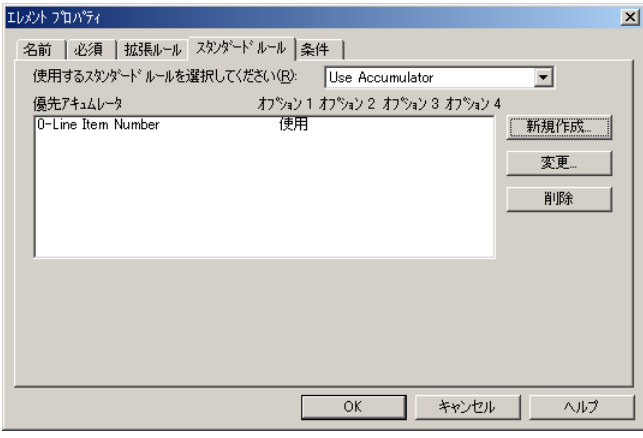
この例では、ライン アイテム番号の連番カウントの合計値をライン アイテム合計の番号のフィールドで使用します。

手順

ライン アイテムをカウントして、アウトバウンド ANSI X12 発注書の Control の総数を生成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>P0101 エレメント (P01 グループの P01 セグメント内) をダブルクリックします。</p> <p>メモ ライン アイテムをカウントする場合は、通常、このエレメントを使用します。</p> <p>システムからの応答 [エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Use Accumulator] を選択します。
4	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスが表示され、このエレメントに新しい計算を作成できます。</p>
5	<p>[優先アキュムレータ] リストで、[0] を選択します。</p> <p>メモ アキュムレータは、各マップに1組しか存在しません。つまり、アキュムレータ 0 は、[優先アキュムレータ] または [代用アキュムレータ] ボックスのどちらで使用されても、同じコンテンツを持つ同じアキュムレータです。マップの最初で、アキュムレータ 0 に計算を割り当て、その後、マップ内でアキュムレータ 0 を使用する場合は、アキュムレータのコンテンツは、前の計算の結果になります。アキュムレータに追加の計算を割り当てると、それ以前の計算により生成されているコンテンツに対して計算が実行されません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>[名前] ボックスに、「Line Item Number」と入力します。</p> <p>メモ この名前は、作成するアキュムレータの使用目的を説明する別名になります。</p>
7	<p>[1 番目] リストで、[Increment Primary] を選択します。ここで選択した操作が、最初に実行されます。この操作により、PO101 エレメントが1 ずつ増加するように指定されます。</p>
8	<p>[2 番目] リストで、[Use primary] を選択します。</p> <p>メモ ここで選択した操作が、最初の操作の完了後、2 番目に実行されます。この操作により、アキュムレータの現在の値を P0101 (割り当てられている ID) エレメントに読み込むように指定されます。</p>
9	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。</p>
10	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスの [OK] をクリックして、スタンダード ルールを P0101 エレメントに追加します。</p>
11	<p>CTT01 エレメント (CTT セグメント内) をダブルクリックします。</p> <p>メモ このエレメントに、通常、ライン アイテムの合計数が含まれています。</p> <p>システムからの応答 [エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
12	<p>[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。</p>
13	<p>スタンダード ルールのリストで、[Use Accumulator] を選択します。</p>
14	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスが表示され、このエレメントに新しい計算を作成できます。</p>
15	<p>[優先アキュムレータ] リストで、優先アキュムレータ [0] を選択します。</p> <p>メモ このアキュムレータに、現在、ライン アイテムの合計数が含まれています。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
16	<p>[1 番目] リストで、[Use primary] を選択します。</p> <p>メモ この操作により、アキュムレータの現在の値を CTT01 (ライン アイテム合計の番号) エレメントに読み込むように指定されます。</p> <p>システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスは、次のようになります。</p> 
17	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。</p> <p>システムからの応答 [スタンダード ルール] タブは、次のようになります。</p> 
18	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスの [OK] をクリックして、スタンダード ルールを CTT01 エレメントに追加します。</p> <p>メモ これで、CTT01 エレメントに発注書のライン アイテムの合計数が含まれます。</p>

ハッシュトータルの計算方法

はじめに

この例では、各ライン アイテムの発注数量をカウントし、合計数量を CTT02 (ハッシュトータル) エlementに読み込みます。

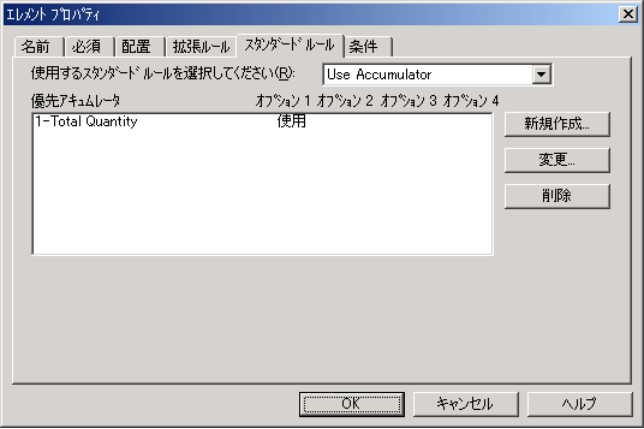
手順

発注数量をカウントして、アウトバウンド ANSI X12 発注書のハッシュトータルを生成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>P0102 エlement (P01 グループの P01 セグメント内) をダブルクリックします。</p> <p>メモ ライン アイテムをカウントする場合は、通常、このElementを使用します。</p> <p>システムからの応答 [Element プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Use Accumulator] を選択します。
4	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスが表示され、このElementに新しい計算を作成できます。</p>
5	[優先アキュムレータ] リストで、[1] を選択します。
6	[名前] ボックスに、「Total Quantity」と入力します。
7	<p>[1 番目] リストで、[Hash Sum in Primary] を選択します。</p> <p>メモ ここで選択した操作が、最初に実行されます。この操作により、P0102 Elementの数値が優先アキュムレータのコンテンツに追加されるように指定されます。</p>
8	[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。
9	<p>[Element プロパティ] ダイアログ ボックスの [OK] をクリックして、スタンダード ルールを P0102 Elementに追加します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
10	CTT02 エlement (CTT セグメント内) をダブルクリックします。 メモ このElementに、通常、発注書の合計数量が含まれています。 システムからの応答 [Elementプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
11	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
12	スタンダード ルールのリストで、[Use Accumulator] を選択します。
13	[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスが表示され、このElementに新しい計算を作成できます。
14	[優先アキュムレータ] リストで、優先アキュムレータ [1] を選択します。 メモ このアキュムレータに、現在、合計数量が含まれています。
15	[1 番目] リストで、[Use primary] を選択します。 メモ この操作により、アキュムレータの現在の値が CTT02 (ハッシュトータル) Elementに読み込まれるように指定されます。 システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスは、次のようになります。 <div data-bbox="619 1435 1329 1688" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div>

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
16	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。</p> <p>システムからの応答 [スタンダード ルール] タブは、次のようになります。</p>  <p>The screenshot shows a dialog box titled 'エレメント プロパティ' (Element Properties) with a tab for 'スタンダード ルール' (Standard Rules). A dropdown menu is set to 'Use Accumulator'. Below it, a table lists '優先アキュムレータ' (Priority Accumulators) with columns for 'オプション 1' through 'オプション 4'. The entry '1-Total Quantity' has '使用' (Use) checked under 'オプション 1'. Buttons for '新規作成...' (New), '変更...' (Change), and '削除' (Delete) are on the right. 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help) buttons are at the bottom.</p>
17	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスの [OK] をクリックして、スタンダード ルールを CTT02 エレメントに追加します。</p> <p>メモ これで、CTT02 エレメントに発注書の合計数量が含まれます。</p>

合計値のリセット方法および計算方法

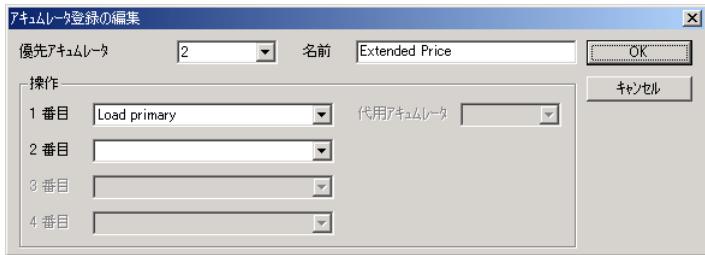
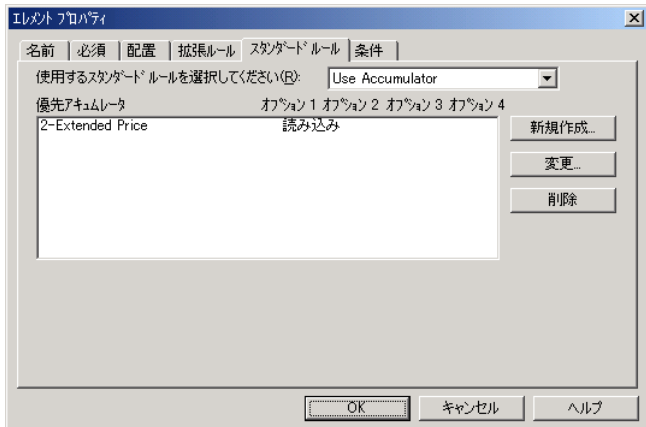
はじめに

この例では、各ライン アイテムの請求数量に単価を掛けて、合計金額を計算します。次に、現行の総合計金額を生成し、最終の合計を TDS01 (合計請求額) エレメントに読み込みます。

手順：請求数量と単価の掛け算

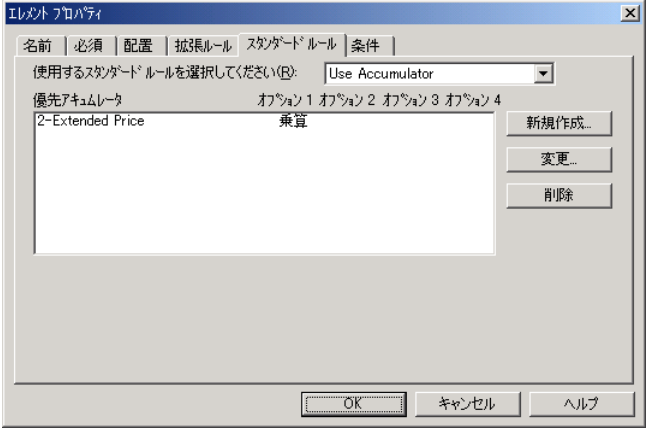
各ライン アイテムの請求数量に単価を掛けて、アウトバウンド ANSI X12 請求書の合計金額を計算するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	IT102 エレメント (IT1 グループの IT1 セグメント内) をダブルクリックします。 メモ 請求数量をカウントする場合は、通常、このエレメントを使用します。 システムからの応答 [エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Use Accumulator] を選択します。
4	[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスが表示され、このエレメントに新しい計算を作成できます。
5	[優先アキュムレータ] リストで、[2] を選択します。
6	[名前] ボックスに、「Extended Price」と入力します。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	<p>[1 番目] リストで、[Load primary] を選択します。</p> <p>メモ この操作により、IT1 グループが繰り返される度に、エレメントのコンテンツが優先アキュムレータに読み込まれるように指定されます。</p> <p>システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスは、次のようになります。</p> 
8	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。</p> <p>システムからの応答 [スタンダード ルール] タブは、次のようになります。</p> 
9	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスの [OK] をクリックして、スタンダード ルールを IT102 エレメントに追加します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

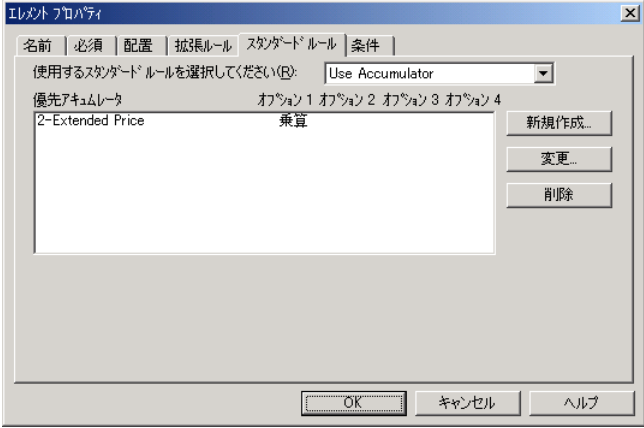
(続き) ステップ	操作
10	IT104 エlement (IT1 グループの IT1 セグメント内) をダブルクリックします。 メモ このElementに、各ライン アイテムの単価が含まれています。 システムからの応答 [Element プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
11	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
12	スタンダード ルールのリストで、[Use Accumulator] を選択します。
13	[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスが表示され、このElementに新しい計算を作成できます。
14	[優先アキュムレータ] リストで、優先アキュムレータ [2] を選択します。
15	[1 番目] リストで、[Multiply with primary] を選択します。 メモ この操作により、IT1 グループが繰り返される度に、IT104 (単価) Elementの値に優先アキュムレータのコンテンツが掛けられて、その結果が優先アキュムレータに保存されるように指定されます。 システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスは、次のようになります。 <div data-bbox="619 1413 1329 1666" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div>

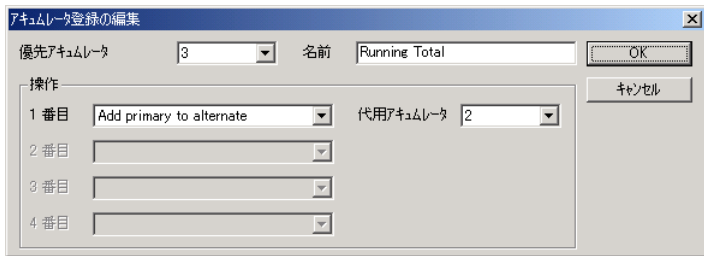
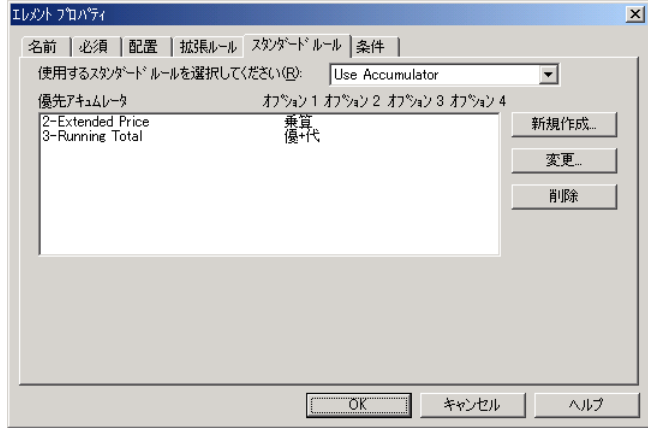
(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
16	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。</p> <p>システムからの応答 [スタンダード ルール] タブは、次のようになります。</p> 
17	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスの [OK] をクリックして、スタンダード ルールを IT104 エレメントに追加します。</p> <p>ヒント 合計金額エレメントが EDI ファイルに存在する場合は、計算した総合計金額を合計金額エレメントに読み込むことができます。総合計金額を読み込むには、合計金額エレメントのアキュムレータを使用し、アキュムレータ 2 に [Use primary] を指定する必要があります。</p>

**手順：現行の総合計
金額の生成**

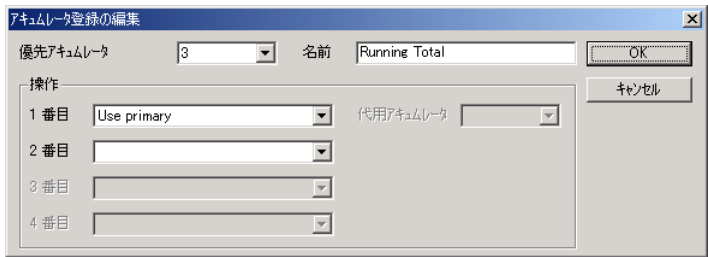
現行の総合計金額を生成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>IT104 エレメント (IT1 グループの IT1 セグメント内) をダブルクリックします。</p> <p>メモ このエレメントに、各ライン アイテムの単価が含まれています。</p> <p>システムからの応答 既に1つのアキュムレータが設定済みで、[スタンダード ルール] タブのリストに表示されています。</p> 
2	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスが表示され、このエレメントに新しい計算を作成できます。</p>
3	<p>[優先アキュムレータ] リストで、[3] を選択します。</p>
4	<p>[名前] ボックスに、「Running Total」と入力します。</p>
5	<p>[1 番目] リストで、[Add primary to alternate] を選択します。</p> <p>メモ この操作により、IT1 グループが繰り返される度に、優先アキュムレータのコンテンツが代用アキュムレータのコンテンツに追加され、その結果が優先アキュムレータに保存されるように指定されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

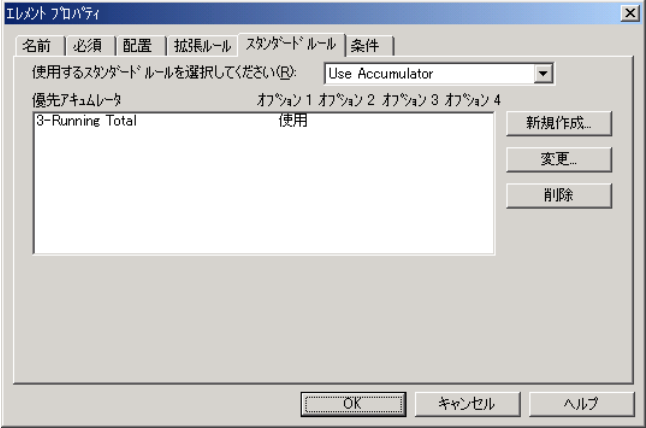
(続き) ステップ	操作
6	<p>[Alternate Accum] リストで、[2] を選択します。</p> <p>メモ この操作により、アキュムレータ 2 (ライン アイテムの合計金額が含まれる) の値がアキュムレータ 3 の値に追加されるように指定されます。合計は、アキュムレータ 3 に保存されます。このため、IT1 グループが繰り返される度に、現行の総合計金額がアキュムレータ 3 に含まれます。</p> <p>システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスは、次のようになります。</p> 
7	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。</p> <p>システムからの応答 [スタンダード ルール] タブは、次のようになります。</p> 
8	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスの [OK] をクリックして、スタンダード ルールを IT104 エレメントに追加します。</p>

手順：現行の総合計金額の読み込み

現行の総合計金額を TDS01 (合計請求額) エlement に読み込むには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	TDS01 エlement をダブルクリックします。 メモ このElement に、各ライン アイテムの合計請求額が含まれています。 システムからの応答 [Element プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Use Accumulator] を選択します。
4	[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスが表示され、このElement に新しい計算を作成できます。
5	[優先アキュムレータ] リストで、[3] を選択します。
6	[1 番目] リストで、[Use primary] を選択します。 メモ この操作により、優先アキュムレータのコンテンツが TDS01 (合計請求額) Element に読み込まれるように指定されます。 システムからの応答 [アキュムレータ登録の編集] ダイアログ ボックスは、次のようになります。 

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
7	<p>[OK] をクリックして、アキュムレータを追加します。</p> <p>システムからの応答 [スタンダード ルール] タブは、次のようになります。</p> 
8	<p>[エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスの [OK] をクリックして、スタンダード ルールを TDS01 エレメントに追加します。</p>

Use Code スタンダード ルールの使い方

概要

はじめに

Use Code 機能を使用すると、定義済みコード テーブルに対して、エレメント、フィールド、または TFD を照合させたり、マップ コンポーネントにコード テーブルの値が 1 つも含まれていない場合に、エラーを生成するかどうかを指定したりできます。この機能により、他のエレメント、フィールド、または TFD にコードの説明を格納することもできます。また、一意のコード テーブルを作成したり、コード テーブルからコード値を使用したり、また、コード テーブルと照合する検証に失敗した場合にエラーを生成するかどうかを示すフラグを付けたりできます。さらに、コードリストをインポートまたはエクスポートしたり、コードリストをマップ間でコピーおよび貼り付けたりすることもできます。

Gentran:Server アプリケーション サブシステムでは、現在のマップに使用されるコード テーブルを作成できます。アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、コード テーブルを設定でき、**Gentran:Server** のパートナー クロスリファレンス テーブルや照合テーブルのように機能させることができます。ただし、アプリケーション サブシステムで設定されたコード テーブルは、現在のマップにしか使用できません。一方、**Gentran:Server** で作成されたコード テーブルは、すべてのマップにグローバルに使用できます。

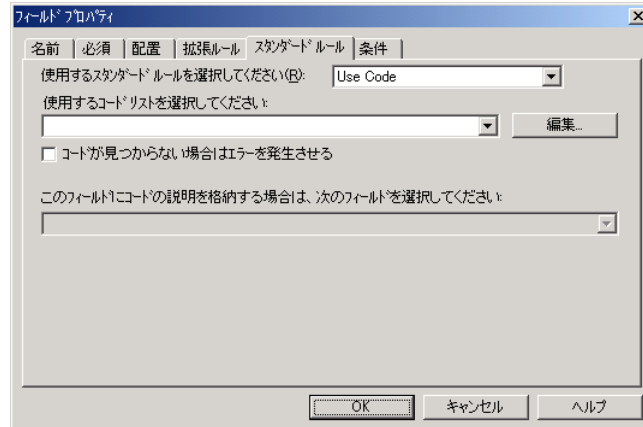
コードリスト テーブルは、コードのリストの保管場所として、EDI スタンダードによって使用されます。各 EDI スタンダードによって、追加定義される各エレメントのコードリストにコードが追加されます。**Gentran:Server** では、スタンダードからコードリストを読み込みます。テーブル内のすべてのコードを読み込むか、1 つまたは複数のコードだけをテーブルから選択できます。コード テーブルを一度読み込むと、Use Code スタンダード ルールを使用して、コード テーブルから値を検索したり、エレメント、フィールド、または TFD のコンテンツをコード テーブルの値と照合して検証できます。

エレメント、フィールド、または TFD が Use Code ルールを使用する場合は、指定したコード テーブルのコードと値を照合したり、コード テーブルのコードから値を選択できます。コードは通常、他のエレメントをさらに詳細に修飾するために使用されます。たとえば、XX エレメントには住所情報が含まれていません。0222 テーブルから、コード SU を選択することで、このエレメントをさらに詳細に修飾することができます。0222 テーブルで、コード SU は "供給元" として記述されています。このため、このコードを XX エレメントに使用することで、XX エレメントが、ただの住所情報ではなく、"供給元" の住所情報であることを示すことができます。

(次のページへ続く)

**[スタンダード
ルール] タブ (Use
Code)**

次に、Use Code 機能を選択した場合の [スタンダード ルール] タブを示します。



**[スタンダード
ルール] タブ (Use
Code) の各部と
機能**

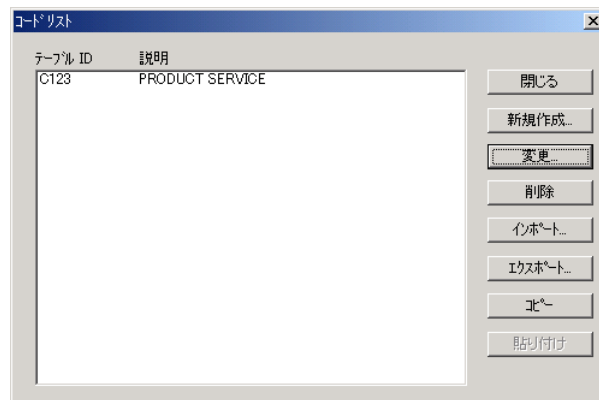
次の表に、[スタンダード ルール] タブ (Use Code スタンダード ルールが選択されている場合) の各部とその機能を示します。

各部	機能
コードリスト	すべてのコード テーブルが表示されます。 メモ 必要なコード テーブルがリストされていない場合は、 [編集] をクリックして、コード テーブルを読み込むか作成します。
編集	[コードリストの編集] ダイアログ ボックスが表示され、コードリスト テーブルを作成および編集できます。
エラーを発生させる	適合性の理由から、エレメント、フィールド、または TFD には、指定されたテーブルのいずれかのコードが含まれている必要がある (これ以外の値は、フィールドで有効ではない) ことを示します。 例 [YES] または [NO] だけが入るようにフィールドを定義する場合、[YES] および [NO] だけを含む排他的なコード テーブルを設定できます。たとえば、このフィールドに "MAYBE" が受信されると、フィールドにエラーのフラグが付きます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
コードの説明	<p>選択時に (使用中の) コードの説明が表示されるエレメント、フィールド、または TFD が表示されます。</p> <p>例 コードが SU の場合、コードの説明 (供給元の住所) を表示すると、さらに便利になります。エレメント "XX" を説明の保存リストから選択した場合は、使用されているコードの説明がエレメント "XX" にマッピングされます。</p>

コードリスト ダイアログボックス

次に、[コードリスト] ダイアログボックスを示します。



(次のページへ続く)

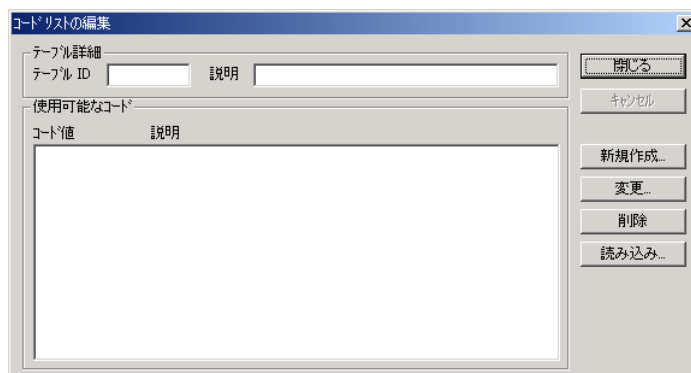
**コードリストの編集
ダイアログボックス
の各部と機能**

次の表に、[コードリストの編集]ダイアログボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
テーブルリスト	テーブル識別子を指定します。
新規作成	[コードリストの編集]ダイアログボックスが表示され、新しいコードリストを作成できます。
変更	[コードリストの編集]ダイアログボックスが表示され、選択したコードリストを編集できます。
削除	選択したコードリストを削除します。
インポート	[開く]ダイアログボックスが表示され、コードリストをインポートできます。
エクスポート	[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示され、選択したコードリストをエクスポートできます。
コピー	選択したコードリストをコピーします。
貼り付け	コピーしたコードリストをマップに貼り付けます。

**コードリストの編集
ダイアログボックス**

次に、[コードリストの編集]ダイアログボックスを示します。



(次のページへ続く)

コードリストの編集 ダイアログボックス の各部と機能

次の表に、[コードリストの編集]ダイアログボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
テーブル ID	このコードリスト テーブルを使用するフィールドまたはエレメントの名前が表示されます。
説明	このコードリスト テーブルを使用するフィールドまたはエレメントの説明が表示されます。
使用可能なコード	このテーブルに使用可能なコードを指定します。
新規作成	[コードリスト登録の編集]ダイアログボックスが表示され、新しいコードを作成できます。
変更	[コードリスト登録の編集]ダイアログボックスが表示され、選択したコードを編集できます。
削除	[コードリスト登録の編集]ダイアログボックスが表示され、選択したコードを削除できます。
読み込み	[コードリストの読み込み]ダイアログボックスが表示され、スタンダード コード テーブルから、読み込む特定のコードを選択するか、コードリスト全体を選択できます。

[コードリスト登録 の編集]ダイアログ ボックス

次に、[コードリスト登録の編集]ダイアログボックスを示します。

(次のページへ続く)

**コードリスト登録の
編集ダイアログ
ボックスの各部と
機能**

次の表に、[コードリスト登録の編集]ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
値	コードの実際の値を指定します。
説明	コード値の説明が表示されます。 メモ この説明は、コードの説明をマッピングするエレメントまたはフィールドを ([フィールド プロパティ]ダイアログボックスの [Store Fields] リストで) 指定した場合に使用されます。

コードリスト テーブルと照合するデータの検証方法

はじめに

この例では、ユーザーは、Product/Service ID を製品 / サービス ID からマップのアプリケーション側の customer product code (CUSTPROCEDURE) フィールドにマッピングする必要があります。Product/Service ID エlementからマッピングされたデータが、パートナーの customer product code であることを確認するために、Product/Service ID "Qualifier" の付いたコード テーブルを構築および使用する必要があります。

手順

コードリスト テーブルと照合して、Product/Service ID のフィールドのデータを検証するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>Product/Service ID Qualifier Elementのコードリスト テーブルをスタンダードから読み込みます。</p> <p>参照 コード テーブルを読み込む方法の詳細については、「スタンダードからのコードリスト テーブルの読み込み方法」を参照してください。</p> <p>メモ スタンダードからは、そのスタンダードを使用するElementのコードリスト テーブルだけが供給されます。たとえば、TD4 セグメントの TD401 (特別処理コード) や TD403 (有害物質クラスコード) には、スタンダードから読み込まれたコード テーブルがあります。</p>
2	<p>コード値 BP (バイヤーの部品番号) だけを含む、Product/Service ID Qualifier Elementのコードリスト テーブルを定義します。</p> <p>参照 コード テーブルを定義する方法の詳細については、「コードリストの定義方法と修正方法」を参照してください。</p>
3	<p>コード テーブルと照合してデータを検証する必要があるElementをダブルクリックします (Product/Service ID 修飾子)。</p> <p>システムからの応答 [Element プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>
5	<p>スタンダード ルールのリストで、[Use Code] を選択します。</p>

(続き) ステップ	操作
6	コードリストで、このフィールドのデータと照合して検証するコードリスト テーブルを選択します (0235)。
7	適合性の理由から、エレメントに、指定されたテーブルのいずれかのコードが含まれている必要がある (これ以外の値は、フィールドで有効ではない) ことを指定する場合は、エラー チェック ボックスをオンにします。
8	[OK] をクリックして、フィールドにこのスタンダード ルールを追加します。

コードリストの定義方法と修正方法

手順

コードリスト テーブルを定義または修正するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[編集]メニューで、[コードリスト]を選択します。 システムからの応答 [コードリスト]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	新しいコードリストを作成するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、[新規作成]をクリックします。 ▶ 作成しない(コードリストを編集する)場合は、コードリストを選択して、[編集]をクリックします。 システムからの応答 [コードリストの編集]ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[テーブルID]に、このコードリスト テーブルを使用するフィールドまたはエレメントの名前を入力します。
4	[説明]ボックスに、このコードリスト テーブルを使用するフィールドまたはエレメントの説明を入力します。
5	新しいコードを作成するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、[新規作成]をクリックします。 ▶ 作成しない(コードを編集する)場合は、コードを選択して、[変更]をクリックします。 システムからの応答 [コードリスト登録の編集]ダイアログ ボックスが表示されます。
6	[値]ボックスに、コードの実際の値を入力します。
7	[説明]ボックスに、コード値の説明を入力します。
8	[OK]をクリックして、コードリストの登録を保存します。
9	コードリスト テーブルにコードリスト登録をさらに追加するには、ステップ5～8を繰り返します。
10	[閉じる]をクリックして保存し、[コードリストの編集]ダイアログ ボックスを閉じます。
11	[閉じる]をクリックして、[コードリスト]ダイアログ ボックスを閉じます。

コードリストまたはコードリスト 登録の削除方法

手順：コードリスト の削除

コードリスト テーブルを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[編集] メニューで、[コードリスト] を選択します。 システムからの応答 [コードリスト] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	削除するコードリストを選択します。
3	[削除] をクリックして、コードリスト テーブルを削除します。 システムからの応答 警告なしに選択されたテーブルが削除されます。

手順：コードリスト 登録の削除

コードリスト 登録を削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[編集] メニューで、[コードリスト] を選択します。 システムからの応答 [コードリスト] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 登録を削除するコードリストを選択します。 ▶ [変更] をクリックします。 システムからの応答 [コードリスト 登録の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	登録を選択して [削除] をクリックし、登録を削除します。 システムからの応答 警告なしに選択された登録が削除されます。
4	[OK] をクリックして、コードリスト テーブルを保存します。

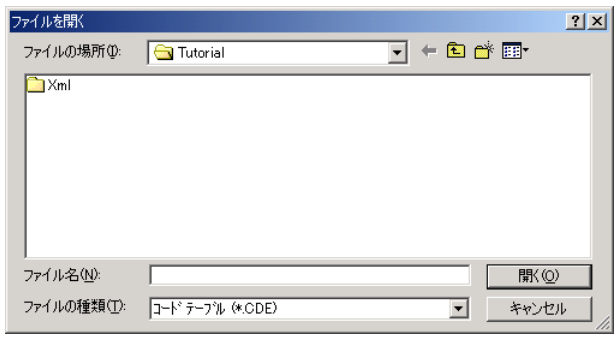
コードリストのインポート方法

はじめに

"コードリストのインポート" 機能では、別のマップに作成しているコードリストをインポートして、他の Gentran:Server ユーザーとコードリストを共有することができます。

手順

コードリスト テーブルをインポートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[編集] メニューで、[コードリスト] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [コードリスト] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[インポート] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [ファイルを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
3	<p>コードリスト ファイルの場所を選択します。</p> <p>メモ 既定の場所は、Application Integration install フォルダです (既定値は [GENSRVNT])。コードリストの既定のファイル拡張子は .CDE です。</p>
4	<p>リストからコードリスト ファイルを選択して、[開く] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 コードリストがインポートされ、[コードリスト] ダイアログ ボックスに戻ります。インポートしたコードリストが使用可能になります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	[OK] をクリックして、[コードリスト] ダイアログ ボックスを閉じます。

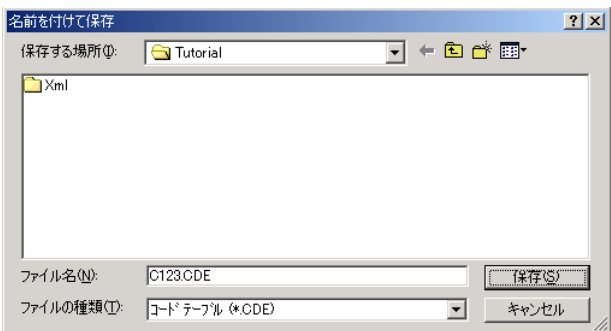
コードリストのエクスポート方法

はじめに

"コードリストのエクスポート"機能では、コードリストをファイルにエクスポートできます。この機能により、あるマップに定義したコードリストを別のマップで使用できます。また、コードリストを他の Gentran:Server ユーザーと共有することもできます。

手順

コードリスト テーブルをエクスポートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[編集]メニューで、[コードリスト]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [コードリスト]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>コードリストを選択して、[エクスポート]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [名前を付けて保存]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
3	<p>名前を変更するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更する場合は、[ファイル名]ボックスにエクスポート ファイル名を入力します。 ▶ 変更しない場合は、次のステップに進みます。 <p>メモ .CDE ファイル拡張子の付いたテーブル ID が、既定のファイル名になります。既定の場所は、Application Integration install フォルダです (既定値は [GENSRVNT])。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	[保存] をクリックします。 システムからの応答 コードリストがエクспортされ、[コードリスト] ダイアログボックスに戻ります。
5	[閉じる] をクリックして、[コードリスト] ダイアログボックスを閉じます。

スタンダードからのコードリスト テーブルの読み込み方法

手順

スタンダードからコードリスト テーブルを読み込むには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>コード テーブルを使用する必要があるエレメントをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [エレメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ スタンダードからは、そのスタンダードを使用するエレメントのコードリスト テーブルだけが読み込まれます。たとえば、TD4 セグメントの TD401 (特別処理コード) や TD403 (有害物質クラスコード) には、スタンダードから読み込まれたコード テーブルがあります。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Use Code] を選択します。
4	<p>[編集] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [コードリストの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
5	<p>[読み込み] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 EDI スタンダードにアクセスするためのデータ ソース名 (DSN) を選択するよう求められます。</p>
6	<p>適切な DSN を選択し、[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [コードリストの読み込み] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	<p>読み込む特定のコードを選択するか、コードリスト全体を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 特定のコードだけを選択するには、[スタンダードのコード] リストで、読み込むコードを反転表示します。[追加] をクリックして、[選択されたコード] リストに移動します。 ▶ コードリスト全体を読み込むには、[すべて 追加] をクリックしてすべてのコードを選択し、[選択されたコード] リストに移動します。 <p>推奨事項 自社およびトレーディング パートナーが作成または受け入れることができるコードだけを追加してください。[すべて 追加] を使用して、コード テーブルのコードすべてを追加すると、選択したコードだけを使用する場合と比べて、トランスレーション オブジェクトが非常に大きくなります。</p>
8	[OK] をクリックして、コードリストを読み込みます。
9	[閉じる] をクリックして、[コードリスト] ダイアログ ボックスを閉じます。

コードリストのコピー方法と貼り付け方法

はじめに

"コードリストのコピーと貼り付け"機能では、マップからマップにコードリストをコピーできます。

手順

コードリスト テーブルをコピーおよび貼り付けるには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[編集]メニューで、[コードリスト]を選択します。 システムからの応答 [コードリスト]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	コードリストを選択して、[コピー]をクリックします。 システムからの応答 コードリストがクリップボードにコピーされます。
3	[閉じる]をクリックして、[コードリスト]ダイアログ ボックスを閉じます。
4	コードリストを使用するマップを開きます(マップが開いていない場合)。
5	[編集]メニューで、[コードリスト]を選択します。 システムからの応答 [コードリスト]ダイアログ ボックスが表示されます。
6	[貼り付け]をクリックします。 システムからの応答 コピーされたコードリストがこのマップに追加されます。
7	[閉じる]をクリックして、[コードリスト]ダイアログ ボックスを閉じます。

コードリスト テーブルと照合するデータの検証方法

手順

コードリスト テーブルと照合してデータを検証するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>コード テーブルと照合してデータを検証する必要があるエレメントをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [エレメントプロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ スタンダードからは、そのスタンダードを使用するエレメントのコードリスト テーブルだけが読み込まれます。たとえば、TD4 セグメントの TD401 (特別処理コード) や TD403 (有害物質クラスコード) には、スタンダードから読み込まれたコード テーブルがあります。</p>
2	<p>[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。</p>
3	<p>スタンダード ルールのリストで、[Use Code] を選択します。</p>
4	<p>コードリストで、このエレメントのデータと照合して検証するコードリスト テーブルを選択します (0235)。</p> <p>メモ リストに何も表示されない場合は、コード テーブルを読み込む必要があります。</p> <p>参照 詳細については、「スタンダードからのコードリスト テーブルの読み込み方法」を参照してください。</p>
5	<p>適合性の理由から、エレメントに、指定されたテーブルのいずれかのコードが含まれている必要がある (これ以外の値は、フィールドで有効ではない) 場合は、エラー チェックボックスをオンにします。</p>
6	<p>[OK] をクリックして、エレメントにこのスタンダード ルールを追加します。</p>

コード アイテムの説明のマッピング方法

手順

コード アイテムの説明をマッピングするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>コードの説明をマッピングする必要があるエレメントをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [エレメントプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Use Code] を選択します。
4	<p>コードリストで、このエレメントのデータと照合して検証するコードリスト テーブルを選択します (0235)。</p> <p>メモ リストに何も表示されない場合は、コード テーブルを読み込む必要があります。</p> <p>参照 詳細については、「スタンダードからのコードリスト テーブルの読み込み方法」を参照してください。</p>
5	適合性の理由から、エレメントに、指定されたテーブルのいずれかのコードが含まれている必要がある (これ以外の値は、フィールドで有効ではない) 場合は、エラー チェックボックスをオンにします。
6	説明の保存リストから、選択時に (使用中の) コード アイテムの説明がマッピングされるエレメントを選択します。
7	[OK] をクリックして、エレメントにこのスタンダード ルールを追加します。

インポート処理の設定

目次

- ▶ 概要 2
- ▶ データのインポート 3
- ▶ システム構成の修正方法 5
- ▶ システム インポート マップの作成方法 6
- ▶ 6つのフィールド キーの定義方法 8
- ▶ 代用キーの定義方法 15
- ▶ システム インポート トランスレーション オブジェクトの
コンパイル方法 22

概要

はじめに

インポート処理は、アウトバウンド トランスレーション処理の一環として実行されます。アウトバウンド トランスレーション処理では、ドキュメントをパートナーへ送信できるように、自社で使用されているアプリケーション ファイル形式が EDI スタンダード形式にトランスレーションされます。

インポート トランスレーション オブジェクト

アウトバウンド データをトランスレーションするには、Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムでインポート トランスレーション オブジェクトとシステム インポート トランスレーション オブジェクトを作成する必要があります。インポート トランスレーション オブジェクトは、自社のアプリケーション ファイル (複数のドキュメントで構成される場合もある) のデータを、パートナーが受け取る EDI 標準形式ドキュメントへ変換する方法を定義します (テキスト形式のファイル定義)。

システムインポート トランスレーション オブジェクト

ドキュメントの処理に使用するインポート トランスレーション オブジェクトをシステムが特定できるように、アプリケーション ファイル内の各ドキュメントに対応する取引関係 (パートナー エディタで作成) を指定するシステム インポート トランスレーション オブジェクトを作成する必要があります。

データのインポート

はじめに

インポート処理では、指定されたアプリケーション ファイルが **Gentran:Server** によってワークスペースにインポートされます。インポート ファイルには、複数のトレーディング パートナーへ送信するために必要な複数のテキスト形式のファイル定義 (ドキュメント) を含めることができます。

インポートできるファイル

トランザクション データ ファイル (TDF) を含め、あらゆる種類のテキスト形式のファイルをインポートできます。TDF とは、テキスト形式のファイルで記述された EDI 標準ドキュメントです。テキスト形式のファイルでは、キャリッジリターンとライン フィールドで区切られた、複数のレコード タイプ (1 つ以上のレコード定義) とレコードを含めることができます。

制限

EDI またはフィールドで区切られたファイルをインポートすることはできません。インポート ファイルのフィールドおよびレコード長は、アプリケーション インテグレーション サブシステムのアプリケーション ファイル定義で指定されます。インポート ファイルのフィールド最大長は、そのフィールドの [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスで指定されている最大長 (Max) を超えないようにする必要があります。また、インポート ファイルのレコード最大長は、そのレコードの [ファイル書式プロパティ] ダイアログ ボックスで指定されているレコード長を超えないようにする必要があります (レコード長が指定されている場合)。システムの既定は、可変長レコードです。[固定長ファイルプロパティ] ダイアログ ボックスで、レコードの区切文字を指定する場合、インポート ファイルのレコードはそれらの区切文字で開始および終了する必要があります。レコードの区切文字を指定しない場合、既定の区切文字はキャリッジリターンとライン フィールドになります。

取引関係の特定

システムは、ドキュメントの処理に使用するインポート トランスレーション オブジェクトを特定するため、まずアプリケーション ファイル内の各ドキュメントに対応する取引関係 (パートナー エディタで作成) を特定する必要があります。したがって、各アプリケーション ファイルには、対応するシステム インポート マップが含まれている必要があります。アプリケーション ファイルに含まれる各ドキュメントについては、システム インポート トランスレーション オブジェクトによってパートナーが識別され、該当する取引関係が特定されます。特定されたパートナーの取引関係には、インポート トランスレーション オブジェクトが関連付けられている必要があります。

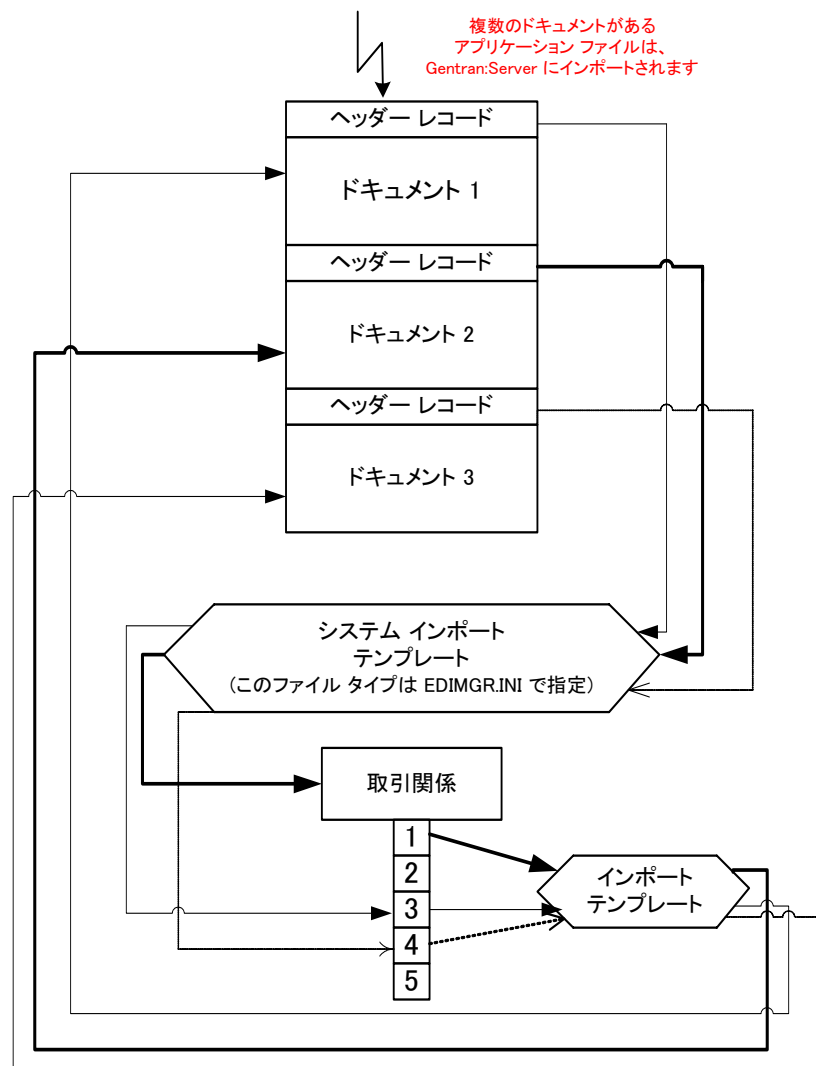
(次のページへ続く)

ドキュメントのトランスレーション

システム インポート トランスレーション オブジェクトによって、ドキュメントに対応する取引関係が特定されると、その取引関係に指定されたインポート トランスレーション オブジェクトが確定します。トランスレータは特定されたインポート トランスレーション オブジェクトを使用して、ドキュメントをトランスレーションします。適合している (有効な) ドキュメントは、ワークスペースへ移動します。適合していない (無効な) ドキュメントは、[?アウト ドキュメント]へ移動します。アプリケーション ファイル内にまだドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントが処理されるまでこの手順が繰り返されます。

インポート処理の図

次に、インポート処理 (トランスレータを除く) を示します。



システム構成の修正方法

はじめに

ファイルをインポートすると、システムによってシステム構成プログラム (Gentran:Server に装備) の [インポート] タブがチェックされ、そのファイルが登録済みのシステム インポート トランスレーション オブジェクトに適合するかが確認されます。システム管理者は、場合によってインポート ファイルとシステム インポート トランスレーション オブジェクトとの適合関係をシステム構成プログラムに追加する必要があります。

参照

インポート指定の定義および修正の詳細については、『管理 ガイド』の「[インポート指定の編集方法](#)」を参照してください。

システム インポート マップの作成方法

はじめに

システム インポート マップは、システムがドキュメント (テキスト形式のファイル定義) のパートナー関係を探し出し、データのトランスレーションに使用されるインポート マップを特定するために使用されます。システム インポート マップは、トランスレータがパートナー関係を特定するために使用するキーを作成します。システム インポート マップは、適切なパートナー関係を特定するだけで、実際にデータをマッピングすることはありません。

キーの作成 : 方法 1

システム インポート マップでキーを作成するには、2 通りの方法があります。推奨する方法では、ヘッダーレコードに EDI 固有フィールドが 6 つ必要です。それらのフィールドとは、パートナー キー、スタンダード、バージョン、トランザクション セット、リリース (TRADACOMS のみで使用)、およびテスト / 本番ステータスです。これら 6 つのフィールドの組み合わせにより、適切なパートナー関係を特定する一意のキーが定義されます。キーの作成には、柔軟性があるこの方法を推奨します。通常この方法は、自社アプリケーションを最初から定義し、ヘッダーレコードにまだ作成していない EDI 固有フィールドを単純に追加する場合に使用します。

キーの作成 : 方法 2

2 番目の方法では、ヘッダーレコードに 3 つのフィールド (パートナー キー、アプリケーション ID またはアプリケーション エイリアスバリュー、およびテスト / 本番ステータス) を定義するだけでよいので、最初の方法よりキーの作成が簡単です。これら 3 つのフィールドの組み合わせにより、適切なパートナー関係を特定する一意のキーが指定されます。ただし、キーの作成に 3 つのフィールドの組み合わせしか使用できないため、この方法は推奨する方法に比べて柔軟性はありません。通常この方法は、自社でレガシ (既存の) アプリケーション定義を使用しており、EDI 固有の情報を追加したくない場合に使用します。

(次のページへ続く)

**手順：システム
インポート マップ
の作成**

システム インポート マップを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ファイル]メニューの[新規作成]を選択します。 システムからの応答 [新規マップウィザード]が表示されます。
2	マップタイプのリストで、[システム インポート]を選択します。
3	[名前]ボックスに、マップの名前を入力します。
4	マップの名前が[名前]ボックスに入力されていることを確認して、[次へ]をクリックします。 システムからの応答 [新規マップウィザード-入力書式]ダイアログボックスが表示されます。
5	[新しいデータ形式を作成]リストで[固定長]を選択してから、[次へ]をクリックします。 システムからの応答 [新規マップウィザード-出力書式]ダイアログボックスが表示されます。
6	[新しいデータ形式を作成]リストで[Positional]を選択してから、[次へ]をクリックします。 メモ 実際には、マップの出力側は無視され、入力側だけが処理されます。
7	[完了]をクリックし、新しいシステム インポート マップを作成します(数秒かかる場合があります)。 システムからの応答 [Gentran:Server-アプリケーション インテグレーション]ウィンドウに、新しいマップが表示されます。
8	システム インポート マップの作成後、そのシステム インポート マップのヘッダーレコードを定義する必要があります。ヘッダーレコードの定義には、6つのフィールドキーを使用する方法(推奨)と、代用キーを使用する方法のいずれかを使用できます。 参照 「6つのフィールドキーの定義方法」 に続きます。

6つのフィールド キーの定義方法

はじめに

推奨するシステム インポート キーの作成方法では、ヘッダーレコードに少なくとも5つのフィールド (パートナーキー、スタンダード、バージョン、トランザクションセット、およびテスト / 本番ステータス) を定義する必要があります。TRADACOMS マップの場合は、リリースフィールドを定義する必要もあります。これらのフィールドに決まった順序はありませんが、それらのフィールドはヘッダーレコードに含まれている必要があります。

対応するインポート マップのヘッダーレコードに、別のフィールドをここで定義することもできます。

参照

- ▶ ヘッダーレコードを定義する方法の詳細については、「[最初のレコードの作成方法](#)」を参照してください。
- ▶ レコードのフィールドを定義する方法の詳細については、「[フィールドの作成方法](#)」を参照してください。

キーを定義した後の手順

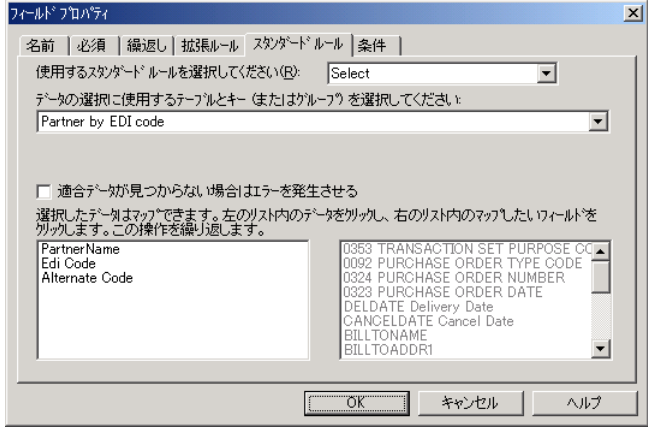
ヘッダーレコードとフィールドの定義が終了すると、キーを定義するマッピング操作を設定できます。トランスレータは、このキーを使用してパートナー関係を特定します。

手順：パートナーキーの定義

パートナー キーを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>パートナー キー フィールドをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Select] を選びます。

(次のページへ続く)

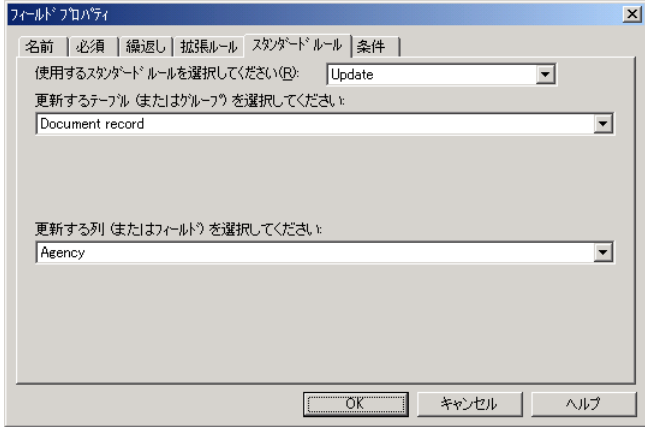
(続き) ステップ	操作
4	<p>テーブルとキーのリストで、[Partner by EDI Code]、[Partner by Alternate code]、または [Partner by Partner Key] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、指定されたパートナー キーによって、このフィールドが更新されます。</p> <p>システムからの応答 次に、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [スタンダード ルール] タブの例を示します。</p> 
5	<p>[OK] をクリックして、スタンダード ルールをパートナー キーのフィールドに追加します。</p>

**手順:スタンダード
フィールドの定義**

EDI スタンダード フィールドを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>スタンダード フィールドをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p>
2	<p>[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。</p>
3	<p>スタンダード ルールのリストで、[Update] を選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

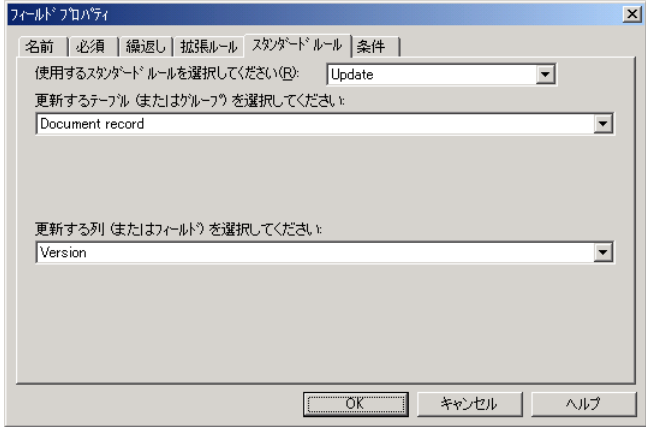


(続き) ステップ	操作
4	<p>テーブルのリストで、[Document record] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、Gentran:Server 内部システム バッファのドキュメントレコードが更新されます。レコードの更新が可能なのは、この時点でトランスレータによるデータのマッピングが行われていないためです。</p>
5	<p>列のリストで、[Agency] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、システム バッファのエージェンシー (スタンダード) のフィールドが更新されます。</p> <p>システムからの応答 次に、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [スタンダード ルール] タブの例を示します。</p> 
6	<p>[OK] をクリックして、スタンダード ルールをスタンダード フィールドに追加します。</p>

(次のページへ続く)

**手順：バージョン
フィールドの定義**

バージョンを定義するには、次の手順に従います。

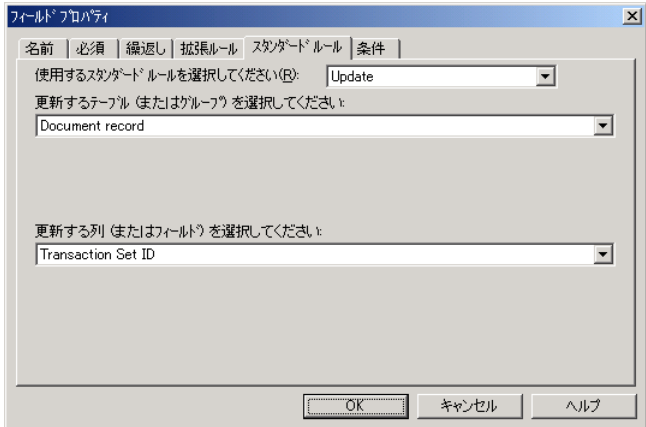
ステップ	操作
1	バージョンフィールドをダブルクリックします。 システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Update] を選択します。
4	テーブルのリストで、[Document record] を選択します。 メモ この操作で、Gentran:Server 内部システム バッファのドキュメントレコードが更新されます。レコードの更新が可能なのは、この時点でトランスレータによるデータのマッピングが行われていないためです。
5	列のリストで、[Version] を選択します。 メモ この操作で、システム バッファのバージョンのフィールドが更新されます。 システムからの応答 次に、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [スタンダード ルール] タブの例を示します。 
6	[OK] をクリックして、スタンダード ルールをバージョンのフィールドに追加します。

(次のページへ続く)



手順：トランザクション フィールドの定義

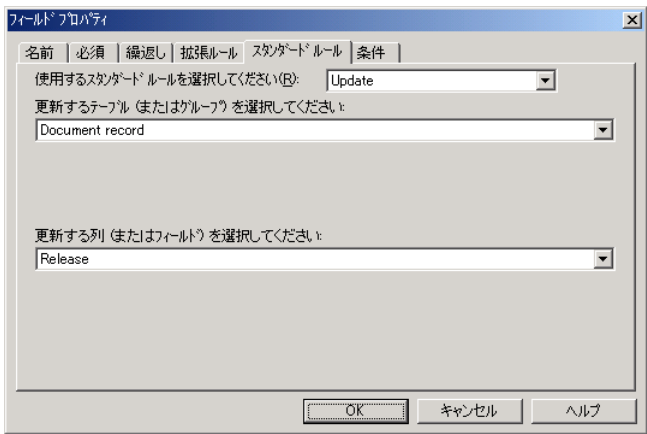
トランザクション セット (ドキュメント) を定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	トランザクション セットのフィールドをダブルクリックします。 システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Update] を選択します。
4	テーブルのリストで、[Document record] を選択します。 メモ この操作で、Gentran:Server 内部システム バッファのドキュメント レコードが更新されます。レコードの更新が可能なのは、この時点でトランスレータによるデータのマッピングが行われていないためです。
5	列のリストで、[Transaction Set ID] を選択します。 メモ この操作で、システム バッファのトランザクション セットのフィールドが更新されます。 システムからの応答 次に、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [スタンダード ルール] タブの例を示します。 
6	[OK] をクリックして、スタンダード ルールをトランザクション セット フィールドに追加します。

(次のページへ続く)

**手順：リリース
フィールドの定義**

特定のスタンダードバージョンのリリースを定義するには、次の手順に従います (TRADACOMS のみ)。

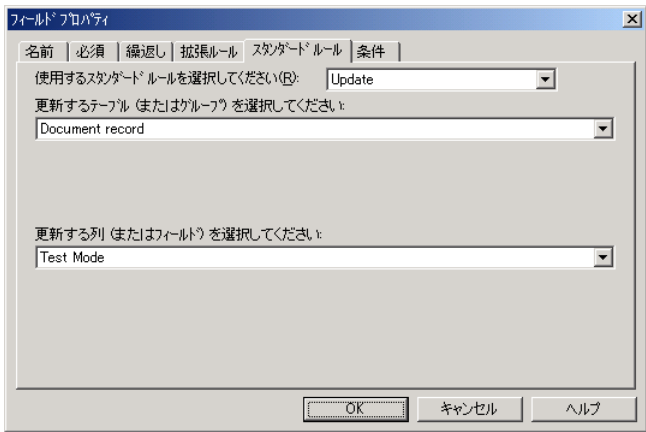
ステップ	操作
1	リリースフィールドをダブルクリックします。 システムからの応答 [フィールドプロパティ]ダイアログボックス([名前]タブ)が表示されます。
2	[スタンダードルール]タブを選択して、スタンダードルールオプションを表示します。
3	スタンダードルールのリストで、[Update]を選択します。
4	テーブルのリストで、[Document record]を選択します。 メモ この操作で、Gentran:Server 内部システムバッファのドキュメントレコードが更新されます。レコードの更新が可能なのは、この時点でトランスレータによるデータのマッピングが行われていないためです。
5	列のリストで、[Release]を選択します。 メモ この操作で、システムバッファのリリースのフィールドが更新されます。 システムからの応答 次に、[フィールドプロパティ]ダイアログボックスの[スタンダードルール]タブの例を示します。 
6	[OK] をクリックして、スタンダードルールをリリースのフィールドに追加します。

(次のページへ続く)



**手順：テスト / 本番
フィールドの定義**

テストまたは本番ステータス フィールドを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>テストまたは本番のフィールドをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Update] を選択します。
4	<p>テーブルのリストで、[Document record] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、Gentran:Server 内部システム バッファのドキュメントレコードが更新されます。レコードの更新が可能なのは、この時点でトランスレータによるデータのマッピングが行われていないためです。</p>
5	<p>列のリストで、[Test Mode] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、システム バッファのテストのフィールドが更新されます。</p> <p>システムからの応答 次に、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [スタンダード ルール] タブの例を示します。</p> 
6	[OK] をクリックして、スタンダード ルールをテストのフィールドに追加します。

代用キーの定義方法

はじめに

代用キー(前述では3つのフィールドを使用するキーとして説明)でシステム インポート キーを作成する方法では、ヘッダーレコードに3つまたは4つのフィールドを定義する(新しく作成するか、既存のフィールドを変更する)必要があります。すなわち、パートナー キーに1つ、アプリケーション ID およびアプリケーション エイリアス バリューのいずれかに1つ、または両方に1つずつ(使用するのどちらか1つ)、さらにテスト/本番ステータスに1つのフィールドです。4つすべてのフィールドを定義するなら代用キーを使用することになりますが、アプリケーション ID およびアプリケーション エイリアス バリュー フィールドのいずれかを定義するなら、実際には3つのフィールド キーを使用することになります。これらのフィールドに決まった順序はありませんが、それらのフィールドはヘッダーレコードに含まれている必要があります。

ヒント

このキーを使用するために、新しいフィールドを定義する必要はありません。既存のアプリケーション ファイル内にある3つのフィールドに、必要なスタンダード ルールを追加できます。

対応するインポート マップのヘッダーレコードに、別のフィールドを定義することもできます。

ヒント

- ▶ ヘッダーレコードを定義する方法の詳細については、「[最初のレコードの作成方法](#)」を参照してください。
- ▶ レコードのフィールドを定義する方法の詳細については、「[フィールドの作成方法](#)」を参照してください。

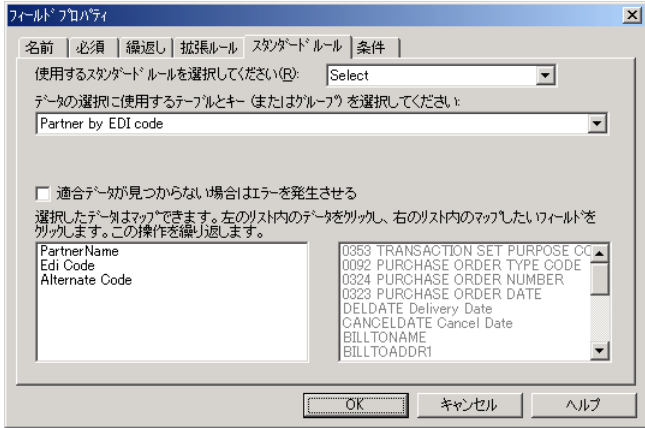
キーを定義した後の手順

ヘッダーレコードとフィールドの定義が終了すると、キーを定義するマッピング処理を設定できます。トランスレータは、このキーを使用してパートナー関係を特定します。

(次のページへ続く)

手順：パートナー キーの定義

パートナー キーを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>パートナー キー フィールドをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p>
2	<p>[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。</p>
3	<p>スタンダード ルールのリストで、[Select] を選択します。</p>
4	<p>テーブルとキーのリストで、[Partner by EDI Code]、[Partner by Alternate code]、または [Partner by Partner Key] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、指定されたパートナー キーによって、このフィールドが更新されます。</p> <p>システムからの応答 次に、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [スタンダード ルール] タブの例を示します。</p> 
5	<p>[OK] をクリックして、スタンダード ルールをパートナー キーのフィールドに追加します。</p>

(次のページへ続く)

手順：アプリケーション ID フィールドの定義

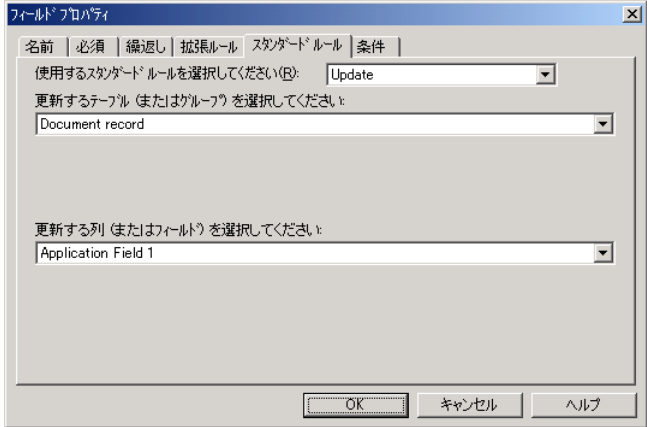
アプリケーション ID のフィールドを定義するには、次の手順に従います。

メモ

3つのフィールド キーを使用する場合は、アプリケーション ID のフィールドまたはアプリケーション エイリアスバリューのフィールドのいずれかを定義する必要があります。代用キーを使用する場合は、両方のフィールドを定義する必要があります。

ステップ	操作
1	アプリケーション ID のフィールドをダブルクリックします。 システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Update] を選択します。
4	テーブルのリストで、[Document record] を選択します。 メモ この操作で、Gentran:Server 内部システム バッファのドキュメントレコードが更新されます。レコードの更新が可能なのは、この時点でトランスレータによるデータのマッピングが行われていないためです。 (次のページへ続く)



(続き) ステップ	操作
5	<p>列のリストで、[Application Field 1] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、システム バッファのオプション キー フィールドが更新されます。</p> <p>システムからの応答 次に、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [スタンダード ルール] タブの例を示します。</p> 
6	<p>[OK] をクリックして、スタンダード ルールをアプリケーション ID のフィールドに追加します。</p>

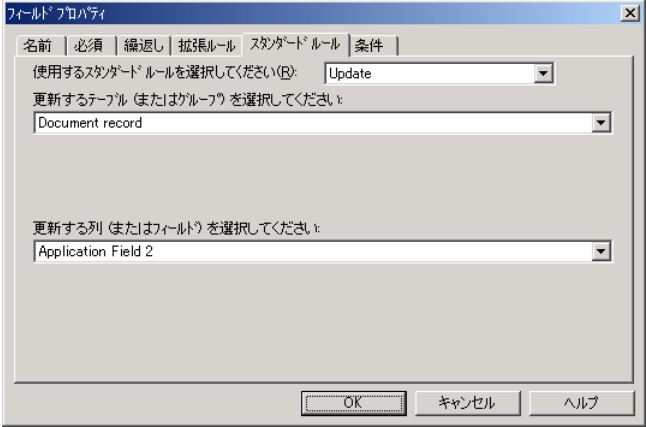
手順 : アプリケーション エイリアス バリュースのフィールドの定義

アプリケーション エイリアス バリュースのフィールドを定義するには、次の手順に従います。

メモ

3つのフィールド キーを使用する場合は、アプリケーション ID のフィールドまたはアプリケーション エイリアス バリュースのフィールドのいずれかを定義する必要があります。代用キーを使用する場合は、両方のフィールドを定義する必要があります。

ステップ	操作
1	<p>アプリケーション エイリアス バリュースのフィールドをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Update] を選択します。
4	<p>テーブルのリストで、[Document record] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、Gentran:Server 内部システム バッファのドキュメントレコードが更新されます。レコードの更新が可能なのは、この時点でトランスレータによるデータのマッピングが行われていないためです。</p>
5	<p>列のリストで、[Application Field 2] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、システム バッファのオプション キー フィールドが更新されます。</p> <p>システムからの応答 次に、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [スタンダード ルール] タブの例を示します。</p> 
6	[OK] をクリックして、スタンダード ルールをアプリケーション エイリアス バリュ어의フィールドに追加します。

(次のページへ続く)

**手順：テスト / 本番
のフィールドの定義**

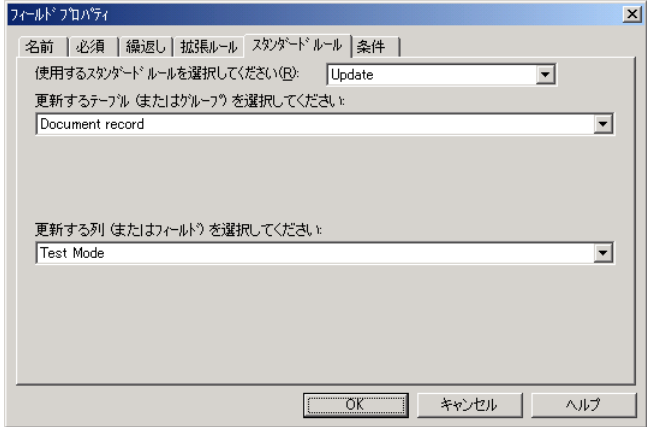
テスト / 本番のフィールドを定義しないと、ドキュメントレコードは既定で本番に設定されます。この場合、パートナー関係のテストモードを本番に設定しておかないと、システムトランスレーションオブジェクトは正しい関係を特定するだけになります。

推奨事項

テスト / 本番ステータスのフィールドを定義するよう推奨します。

テスト / 本番ステータスのフィールドを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>テストまたは本番のフィールドをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Update] を選択します。
4	<p>テーブルのリストで、[Document record] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、Gentran:Server 内部システム バッファのドキュメントレコードが更新されます。レコードの更新が可能なのは、この時点でトランスレータによるデータのマッピングが行われていないためです。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
5	<p>列のリストで、[Test Mode] を選択します。</p> <p>メモ この操作で、システム バッファのテストのフィールドが更新されます。</p> <p>システムからの応答 次に、[フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [スタンダード ルール] タブの例を示します。</p> 
6	<p>[OK] をクリックして、スタンダード ルールをテストのフィールドに追加します。</p>

システム インポート トランスレーション オブジェクトのコンパイル方法

はじめに

システム インポート マップを作成、定義、保存した後、マップをコンパイルして、システム インポート トランスレーション オブジェクトを作成する必要があります。

手順

システム インポート トランスレーション オブジェクトを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ファイル]メニューの[コンパイル]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [トランスレーション オブジェクト名]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>必要に応じて、[ファイル名]ボックスにトランスレーション オブジェクトの名前を入力します。</p> <p>注意 コンパイルされるトランスレーション オブジェクトで、ソースマップを上書きしないよう十分に注意してください。トランスレーション オブジェクトを識別するため、.TPL というファイル拡張子を使用してください。</p>
3	<p>[保存する場所]リストを使用して、必要に応じてコンパイルされるトランスレーション オブジェクトの保存先ドライブおよびフォルダを指定します。</p>
4	<p>[保存]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 マップがコンパイルされ、システム インポート トランスレーション オブジェクトが作成されます。</p>
5	<p>作成されたトランスレーション オブジェクトは、使用する前に Gentran:Server システムに登録する必要があります。</p> <p>参照 トランスレーション オブジェクトの登録方法については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
6	<p>システム管理者が、このシステム インポート トランスレーション オブジェクトをシステム構成プログラムに追加していない場合は、ここで追加してください。</p> <p>参照 詳細については、『管理 ガイド』の「インポート指定の編集方法」を参照してください。</p>

エクスポート処理の設定

目次

▶ 概要	2
▶ データのエクスポート前のインバウンド処理	3
▶ エンベロープの補足情報の使用方法	5

概要

はじめに

インバウンド データをトランスレーションするには、Gentran:Server でエクスポート マップを作成する必要があります (アプリケーションファイルへの " エクスポート処理 " が、システムによって実行されているためです)。

エクスポート マップ

このエクスポート マップは、パートナーが送信してきた EDI スタANDARD 形式のドキュメント データを、使用するアプリケーションファイル (テキスト形式のファイル定義) に移動する方法を定義します。。また、このマップを使用して、アプリケーションファイルのフィールドに、インターチェンジ、グループ、およびトランザクション セット エンベロープの補足情報を追加することも可能です。

この章の目的

この章は次のトピックで構成され、エクスポート処理の設定方法を説明します。

- ▶ データのエクスポート前のインバウンド処理
 - ▶ エンベロープの補足情報の使い方
-

データのエクスポート前のインバウンド処理

はじめに

エクスポート処理の際、ネットワークを介してトレーディング パートナーから受信したインターチェンジは、トランスレータに渡されます。トランスレータは、システム インターチェンジブレイク トランスレーション オブジェクト (Gentran:Server に装備) を使用して、インターチェンジ エンベロープを開封し、各グループを一時記憶領域に分けます。システム グループブレイク トランスレーション オブジェクト (Gentran:Server に装備) が使用され、グループ エンベロープが開封され、各トランザクション セットが一時記憶領域に分けられます。システム トランザクションブレイク トランスレーション オブジェクト (Gentran:Server に装備) が使用され、トランザクション エンベロープが開封され、各ドキュメントが Gentran:Server のイン ドキュメントに分けられます。

取引関係の検索

トランスレータは、各ドキュメントの取引関係の検索を行います。取引関係が見つかった場合は、その関係と関連付けられているエクスポート、ドキュメント ターンアラウンド、および印刷トランスレーション オブジェクトの識別が行われます。取引関係またはトランスレーション オブジェクトが見つからなかった場合、ドキュメントは ? イン ドキュメントに格納されます。取引関係およびトランスレーション オブジェクトが見つかった場合は、そのトランスレーション オブジェクトを使用してドキュメントのエラー チェックが行われます。ドキュメントが EDI スタンダードに適合しない場合、そのドキュメントは ? イン ドキュメントに格納されます。ドキュメントが EDI スタンダードに適合する場合、そのドキュメントはイン ドキュメントに移動されます。イン ドキュメントから、有効なドキュメントを印刷 (関連付けられた印刷トランスレーション オブジェクトがある場合) またはエクスポートできます。

受信確認の生成

取引関係で、ドキュメントのファンクショナル受信確認 (ack) が生成されるように指定した場合は、トランスレータによってシステム受信確認トランスレーション オブジェクト (Gentran:Server に装備) が使用され、受信確認が生成されます。生成された受信確認が適合していた場合、トランスレータはその受信確認をアウト ドキュメントに移動し、トレーディング パートナーに送信します。生成された受信確認が適合していない、または受信確認トランスレーション オブジェクトでエラーが発生した場合は、受信確認はトランスレータにより ? アウト ドキュメントに移動されます。

自動エクスポート

取引関係で自動エクスポートまたは自動ターンアラウンドを指定した場合は、指定されたエクスポートまたはターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを使用して、該当する応答ドキュメントがエクスポートまたは生成されます。

(次のページへ続く)

手順

エキスポート処理を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	エキスポート マップを作成します。 参照 新しいマップを作成する方法の詳細については、「 マップの新規作成方法 」を参照してください。
2	エキスポート マップを Gentran:Server に登録します。 参照 トランスレーション オブジェクトを登録する方法の詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「 新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法 」を参照してください。
3	適切なインバウンド取引関係を作成します。 参照 インバウンド関係を作成する方法の詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「 新しいインバウンド関係の作成方法 」を参照してください。

エンベロープの補足情報の使用方法

はじめに

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、Select スタンダード ルールを使用して、エクスポート マップ内のアプリケーション ファイル フィールドに、トレーディング パートナーから受信したドキュメントに関連付けられた EDI エンベロープの情報を投入することができます。

次の表に、Select スタンダード ルールで選択できる値とアプリケーション フィールドにマッピングされるエンベロープ情報を示します。

マップ元リストの値	マッピングされる情報
Field 1	トランザクション セット ID
Field 2	ドキュメント名
Field 3	グループ ID
Field 5	パートナー名
Field 6	インターチェンジ Control Number
Field 7	グループ Control Number
Field 8	ドキュメント Control Number
Field 9	受信済みバージョン
Field 15	受信済みエージェンシー
Field 16	使用エージェンシー
Field 17	使用バージョン
Field 22	ISA テスト モード
Field 23	ドキュメント テスト モード

(次のページへ続く)

手順

アプリケーション ファイルで、エンベロープの補足情報を使用するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>既存のアプリケーションのフィールドをダブルクリックするか、新しいフィールドを作成します。</p> <p>参照 フィールドを作成する方法の詳細については、「固定形式ファイルの使い方」を参照してください。</p> <p>システムからの応答 [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックス ([名前] タブ) が表示されます。</p>
2	[スタンダード ルール] タブを選択して、スタンダード ルール オプションを表示します。
3	スタンダード ルールのリストで、[Select] を選択します。
4	<p>テーブルとキーのリストで、[Generic envelope segment] を選択します。</p> <p>メモ この操作により、使用されている EDI スタンダードにかかわらず、現在のエンベロープ情報に含まれる任意のフィールドからマッピングできます。</p>
5	<p>エラー チェックボックスをオンにします。</p> <p>メモ この操作により、有効なエントリが見つからなかった場合に、エラーが生成されます。</p>
6	<p>マップ元リストで、アプリケーションのフィールドにマッピングするエンベロープ情報を選択します。</p> <p>メモ 選択肢の定義については、前のページの表を参照してください。</p> <p>注意 正しいマップ元を選択していることを確認してください。前述の表にない選択肢は、現在は他の目的のために予約されているので、どんな場合にも選択しないでください。</p>
7	<p>マップ先のリストで、[マップ元] フィールドのコンテンツのマップ先となるフィールドを選択します。</p> <p>メモ このリストには、マップの出力側の各フィールドが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
8	<p>他のエンベロープ情報をマッピングするには、必要に応じてステップ 7～8 を繰り返します。</p> <p>メモ Select ルールを 1 つ使用するだけで、合計 8 つのフィールドをマッピングすることができます。</p>
9	<p>[OK] をクリックして、アプリケーションのフィールドにスタンダード ルールを追加します。</p>

拡張ルールの使い方

目次

拡張ルールについて	4
▶ 概要	4
▶ 宣言のセクション	5
▶ ステートメントのセクション	6
▶ 拡張ルールを処理する場合	7
拡張ルールの定義	11
▶ 概要	11
▶ セッションルールの定義方法	12
▶ マップコンポーネントルールの定義方法	14
拡張ルール シンタックス	16
▶ 概要	16
▶ キーワードとコマンド	17
▶ オペレータ	19
▶ 記号	20
一般的なステートメントと例	24
▶ 概要	24
▶ 割り当て	25
▶ 日/時表現	26
▶ 条件付き論理	28
▶ 条件を表す文字列と関数	30
▶ 数値の関数	32
▶ エラーを発生させる関数 (CERROR)	33
▶ フィールド値を削除する関数 (EMPTY)	34
▶ データの存在の関数 (EXIST)	35
▶ カウントの関数 (COUNT)	36
▶ 削除の関数 (DELETE)	37
▶ ファイルポインタの関数 (FSEEK, FTELL)	38
▶ データのブロックの関数 (READBLOCK, WRITEBLOCK)	39
▶ 選択の関数 (SELECT)	40
▶ 更新の関数 (UPDATE)	41
▶ 挿入の関数 (INSERT)	42

▶ User Exit の関数 (EXEC)	43
▶ ActiveX と User Exit の関数	44
アルファベット順リファレンス	46
▶ 概要	46
▶ atoi	47
▶ aton	48
▶ auditlog	49
▶ begin	51
▶ break	52
▶ cerror	53
▶ concat	60
▶ continue	61
▶ count	62
▶ createobject	63
▶ date	64
▶ delete	66
▶ deleteobject	67
▶ empty	68
▶ end	69
▶ exec	70
▶ exist	71
▶ fseek	72
▶ ftell	73
▶ get	74
▶ getiid	75
▶ if then...else	76
▶ index	77
▶ insert	78
▶ left	80
▶ len	81
▶ messagebox	82
▶ mid	84
▶ ntoa	85
▶ param	86
▶ queryobject	87
▶ readblock	88
▶ readbytes	89
▶ right	90
▶ select	91
▶ set	92
▶ strdate	93
▶ strstr	95
▶ unreadblock	96

▶ update	97
▶ while...do	98
▶ winexec	99
▶ writeblock	102
▶ writebytes	103
▶ " 選択 " および " 更新 " で使用できるオプション	104

拡張ルールについて

概要

本章の目的

この章は、次のトピックで構成されており、拡張ルールの使用方法を説明します。

- ▶ 拡張ルールの概要と処理されるタイミング
- ▶ 拡張ルールの定義
- ▶ 拡張ルール シンタックス
- ▶ リファレンス ガイド

拡張ルールについて

拡張ルールを使用すると、Gentran:Server 用プログラミング言語を使用して、ほとんどすべてのマッピング処理を実行できます。

拡張ルールの使用

拡張ルールを使用すると、連結 (シンプルなマッピング) やスタンダード ルールよりも複雑なトランスレーションを定義できます。拡張ルールを使用することで、スタンダード ルールでは不可能な処理を定義できます。

拡張ルールは、Gentran:Server 用プログラミング言語で定義します。この言語を使用すれば、Gentran:Server の内部記憶領域全体にアクセスできます。

拡張ルールの構成

マップの入出力の仕様で定義していない変数をルールで使用する場合は、変数を使用する前に宣言しなければなりません。

したがって、拡張ルールは、" 宣言 " のセクションとそれに続く " ステートメント " のセクションの 2 つから構成されます。

宣言のセクションは、変数を追加する場合にのみ必要です。このルール、およびこのルールが適用される他のルールで変数を使用するときには、このセクションで変数の名前とタイプを宣言します。

" ステートメント " のセクションでは、ルールに実行させる動作を定義します。

宣言のセクション

はじめに

宣言のセクションで定義した変数は、値を格納するために使用されます。変数は名前とデータ型で構成されます。変数の名前には、英数字、コロン (:), およびアンダーライン (_)を使用できます。変数の名前の1番目の文字には、数値を使用できません。変数の名前では、大文字と小文字が区別されます。

メモ

宣言は、セミコロン (;) で終了します。ルールを読みやすくするためには、宣言とステートメントのセクションの間に、ブランクリンクを挿入します。

サポートしているデータ型

次の表に、拡張ルールでサポートされているデータ型を示します。

データ型	説明	例
Integer	小数部を持たない自然数です。	i を整数として宣言します。 integer i;
Real	小数部を持つことができる数です。	r を実数として宣言します。 real r;
String	1 個以上の印刷可能文字が入ります。	s を 20 文字の文字列として宣言します。 string[20] s;
Datetime	日付または時刻が入ります。	d を日付または時刻として宣言します。 datetime d;
Array	1 つのデータ型が繰り返し登場するテーブルを定義します。	a を 10 個の整数の配列として宣言します。 integer a[10]; p を 10 文字の文字列 50 組として宣言します。 string[10] p[50];
Object	User Exit 関数に使用されます。ActiveX オートメーションサーバーの内部関数の情報をGentran:Server に公開します。	ob をオブジェクトとして宣言します。 object ob;

ステートメントのセクション

はじめに

拡張ルールが実行する実際の処理は、ステートメントのセクションで定義します。ルールは、1つのステートメント、または(より複雑な処理を実行する場合には)複数のステートメントの組み合わせで構成されます。各ステートメントは、1つの操作を表します。表現、キーワード、コマンド、オペレータ、および記号の組み合わせで構成されます。

表現について

"表現"は、システムが評価する論理単位(例: $A = B$ or $A + B$)です。ステートメントのセクションは、キーワード、オペレータ、およびシンボルの目的に沿った組み合わせで構成されます。

参照

これらのコンポーネントの詳細については、「[拡張ルールシンタックス](#)」で説明されています。

拡張ルールを処理する場合

はじめに

[セッションルール] ダイアログ ボックスを使用して、セッション前ルール、セッション後ルールを指定できます。セッション前の拡張ルールは、トランスレーション オブジェクトよりも前に処理され、トランスレーション オブジェクトで定義されるすべての拡張ルールで有効です。セッション後の拡張ルールは、トランスレーション オブジェクトの処理が終了してから実行されます。

拡張ルールのレベル

拡張ルールは、次の異なる 3 つのレベルのマップ コンポーネントに添付できます。

- ▶ [ループ レベル拡張ルール] ダイアログ ボックスを使用する場合の、EDI ファイルおよびアプリケーション ファイル グループ。
- ▶ [ループ レベル拡張ルール] ダイアログ ボックスを使用する場合の、グループ、サブグループ、繰り返しレコード、および繰り返しセグメント。
- ▶ [フィールド レベル拡張ルール] ダイアログ ボックスを使用する場合の、フィールドおよびエレメント。

拡張ルールの対象

拡張ルールの "対象" は、拡張ルールで使用できる変数を決定します。対象は、マップの現在の状態によって異なります。次のリストでは、拡張ルールの対象を定義します。

- ▶ セッション前の拡張ルール ([セッションルール] ダイアログ ボックスで定義) は、トランスレーション オブジェクト 内のすべてのルールの対象となります。
- ▶ "開始時" ルールは、対となる "終了時" ルールまでが対象となります (どちらのルールも、[ループ レベル拡張ルール] ダイアログ ボックスで設定します)。
- ▶ フィールド レベルの拡張ルールは、フィールドまたはエレメントが存在している間のみが対象です。

現在のマップ コンポーネントに添付される拡張ルールは、マップ コンポーネントのタイプと状態によって異なります。

例

ルールが添付される現在のグループが他のグループの下位グループである場合、子グループが存在している間はそのルールは親グループでも自動的に対象となります。また、子グループが存在している間は、6 - 20 で説明する指定のためのメソッドを使用することにより、現在の階層構造も対象となります。

フィールドまたはエレメントに添付される拡張ルールは、フィールドやエレメントが持続している間のみ有効です。フィールド レベルの拡張ルールは、常にスタンダード ルールの後に処理されます。

(次のページへ続く)

**拡張ルールの対象
(続き)**

変数が " 対象 " になるのは、現在のルール、現在のマップ コンポーネントを含むグループの " 開始時 " ルール、またはセッション前ルールの中で宣言された場合です。

トランスレータは、マップの入力側 (マップのソース側) の構造に基づいて、マップのデータ格納領域を作成します。したがって、拡張ルールは、入力側の階層に基づいてマップを指定します。拡張ルールを使用する場合は、ルールがアクセスするマップ コンポーネントをトランスレータが特定できるよう、必ずマップの入力側を指定してください。マップの出力側では、拡張ルールは現在のレコードとマップの入力側全体にのみアクセスできます。しかし、マップの入力側からは、ファイル構造全体にアクセスできます。連結のソース エンドを指定する限り、出力側の任意のフィールド (すでに書き込まれているものを含む) に書き込むことができます。

入力側のルール処理

トランスレータは、まずマップの入力側を処理し、そのあとに出力側を処理します。次の表に、トランスレータがマップの入力側でルールを処理する順番を示します。

ステップ	動作
1	入力定義を読み込みます。
2	入力ファイルを読み込みます。
3	データが 1 番目または 2 番目のグループにあるかどうかを判断し、データがあれば、" 開始時 " ルールをグループに実行します。
4	現在のグループの 1 番目または 2 番目のレコードに含まれる各フィールドを読み込み、(フィールドごとに) 次の順番でフィールドレベルのルールを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ スタンダード ルール ▶ 拡張ルール
5	グループの最後の部分にデータがあれば、" 終了時 " ルールを実行します。
6	入力ファイルで各グループに 2 ~ 5 のステップを繰り返します。

(次のページへ続く)

出力側のルール処理

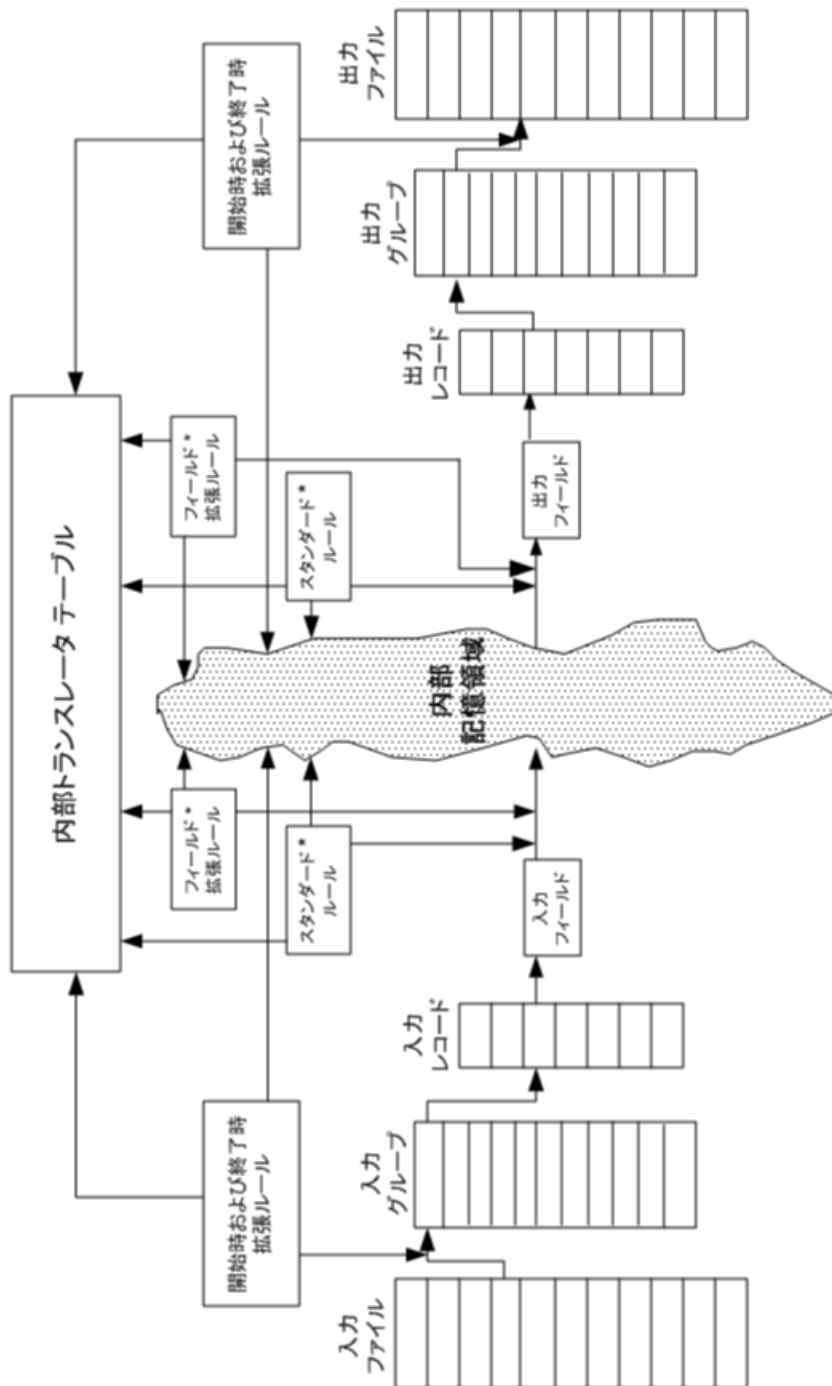
次の表に、トランスレータがマップの出力側でルールを処理する順番を示します。

ステップ	動作
1	データが1番目または2番目のレコードにあるかどうかを検証します。
2	グループの最初のレコードにデータがあれば、"開始時"ルールを実行します。
3	レコードの各フィールドに、(フィールドごとに)フィールドレベルのルールを次の順番で実行します。 <ul style="list-style-type: none">▶ スタンダードルール▶ 拡張ルール
4	指定したフィールドプロパティ([フィールドプロパティ]ダイアログボックスで指定)に基づいて、データを書式化します。
5	出力ファイルにレコードを書き込みます。
6	グループの最後の部分にデータがあれば、"終了時"ルールを実行します。
7	出力ファイルで各レコードに対して1～6のステップを繰り返します。
8	データベース内に、ドキュメントのエントリを作成または更新します。

(次のページへ続く)

ルール処理の図

次の図に、ループレベルの拡張ルール("開始時"ルールと"終了時"ルール)およびフィールドレベルの拡張ルールが、システムの中で処理されるタイミングを示します。



*メモ: フィールドが繰り返されるたびに、関連する拡張ルールも同様に繰り返されます。



拡張ルールの定義

概要

はじめに

拡張ルールがアクセスするマップ コンポーネントは、ルールに必要な対象によって異なります。ルールを実行するタイミングも決定する必要があります (マップ コンポーネントの処理前または処理後など)。

拡張ルールを定義するのに必要な手順は、セッションルールを定義するのか、またはマップ コンポーネントのルールを定義するのかによって、若干異なります。3つの異なるレベルのマップ コンポーネントにアクセスする拡張ルールを定義できます。

- ▶ セッション全体 (マップの入力側と出力側)
 - ▶ ループするマップ コンポーネント (グループやセグメントなど)
 - ▶ フィールド
-

セッション ルールの定義方法

はじめに

セッション前ルールは、グローバルな対象 (マップの他のどの拡張ルールからもアクセス可能なスコープ) が必要な変数を定義するために使用されます。セッション前の拡張ルールは、トランスレーション オブジェクトよりも前に処理され、トランスレーション オブジェクトで定義されるすべての拡張ルールの対象です。

セッション後の拡張ルールは、トランスレーション オブジェクトが処理されたあとに実行されるので、固定された対象を持ちません。

セッション前ルールとセッション後ルールの両方とも、任意の 1 つのセッションに対して定義できます。

手順

セッション ルールを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[編集] メニューから、[セッション ルール] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [セッション レベル拡張ルール] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>セッション前ルールを定義するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 定義する場合は、[セッション前] オプションをクリックします。 ▶ 定義しない場合 (セッション後ルールを定義する場合は、[セッション後] オプションをクリックします。
3	<p>[エディタ] リストに拡張ルールを入力します。</p> <p>メモ [セッション レベル拡張ルール] ダイアログ ボックスには、行番号と (行内の) 文字番号のインジケータがあります。これらのインジケータは、[エディタ] ボックスの右下に表示されており、コンパイル エラーをデバッグするときに役立ちます (1 番目のインジケータは行番号を示し、2 番目のインジケータは文字番号を示します)。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>ルールのエラーをチェックするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ チェックする場合は、[コンパイル]をクリックして拡張ルールをコンパイルします。 <p>システムからの応答 警告またはエラーが、[エラー]リストに表示されます。エラーをダブルクリックすると、エラーが含まれる行にジャンプできます。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ チェックしない場合は、ステップ 6 に進みます。 <p>メモ "コンパイル"機能を使用すると、作成したルールの正確さについて、すぐにフィードバックを得られます。トランスレーションオブジェクト全体をコンパイルすると、このルールはコンパイルされます。</p>
5	<p>システムが警告したエラーをすべて修正して、再度[コンパイル]をクリックします。</p> <p>メモ エラーが生成されなくなるまで、この手順を繰り返します。</p>
6	<p>[OK]をクリックして、拡張ルールを追加します。</p>

マップ コンポーネント ルールの定義方法

手順

マップ コンポーネントの拡張ルールを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>マップ コンポーネントを右クリックし、ショートカット メニューから [ルール (拡張ルール)] を選択します (マップ コンポーネントが、フィールド、エレメント、または TFD の場合は、[拡張ルール] を選択します)。</p> <p>システムからの応答</p> <ul style="list-style-type: none"> マップ コンポーネントが EDI ファイル、アプリケーション ファイル、グループ、サブグループ、繰り返しレコード、または繰り返しセグメントの場合は、[ループレベル拡張ルール] ダイアログ ボックスが表示されます。 マップ コンポーネントがフィールドまたはエレメントの場合は、[フィールドレベル拡張ルール] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<p>マップ コンポーネントが処理される前に拡張ルールを実行するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> マップ コンポーネントより前に実行する場合は、[開始時] オプションを選択します。 マップ コンポーネントより前に実行しない場合 (マップ コンポーネントの処理が終了するときにルールを実行する場合は、[終了時] オプションを選択します。 <p>メモ "開始時" ルールと "終了時" ルールの両方とも、1つのマップ コンポーネントに対して定義できます。</p>
3	<p>[エディタ] リストに拡張ルールを入力します。</p> <p>参照 ルール シンタックスの詳細については、「アルファベット順リファレンス」を参照してください。</p> <p>メモ [拡張ルール] ダイアログ ボックスには、行番号と (行内の) 文字番号のインジケータがあります。これらのインジケータは、[エディタ] ボックスの右下に表示されており、コンパイル エラーをデバッグするときに役立ちます (1 番目のインジケータは行番号を示し、2 番目のインジケータは文字番号を示します)。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>ルールのエラーをチェックするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ チェックする場合は、[コンパイル]をクリックして拡張ルールをコンパイルします。 <p>システムからの応答 警告またはエラーが、[エラー]リストに表示されます。エラーをダブルクリックすると、エラーが含まれる行にジャンプできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ チェックしない場合は、ステップ 6 に進みます。 <p>メモ "コンパイル"機能を使用すると、作成したルールの正確さについて、すぐにフィードバックを得られます。トランスレーションオブジェクト全体をコンパイルすると、このルールはコンパイルされます。</p>
5	<p>システムが警告したエラーをすべて修正して、再度 [コンパイル] をクリックします。</p> <p>メモ エラーが生成されなくなるまで、この手順を繰り返します。</p>
6	<p>[OK] をクリックして、拡張ルールを追加します。</p> <p>メモ エレメントに拡張ルールが含まれている場合、エレメントのアイコンの右に、黒色のアスタリスクが表示されます。</p>

拡張ルール シンタックス

概要

はじめに

拡張ルールのステートメントのセクションは、目的に応じた、キーワード、オペレータ、および記号の組み合わせで構成されます。次に、これらの各コンポーネントの正しいシンタックスを説明します。

メモ

キーワードおよび記号を区切るには、スペースとオペレータを使用します。オペレータなしで、2つのキーワードを連続して並べることはできません。

キーワードとコマンド

はじめに

"キーワード"とは、プログラミング言語の解釈方法を指定する一定の定義で使用される単語です。キーワードには、2つのタイプがあります。1つめのキーワードのタイプは、定義されたルールを実行するフローを制御します。このタイプのキーワードは、条件を評価し、ループ処理を実行するために使用されます。

2つめのキーワードのタイプは、"コマンド"です。コマンドは、変数に動作を実行し、データの処理を行います。

キーワードのリスト

次に、Gentran:Server で実行制御を行うキーワードのリストを示します。

- ▶ IF
- ▶ THEN
- ▶ ELSE
- ▶ BEGIN
- ▶ END
- ▶ WHILE
- ▶ DO
- ▶ CONTINUE
- ▶ BREAK

コマンドのリスト

次に、Gentran:Server のコマンドのリストを示します。

- ▶ auditlog
- ▶ get
- ▶ set
- ▶ strdate
- ▶ concat
- ▶ len
- ▶ atoi
- ▶ aton
- ▶ cerror
- ▶ empty
- ▶ exist
- ▶ index

(次のページへ続く)

**コマンドのリスト
(続き)**

- ▶ ntoa
- ▶ count
- ▶ delete
- ▶ fseek
- ▶ ftell
- ▶ readblock
- ▶ unreadblock
- ▶ readbytes
- ▶ left
- ▶ mid
- ▶ right
- ▶ select
- ▶ update
- ▶ insert
- ▶ writeblock
- ▶ writebytes
- ▶ createobject
- ▶ deleteobject
- ▶ queryobject
- ▶ getiid
- ▶ winexec
- ▶ date
- ▶ exec
- ▶ param

メモ

ステートメントは、セミコロン (;) で終了しなければなりません。

オペレータ

はじめに

オペレータは、表現内で最も単純な演算操作を定義します。

キーワードのリスト

次の表に、拡張ルールおよびその関数で利用できる、オペレータのリストを示します。

各部	機能
+	加算、連結
-	減算
*	乗算
/	除算
=	代入、等価
>	より大
<	より小
>=	より大か等しい
<=	より小か等しい
!=	非等号
!	論理否定
&	論理積
	論理和
<<	日付変更

記号

はじめに

処理は記号に基づいて実行されます。Gentran:Server の拡張ルールで使用できる記号は、変数、定数、マップ コンポーネントまたは内部記憶領域、配列、およびアキュムレータです。

既存のマップ コンポーネントを指定できます。また、最初からマップ コンポーネントが内部記憶領域で定義されているなら、そのマップ コンポーネントの追加のインスタンスを作成することもできます。

例

ライン アイテムのフィールドが内部記憶領域ですでに定義されている場合は、この機能を使用して追加のライン アイテムを作成できます。

記号のシンタックス

各タイプの記号を正しいシンタックスで指定する必要があります。

文字列定数

文字列定数を指定する場合、定数の値を二重引用符で囲む必要があります。[HDR] が定数の値ならば、次のように記述します。
`#fieldname = "HDR"`

内部記憶領域のフィールドでの指定および作成

フィールドを指定したり、現在のマッピング動作の対象である内部記憶領域のフィールドを作成する場合のシンタックスは、`#FIELD_NAME` です。
2 が数値定数の値ならば、
`#field_1 = 2` と記述します。

グループ内のフィールドでの指定および作成

グループのフィールドを指定したり、現在の階層構造で対象の内部記憶領域のグループのフィールドを指定する場合のシンタックスは、
`$GROUP.#FIELD_NAME` です。
`$N1.#0234` のように記述します。

(次のページへ続く)

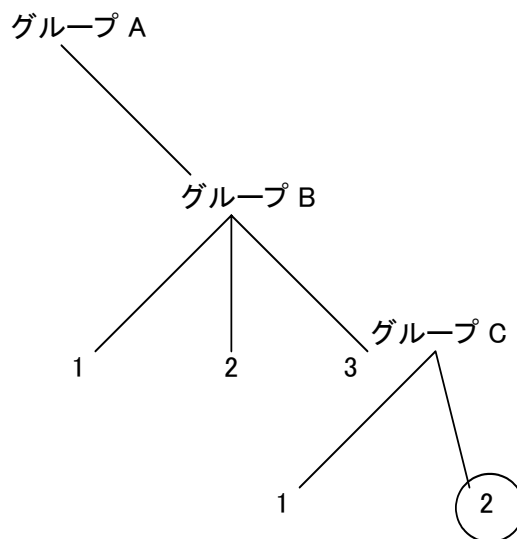
記号のシンタックス (続き)

内部記憶領域のグループでの指定および作成

内部記憶領域全体の中でグループを完全に指定したり、内部記憶領域にグループを作成したりする場合のシンタックスは、`$LOOP[index1][index2][index3]` です。`index` のエントリは、LOOP の階層構造を示しており、このシンタックスを使用してグループの特定のインスタンスを指定できます。

Group_B の 3 番目のインスタンス内にある Group_C の 2 番目のインスタンスを指定する場合、

`$Group_C[3][2].#Field_2` のように記述します。



配列の指定

配列 (任意のタイプ) を指定するには、配列の各エレメントを 1 つずつ指定します。たとえば、`array_1` が整数の配列で、

`integer array_1[5]`

と宣言されているとします。その場合、配列の各エレメントは、変数 0 ~ 4 を使用して次のように 1 つずつ指定します。

```
array_1[0]  
array_1[1]  
array_1[2]  
array_1[3]  
array_1[4]
```

アキュムレータへのアクセス

変数や内部記憶領域にアクセスするのと同じような方法で、アキュムレータにアクセスできます。アキュムレータを指定するには、`n` がアキュムレータの (名前ではなく) 数字である場合、`accum(n)` のシンタックスを使用します。次のように記述します。

```
accum(2) = 5;
```

(次のページへ続く)

記号のシンタックス
(続き)

繰り返しエレメントへのアクセス

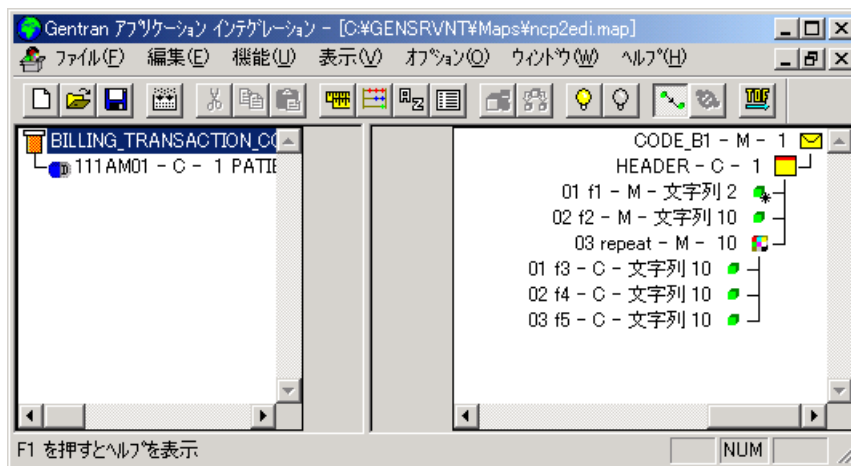
繰り返しエレメント (EDI データ用) の特定の発生にアクセスしたり、繰り返し複合 (EDI データ用) の中にあるフィールドの特定の発生にアクセスしたりできます。

繰り返しフィールドの特定の発生、および繰り返し複合の中にあるフィールドにアクセスするには、次のシンタックスを使用します。

```
field_name[index_variable] = string;
```

コメント : integer_variable = 繰り返しフィールドの特定の発生、
または繰り返し複合内のフィールドを示す整数
変数

次に、繰り返しフィールドの特定の発生、および繰り返し複合内のフィールドにアクセスする例を示します。



```
string [32]strMsg;

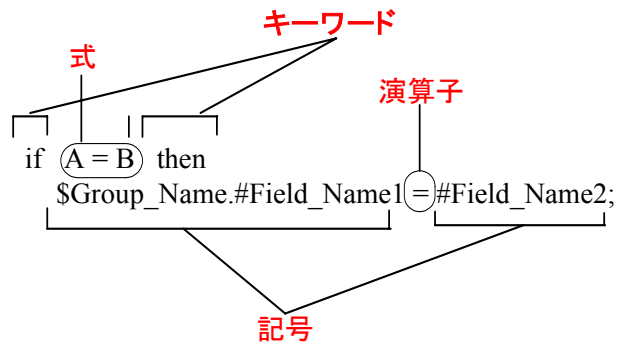
strMsg = "Test";
#f2[1] = strMsg;
// 単一繰り返しフィールドにアクセスする。

#f3[1] = strMsg;
// 繰り返し複合内のフィールドにアクセスする。
// ルールによって1つの文字列値が2つの異なるフィールド
// (上の図で示す #f2 および #f3) に割り当てられる。
// #f2 は 10 回までループ可能な単一繰り返しフィールド。
// #f3 は 10 回までループ可能な繰り返し複合内のフィールド。
```

(次のページへ続く)

シンプルなステートメントの例

次の図に、シンプルなステートメントの例を示します。



一般的なステートメントと例

概要

はじめに

この項では、一般的なステートメントの例をリストします。

- ▶ 割り当て
 - ▶ 日/時表現
 - ▶ 条件付き論理
 - ▶ 条件を表す文字列と関数
 - ▶ 数値の関数
 - ▶ エラーを発生させる関数
 - ▶ フィールド値を削除する関数
 - ▶ データの存在の関数
-

割り当て

はじめに

割り当てステートメントは、最も強力でも最も頻繁に使用される、拡張ルールのステートメントです。最も単純な形式では、次のように記述します。

```
variable=expression
```

次のように定義することで、このステートメントのさらに柔軟で複雑な使用も可能です。

```
numeric_variable=numeric_expression  
numeric_field=numeric_expression  
string_variable=string_expression  
string_field=string_expression  
datetime_variable=datetime_expression  
datetime_field=datetime_expression
```

数値表現

数値表現式には、数字、数値フィールド、数値変数、および標準の算術オペレータと組み合わせられた数値関数が使用できます。

文字列表現

文字列表現は、文字列定数、文字列フィールド、文字列変数、"+" オペレータで連結された文字列関数で構成できます。

日 / 時表現

日 / 時表現は、日 / 時定数、日 / 時フィールド、または日 / 時変数で構成できます。

例

次に、割り当て式の例を示します。

```
a = 5;  
a = b + c;  
s = "hello";  
s = s + "world";
```

日 / 時表現

はじめに

日 / 時表現は、日 / 時変数と日 / 時変更子 (オプション) で構成できます。標準のシンタックスを使用しているなら、日 / 時表現は、日 / 時定数を使用して次のように記述できます。

```
year/month/day
hour:minute:second
year/month/day/hour:minute:second
```

また、日 / 時フィールド、変数、または日付関数と時刻関数を使用して記述することもできます。

日付のシンタックス

日付関数は、次のように記述します (月は 1 ~ 12 で指定します)。

```
datetime d;

d = date(1995,4,6);
d = date(1995,4,6,12,0);
d = date("%y/%m/%d", "95/4/6");
```

d = date("%y/%m/%d", "95/4/6"); の書式を使用すると、フォーマット マスク ("**%y/%m/%d**") に変換したい文字列 ("**01/4/6**") を指定することで、任意の文字列書式の型を日 / 時書式の型に変換できます。標準以外のシンタックスを使用しており、使用しているシンタックスを指定する必要がある場合に、この関数を使用します。

<< オペレータ

<< オペレータを使用して時間 (日、週、年など) を増加させ、日 / 時変数を修正できます。例：

```
datetime d;
d=d <<weeks(2);
//d に 2 週間加算する。
```

(次のページへ続く)

時刻のシンタックス

時刻関数は、次のように記述します。

```
d = time(12,0);  
d = time(12,0,59);
```

<<オペレータを使用して時間(秒、分、年など)を増加させ、日/時変数を修正できます。例:

```
datetime d;  
d=d <<seconds(1);  
//dに1秒加算する。
```

**get および
set シンタックス**

get 関数と set 関数を使用すると、日/時タイプの個々のコンポーネントにアクセスしたり (get)、コンポーネントを修正したり (set) できます。これらの関数は、次のように使用します。

```
integer a;  
datetime d;  
a = get days (d);  
a = get hours (d);  
set hours (d,a);  
set days (d,a);
```

条件付き論理

はじめに

Gentran:Server では、条件付き論理を使って条件をテストし、そのテスト結果に応じて演算を実行します。条件は、任意のレベルに対してネストすることができます。条件をセミコロン (;) で終了しないでください。この終了のシンタックスは、ステートメントの場合にのみ必要です。

IF...THEN... ELSE

IF/THEN キーワードを使用して、1 つ以上のステートメントを条件付きで実行できます。通常、条件には比較を使用しますが、数値で終了する任意の式を使用することもできます。Gentran:Server は、*true* と *false* のいずれかとして値を解釈します。システムでは、ゼロ値が *false*、ゼロ以外の値が *true* と解釈されます。

メモ

IF/THEN ループの本体で複数のステートメントを使用する場合は、BEGIN/END キーワードでステートメントを囲む必要があります。ステートメントを 1 つしか使用しない場合は、BEGIN と END を省略できます。

Gentran:Server では、IF/THEN 条件を評価し、それが *true* であれば THEN キーワードに続くすべてのステートメントが実行されます。その条件が *false* であれば、THEN に続くステートメントは実行されません。

IF/THEN と連携して ELSE キーワードを使うと、複数ブロックにわたるステートメントを定義することができ、それらのブロックのうちの 1 つが実行されます。Gentran:Server では、まず IF/THEN 条件がテストされます。その条件が *false* であれば、*true* である条件が検出されるまで各条件のテストが順次進められます。*true* の条件のステートメントの対応するブロックが実行されます。IF/THEN 条件に *true* のものがなければ、ELSE キーワードに続くステートメントが実行されます。

シンタックス

```
IF condition THEN
BEGIN
    statement1;
    statement2;
END
ELSE
BEGIN
    statement3;
    statement4;
END
```

(次のページへ続く)

例

条件付き論理を使用する例としては、N1かNADグループに請求情報または出荷情報(グループ内のフィールドに含まれる修飾子により異なります)が含まれるかどうかを評価し、該当するアプリケーションフィールドにその情報をマップする場合があります。

この例では、N1/NADグループに"終了時"拡張ルールを追加する必要があります。この拡張ルールは、グループが終了するときに実行されます。次に、ルールのシンタックスの例を示します。

```
IF #0098 = "BT" THEN
BEGIN
    $Group_Name.#BILLTONAME = #0093;
    $Group_Name.#BILLTOADDR1 = #0166;
    $Group_Name.#BILLTOADDR2 = #0166:2;
    $Group_Name.#BILLTOCITY = #0019;
    $Group_Name.#BILLTOSTATE = #0156;
    $Group_Name.#BILLTOPCODE = #0116;
END
IF #0098 = "ST" THEN
BEGIN
    $Group_Name.#SHIPTONAME = #0093;
    $Group_Name.#SHIPTOADDR1 = #0166;
    $Group_Name.#SHIPTOADDR2 = #0166:2;
    $Group_Name.#SHIPTOCITY = #0019;
    $Group_Name.#SHIPTOSTATE = #0156;
    $Group_Name.#SHIPTOPCODE = #0116;
END
```

条件を表す文字列と関数

はじめに

IF/THEN ステートメントおよび IF/THEN/ELSE ステートメント内で、条件を表す文字列を使用し、文字列間の比較を実行できます。次に、このシンタックスの例を示します。

```
IF s1 = s2 THEN
IF s1 < s2 THEN
IF s1 > s2 THEN
```

次の文字列関数も使用できます。

- ▶ left
- ▶ right
- ▶ mid
- ▶ strdate
- ▶ concat
- ▶ strstr

left、right、mid シンタックス

left、right、および mid 関数を使用すると、文字列から部分文字列を抽出できます。left 関数は、文字列変数または文字列フィールド内の左側から指定した文字数を抽出し、その結果を文字列として返します。right 関数は、文字列変数内の右側から指定した文字数を抽出し、その結果を文字列として返します。mid 関数は、文字列内の指定した位置から右方向へ、指定した文字数を抽出します。次に、これらのステートメントの使用例を示します。

```
string[10] s;
string[3] s1;
string[3] s2;
string[4] s3;
string[7] s4;

s = "abcdefghij";
s1 = left(s,3);
s2 = right(s,3);
s3 = mid(s,3,4);
```

(次のページへ続く)

strdate
シンタックス

`strdate` 関数は、指定した書式で日 / 時型を文字列に変換します。この関数ではスラッシュ (/) などの静的文字を含めることができるため、日付のサポートをすべて利用できます。

シンタックス

```
datetime d;  
string[8] s;  
  
strdate(d, "%y/%m/%d", s);
```

concat
シンタックス

`concat` 関数は、1 つの文字列の指定数の文字を別の文字列の末尾に連結します。次の例では、文字列 `s2` の 5 文字を文字列 `s1` の末尾に連結するシンタックスを示します。

```
string[10] s1, s2;  
concat(s1, s2, 5);
```

strstr シンタックス

`strstr` 関数は、文字列内の部分文字列を検索します。この関数は、指定した部分文字列の最初のインスタンスがある位置を返します。関数が、指定した部分文字列を文字列内で見つけることができなかった場合は、-1 の値を返します。

シンタックス

```
integer d;  
  
d = strstr("hello", "el");
```

数値の関数

はじめに

数値の関数を使うと、データ型を変更できます。次の数値関数を使用できます。

- ▶ len
- ▶ atoi
- ▶ aton
- ▶ ntoa

len シンタックス

len 関数は、文字列内の文字数を数えて戻します。

例

```
integer a;  
a = len("hello");
```

atoi、aton、ntoa シンタックス

atoi 関数は、文字列を整数に変換します。

aton 関数は、文字列を実数に変換します。

ntoa 関数は、整数と実数を文字列に変換します。

例

```
integer a;  
real b;  
string[8] s;  
a = atoi("5");  
b = aton("5.5");  
ntoa(5.5, s);
```

エラーを発生させる関数 (CERROR)

はじめに

cerror 関数は、エラーを発生させ、ターゲット ステートメント (ユーザーが指定するステートメント) をトランスレーション レポートでレポートします。

シンタックス

```
cerror (100, $ILD[0][1][1].#VATC);
```

上記の例では、ILD グループの指定したインスタンスの VATC エlementで、100 エラーを発生させます。通常、条件が `false` である場合に実行される動作として、この関数を指定します。

フィールド値を削除する関数 (EMPTY)

はじめに

empty 関数は、内部記憶領域のフィールドの値を null に設定します。この関数は、フィールドの値を空文字列 (" ") またはゼロに設定する方法と同じではありません。

シンタックス

```
empty ($ILD[0][1][1].#VATC);
```

上記の例では、VATC エLEMENTの指定したインスタンスの値を null に設定します。通常、指定したフィールドに出力できないようにするため、この関数を使用します。

データの存在の関数 (EXIST)

はじめに

exist 関数は、フィールドが空 (null) かどうかをテストして判断します。内部記憶領域内の指定したフィールドにデータがある場合は、ゼロ以外の値 (true) を返します。指定したフィールドにデータがない場合は、関数はゼロ値 (false) を返します。通常、この関数は条件の一部として使用します。

シンタックス

```
IF exist($ILD[0][1][1].#VATC) THEN
```

上記の例では、条件が true の場合 (VATC エレメントの指定したインスタンス内にデータがある場合) に、ゼロ以外の値を返します。条件が false の場合 (VATC エレメントの指定したインスタンス内にデータがない場合) には、ゼロ値を返します。

条件が true かどうかにかかわらず、IF EXIST 関数がゼロ以外の値 (true) を返す場合があります。日付タイプと番号タイプのフィールドに IF EXIST 関数のみを使用することによって、この問題を解決できます。照合するフィールドへの参照はいずれも、必ず IF EXIST 開始ブロック内にネストされるようにしてください。文字列型のフィールドには、次の書式を使用します。

```
IF Field1 = " "
```

カウントの関数 (COUNT)

はじめに

count 関数は、グループ (または繰り返しレコード) が繰り返した回数の合計を返します。

シンタックス

```
count (GROUPNAME [3] [*]);
```

上記の例では、親グループの 3 番目の繰り返し内にある、GROUPNAME グループの繰り返しの合計を返します。

削除の関数 (DELETE)

はじめに

delete 関数は、繰り返しレコードまたは繰り返しグループの指定した繰り返しを削除します。

シンタックス

```
delete (GROUPNAME [iteration]);
```

ファイルポインタの関数 (FSEEK, FTELL)

はじめに

fseek 関数は、ファイル内の指定した始点から新しい位置へ、指定されたバイト (オフセット) 数だけファイルポインタを移動させます (始点は、ファイルの最初、ファイルの最後、または現在の位置です)。

入力ファイルに対して fseek 関数を呼び出す場合、current_file の値は 0 です。出力ファイルに対して fseek 関数を呼び出す場合、current_file の値は 1 です。通常、fseek 関数は、ftell、readblock、および writeblock 関数と組み合わせてのみ使用します。

シンタックス

```
fseek(current_file,offset,origin);
```

ftell 関数は、ファイルポインタの現在の位置を取得し、整数として返します。入力ファイルに対して ftell 関数を呼び出す場合、current_file の値は 0 です。出力ファイルに対して ftell 関数を呼び出す場合、current_file の値は "1" です。通常、fseek 関数は、fseek、readblock、および writeblock 関数と組み合わせてのみ使用します。

シンタックス

```
numeric_variable = ftell(current_file);
```

データのブロックの関数 (READBLOCK, WRITEBLOCK)

はじめに

readblock 関数は、入力ファイルからデータブロック (セグメントまたはレコード) を読み込み、文字列変数の引数に渡します。writeblock 関数は、文字列変数の引数内のデータを出力ファイルに書き込みます。

readblock と writeblock 関数を組み合わせて使用することで、エラーチェックや EDI シンタックスの正確さのテストをせずに、入力ファイルのデータブロックを出力ファイルに渡すことができます。これらの関数の組み合わせは、通常ビルド マップとブレイク マップに実装される "ワイルドカード" セグメントを使用するより便利な方法です。

シンタックス

```
readblock(string_variable);  
writeblock(string_variable);
```

メモ

XML データでこれらの関数を使用する場合の注意事項については、『XML User's Guide』の付録「XML Build and Break Maps」を参照してください。

選択の関数 (SELECT)

はじめに

select 関数を使用すると、データベース テーブルから情報を取得できます。Select スタンダード ルールで使用できるテーブルとフィールドのみが、" 選択 " 拡張ルールで使用できます。このコマンド シンタックスの中で、**expression** および **receiverlist** には、文字列フィールド、文字列変数、または文字列リテラルが入ります。" 選択 " 拡張ルールのテーブル名とフィールド名は、スタンダード ルールでの名前とはわずかに異なるので、注意することが大切です。この章の最後に、これらのテーブル名とフィールド名のリストがあります。

シンタックス

```
select fieldname into receiverlist from tablename where key =  
expression [and key = expression];
```

更新の関数 (UPDATE)

はじめに

`update` 関数を使用すると、データベース テーブル内の情報を更新できます。この関数は、`Update` スタンダード ルールと似ていますが、さらに柔軟性があります。`Update` スタンダード ルールで使用できるテーブルとフィールドのみが、"更新" 拡張ルールで使用できます。このコマンド シンタックスの中で、`expression` には、文字列フィールド、文字列変数、または文字列リテラルが入ります。"選択" 拡張ルールのテーブル名とフィールド名は、スタンダード ルールでの名前とはわずかに異なるので、注意することが大切です。この章の最後に、これらのテーブル名とフィールド名のリストがあります。

シンタックス

```
update tablename set fieldname =expression [fieldname =expression]
where key = expression [and key = expression];
```

挿入の関数 (INSERT)

はじめに

insert 関数を使用すると、データベース テーブル内の情報を更新できます。

シンタックス

```
insert into tablename [ (fieldlist) ] [ (valuelist) ];
```

User Exit の関数 (EXEC)

user exit について

user exit は、一時的にマップのトランスレーションを終了させる拡張ルールです。user exit を使用すると、既存の機能を向上させたり、通常のトランスレーションでは Gentran:Server で実行されない特定の処理を実現できます。

参照

user exit の詳細については、付録「[User Exit](#)」を参照してください。

user exit 拡張ルールの配置

exec 関数は、適切な場合は任意の階層レベルにあるマップ コンポーネントの拡張ルール (フィールド レベルの拡張ルールを含む) 内で使用できます。

メモ

マップ コンポーネントに User Exit を適用すると、そのマップの下位コンポーネントでも同じ User Exit を実行できます。

使用可能なデータ型

次に、exec 関数で使用できる拡張ルールのデータ型を示します。

- ▶ INTEGER
- ▶ REAL
- ▶ STRING

メモ

日付および時刻データを使用するには、文字列データ型として処理する必要があります。

ActiveX と User Exit の関数

はじめに

現在 Gentran:Server は、新しい拡張ルール機能をサポートしています。その機能では、拡張ルール内から Microsoft の ActiveX データ オブジェクト (ADO) を使用できるようになっており、user exit のサポートも向上しています。

ActiveX インデックス付きプロパティ

現在 Gentran:Server は、ActiveX インデックス付きプロパティをサポートしています。サポートするインデックス タイプは、次のとおりです。

- ▶ バリエーション
- ▶ 数値
- ▶ 文字列

インデックスのサポートにより、これらのシンタックスを使用できるようになっています (使用するオートメーション サーバーでこれらのシンタックスがサポートされている場合)。

```
n = ob.property[1];  
n = ob.property["Count"];  
n = ob.property[ob.method()];
```

Gentran:Server は、ActiveX メソッド呼び出しおよびプロパティのチェーニングもサポートしています。これにより、比較的複雑なオブジェクト モデル (ADO など) を持つオートメーション サーバーの拡張ルールを簡略化できます。

例

次に、チェーニング ステートメントの例を示します。

```
recordset.fields.item["MessageId"].value
```

Createobject シンタックス

createobject 関数を使用すると、ActiveX オートメーション サーバーのインスタンスを作成できます。

シンタックス

```
object = createobject("ProgID");
```

ProgID は、プログラムの識別子です。次に、ProgID の例を示します。

"InternetExplorer.Application"

(次のページへ続く)

Deleteobject シンタックス

deleteobject 関数を使用すると、ActiveX オートメーション サーバーのインスタンスを削除できます。オブジェクトは、そのオブジェクトを使用するマップの終了前に削除する必要があります。Gentran:Server トランスレータはマップの終了時にオブジェクトを自動的に削除しますが、(deleteobject コマンドを使用して) オブジェクトが完了した時点ですぐにそのオブジェクトを削除する方が効率的です。また、あるオブジェクトを別のマップへ割り当てた場合、そのオブジェクトを正常にアンロードするには、それら両方のオブジェクトのコピーを削除する必要があります。

シンタックス

```
deleteobject (object);
```

getiid シンタックス

The getiid 関数では、インターフェイスの一意の識別子を取得できます。この関数は、インターフェイスの文字列名や文字名を使用して、インターフェイスを実行するためにソフトウェアによって使用されるグローバルな一意の識別子を返します。

シンタックス

```
string_variable = getiid("ProgID", "InterfaceID");
```

IID (InterfaceID) は、インターフェイス識別子です。次に、IID の例を示します。
"IWebBrowser2"

queryobject シンタックス

queryobject 関数は、既存のオブジェクトに別のインターフェイスを要求するために使用します。

シンタックス

```
object2 = queryobject(object1, "{IID}");
```

メモ

ActiveX プロパティ、メソッドの結果、または任意の ActiveX プロパティとメソッドの結果を比較する拡張ルールは使用できません。コンパイル前は、プロパティとメソッドタイプを特定できず、正しい比較コードを生成できません。したがって、この種の比較は無効です。

アルファベット順リファレンス

概要

はじめに

この項には、Gentran:Server 用プログラミング言語のキーワードおよびコマンドのアルファベット順リファレンスがあります。このリファレンスを使用すると、特定のキーワードまたはコマンドについての情報をすばやく参照できます。

書体の規則

次の表に、この項で使用される書体の規則を示します。

書体の例	書体が示す意味
While	ユーザーが入力する内容です。
condition	シンタックス内で入力する情報です。
[1]	シンタックス内で、角かっこ内のアイテムはオプションです。

書体の規則

この項では、次のプログラミングガイドラインが使用されます。

- ▶ キーワードおよびコマンドは、すべて小文字で示されます。
- ▶ マップ コンポーネントは、すべて大文字で示されます。
- ▶ ダブル スラッシュ (//) は、コメントの開始を示します。
- ▶ この項で 1 行に収まらないテキストは、行送りの記号 (↵) を使って、次の行に続けて記述されています。
- ▶ ††

atoi

はじめに

atoi 関数は、文字列を整数に変換する数値関数です。数値関数を使うと、データ型を変更できます。

シンタックス

```
int = atoi(string);
```

コメント : `int` = 整数変数
`string` = 文字列変数

例

```
integer a;  
string[20] s;  
s = "5";  
a = atoi(s);  
// "a" には値 5 が入る。
```

aton

はじめに

aton 関数は、文字列を実数に変換する数値関数です。数値関数を使うと、データ型を変更できます。

シンタックス

```
real = aton(string);
```

コメント : `real` = 実数変数
`string` = 文字列変数

例

```
real a;  
string[20] s;  
s = "5.5";  
a = aton(s);  
// "a" には値 5.5 が入る。
```

auditlog

はじめに

auditlog 関数を使用すると、Gentran:Server オーディット ログに、ユーザー定義のオーディット メッセージを書き込むことができます。オーディット ログ処理を呼び出す拡張ルールを実行すると、指定されたユーザー定義のメッセージがオーディット ログに書き込まれます。

メモ

この関数には、戻り値はありません。

シンタックス

```
auditlog(MessageID, Type, Key, [, string1] [, string2] [, string3] [, string4] [, string5]
[, string6] [, string7];
```

MessageID

1 番目のパラメータの MessageID は、ユーザー定義のオーディット メッセージ識別子です。整数値である必要があります。

Type

2 番目のパラメータの Type は、オーディット メッセージのタイプを示すキーワードです。Gentran:Server では、次の定義済みキーワードが有効です。

- ▶ AL_PROC (処理)
- ▶ AL_MSG (メッセージ)

メモ

まだキーワードが定義されていない Type を説明するため、整数値を指定することもできます。

Key

3 番目のパラメータの Key はキーワードであり、ゼロ (パラメータ 2 の Type が "AL_PROC" の場合) または指定された Type のデータの ID です。Gentran:Server では、次の定義済みキーワードが有効です。

- ▶ AL_KEY_INPUT
- ▶ AL_KEY_OUTPUT

メモ

まだキーワードが定義されていない Key を示すため、整数値を指定することもできます。

(次のページへ続く)

パラメータ 4 ~ 10

パラメータ 4 ~ 10 は、オプションの文字列値です。ユーザー定義のメッセージは、オーデイト メッセージで定義された変数を入力するため、これらのパラメータを必要とすることがあります。

例 1

```
auditlog(MessageID, AL_PROC, 0, ...);  
// マップ内の処理メッセージを発行する。
```

例 2

```
auditlog(MessageID, AL_MSG, Oatoi(param(1)), ...);  
// 現在処理中のメッセージのデータ オーデイトを  
// 発行する。
```

begin

はじめに

Gentran:Server では、条件付き論理を使って条件をテストし、そのテスト結果に応じて演算を実行します。条件は、任意のレベルに対してネストすることができます。**if/then** キーワードを使って、1つ以上のステートメントを条件付きで実行できます。**if/then** ループの本体で複数のステートメントを使用する場合は、**begin/end** キーワードでステートメントを囲む必要があります。ステートメントを1つしか使用しない場合は、**begin** と **end** を省略できます。

メモ

条件をセミコロン (;) で終了しないでください。この終了のシンタックスは、ステートメントの場合にのみ必要です。

シンタックス

```
if condition then
begin
    statement1;
    statement2;
end
```

break

はじめに

break 関数は、最も近くでそれを囲む **while** ループの実行を終了し、**end** キーワードの後ろのステートメントに制御を渡します。**break** キーワードは、一般には複雑なループ内で使って、いくつかのステートメントの実行前にそのループを終了します。

例

```
integer i
  i = 0;

While i<10 do
Begin
  #Total = Total + 50;
  i = i + 1;

  If #Total > 100000
    Break;
  Else
    Continue;
End
// 変数 "i" の値が 10 未満の間は、フィールド Total に
// 50 を加算する。
// "i" が 10 になる前にフィールド Total の値が 100000 を
// 超えた場合は while ループを終了し、そうでなければ
// "i" が 10 になるまで処理を続ける。
```

cerror

はじめに

cerror 関数は、エラーを発生させ、ターゲット ステートメント (ユーザーが指定するステートメント) をトランスレータ レポートで報告します。通常、条件が false である場合に実行される動作として、この関数を指定します。次の表に、Gentran:Server で cerror 関数がサポートされるタイミングを示します。

マップまたはフォームのタイプ	cerror 関数のサポート側
画面入力	無効
印刷	無効
エクスポート	マップの入力側のみで有効
インポート	マップの入出力側で有効
ブレイク (インターチェンジ、グループ、またはトランザクション セット)	マップの入力側のみで有効
ビルド (インターチェンジ、グループ、またはトランザクション セット)	無効

シンタックス

```
cerror(error_number,$GROUP_NAME[index][index][index].
↳#FIELD_NAME);
```

例

```
cerror(100,$ILD[0][1][1].#VATC);
// これは、ILD グループの指定したインスタンスの VATC エlementで、
// エラー 100 を発生させる。
```

エラー コード

次に、エラー コードを示します。

エラー番号	生成されたエラー
100	Mandatory Element
105	Conditional Element
110	Incorrect Element Format
111	Invalid Date
112	Invalid Time
113	Invalid String

(次のページへ続く)

(続き) エラー番号	生成されたエラー
114	Invalid Number
115	Incorrect Element Length
116	Element Too Short
117	Element Too Long
118	Invalid Overpunch Data
119	Invalid Numeric XData
120	Too Many Components
121	Too Many Elements
125	Element Delimiter
130	Conditional Relation
135	Element Code
140	Standard Rule Failure
145	Binary Substitution Failed
200	Mandatory Component
205	Conditional Component
210	Incorrect Component Format
215	Incorrect Component Length
220	Component Delimiter
225	Component Code
300	Mandatory Segment
305	Segment Sequence
310	Invalid Start End
315	Incorrect Block Format
320	Segment Terminator
330	Unexpected Segment
400	Session Error
405	Unknown Partner

(次のページへ続く)

(続き) エラー番号	生成されたエラー
410	Invalid Control Number
415	Invalid Sub Count
420	Unknown Relationship
425	Unknown Standard
430	Unknown Version
435	Unknown Transaction
440	Duplicate Control Number
445	Duplicate Doc Name
500	ActiveX Bad Param Count
505	ActiveX Bad Argument Type
510	ActiveX Unknown Name
515	ActiveX Type Mismatch
520	ActiveX Missing Required Param
525	ActiveX Server Unavailable
530	ActiveX Object Not Created
535	ActiveX Other Error
600	XML Element Type Match
601	XML Element Root Type
602	XML Element Required
620	XML Attribute Undeclared
621	XML Attribute Not Unique
622	XML Attribute Required
623	XML Attribute Fixed Error
624	XML Attribute ID Not Unique
625	XML Attribute ID REF Match
630	XML Attribute Parse Name Error
631	XML Attribute Parse Equal Error

(次のページへ続く)

(続き) エラー番号	生成されたエラー
632	XML Attribute Parse OQuote Error
633	XML Attribute Parse CQuote Error
640	XML Attribute Name Error
641	XML Attribute Names Error
642	XML Attribute NMTOKEN Error
643	XML Attribute NMTOKENS Error
644	XML Attribute ENTITY Error
645	XML Attribute ENTITIES Error
660	XML Reference Char Invalid
661	XML Reference ENTITY Recursion
662	XML Reference ENTITY Undeclared
699	XML Unknown Error
700	ODBC Data Source Open Error
701	ODBC Data Source Rollback
702	ODBC Data Source Commit Error
703	ODBC Data Source Rollback Error
710	ODBC Query Open Error
711	ODBC Command Error
712	ODBC Cursor Error
720	ODBC Output Table Error
721	ODBC Output Operation Error
730	ODBC Mandatory Element
731	ODBC Data Conversion Error
732	ODBC Incorrect Element Format
733	ODBC Standard Rule Failure
799	ODBC Unknown Error
800	NCPDP BFHS Missing

(次のページへ続く)

(続き) エラー番号	生成されたエラー
801	NCPDP BFHS Seg ID Error
802	NCPDP BFHS Transmission Type Error
803	NCPDP BFHS Sender ID Missing
804	NCPDP BFHS Batch ID Error
805	NCPDP BFHS File Type Error
806	NCPDP BFHS Receiver ID Missing
807	NCPDP BFDDR Missing
808	NCPDP BFDDR Seg ID Error
809	NCPDP BFDDR Transaction Ref Missing
810	NCPDP BFTR Missing
811	NCPDP BFTR Seg ID Error
812	NCPDP BFTR Batch ID Error
813	NCPDP BFTR Record Count Error
814	NCPDP BFTR Record Count Mismatch Error
815	NCPDP DR Repeating Segment Error
816	NCPDP DR Transaction Code Error
817	NCPDP DR Transaction Count Error
818	NCPDP DR Transaction Count Mismatch Error
819	NCPDP DR Header Response Code Error
820	NCPDP DR Transaction Response Code Error
830	NCPDP Null Char
832	NCPDP Invalid Char
833	NCPDP Unexpected EOF
835	NCPDP Unexpected STX
836	NCPDP Unexpected ETX
837	NCPDP Missing Stream Separator 1
838	NCPDP Missing Stream Separator 2

(次のページへ続く)

(続き) エラー番号	生成されたエラー
839	NCPDP Unexpected Separator
840	NCPDP Unexpected FS
841	NCPDP Unexpected GS
842	NCPDP Missing GS
845	NCPDP Positional Segment Tag Off
855	NCPDP Delimited Segment Empty
856	NCPDP Delimited Segment Missing First FS
857	NCPDP Delimited Field ID Invalid
858	NCPDP Delimited Field ID Invalid Char
859	NCPDP Delimited Field ID Null Char
860	NCPDP Delimited Field ID Incomplete
861	NCPDP Delimited Field Data Missing
862	NCPDP Delimited Field Data Null Char
863	NCPDP Delimited Field Data Invalid
864	NCPDP Delimited Field Data Invalid Char
865	NCPDP Delimited Segment ID Invalid
866	NCPDP Delimited Segment ID Invalid Char
867	NCPDP Delimited Segment ID Null Char
868	NCPDP Delimited Segment ID Incomplete
869	NCPDP Delimited Field ID Size
885	NCPDP Batch Nothing After STX
886	NCPDP Batch Unexpected STX
887	NCPDP Batch Missing ETX
888	NCPDP Batch Data File Open
890	NCPDP Data Field String Separator
891	NCPDP Data Field String No Filename
892	NCPDP Data Field String Start Byte

(次のページへ続く)

(続き) エラー番号	生成されたエラー
893	NCPDP Data Field String End Byte
894	NCPDP Data Field String Incomplete
895	NCPDP Data Field String Extra Characters
896	NCPDP Data Field Size Incorrect
897	NCPDP Data Field Start Out of Bounds
898	NCPDP Data Field Start Beyond End
899	NCPDP Unknown Error

concat

はじめに

concat 関数は、1 つの文字列の指定数の文字を別の文字列の末尾に連結します。

シンタックス

```
concat(string,string,num_char);
```

コメント : string = 文字列変数
num_char = 最初の文字列の末尾に連結する 2 番目の文字列の文字数

メモ

コンパイルする前に ActiveX プロパティの長さは特定できないため、**concat** 関数の最初のパラメータとして、ActiveX プロパティは使用できません。

例

```
string[20] s1,s2;  
s1 = "Sterling";  
s2 = "Commerce";
```

```
concat (s1,s2,8);
```

```
// 文字列 "s1" の末尾に文字列 "s2" から 8 文字を連結する。  
// s1 の値は "Sterling Commerce" になる。
```

continue

はじめに

continue 関数は、**continue** ステートメントの後ろのループ内のステートメントを処理せずに、最も内側のループの処理を続行します。

例

```
integer i
  i = 0;

While i<10 do
Begin
  #Total = Total + 50;
  i = i + 1;

  If #Total > 100000
    Break;
  Else
    Continue;
End
```

```
// 変数 "i" の値が 10 未満の間は、フィールド Total に
//50 を加算する。
// "i" が 10 になる前にフィールド Total の値が 100000 を
// 超えた場合は while ループを終了し、そうでなければ
// "i" が 10 になるまで処理を続ける。
```

count

はじめに

count 関数は、グループが繰り返される数をカウントして戻します。次に例を示します。

```
integer i;  
i = count($N1[*]);  
//[*]はN1グループの繰り返し回数をカウントするワイルドカード。
```

createobject

はじめに

createobject 関数では、ActiveX オートメーション サーバーのインスタンスを作成できます。

シンタックス

```
object = createobject("ProgID");
```

コメント : ProgID = プログラムの識別子

例

```
object ob;  
ob = createobject("InternetExplorer.Application");  
//ActiveX オートメーション サーバーの既定インターフェイスのインスタンスを  
// 作成する。  
// 注意:  
//createobject コマンドは、インターフェイス名の代わりに IID を使用する場合に、  
// より効率的になる。
```

date

はじめに

date 関数は、指定した書式で文字列型を日 / 時型に変換します。この関数ではスラッシュ (/) などの静的文字を含めることができるため、日付のサポートをすべて利用できます。

シンタックス

```
Datetime = date("format",string);
```

コメント : **datetime** = 日 / 時変数 (月は 1 ~ 12 で指定)
format = 使用する日付書式
string = 文字列変数

例

```
datetime d;  
d = date(1995,4,6);  
d = date(1995,4,6,12,0);  
d = date("%y/%m/%d","95/4/6");  
d = date("%y/%m/%d",#strdate);
```

書式指定子

次の表に、書式指定子を示します。

書式指定子	説明
%8	ISO-8601 日付書式 書式 YYYYMMDDTHHMMSS.mmmZ 世界標準時 (Zulu 時間、グリニッジ標準時とも呼ばれる) で表される 4 桁表記の年、2 桁表記の月、2 桁表記の日、T (時刻) 指示記号、2 桁表記の時間、2 桁表記の分、2 桁表記の秒、Z (Zulu 時間) 指示記号 (例、20031209T123000.000Z) メモ この日付書式は、他の書式指定子と組み合わせることはできません。
%a	略式曜日名
%A	完全曜日名
%b	略式月名
%B	完全月名

(次のページへ続く)

(続き) 書式指定子	説明
%d	10 進数での日付 (01 ~ 31)
%D	ISO-8601 日付書式 (日付コンポーネントのみ) 書式 YYYYMMDDZ メモ この日付書式は、他の書式指定子と組み合わせることはできません。
%H	24 時間形式の時間 (00 ~ 23)
%I	12 時間形式の時間 (01 ~ 12)
%j	10 進数での年間通算日 (001 ~ 366)
%m	10 進数での月 (01 ~ 12)
%M	10 進数での分 (00 ~ 59)
%S	10 進数での秒 (00 ~ 59)
%U	日曜日を週初日とした、10 進数での年間通算週 (00 ~ 51)
%w	10 進数での曜日 (0 ~ 6、日曜日を "0" として)
%W	月曜日を週初日とした、10 進数での年間通算週 (00 ~ 51)
%y	10 進数での 2 桁年数 (00 ~ 99)
%Y	10 進数での 4 桁年数
%%	パーセント記号

delete

はじめに

delete 関数は、グループの特定の発生を削除します。

シンタックス

```
delete($GROUP_NAME[N]);
```

n は、削除したいグループの発生です。

例

```
delete($ILD[2]);  
//ILD グループの 2 番目の発生を削除する。
```

deleteobject

はじめに

deleteobject 関数を使用すると、ActiveX オートメーション サーバーのインスタンスを削除できます。オブジェクトは、そのオブジェクトを使用するマップの終了前に削除する必要があります。Gentran:Server トランスレータはマップの終了時にオブジェクトを自動的に削除しますが、オブジェクトが完了した時点でそのオブジェクトをすぐに削除する方が効率的です。また、あるオブジェクトを別のマップへ割り当てた場合、そのオブジェクトを正常にアンロードするには、それら両方のオブジェクトのコピーを削除する必要があります。

シンタックス

```
deleteobject(object);
```

例

```
object ob;  
ob = createobject("InternetExplorer.Application");  
deleteobject(ob);  
// オブジェクトのインスタンスを削除する。
```

empty

はじめに

empty 関数は、内部記憶領域のフィールド値を **null** に設定します。この関数は、フィールドの値を空文字列 (" ") またはゼロに設定する方法と同じではありません。

シンタックス

`empty($GROUP_NAME[index][index][index]. #FIELD_NAME)`

例

```
empty($ILD.#VATC);
```

//VATC エレメントの指定したインスタンスの値を **null** に設定する。

end

はじめに

Gentran:Server では、条件付き論理を使って条件をテストし、そのテスト結果に応じて演算を実行します。条件は、任意のレベルに対してネストできます。**if/then** キーワードを使って、1つ以上のステートメントを条件付きで実行できます。**if/then** ループの本体で1つ以上のステートメントを使用する場合は、**begin/end** キーワードでステートメントを囲む必要があります。ステートメントを1つしか使用しない場合は、**begin** と **end** を省略できます。

メモ

条件をセミコロン (;) で終了しないでください。この終了のシンタックスは、ステートメントの場合にのみ必要です。

シンタックス

```
if condition then
begin
    statement1;
    statement2;
end
```

exec

はじめに

exec 関数は、バッチ ファイルまたはプログラムの実行を呼び出します。トランスレータは、トランスレーションを続行する前に、スクリプトが終了するのを待ちます。スクリプトが実行され、数字の戻り値コードが返されると、**exec** 関数は次の処理を実行します。

- ▶ 戻り値コードを取得する
- ▶ トランスレーションに戻る
- ▶ トランスレーションで戻り値コードを使用する

メモ

ルールをコンパイルするには、**exec (...)** 呼び出しの戻り値と同じ整数値を設定する必要があります。

シンタックス

```
nReturn = exec(string)
```

コメント :

nReturn = 戻り値

string = シェル スクリプトを表す文字列変数またはリテラル値

例

```
integer nReturn;  
nReturn = 0;  
nReturn = exec ("c:¥addrunm.sh");
```

exist

はじめに

exist 関数は、フィールドが空 (null) かどうかをテストします。内部記憶領域内の指定したフィールドにデータがある場合は、ゼロ以外の値 (true) を返します。指定したフィールドにデータがない場合は、関数はゼロ値 (false) を返します。通常、この関数は条件の一部として使用します。

条件が true かどうかに関わらず、IF EXIST 関数がゼロ以外の値 (true) を返す場合があります (フィールドまたはエレメントに Use Code スタANDARD ルールが適用されている場合など)。日付タイプと番号タイプのフィールドにのみ IF EXIST 関数を使用することによって、この問題を解決できます。照合するフィールドへの参照はいずれも、必ず IF EXIST 開始ブロック内にネストされるようにしてください。

文字列型のフィールドには、次の書式を使用します。

```
IF Field1 = ""
```

シンタックス

```
if exist($GROUP_NAME[index][index][index]. #FIELD_NAME) then
```

例

```
if exist($ILD.#VATC) then  
    #TEMP_FIELD = #VATC;
```

```
// 条件が true の場合 (VATC エレメントの指定したインスタンス内に  
// データがある場合) に、ゼロ以外の値を返す。  
// 条件が false の場合 (VATC エレメントの指定したインスタンス内に  
// データがない場合) には、ゼロ値を返す。
```

fseek

はじめに

fseek 関数は、ファイル内の指定した始点から新しい位置へ、指定されたバイト (オフセット) 数だけファイルポインタを移動させます (始点は、ファイルの最初、ファイルの最後、または現在の位置です)。

入力ファイルに対して **fseek** 関数を呼び出す場合、**current_file** の値は 0 です。出力ファイルに対して **fseek** 関数を呼び出す場合、**current_file** の値は 1 です。通常、**fseek** 関数は、**ftell**、**readblock**、および **writeblock** 関数と組み合わせてのみ使用します。

シンタックス

```
fseek(current_file,offset,origin);
```

コメント : **current_file** = 入力ファイルは 0、は出力ファイルは 1

offset = 起点を基準としたファイルポインタの移動先の位置

origin = 開始位置を示すキーワード

begin = ファイルの最初で開始

end = ファイルの最後で開始

current = ファイルの現在の位置で開始

例

```
string[1024]temp_buffer;
Integer Position;
Position = ftell(0);
while readblock(temp_buffer) do
begin
    if left(temp_buffer,3) = "IEA" then
        begin
            fseek(0,Position,begin);
            break;
        end
        writeblock(temp_buffer);
        Position = ftell(0);
    end
end
// 入力ファイルからセグメントを読み取り、temp_bufferに入れる。
// "IEA" セグメントタグを探す。検出した場合には、"IEA" セグメントを
// 読み取る前の位置にファイルポインタをリセットします。
// temp_buffer のコンテンツを出力ファイルに書き込みます。
// "Position" を現在のファイルポインタの位置に設定する。
```

ftell

はじめに

ftell 関数は、ファイル ポインタの現在の位置を取得し、整数として返します。入力ファイルに対して **ftell** 関数を呼び出す場合、**current_file** の値は 0 です。出力ファイルに対して **ftell** 関数を呼び出す場合、**current_file** の値は 1 です。通常、**ftell** 関数は、**fseek**、**readblock**、および **writeblock** 関数と組み合わせてのみ使用します。

シンタックス

```
numeric_variable = ftell(current_file);
```

例

```
string[1024]temp_buffer;
Integer Position;
Position = ftell(0);
while readblock(temp_buffer) do
begin
    if left(temp_buffer,3) = "IEA" then
        begin
            fseek(0,Position,begin);
            break;
        end
        writeblock(temp_buffer);
        Position = ftell(0);
    end
end
// 入力ファイルからセグメントを読み取り、temp_bufferに入れる。
// "IEA" セグメント タグを探す。検出した場合には、"IEA" セグメントを
// 読み取る前の位置にファイルポインタをリセットする。
// temp_buffer の内容を出力ファイルに書き込む。
// "Position" を現在のファイルポインタの位置に設定します。
```

get

はじめに

get 関数では、日 / 時変数の個々の構成要素を取得できます。

シンタックス

```
integer_variable = get datetime_component (datetime_variable);
```

コメント : integer_variable = 整数変数
datetime_component = 日 / 時変数の
個々のコンポーネント
datetime_variable = 取得したい構成要素を一部に持つ
日 / 時変数

例

```
integer temp_days;  
integer temp_hours;  
datetime d;  
temp_days = 0;  
temp_hours = 0;  
d = '12/25/2001 12:15:30';  
// マップ内のフィールド値は、日付 / 時刻変数 "d" に割り当てるか、  
// またはハードコード値を割り当てることができる。  
  
temp_days = get days (d);  
temp_hours = get hours (d);  
  
// 日付 / 時刻変数 "d" の日付を取得し、変数 "temp_days" に読み込む。  
// 日付 / 時刻変数 "d" の時刻を取得し、変数 "temp_hours" に読み込む。
```


getiid

はじめに

getiid 関数では、インターフェイスの一意の識別子を取得できます。この関数は、インターフェイスの文字列名や文字名を使用して、インターフェイスを実行するためにソフトウェアによって使用されるグローバルな一意の識別子を返します。

シンタックス

次のシンタックスは、ActiveX オートメーション サーバーの既定インターフェイスのインスタンスを作成します。

```
string_variable = getiid("ProgID");
```

次のシンタックスは、インターフェイスの InterfaceID (IID) を検索します。

```
string_variable = getiid("ProgID", "Interface_Name or {Interface ID}");
```

例

```
object ob;  
string[50] iid;  
iid = getiid("InternetExplorer.Application", "IWebBrowser2");  
ob = createobject("InternetExplorer.Application", iid);  
ob.Visible = 1;  
//ActiveX オートメーション サーバーでプロパティ値を設定し、  
// デスクトップに Internet Explorer を表示する。
```

if then...else

はじめに

キーワードの **if**、**then**、および **else** を使うと、条件付き論理を使用できます。Gentran:Server では、条件付き論理を使って条件をテストし、そのテスト結果に応じて演算操作を実行します。条件は、任意のレベルに対してネストできます。**if/then** キーワードを使って、1 つ以上のステートメントを条件付きで実行できます。通常、条件には比較を使用しますが、数値で終了する任意の表現を使用することもできます。Gentran:Server は、*true* と *false* のいずれかとして値を解釈します。システムでは、ゼロ値が *false*、ゼロ以外の値が *true* と解釈されます。

Gentran:Server では、**if/then** 条件を評価し、それが *true* であれば **then** キーワードに続くすべてのステートメントが実行されます。その条件が *false* であれば、**then** に続くステートメントは実行されません。

if/then と組み合わせて **else** キーワードを使うと、複数ブロックにわたるステートメントを定義することができ、結果的にそれらのブロックのうちの 1 つが実行されます。Gentran:Server では、まず **if/then** 条件がテストされます。その条件が *false* であれば、*true* である条件が検出されるまで各条件のテストが順次進められます。*true* の条件があれば、それに対応するブロックのステートメントが実行されます。**if/then** 条件に *true* のものがなければ、**else** キーワードに続くステートメントが実行されます。

メモ

条件をセミコロン (;) で終了しないでください。この終了のシンタックスは、ステートメントの場合にのみ必要です。

例

```
if condition then
begin
    statement1;
    statement2;
end
else
begin
    statement3;
    statement4;
end
end
```

index

はじめに

index 関数では、トランスレータが現在アクセスしているループのインスタンスを特定できます。




シンタックス

```
index(integer_variable);
```

コメント : integer_variable = 整数変数で表された、
loop count を特定する対象の階層レベル

例

```
index(1)  
// この拡張ルールは、次の図の ILD グループにある。  
// これは、階層構造の最初のレベル (ODD) 現在の繰返し数を決定する。
```

```
INVOIC -M- INVOICE DETAILS   
  ODD -M- 999999   
    ILD -M- 999999 
```

insert

はじめに

insert 関数を使用すると、データベース テーブル内の情報を更新できます。

シンタックス

```
insert into tablename [ (fieldlist) ] [ (valuelist) ];
```

コメント : tablename DivisionLookup | PartnerLookup | DivisionLocation
 PartnerLocation | DivisionXref | PartnerXref

fieldlist (fieldname [, fieldname])

fieldname テーブルに含まれるフィールドの名前。

valuelist (String [, String])

メモ

- ▶ この章の後に、テーブルのリストがあります。
 - ▶ fieldlist には、データを追加する 1 つ以上の fieldname をリストします。
 - ▶ fieldname は、任意の順序でリストできます。
 - ▶ valuelist は、フィールド リストと同じ順番でリストする必要があります。
-

(次のページへ続く)

例

```
updateStatus = update PartnerLookup
set Description = "Lookup Update
Test",Text1="Text1Updated",Text2="Text2Updated",Text3="Text3Update
d",Text4="Text4Updated"
where TableName = "PartLkp" and Item = "1";

if updateStatus = 1 then
begin
  messagebox("Update PartnerLookup: Record Not Found,Attempting
↳Insert...",1);
  insertStatus = insert into PartnerLookup( PartnerKEY, TableName,
↳Item,Description,Text1,Text2,Text3,Text4)
↳values ("PETZONE","PartLkp","1","Lookup Insert
↳Test","Text1","Text2","Text3","Text4");
  if insertStatus = 0 then
  begin
    messagebox("Insert PartnerLookup: Failed",1);
  end
end

if updateStatus = 2 then
begin
  messagebox("Update PartnerLookup Failed with OtherError",1);
end
// この例では、照合テーブル "PartLkp" が既に作成されていることを前提としている。
```

left

はじめに

left 関数は、文字列変数または文字列フィールド内の左側から指定した文字数を抽出し、その結果を文字列として返します。

シンタックスは次のとおりです。

```
string_variable = left(string_variable,num_char)
```

コメント : num_char = 整数変数

メモ

コンパイルする前に ActiveX プロパティの長さを特定できないため、**left** 関数の最初のパラメータとして、ActiveX プロパティは使用できません。

例

```
string [25]name;  
string [5]temp_variable;  
name = "Acme Shipping Company"  
temp_variable = left(name,4);  
// "temp_variable" には、"Acme" が入る。
```

len

はじめに

len 関数は、文字列中の文字数を数えて戻す数値関数です。数値関数を使うと、データ型を変更できます。

シンタックス

```
number_char = len(string);
```

コメント : num_char = 整数変数

例

```
integer a;  
a = 0;  
a = len("hello");  
// "a" には値 5 が入る。
```

messagebox

はじめに

messagebox 関数では、あらかじめフォーマットとコンテンツを指定してあるメッセージボックスを表示できます。メッセージボックスのボタンの番号とタイプ、メッセージアイコン(ハンド、疑問符、感嘆符、アスタリスクなど)、および表示されるメッセージを指定できます。さらに、選択された動作に基づいて、戻り値を発行することができます。

メモ

メッセージボックスには、文字列値だけを表示できます。

シンタックス

```
messagebox("message",defined_number)
```

コメント : **message** = メッセージ文字列
defined_number = 目的のボタンの指定番号、
および目的のアイコンの指定番号(使用する場合)

例

```
if messagebox("Do you really want to delete this object?",36) = 6  
begin  
.  
.  
.  
end
```

// メッセージとしての文字列、**Yes** と **No** ボタン (4)、および疑問符アイコン (32) が
// メッセージボックスに表示される。ボタン (4) の番号と種類にアイコン (32) を
// 加算すると、**defined_number** (36) になります。ユーザーが **Yes** ボタン
// (値 "6" を返す) をクリックすると、**begin/end** ループ内のステートメントが
// 実行される。

(次のページへ続く)

**Defined_
numbers**

次の表に、ボタンおよびアイコン タイプの defined_number を示します。

Defined_Number	ボタンまたはアイコン タイプ
0	[OK] ボタンのみ
1	[OK] および [キャンセル] ボタン
4	[はい] および [いいえ] ボタン
16	ハンド アイコン
32	疑問符アイコン
48	感嘆符アイコン
64	アスタリスク アイコン

**メッセージ ボックス
による戻り値**

次の表に、メッセージ ボックスの戻り値を示します。

戻り値	選択された動作
1	[OK] を選択
2	[キャンセル] を選択
6	[はい] を選択
7	[いいえ] を選択

mid

はじめに

mid 関数は、文字列内の指定した位置から順方向に、文字列の末尾までか、指定した文字数を抽出し、その結果得られた文字列を返します。この関数は、ゼロベースです。

シンタックス

```
string_variable = mid(string_variable,start_pos,num_char)
```

コメント : `start_pos` = 整数変数
`num_char` = 整数変数

メモ

コンパイルする前に ActiveX プロパティの長さを特定できないため、**mid** 関数の最初のパラメータとして、ActiveX プロパティは使用できません。

例

```
string [25]name;  
string [10]temp_variable;  
name = "Acme Shipping Company"  
temp_variable = mid(name,6,8);  
// "temp_variable" には "Shipping" が入る。
```

ntoa

はじめに

ntoa 関数は、整数と実数を文字列に変換する数値関数です。数値関数を使うと、データ型を変更できます。

シンタックス

```
string = ntoa(integer/real,string);
```

コメント : integer/real = 整数または実数変数
 string = 文字列変数

例

```
Integer b;  
string[8] s;  
b = 5.5;  
ntoa(b,s);  
// 変数"s" には文字列 "5.5" が入る。
```

param

はじめに

param 関数は、PARAM(n) 変数の値を読むために使用します。この拡張ルールにより、コマンドラインを使用してトランスレータへ渡された値を参照できるようになります。拡張ルールで値を参照できるように、トランスレータの呼び出し中に **-u** スイッチを使用して、拡張ルールに値を渡すことができます。

Gentran:Server は、トランスレータを呼び出すときに **-u** スイッチを使用しないため、通常は **Gentran:Server for Windows** 環境内で実行されるマップが **param** 拡張ルールを使用することはありません。ただし、**Gentran:Server** の外部でトランスレータを呼び出して、トランスレーションを実行 (**tx32 -f <inputfile> <templatefile> <outputfile> <reportfile>**) すると、**-u** スイッチで値をトランスレータに渡すことができ、**param** 拡張ルールを使ってそれらの値を参照することが可能になります。

シンタックス

```
param(integer_PARAM_number);
```

コメント： integer_PARAM_number = 定義済み変数の数

例

たとえば、次の方法で TX32.EXE を呼び出すとします。

```
tx32.exe -f input.txt 850.tpl output.txt out.rpt -u  
"PurchaseOrderNumber" -u 12345 -u 500.25
```

この場合、GENSRVNT¥Tutorial¥Pet_850.map に、次のような拡張ルールを書き込めます。

```
string [32] strDescription;  
string [32] strPONbr;  
string [32] strTotalCost;  
real nTotalCost;  
  
strDescription = param(0);  
strPONbr = param(1);  
strTotalCost = param(2);  
nTotalCost = aton(strTotalCost);  
  
if nTotalCost > 200 then  
begin  
    messagebox("Get approval from boss",0);  
end
```

このルールは、マップの任意の範囲 (セッション前、セッション後、グループの "開始時"、フィールドなど) で実行できます。

queryobject

はじめに

queryobject 関数は、既存のオブジェクトに別のインターフェイスを要求するために使用します。

シンタックス

```
object2 = queryobject(object1, "{IID}");
```

コメント： object2 = オブジェクトに対して要求されたインターフェイスを含む結果

IID = 要求されたインターフェイスの識別子

object1 = 既存のオブジェクト

例

```
object ob, ob2;  
ob = createobject("InternetExplorer.Application");  
ob2 = queryobject(ob, "{EAB22AC1-30C1-11CF-A7EB-0000C05BAE0B}");  
// 目的のインターフェイスの Interface ID を使用し、既存オブジェクト (object1) とは  
// 別の (異なる) インターフェイスを取得する。
```

readblock

はじめに

readblock 関数は、入力ファイルからデータブロック (セグメントまたはレコード) を読み込み、文字列変数の引数に渡します。readblock と writeblock 関数を組み合わせて使用することで、エラーチェックや EDI シンタックスの正確さのテストをせずに、入力ファイルのデータブロックを出力ファイルに渡すことができます。これらの関数の組み合わせは、通常ビルド マップとブレイク マップに実装される "ワイルドカード" セグメントを使用するより便利な方法です。

メモ

XML データでこの関数を使用する場合の注意事項については、『XML User's Guide』の付録「XML Build and Break Maps」を参照してください。

シンタックス

```
readblock(string_variable);
```

メモ

コンパイルする前に ActiveX プロパティの長さが特定できないため、readblock 関数の最初のパラメータとして、ActiveX プロパティは使用できません。

例

```
while readblock(temp_buffer) do
begin
    if left(temp_buffer,3) = "IEA" then
        begin
            fseek(0,Position,begin);
            break;
        end
    writeblock(temp_buffer);
    Position = ftell(0);
end
// 入力ファイルからセグメントを読み取り、temp_buffer に入れる。
// "IEA" セグメント タグを探す。検出した場合には、"IEA" セグメントを
// 読み取る前の位置にファイルポインタをリセットする。
// temp_buffer のコンテンツを出力ファイルに書き込む。
// "Position" を現在のファイルポインタの位置に設定する。
```

readbytes

はじめに

readbytes 関数は、バイト数を入力ファイルから読み込みます。この関数は、**writebytes** 関数と組み合わせて使用します。データのエラーチェックや修正を必要としない場合は、**readbytes** と **writebytes** 関数の組み合わせが、マップでデータを渡す便利な方法です。

readbytes と **readblock** 関数は似ています。ただし、**readblock** がブロック全体 (例、セグメントまたはレコード全体) のみで機能するのに対して、**readbytes** はデータの大きさがブロックより大きい小さいかに関わらず、すべての大きさのデータで機能します。

readbytes 関数は、2つのパラメータを使用します。最初のパラメータは、読み込んだデータを保存するための文字列変数で、2番目のパラメータは読み込むバイト数です。

シンタックス

```
readbytes(read_from_buffer, num_bytes);
```

コメント : **read_from_buffer** = 読み込んだデータが保存される文字列変数
num_bytes = 入力ファイルから読み込まれるデータのバイト数を示す整数値

メモ

readbytes は、実際に読み込むことができたバイト数のデータを返します。

例

```
string [1024] tempBuffer;  
while readbytes(tempBuffer,1024) do  
begin  
    writebytes(tempBuffer,1024);  
End  
// 入力ファイルから 1024 バイト読み取り、文字列変数 tempBuffer に入れる。  
  
writebytes("^OD^OA",2);  
// 出力ファイルの末尾に CRLF を追加する。
```

right

はじめに

right 関数は、文字列変数または文字列フィールド内の右側から指定した文字数を抽出します。

シンタックス

```
string_variable = right(string_variable,num_char)
```

コメント : num_char = 整数変数

メモ

コンパイルする前に ActiveX プロパティの長さを特定できないため、**right** 関数の最初のパラメータとして、ActiveX プロパティは使用できません。

例

```
string [25]name;  
string [10]temp_variable;  
name = "Acme Shipping Company"  
temp_variable = right(name,7);  
// "temp_variable" には "Company" が入る。
```

select

はじめに

select 関数を使用すると、データベース テーブルから情報を取得できます。Select スタンダード ルールで使用できるテーブルとフィールドのみが、" 選択 " 拡張ルールで使用できます。このコマンド シンタックスの中で、**expression** および **receiverlist** には、文字列フィールド、文字列変数、または文字列リテラルが入ります。" 選択 " 拡張ルールのテーブル名とフィールド名は、スタンダード ルールでの名前とはわずかに異なるので、注意することが大切です。この章の最後に、これらのテーブル名とフィールド名のリストがあります。

シンタックス

```
select fieldname into receiverlist from tablename where key = expression [and key = expression];
```

例

```
string[10]temp_var1,temp_var2,temp_var3;
select Text1, Text2, Text3 into temp_var1, temp_var2, temp_var3
↳from Partnerlookup where Tablename = "Test" and Item ="widgit"
// この例では、照合テーブル "Test" が既に作成されていることを前提としている。
```

set

はじめに

set 関数を使うと、日 / 時変数の個々の構成要素を定義できます。

シンタックス

```
set datetime_component (datetime_variable, integer_variable);
```

コメント : datetime_component = 日 / 時変数の個々のコンポーネント
datetime_variable = 取得したい構成要素を一部に持つ日 / 時変数
integer_variable = 整数変数

例

```
integer temp_days;  
datetime d;  
temp_days = 15;  
d = '12/25/2001';  
// マップ内のフィールド値は、日付 / 時刻変数 "d" に割り当てるか、  
// またはハード コード値を割り当てることできる。  
  
set days (d, temp_days);  
  
// 変数 "temp_days" から 日付 / 時刻変数 "d" の日付を定義する。
```

strdate

はじめに

strdate 関数は、指定した書式で日/時タイプを文字列に変換します。この関数ではスラッシュ (/) などの静的文字を含めることができるため、日付のサポートをすべて利用できます。

シンタックス

```
strdate(datetime,"format",string);
```

コメント : **datetime** = 日/時変数 (月は 1 ~ 12 で指定)
format = 使用する日付書式
string = 文字列変数

例

```
datetime d;  
string[8] s;  
  
d = #DateField;  
  
strdate(d,"%y/%m/%d",s);  
  
// 日付時刻変数を "year/month/day" 書式の 8 文字の文字列に変換する。
```

書式指定子

次の表に、書式指定子を示します。

書式指定子	説明
%8	ISO-8601 日付書式 書式 YYYYMMDDTHHMMSS.mmmZ 世界標準時 (Zulu 時間、グリニッジ標準時とも呼ばれる) で表される 4 桁表記の年、2 桁表記の月、2 桁表記の日、T (時刻) 指示記号、2 桁表記の時間、2 桁表記の分、2 桁表記の秒、Z (Zulu 時間) 指示記号 (例、20031209T123000.000Z) メモ この日付書式は、他の書式指定子と組み合わせることはできません。
%a	略式曜日名
%A	完全曜日名

(次のページへ続く)

(続き) 書式指定子	説明
%b	略式月名
%B	完全月名
%d	10 進数での日付 (01 ~ 31)
%H	24 時間形式の時間 (00 ~ 23)
%I	12 時間形式の時間 (01 ~ 12)
%j	10 進数での年間通算日 (001 ~ 366)
%m	10 進数での月 (01 ~ 12)
%M	10 進数での分 (00 ~ 59)
%S	10 進数での秒 (00 ~ 59)
%U	日曜日を週初日とした、10 進数での年間通算週 (00 ~ 51)
%w	10 進数での曜日 (0 ~ 6、日曜日を "0" として)
%W	月曜日を週初日とした、10 進数での年間通算週 (00 ~ 51)
%y	10 進数での 2 桁年数 (00 ~ 99)
%Y	10 進数での 4 桁年数
%%	パーセント記号

strstr

はじめに

strstr 関数は、文字列内の部分文字列を検索します。この関数は、指定の文字列内の指定した部分文字列の最初のインスタンスの位置を返します。関数が、指定した部分文字列を文字列内で見つけることができなかつた場合は、-1 の値を返します。この関数は、ゼロベースです。

シンタックス

```
integer = strstr("string","substring");
```

コメント : integer = 整数変数
 string = 文字列
 substring = 部分文字列

例

```
integer d;  
d = 0;  
  
d = strstr("mississippi","is");  
  
// 文字列 "mississippi" 内のサブ文字列 "is" の最初のインスタンスを検出し、  
// そのサブ文字列の位置を返す。
```

unreadblock

はじめに

unreadblock 関数を使うと、入力ファイルポインタを1ブロック(データブロック1つはEDIセグメント1つまたは固定長レコード1つに相当)戻すことができます。この関数は、**readblock** 関数によって処理されたばかりのデータブロックを未読にします。

メモ

unreadblock は、必ず **readblock** 関数と組み合わせて使用してください。**unreadblock** 関数は、最も最近処理されたデータブロックのみを未読にします。

unreadblock は、**fseek** と **ftell** 関数を使用する方法に代わるものとして実装されています。特に、ファイルポインタの位置をデータブロック1つ戻す場合に便利です。**unreadblock** を使用すると、ファイルポインタの位置を元に戻すと同時に、それに応じてセグメントおよびバイトのカウント数を減らすので、トランスレータは、トランスレーションプロセス中に読み込まれたバイト数とセグメント数を正確にトラックできるようになります。

シンタックス

```
unreadblock();
```

例

```
string[1024] tempBuffer;

while readblock(tempBuffer) do
begin
    if left(tempBuffer,3) = "IEA" then
    begin
        unreadblock();
        break;
    end
    writeblock(tempBuffer);
end

// 入力ファイルからセグメントを読み取り、変数 tempBuffer に入れる。
// "IEA" セグメント タグを探し、検出した場合には、"IEA" セグメントを
// 読み取る前の位置にファイルポインタをリセットします。
// tempBuffer のコンテンツを出力ファイルに書き込む。
```

update

はじめに

update 関数を使用すると、データベース テーブル内の情報を更新できます。この関数は、Update スタンダード ルールと似ていますが、さらに柔軟性があります。Update スタンダード ルールで使用できるテーブルとフィールドのみが、"更新" 拡張ルールで使用できます。このコマンド シンタックスの中で、**expression** には、文字列フィールド、文字列変数、または文字列リテラルが入ります。"更新" 拡張ルールのテーブル名とフィールド名は、スタンダード ルールでの名前とはわずかに異なるので、注意することが大切です。この章の最後に、これらのテーブル名とフィールド名のリストがあります。

次の表に、Gentran:Server における Update 関数のサポート方法を説明します。

マップまたはフォームのタイプ	update 関数のサポート
エクスポート	マップの入力側のみで有効
インポート	マップの入出力側で有効
ブレーク (インターチェンジ、グループ、またはトランザクションセット)	マップの入力側のみで有効
ビルド (インターチェンジ、グループ、またはトランザクションセット)	マップの入力側のみで有効
印刷	サポート対象外
画面入力	サポート対象外

シンタックス

```
update tablename set fieldname =expression [fieldname =expression] where key =
expression [and key = expression];
```

例

```
string[15]temp_variable;
temp_variable = "5 Pound Hammer";
update PartnerXref set Text1 = temp_variable where MyItem = " and
➔Tablename = "Tools";
// この例では、クロス リファレンス テーブル "Tools" が既に作成されていることを
// 前提としている。
```

while...do

はじめに

while...do 関数は、指定した終了条件がゼロと評価されるまで、ステートメントを繰り返し実行します。システムはループの各繰り返しが行われる前に終了条件をテストするため、**while** ループは終了式の値に応じて 0 回以上実行されます。

メモ

条件をセミコロン (;) で終了しないでください。この終了のシンタックスは、ステートメントの場合にのみ必要です。

例

```
integer i
  i = 0;

While i<10 do
Begin
  #Total = Total + 50;
  i = i + 1;

  If #Total > 100000
    Break;
  Else
    Continue;
End
```

// "i" が 10 未満である間は、ループを実行する。

winexec

はじめに

winexec 関数を使うと、トランスレータを実行しながら別のプログラムを実行できます。このプログラムは非同期で実行されます。プログラムを指定して、プログラム ウィンドウの表示方法を決めます。必要な場合は、エラーコードを返すこともできます。エラーコードが 32 より大きい場合は、プログラムはエラーなしで実行されています。エラーコードが 32 未満の場合は、エラーのためにプログラムは実行されていません。エラーコードが 0 の場合はメモリ不足です。エラーコードが 2 の場合は、ファイル名が指定されていません。エラーコードは、実行されたプログラムからの戻り値ではありません。

メモ

- ▶ 別のコンピュータまたは別のドメインにあるプログラムを指定する場合は、該当するフォルダへの適切なアクセス権が必要です。
- ▶ トランスレーションを自動処理のプロセス管理コマンドから実行する場合は、そのトランスレーション サービスとして実行するユーザー ID に対して、該当するフォルダへの適切なアクセス権が割り当てられている必要があります。

シンタックス

```
winexec("program",window_display)
```

コメント： `program` = 実行可能プログラム名の文字列 (必要な場合は UNC またはダイレクト ファイルパスを含む)
`window_display` = プログラム ウィンドウの表示方法を示す番号

例

```
winexec("program.exe", 3)
```

//Gentran:Server を終了し、"program.exe" プログラムを非同期で実行する。
// プログラム ウィンドウは、最大化 (3) のサイズで表示される。

(次のページへ続く)

ウィンドウ表示の番号

次の表に、プログラム ウィンドウの外観を制御する window_display 番号を示します。プログラム ウィンドウの表示方法を指定するには、window_display の値ではなく、"番号"を使用してください。

番号	Window_Display	定義
0	SW_HIDE	そのウィンドウを表示せずに別のウィンドウをアクティブにします。
1	SW_SHOWNORMAL	ウィンドウをアクティブにして表示します。ウィンドウが最小化または最大化されている場合は、元のサイズおよび位置に戻されます。ウィンドウを初めて表示する場合は、このフラグを指定する必要があります。
1	SW_NORMAL	ウィンドウをアクティブにして、元のサイズおよび位置で表示します。
2	SW_SHOWMINIMIZED	ウィンドウをアクティブにし、最小化ウィンドウとして表示します。
3	SW_SHOWMAXIMIZED	ウィンドウをアクティブにし、最大化ウィンドウとして表示します。
3	SW_MAXIMIZE	ウィンドウを最大化します。
4	SW_SHOWNOACTIVATE	最後に使用したサイズおよび位置でウィンドウを表示しますが、アクティブにはしません(現在のアクティブウィンドウがアクティブのままになります)。
5	SW_SHOW	ウィンドウをアクティブにして、現在のサイズおよび位置で表示します。
6	SW_MINIMIZE	ウィンドウを最小化します。
7	SW_SHOWMINNOACTIVE	ウィンドウをアクティブにせずに最小化ウィンドウとして表示します(現在のアクティブウィンドウがアクティブのままになります)。
8	SW_SHOWNA	ウィンドウをアクティブにせずに最後に使用したサイズおよび位置で表示します(現在のアクティブウィンドウがアクティブのままになります)。 (次のページへ続く)

(続き) 番号	Window_Display	定義
9	SW_RESTORE	ウィンドウをアクティブにして表示します。ウィンドウが最小化または最大化されている場合は、元のサイズおよび位置に戻されます。
10	SW_SHOWDEFAULT	ウィンドウをアクティブにして、Windows がサイズおよび位置を決定できるようにします。

writeblock

はじめに

writeblock 関数は、文字列変数の引数内のデータを出力ファイルに書き込みます。readblock と writeblock 関数を組み合わせて使用することで、エラーチェックや EDI シンタックスの正確さのテストをせずに、入力ファイルのデータブロックを出力ファイルに渡すことができます。これらの関数の組み合わせは、通常ビルド マップとブレイク マップに実装される "ワイルドカード" セグメントを使用するより便利な方法です。

メモ

XML データでこの関数を使用する場合の注意事項については、『XML User's Guide』の付録「XML Build and Break Maps」を参照してください。

シンタックス

```
writeblock(string_variable);
```

例

```
while readblock(temp_buffer) do
begin
    if left(temp_buffer,3) = "IEA" then
        begin
            fseek(0,Position,begin);
            break;
        end
    writeblock(temp_buffer);
    Position = ftell(0);
end
// 入力ファイルからセグメントを読み取り、temp_buffer に入れる。
// "IEA" セグメント タグを探す。検出した場合には、"IEA" セグメントを
// 読み取る前の位置にファイルポインタをリセットします。
// temp_buffer のコンテンツを出力ファイルに書き込む。
// "Position" を現在のファイルポインタの位置に設定する。
```

writebytes

はじめに

writebytes 関数は、指定されたバイト数を出力ファイルに書き込みます。この関数は、**readbytes** 関数と組み合わせて使用します。データのエラーチェックや修正を必要としない場合は、**readbytes** と **writebytes** 関数の組み合わせが、マップでデータを渡す便利な方法です。

メモ

システムは、出力ファイルに書き込まれる文字列値の終端に、セグメントターミネータを挿入しません。

writebytes と **writeblock** 関数は似ています。ただし、**writeblock** がブロック全体(例、セグメントまたはレコード全体)のみで機能するのに対して、**writebytes** はデータの大きさがブロックより大きいか小さいかに関わらず、すべての大きさのデータで機能します。

writebytes 関数は、2つのパラメータを使用します。最初のパラメータは、出力ファイルへ書き込むデータが含まれる文字列変数で、2番目のパラメータは書き込むバイト数です。

シンタックス

```
writebytes(write_to_buffer, num_bytes);
```

コメント : **write_to_buffer** = 出力ファイルへ書き込まれるデータを含む文字列変数

num_bytes = **write_to_buffer** 変数から読み込まれ、出力ファイルへ書き込まれるバイト数を示す整数値

メモ

定数で 16 進数値を使用する場合は、^ の代わりに **¥0x** を使用してください。

例

```
string [1024] temp_buffer;  
while readbytes(temp_buffer,1024) do  
begin  
writebytes(temp_buffer,1024);  
End  
writebytes("^0D^0A",2);
```

// ファイルから 1024 バイト読み取り、文字列変数 tempBuffer に入れる。
//while ループの実行終了後に CRLF を追加する。

"選択"および"更新"で使用できるオプション

はじめに

このセクションでは、"選択"および"更新"拡張ルールを使う際に使用できるデータベース テーブル名および関連するフィールド名を示します。一部のテーブルでは、他のキーも使用できます。その場合は、フィールド名のリストに続いて、該当するキーを示します。

メモ

拡張ルールを使用して Gentran:Server データベース テーブルを参照する場合、使用するシンタックスは実際のテーブル名とは異なります。適切な参照シンタックスは、この項の各表を参照してください。

例

拡張ルールで Document_tb を参照するときは、Document を参照します。

Document

次に、ドキュメント テーブル (Document_tb) で "選択" または "更新" 拡張ルールを使う際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このサブテーブルには、次のマップ タイプからのみアクセス可能です。トランザクションブレイク、トランザクションビルド、インポート、エクスポート、印刷、画面、グループビルド、および インターチェンジビルド の7種類のマップタイプです。

このサブテーブルには、ルールがアクセスするテーブルレベルで、最後に処理されたドキュメントの情報が表示されます。これらのテーブルにアクセスするルールを使用する場合は注意が必要です。

アクセス例については、「[テーブルアクセス例](#)」を参照してください。

メモ

このテーブルは、**Document** として参照してください。

- ▶ TESTMODE
- ▶ AGENCY
- ▶ VERSION
- ▶ TRANSACTIONSETID
- ▶ RELEASE
- ▶ DOCUMENTTYPE
- ▶ REFERENCEDATA
- ▶ DOCUMENTNAME
- ▶ APPFIELD1
- ▶ APPFIELD2
- ▶ APPFIELD3

(次のページへ続く)

Document (続き)

- ▶ APPFIELD4
- ▶ APPFIELD5
- ▶ APPFIELD6
- ▶ DOCUMENTPARTNERKEY
- ▶ CONTROLNUMBER
- ▶ PARTNERKEY
- ▶ TABLEKEY (Select のみ)

Partner

次に、パートナー テーブル (Partner_tb) の部門外のパートナーに対して "選択" または "更新" 拡張ルールを使う際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このテーブルは、**Partner** として参照してください。

- ▶ PARTNERNAME
- ▶ EDICODE
- ▶ APPLICATIONPARTNERKEY

次に、パートナー テーブルで使用できるその他のキーを示します。

- ▶ PARTNERKEY
- ▶ ALTERNATEKEY (Application Key を参照)
- ▶ APPLICATIONPARTNERKEY (Application Key を参照)

Division

次に、"選択" または "更新" 拡張ルールを使ってパートナー テーブル (Partner_tb) の部門のパートナーを参照する際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このテーブルは、**Division** として参照してください。

- ▶ PARTNERNAME
- ▶ EDICODE
- ▶ APPLICATIONPARTNERKEY

(次のページへ続く)

PartnerLocation

次に、所在地テーブル (Location_tb) の部門外の所在地に対して "選択" または "更新" 拡張ルールを使う際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このテーブルは、**PartnerLocation** として参照してください。

- ▶ CONTACTNAME
- ▶ NAME
- ▶ ADDRESS1
- ▶ ADDRESS2
- ▶ ADDRESS3
- ▶ CITY
- ▶ STATE
- ▶ ZIP
- ▶ COUNTRY
- ▶ TELEPHONE
- ▶ PRIMARYREFCODE
- ▶ SECONDARYREFCODE
- ▶ FAX

DivisionLocation

次に、"選択" または "更新" 拡張ルールを使って所在地テーブル (Location_tb) の部門の所在地を参照する際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このテーブルは、**DivisionLocation** として参照してください。

- ▶ CONTACTNAME
- ▶ NAME
- ▶ ADDRESS1
- ▶ ADDRESS2
- ▶ ADDRESS3
- ▶ CITY
- ▶ STATE
- ▶ ZIP
- ▶ COUNTRY
- ▶ TELEPHONE
- ▶ PRIMARYREFCODE
- ▶ SECONDARYREFCODE
- ▶ FAX

(次のページへ続く)

PartnerLookup

次に、照合テーブル (Lookup_tb) の部門外の照合に対して "選択" または "更新" 拡張ルールを使う際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このテーブルは、**PartnerLookup** として参照してください。

- ▶ ITEM
- ▶ DESCRIPTION
- ▶ TEXT1
- ▶ TEXT2
- ▶ TEXT3
- ▶ TEXT4

次に、PartnerLookup テーブルで使用できるその他のキーを示します。

- ▶ TABLENAME

DivisionLookup

次に、"選択" または "更新" 拡張ルールを使って照合テーブル (Lookup_tb) の部門の照合を参照する際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このテーブルは、**DivisionLookup** として参照してください。

- ▶ ITEM
- ▶ DESCRIPTION
- ▶ TEXT1
- ▶ TEXT2
- ▶ TEXT3
- ▶ TEXT4

次に、DivisionLookup テーブルで使用できるその他のキーを示します。

- ▶ TABLENAME

(次のページへ続く)

PartnerXref

次に、クロスリファレンス テーブル (CrossReference_tb) の部門外のクロスリファレンスに対して "選択" または "更新" 拡張ルールを使う際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このテーブルは、**PartnerXref** として参照してください。

- ▶ MYITEM
- ▶ PARTNERITEM
- ▶ DESCRIPTION
- ▶ TEXT1
- ▶ TEXT2
- ▶ TEXT3
- ▶ TEXT4

次に、PartnerXref テーブルで使用できるその他のキーを示します。

- ▶ TABLENAME

DivisionXref

クロスリファレンス テーブル (CrossReference_tb) の部門のクロスリファレンスを参照するために、"選択" または "更新" 拡張ルールを使う際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このテーブルは、**DivisionXref** として参照してください。

- ▶ MYITEM
- ▶ PARTNERITEM
- ▶ DESCRIPTION
- ▶ TEXT1
- ▶ TEXT2
- ▶ TEXT3
- ▶ TEXT4

次に、DivisionXref テーブルで使用できるその他のキーを示します。

- ▶ TABLENAME

(次のページへ続く)

Interchange

次に、インターチェンジテーブル (Interchange_tb) で "選択" または "更新" 拡張ルールを使う際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このサブテーブルには、次のマップタイプからのみアクセス可能です。[I インターチェンジブレイク、インターチェンジビルド、グループブレイク、トランザクションブレイク、およびエクスポートの4種類のマップタイプです。

このサブテーブルには、ルールがアクセスするテーブルレベルで、最後に処理されたインターチェンジの情報が表示されます。これらのテーブルにアクセスするルールを使用する場合は注意が必要です。

アクセス例については、「[テーブルアクセス例](#)」を参照してください。

メモ

このテーブルは、**Interchange** として参照してください。

- ▶ TESTMODE
- ▶ CONTROLNUMBER
- ▶ VERSION
- ▶ APPFIELD1
- ▶ APPFIELD2
- ▶ APPFIELD3
- ▶ APPFIELD4
- ▶ APPFIELD5
- ▶ APPFIELD6
- ▶ AGENCY
- ▶ PARTNERKEY
- ▶ TABLEKEY (Select のみ)

(次のページへ続く)

Group

次に、グループ テーブル (Group_tb) で "選択" または "更新" 拡張ルールを使う際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このサブテーブルには、次のマップ タイプからのみアクセス可能です。グループ ブレーク、グループ ビルド、トランザクション ブレーク、エクスポート、および インターチェンジ ビルドの 4 種類のマップ タイプです。

このサブテーブルには、ルールがアクセスするテーブルレベルで、最後に処理されたグループの情報が表示されます。これらのテーブルにアクセスするルールを使用する場合は注意が必要です。

アクセス例については、「[テーブルアクセス例](#)」を参照してください。

メモ

このテーブルは、**Group** として参照してください。

- ▶ TESTMODE
- ▶ CONTROLNUMBER
- ▶ FUNCTIONALGROUPID
- ▶ VERSION
- ▶ APPFIELD1
- ▶ APPFIELD2
- ▶ APPFIELD3
- ▶ APPFIELD4
- ▶ APPFIELD5
- ▶ APPFIELD6
- ▶ AGENCY
- ▶ TABLEKEY (Select のみ)

(次のページへ続く)

GenericEnvelope Segment

次に、一般的なエンベロープ セグメント テーブル (GenericEnvelopeSegment_tb) で "選択" 拡張ルールを使う際に使用できるフィールド名を示します。

メモ

このテーブルは、**GenericEnvelopeSegment** として参照してください。

- ▶ CONTROLNUMBER
- ▶ SUBCOUNT
- ▶ FIELD1
- ▶ FIELD2
- ▶ FIELD3
- ▶ FIELD4
- ▶ FIELD5
- ▶ FIELD6
- ▶ FIELD7
- ▶ FIELD8
- ▶ FIELD9
- ▶ FIELD10
- ▶ FIELD11
- ▶ FIELD12
- ▶ FIELD13
- ▶ FIELD14
- ▶ FIELD15
- ▶ FIELD16
- ▶ FIELD17
- ▶ FIELD18
- ▶ FIELD19
- ▶ FIELD20
- ▶ FIELD21
- ▶ FIELD22
- ▶ FIELD23
- ▶ FIELD24
- ▶ FIELD25
- ▶ FIELD26
- ▶ FIELD27
- ▶ FIELD28
- ▶ FIELD29
- ▶ FIELD30

(次のページへ続く)

**GenericEnvelope
Segment (続き)**

- ▶ FIELD31
 - ▶ FIELD32
 - ▶ FIELD33
 - ▶ FIELD34
 - ▶ FIELD35
 - ▶ FIELD36
 - ▶ FIELD37
 - ▶ FIELD38
 - ▶ FIELD39
 - ▶ FIELD40
-

エラー メッセージ

目次

▶ 概要	2
▶ コンパイル エラー メッセージ	3
▶ Gentran:Server エラー メッセージ	20
▶ トランスレータ レポート エラー メッセージ	27

概要

はじめに

Gentran:Server のエラー メッセージやその他の通知メッセージは、トランスレーション オブジェクトをコンパイルした場合は、[コンパイル エラー] ダイアログ ボックスに表示され、トランスレーション オブジェクトのコンパイルの前にエラーを含む拡張ルールをコンパイルした場合や、Gentran:Server で誤ったアクションを実行した場合は、[拡張ルール] ダイアログ ボックスの [エラー] セクションに表示されます。

通知メッセージは、プログラムのコンテキストによって異なりますが、わかりやすい内容になっています。エラー メッセージについては、次のトピックで、対処方法とともに説明されています。

この付録の内容

この付録では、エラー メッセージが表示されたときに、必要な操作を調べる方法について説明します。

コンパイル エラー メッセージ

はじめに

エラーのあるトランスレーション オブジェクトをコンパイルすると、[コンパイル エラー] ダイアログ ボックスにコンパイル エラー メッセージが表示されます。また、トランスレーション オブジェクトをコンパイルする前に、エラーを含む拡張ルールをコンパイルした場合も、[拡張ルール] ダイアログ ボックスの [エラー] セクションにエラー メッセージが表示されます。エラーの原因に対処した後、[コンパイル] ボタンをクリックして、ルールにエラーがないことを確認します。

メッセージ

コンパイル エラー メッセージには、4 または 5 桁のメッセージ番号およびエラー メッセージ テキストが表示されます。それぞれのポップアップ定義には、問題を解決するための処置、および考えられるエラーの原因を含む説明 (該当する場合) が表示されます。

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
1000	'!'がありません	<p>説明 このルールには、グループ名とフィールド名の間に必要な "." がありません。</p> <p>ユーザーの処置 グループ名とフィールド名の間 "." を挿入します。</p>
1001	コンパイルする文がありません	<p>説明 このルールには文が含まれていません。</p> <p>ユーザーの処置 1 つまたは複数の文をルールに追加します。</p>
1002	予期せぬプログラムの終了です	<p>説明 このルールは完成されていません。</p> <p>ユーザーの処置 ルールを完成させます。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージテキスト	説明とユーザーの処置
1003	';'がありません	<p>説明 このルールには、パラメータの間に必要な ";" がありません。</p> <p>ユーザーの処置 パラメータの間に ";" を挿入します。</p>
1004	ë;i がありません	<p>説明 文が適切に終了しませんでした。</p> <p>ユーザーの処置 文を適切に終了してください。</p>
1006	コンパイルする文がありません	<p>説明 IF/ELSE または WHILE の条件部が指定されていません。</p> <p>ユーザーの処置 未完成の条件部を完全にします。</p>
1007	構文エラー ...	<p>説明 マップ内に構文エラーがあります。</p> <p>ユーザーの処置 構文エラーを修正してください。</p>
1008	'#' がありません。	<p>説明 このルールにはフィールド名の直前に必要な "#" がありません。</p> <p>ユーザーの処置 フィールド名の直前に "#" を挿入します。</p>
2000	グループ ... は未定義です	<p>説明 このルールは存在しないグループを参照しています。</p> <p>ユーザーの処置 参照を既存のグループに変更するか、あるいは参照を削除します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
2001	... は ... のメンバーではありません	<p>説明 このルールは、指定したグループに属していないフィールドを参照しています。</p> <p>ユーザーの処置 指定したグループ内の既存のフィールドに参照を変更します。</p>
2002	グループ「...」にアクセスするためのインデックスが不足しています	<p>説明 このルールでは、グループの完全なアドレス指定が与えられていません。</p> <p>ユーザーの処置 グループのアドレス指定を完全にします。</p>
2003	グループ「...」にアクセスするためのインデックスが多すぎます	<p>説明 このルールでは、グループに対するアドレス指定の数が許容範囲を超えています。</p> <p>ユーザーの処置 グループを正確にアドレス指定します。</p>
2004	... は未定義です	<p>説明 このルールは、未定義の変数を参照しています。</p> <p>ユーザーの処置 宣言セクションの中に変数を定義します。</p>
2005	一時変数外です	<p>説明 このルールは、いくつかの表現が複雑すぎるためコンパイルできませんでした。</p> <p>ユーザーの処置 表現を簡略化してからルールを再コンパイルします。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
2008	フィールドの種類が不明です	<p>説明 コンパイラはフィールドの種類を判別できませんでした。</p> <p>ユーザーの処置 このフィールドにデータ型が選択されていることを確認します。</p>
2009	現在のグループがないローカル フィールドは参照できません	<p>説明 このルール (おそらくセッション前またはセッション後) は、どのグループにも関係付けられていないローカル フィールドを参照しています。</p> <p>ユーザーの処置 適切なアドレス指定でフィールドを参照します。</p>
2010	%1' のインスタンスは一時的なインスタンスです。アクセスできません	<p>説明 このルールは、完全なアドレス指定で出力グループを参照しています。この形式のアドレス指定は、入力グループ専用です。</p> <p>ユーザーの処置 適切なアドレス指定で出力グループを参照します。</p>
2011	フィールドが指定されていません	<p>説明 このルールではフィールドの参照が欠落しています。</p> <p>ユーザーの処置 フィールドの参照をルールに追加します。</p>
2012	グループ ... はプロモートされ、この方法ではアクセスできません。	<p>説明 COUNT または DELETE ルールがある、プロモートされたグループにアクセスを試みました。</p> <p>ユーザーの処置 プロモートされたグループを、COUNT または DELETE しないでください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
2100	... は配列変数ではありません	説明 このルールは、配列ではない変数に対して配列インデックスを使用しています。 ユーザーの処置 その変数に適切なインデックスを使用します。
2101	...: 配列インデックスを要求しました	説明 このルールは、必要な配列インデックスを使用せずに配列変数を使用しています。 ユーザーの処置 必要なインデックスを配列変数に追加します。
2102	...: 配列がオーバーフローしました	説明 このルールは、無効な配列インデックスを使用しています。 ユーザーの処置 配列変数に適切な配列インデックスを使用します。
2103	1つのワイルドカード インデックスのみが許可されます	説明 このルールは、複数のワイルドカード インデックスを使用しています。 ユーザーの処置 1つのルールにつき1つのワイルドカード インデックスしか使用できません。
2104	ワイルドカード インデックスの指定が必要です	説明 このルールでは、必要な箇所にワイルドカード インデックスが指定されていません。 ユーザーの処置 必要な箇所にワイルドカード インデックスを追加します。 (次のページへ続く)

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
2200	文字列がありません	説明 必要な文字列または文字列変数が与えられていません。 ユーザーの処置 必要な文字列または文字列変数を追加します。
2201	文字列がオーバーフローです	説明 文字列オーバーフローが発生しました。 ユーザーの処置 ターゲット文字列のサイズがソース文字列と同じ、またはそれ以上であることを確認します。
3000	... の宣言に、配列サイズがありません	説明 配列宣言が無効です。
3001	... の宣言に] がありません	説明 配列宣言が無効です。
3002	文字列サイズではありません	説明 文字列宣言が無効です。
3003] の文字列サイズがありません	説明 文字列宣言が無効です。
3004	変数名がありません	説明 変数宣言が無効です。
3005	... は既に定義済みです	説明 同じ名前を持つ 2 つの変数が同じスコープで定義されています。 ユーザーの処置 2 つの変数のうち、1 つの名前を変更します。
3006	「...」はアキュムレータ番号ではありません	説明 アキュムレータの参照が無効です。
3007	... は有効なアキュムレータ番号ではありません	説明 アキュムレータの参照が無効です。 (次のページへ続く)

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
4000	... が数値表現ではありません	説明 必要な数値表現以外のものが指定されています。 ユーザーの処置 正しい数値表現を指定します。
4001	... が項目ではありません	説明 必要な項以外のものが指定されています。 ユーザーの処置 正しい項を指定します。
4002	+ か - がありません	説明 必要な "+" または "-" 以外のものが指定されています。 ユーザーの処置 "+" または "-" を指定します。
4003	* か / がありません	説明 必要な "*" または "/" 以外のものが指定されています。 ユーザーの処置 "*" または "/" を指定します。
4004) がありません	説明 必要な ')' 以外のものが指定されています。 ユーザーの処置 ")" を指定します。
4005	... が因子ではありません	説明 数値表現が無効です。
4006	(がありません	説明 必要な '(' 以外のものが指定されています。 ユーザーの処置 "(" を指定します。 (次のページへ続く)

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
4007	... は正しくない種類です	<p>説明 指定した表現は間違った種類です。</p> <p>ユーザーの処置 その表現に適切な種類を指定します。</p>
4008	関係演算子がありません	<p>説明 必要な関係演算子以外のものが指定されています。</p> <p>ユーザーの処置 正しい関係演算子を指定します。</p>
4009	引数がありません	<p>説明 必要なパラメータが欠落しています。</p> <p>ユーザーの処置 必要なパラメータを追加します。</p>
4010	代入がありません	<p>説明 代入文から代入演算子が欠落しています。</p> <p>ユーザーの処置 正しい代入演算子を文に追加します。</p>
4011	演算子 ... には2つの引数が必要です	<p>説明 2項演算子に1つのパラメータしか与えられていません。</p> <p>ユーザーの処置 2項演算子に第2パラメータを与えます。</p>
4012	実数から整数に変換すると、最上位桁が消去される可能性があります。	<p>説明 実数から整数へ変換しようとしています。</p> <p>ユーザーの処置 失う桁数が許される範囲であるのかを確認してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
4013	表現が複雑過ぎます。副表現を使用してください	<p>説明 表現に多くの項が含まれすぎています。</p> <p>ユーザーの処置 括弧を使用して表現の項をまとめてください。</p>
4014	... が整数ではありません。	<p>説明 ... ではなくコンパイラは整数を期待しています。</p> <p>ユーザーの処置 [...] に正しい値を使用してください。</p>
4015	有効な条件が指定されていません	<p>説明 有効な条件、IF または WHILE を指定していません。</p> <p>ユーザーの処置 有効な条件、IF または WHILE を使用してください。</p>
4100	... が日付ではありません	<p>説明 日付が必要ですが与えられていません。</p> <p>ユーザーの処置 日付を指定します。</p>
4101	... が日付変更子ではありません	<p>説明 日付変更子が必要ですが与えられていません。</p> <p>ユーザーの処置 日付変更子を指定します。</p>
4102	... は日付ではありません	<p>説明 日付式が無効です。</p>
5000	THEN がありません	<p>説明 コンパイラは THEN 条件を必要としました。</p>
5001	DO がありません	<p>説明 コンパイラは DO 条件を必要としました。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
5002	END がありません	説明 コンパイラは END 条件を必要としました。
5004	FROM がありません	説明 コンパイラは FROM 条件を必要としました。
5005	INTO がありません	説明 コンパイラは INTO 条件を必要としました。
5006	BEGIN がない END です	説明 対応する BEGIN 文を伴わない END 文が見つかりました。 ユーザーの処置 BEGIN ステートメントを正しい場所に挿入します。
5016	BREAK の場所が不適切です	説明 コンパイラはループの外に BREAK を見つけました。 ユーザーの処置 BREAK を削除するか、ループの中に入れてください。
5017	CONTINUE の位置が不適切です	説明 コンパイラはループの外に CONTINUE を見つけました。 ユーザーの処置 CONTINUE を削除するか、ループの中に入れてください。
5018	パラメータの数が多すぎます	説明 ある関数に余分なパラメータが与えられています。 ユーザーの処置 不要なパラメータを削除します。
5019	パラメータの数が少なすぎます	説明 ある関数のパラメータが不足しています。 ユーザーの処置 必要なパラメータを追加します。 (次のページへ続く)

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
6000	データベース テーブル名がありません	<p>説明 コンパイラはデータベース テーブル名を必要としました。</p> <p>ユーザーの処置 データベース テーブル名を必要な場所に挿入します。</p>
6001	データベース列名がありません	<p>説明 コンパイラはデータベースの列名を必要としました。</p> <p>ユーザーの処置 データベース列名を必要な場所に挿入します。</p>
6002	受信者の指定した列が多すぎます。	<p>説明 指定した列数は、SELECT 文での受信者数と一致していません。</p> <p>ユーザーの処置 SELECT 文に指定されている列数を受信者数に修正します。</p>
6003	受信者の指定した列が少なすぎます	<p>説明 指定した列数は、SELECT 文での受信者数と一致していません</p> <p>ユーザーの処置 SELECT 文に指定されている列数を受信者数に修正します。</p>
6004	WHERE がありません	<p>説明 コンパイラは WHERE 条件を必要としました。</p>
6005	データベース キーがありません	<p>説明 WHERE 文に無効なデータベース キーが指定されています。</p> <p>ユーザーの処置 WHERE 文に正しいデータベース キーを指定します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
6006	WHERE はこのデータベース テーブルでは許可されていません	<p>説明 指定したデータベース テーブルにアクセスするのに WHERE 文は必要ありません</p> <p>ユーザーの処置 WHERE ステートメントを削除します。</p>
6007	無効なキーの組み合わせです	<p>説明 WHERE 文に指定されているキーの組み合わせは、そのテーブルに対する有効な複合キーではありません。</p> <p>ユーザーの処置 WHERE 文に有効なキーの組み合わせを指定します。</p>
7000	... は有効な検索タイプではありません	<p>説明 FSEEK で、無効な検索の種類が使われました。</p> <p>ユーザーの処置 BEGIN、END、または CURRENT を使用してください。</p>
20001	レコード ..., フィールド ... : 日付フィールドに日付書式がありません	<p>説明 指定されたフィールドは、日付書式ではありません。</p> <p>ユーザーの処置 フィールドを編集して、日付書式を選択してください。</p>
20003	フィールド ... : スタンダード ルールで使用されている定数が存在しません	<p>説明 スタンダード ルールの指定されたフィールドに無効な定数が使用されました。</p> <p>ユーザーの処置 スタンダード ルールを修正するか、定数を作成してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
20004	フィールド ... : スタANDARD ルールで使用されているコード リストが存在しません	<p>説明 STANDARD ルールの指定されたフィールドに無効なコード リストが使用されました。</p> <p>ユーザーの処置 STANDARD ルールを修正するか、コードリストを作成してください。</p>
20005	フィールド ... : use constant STANDARD ルール内に指定した qualifier フィールドが無効です	<p>説明 STANDARD ルールの指定されたフィールドに無効な修飾子が使用されました。</p> <p>ユーザーの処置 STANDARD ルールを修正してください。</p>
20006	フィールド ... : use code STANDARD ルール内で、コードの説明を格納するために指定したフィールドが無効です	<p>説明 STANDARD ルールの説明で設定されたフィールドが無効です。</p> <p>ユーザーの処置 STANDARD ルールを修正してください。</p>
20007	レコード ... : 指定されたキーフィールド ... : で、未定義の定数が使用されています。	<p>説明 レコードの指定されたキーフィールドに無効な定数が使用されました。</p> <p>ユーザーの処置 キーフィールドを修正してください。</p>
20008	レコード ... : 指定されたキーフィールド ... : で、未定義のコード リストが使用されています	<p>説明 レコードの指定されたコード リストに無効な定数が使用されました。</p> <p>ユーザーの処置 キーフィールドを修正してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
20010	レコード ... : 指定された キーフィールド ... : はアク ティブではありません	<p>説明 指定されたレコードのキー フィー ルドが非アクティブです。</p> <p>ユーザーの処置 キー フィールドをアクティブにし てください。</p>
20700	使用できるのは、1 バイナ リ データおよび1 バイナリ 長フィールドのみです	<p>説明 1つのセグメントの中に、複数のバ イナリ データ エレメントまたは複 数のバイナリ長エレメント (ある いはその両方) が含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 セグメントから余分なバイナリ データ/バイナリ長エレメントを 削除します。</p>
20701	バイナリ長を、バイナリ データより前に指定する必 要があります	<p>説明 セグメントの中ではバイナリ長エ レメントをバイナリ データ エレメ ントの前に置き、それによってト ランスレータがデータの長さを予 測できるようにする必要があります。</p> <p>ユーザーの処置 バイナリ長エレメントをバイナリ データ エレメントの前に移動して ください。</p>
20702	バイナリ データの情報が不 完全です	<p>説明 あるセグメントはバイナリとして マークが付けられていますが、バ イナリ長エレメントとバイナリ データ エレメント ((あるいはそ の両方) のいずれも含まれていま せん。</p> <p>ユーザーの処置 バイナリ長エレメントまたはバイ ナリ データ エレメントをセグメン トに追加してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
20703	グループ ... にはアクティブな子オブジェクトがありません	<p>説明 トランスレーション オブジェクトをコンパイルしようとしたが、指定したグループは空です。</p> <p>ユーザーの処置 グループ内の少なくとも 1 つの子オブジェクトをアクティブにします。</p>
20704	エレメント ... 属性 ... 列挙された属性は、スタンダードルールなしで宣言されています	<p>説明 指定された XML 属性は列挙型属性として設定されますが、スタンダードルールに値の定義ができるコードリストはありません。</p> <p>ユーザーの処置 指定された属性のコードリストをスタンダードルールに定義してください。</p>
20705	エレメント ... 属性 ... スタンダードルールで使用されている列挙された属性が存在しません	<p>説明 指定されている、列挙された XML の属性へのコードリストがありません。</p> <p>ユーザーの処置 コードリストを定義してください。</p>
20706	エレメント ... 属性 ... 既定値が無効です	<p>説明 指定された既定値は XML 属性のコードリストではありません。</p> <p>ユーザーの処置 指定された既定値がコードリストにあるかを確認してください。</p>
20707	コードリスト ..., 属性 ...: 列挙された属性コードリストで使用されている値が、XML NMTOKEN 本番に適合していません	<p>説明 列挙型コードリストの値は、XML に無効です。</p> <p>ユーザーの処置 コードリストで指定された値を XML 属性に有効な値に修正してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
20708	実体 ... エンティティの値が無効です	<p>説明 指定されたエンティティの値は、XML に無効です。</p> <p>ユーザーの処置 エンティティ値を修正してください。</p>
20709	... : 不正な参照文字が使用されています。	<p>説明 エンティティ参照が適切に終了していません。</p> <p>ユーザーの処置 エンティティ参照を修正してください。</p>
20710	... : 破損した文字参照が見つかりました。	<p>説明 XML 文字参照が適切に終了していません。</p> <p>ユーザーの処置 文字参照を修正してください。</p>
20711	... : 無効な文字が参照されています。	<p>説明 XML 文字参照が無効です</p> <p>ユーザーの処置 文字参照を修正してください。</p>
20712	... : 未定義のエンティティ参照が見つかりました。	<p>説明 エンティティ参照が定義されていません</p> <p>ユーザーの処置 正しいエンティティを定義してください。</p>
20713	... : エンティティ参照の循環が見つかりました。	<p>説明 エンティティはもとのエンティティと参照しあっています</p> <p>ユーザーの処置 もとのエンティティを循環した参照はしないでください</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
20714	...: 既定値が属性タイプに適合していません。	説明 既定値は、間違った属性タイプです。 ユーザーの処置 属性のタイプ、または既定値を修正してください。
20715	...: 誤った文字を含んでいます ('<')	説明 既定値に誤った文字 "<" が含まれています。 ユーザーの処置 既定値を修正してください。

Gentran:Server エラー メッセージ

はじめに

Gentran:Server エラー メッセージは、誤った操作を実行した場合に表示されます。エラー メッセージが表示された場合は、まず、**[OK]** をクリックしてメッセージを確認してから適切な処置を行う必要があります。

メッセージ

エラー メッセージを次にリストします。それぞれのポップアップ定義には、問題を解決するための処置、および考えられるエラーの原因を含む説明 (該当する場合) が表示されます。

メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
コード リスト登録にはコード 値が必要です。	説明 コード 値が関連付けられていないコードを追加しようとしました。
コード リストにはエレメント ID が必要です。	説明 エレメント ID を付けずにコード リストを作成しようとしました。
このエレメントのコード リストは既に存在します。別のエレメント ID を使用するか、元のコード リストを削除してください。	説明 既に存在しているコード リストと同じエレメント ID を付けてコード リストを作成しようとしました。 ユーザーの処置 エレメント ID を変更するか、元のコードリストを削除してください。
条件フィールドが必要です。	説明 条件フィールドを必要とする条件付き関係を確立しましたが、条件フィールドが指定されていません。
データ タイプが必要です。	説明 フィールドのデータ型が指定されていません。
フィールド名は、親グループ内で一意である必要があります。	説明 同一グループ内の別のフィールド (同じレコードとは限りません) が既に使用しているフィールド名を付けようとしました。 (次のページへ続く)

メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
グループ名は一意である必要があります。	<p>説明 別のグループまたはレコードによって既に使用されている名前をグループに付けようとしてしました。</p>
最大使用回数が 1 のグループまたはレコードは、分割またはプロモートできません。	<p>説明 1 回しか出現しないグループまたはレコードを分割、あるいはプロモートしようとしてしました。この動作は、無効です。</p>
キー フィールドが選択されていますが、キーの値が指定されていません。	<p>説明 キー値を指定しないでキー フィールドを設定しました。</p>
メモリ例外が発生しました。	<p>説明 システム エラーが発生しました。</p> <p>ユーザーの処置 Gentran:Server を終了して、Windows を再起動してください。</p>
名前を入力する必要があります。	<p>説明 オブジェクトの名前が指定されていません。</p>
ループ ... を閉じている際にエラーが発生しました。スタンダードが不正である可能性があります。	<p>説明 スタンダードからの読み込み中にエラーが発生しました。</p>
レコード名は一意である必要があります。	<p>説明 別のグループまたはレコードで既に使用されている名前をレコードに付けようとしてしました。</p>
リソース例外が発生しました。	<p>説明 システム エラーが発生しました。</p> <p>ユーザーの処置 Gentran:Server を終了して、Windows を再起動してください。</p>
クリップボードへのアクセス中に重大なエラーが発生したので、処理を中止しました。	<p>説明 重大なエラーが発生したため、システムは切り取り、コピー、または貼り付け操作を中止しました。</p> <p>ユーザーの処置 切り取り、コピー、または貼り付け操作を再度実行してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
<p>トランスレーション オブジェクトのコンパイル中にシステム エラーが発生しました。</p>	<p>説明 トランスレーション オブジェクトのコンパイル中に、メモリ不足などのシステム関連の問題によりコンパイルが完了されませんでした。</p> <p>ユーザーの処置 不要なアプリケーションを閉じてメモリを解放し、コンピュータを再起動してから (必要に応じて)、トランスレーション オブジェクトを再コンパイルします。</p>
<p>メモリ不足のため TDF が生成できませんでした。Windows を再起動するか、ほかのアプリケーションを終了してから再度実行してください。</p>	<p>説明 TDF の生成中に、システムのメモリが不足しました。</p> <p>ユーザーの処置 Gentran:Server を終了し、Windows を再起動した後、もう一度 TDF を生成してください。</p>
<p>登録するためには、アキュムレータを選択する必要があります。</p>	<p>説明 Use Accumulator スタANDARD ルールで使用するアキュムレータが指定されていません。</p>
<p>無効な使用回数が入力されています。</p>	<p>説明 レコードまたはグループに対して、無効な使用回数が入力されました。</p>
<p>このアキュムレータ用の動作が選択されていません。</p>	<p>説明 アキュムレータは選択されていますが、Use Accumulator スタANDARD ルールでの使用目的となるアクションが指定されていません。</p>
<p>代用アキュムレータが選択されていません。</p>	<p>説明 Use Accumulator スタANDARD ルールで、代用アキュムレータを使用するアキュムレータを作成しようとしたのですが、使用する代用アキュムレータが指定されていません。</p>
<p>このトークン用に文字範囲が指定されていません。</p>	<p>説明 シンタックス トークンで使用できる文字が指定されていません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
この関係で使用されているフィールドがありません。	説明 条件付き関係を確立しましたが、必要なフィールドが指定されていません。
アキュムレータは、これ以上作成できません。	説明 1 つの Use Accumulator スタANDARD ルールに、6 つ以上のアキュムレータを作成しようとした。
これ以上のフィールド マッピングは作成できません。	説明 1 つの Select STANDARD ルールに、8 つ以上のフィールドマッピングを作成しようとした。
定数 ID は一意である必要があります。	説明 [ID] フィールドに、既存の定数で既に使用されているリテラル定数の識別子が入力されました。 ユーザーの処置 一意のリテラル定数識別子を [ID] フィールドに入力してください。
クリップボードの内容をトランスレーションオブジェクトに貼り付けることができません。	説明 コピーまたは切り取ったデータがクリップボードに含まれていないか、EDI 情報を固定長ファイル書式に貼り付けようとしたか、あるいは固定長情報を EDI ファイル書式に貼り付けようとした。
ファイル書式は削除できません。	説明 ファイル書式オブジェクトを削除しようとした。
最大使用回数は、0 より大きく、最小使用回数以上でなければなりません。	説明 無効な最大使用回数が入力されました。
分割する数は、0 より大きく、分割元の最大使用回数より小さい数でなければなりません。	説明 [分割] ダイアログ ボックスで無効な数値を入力しました。分割する数は、0 より大きく、以上および分割元の最大使用回数より小さい数でなければなりません。
トランスレーションオブジェクトはコンパイルできませんでした。	説明 トランスレーションオブジェクトは、まだコンパイルできる状態ではありません。 (次のページへ続く)

メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
トークン コードは一意である必要があります。	<p>説明 既存のシンタックス トークンと同じトークン識別子を持つシンタックス トークンを作成しようとした。</p> <p>ユーザーの処置 [ID] フィールドに、一意のトークン識別子を入力します。</p>
これらのフィールドは、入力フィールドが出力フィールドより深いため連結できません。トランスレータは、この入力フィールドを処理できません。	<p>説明 無効なリンクを作成しようとした。リンクが有効であるには、入力フィールドと出力フィールドが同じレベルである必要があります。</p>
このコードは既に存在します。別のコードを使用するか、元のコードを削除してください。	<p>説明 コードリストに既に含まれているコードをコードリストに追加しようとした。</p>
このフィールドはほかのフィールドに連結できません。	<p>説明 不明なエラーが発生したため、Gentran:Server は連結の作成を開始できませんでした。</p>
このファイルは、有効な Gentran トランスレーション オブジェクトではありません。	<p>説明 トランスレーション オブジェクトではないファイルを開こうと (読み込もうと) しました。</p>
無効な文字または文字コードが、レコード区切文字 1 に入力されました。	<p>説明 [ファイル形式プロパティ] ダイアログで入力されたレコード区切文字 1 が無効です。</p>
無効な文字または文字コードが、レコード区切文字 2 に入力されました。	<p>説明 [propositionalnew1 ファイル書式プロパティ] ダイアログで入力されたレコード区切文字 2 が無効です。</p>
無効な小数セパレータ、または文字コードが入力されました。	<p>説明 無効な小数セパレータが入力されています。</p>
無効なエレメント区切文字または文字コードが入力されました。	<p>説明 無効なエレメント区切文字が入力されています。</p>
無効な付け足し文字または文字コードが入力されました。	<p>説明 固定長フィールドに無効な付け足し文字が入力されています。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
無効なリリース文字または文字コードが入力されました。	説明 無効なリリース文字が入力されています。
無効な sub-element 区切文字または文字コードが入力されました。	説明 無効なサブエレメント区切文字が入力されています。
無効なタグ区切文字または文字コードが入力されました。	説明 無効なタグ区切文字が入力されています。
トランスレーション オブジェクトの説明を入力する必要があります。	説明 [トランスレーション オブジェクトの詳細]ダイアログで、トランスレーション オブジェクトの作成者名を入力しないでトランスレーション オブジェクトを保存しようとした。
サブテーブル名を入力する必要があります。	説明 ユーザーの処置 [トランスレーション オブジェクトの詳細]ダイアログの[説明]フィールドに、トランスレーション オブジェクトの説明を入力します。このフィールドは、システムがフォームを識別するのに使用するため、一意でなければなりません。
サブテーブル名を入力する必要があります。	説明 Select または Update スタンダードルールでは、テーブルを選択する場合に[サブ テーブル]フィールドにテーブル名を指定する必要があります。
有効な文字範囲を入力する必要があります。	説明 シンタックス トークンに無効な文字範囲が入力されています。
有効なシンタックス トークンを入力する必要があります。	説明 シンタックス トークンの作成または編集の際に、[トークン]フィールドに有効なトークン識別子が入力されていません。
この定数に値を入力する必要があります。	説明 シンタックス トークンの作成または編集の際に、[値]フィールドの定数に値を指定していません。

(次のページへ続く)

メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
ID を入力する必要があります。	説明 シンタックス トークンの作成または編集の際に、[ID] フィールドの定数にリテラル定数の識別子を指定していません。
このトランスレーション オブジェクトの、作成者名を入力する必要があります。	説明 [トランスレーション オブジェクトの詳細] ダイアログで、トランスレーション オブジェクトの作成者名を入力しないでトランスレーション オブジェクトを保存しようとしていました。
定数の型を選択する必要があります。	説明 定数の作成または編集の際に、[型] ドロップダウン リスト ボックスで定数の型を選択していません。
新しいトランスレーション オブジェクトに、入力および出力ファイルの種類を指定する必要があります。	説明 [入力書式の種類] と [出力書式の種類] を選択しないで、[新しいトランスレーション オブジェクトの作成] ダイアログの [OK] をクリックしました。

トランスレータ レポート エラー メッセージ

はじめに

ドキュメントおよびインターチェンジ トランスレータ レポート エラー メッセージは、[メッセージ番号]列および[メッセージ]列の下にあるドキュメント トランスレータ レポートおよびインターチェンジ トランスレータ レポートに表示されます。

[メッセージ番号]列

トランスレータ レポートの [メッセージ番号] 列には、プレフィックス (INF、EDI、または POS)、ダッシュ ("-")、およびエラーを識別するための 4 桁の番号が入ります。プレフィックスについては、次の表を参照してください。

プレフィックス	説明
INF	情報メッセージにのみ使用されます。情報メッセージについては、内容がわかりやすいので、この章では説明されません。
EDI	情報メッセージ以外の次にリストされているすべてのメッセージに使用されます。このプレフィックスは、EDI ファイルに関連するエラーに使用されます。
POS	情報メッセージ以外の次にリストされているすべてのメッセージに使用されます。このプレフィックスは、固定長フラット ファイルに関連するエラーに使用されます。

[メッセージ]列

トランスレータ レポートの [メッセージ] 列には、実際のエラー メッセージテキストが入ります。

(次のページへ続く)

トランスレータ
エラー メッセージ

次に、トランスレータ レポート エラー メッセージをメッセージ番号の最後の3桁の数字およびエラー メッセージ テキスト別にリストします。

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
100	必須要素がありません	<p>説明 トランスレーション オブジェクト により " 必須 "とされている要素が、アウト バウンド ドキュメント で作成されなかったか、インバウンド ドキュメント で受信されませんでした。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータ レポートの [セグメント ID]、[レコード ID]、[順番]、および [要素] フィールドを使用して、ドキュメント内の欠落している必須要素を特定します。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメント エディタを使用してドキュメントを入力した場合は、ドキュメントを開いて、欠落しているフィールドを完了します。ドキュメントをシステムにインポートしていた場合は、ドキュメントを削除して、インポート ファイルを修正した後、ドキュメントをインポートします。ドキュメントの開き方、また、ドキュメントの削除およびインポート方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「ドキュメントの使い方」を参照してください。</p> <p><u>インバウンド</u> 必要な操作について、トレーディング パートナーにお問い合わせください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
110	エレメントの書式が正しくありません	<p>説明 正しくない書式でエレメントが入力または受信されました。正しくない書式の例には、次のようなものがあります。数値以外の文字を含む数値フィールド、(スタンダードで定義された)最大長を超えている、または最小長に満たないフィールド、無効な日付などがあります。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータレポートの [セグメント ID]、[レコード ID]、[順番]、および [エレメント] フィールドを使用して、ドキュメント内の無効なエレメントを特定します。</p> <p><u>アウトバウンド</u> データ ソースを修正します。</p> <p><u>インバウンド</u> 必要な操作について、トレーディングパートナーにお問い合わせください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
120	複合内のコンポーネントが多すぎます	<p>説明 受信したドキュメントの複合エレメントに、スタンダードで許可されている数を超えるコンポーネントエレメント (サブエレメント) が含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータレポートの [セグメント ID]、[レコード ID]、[順番]、および [エレメント] フィールドを使用して、ドキュメント内の無効なエレメントを特定します。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメント エディタを使用してドキュメントを入力した場合は、ドキュメントを開いて、無効なフィールドを修正します。ドキュメントをシステムにインポートしていた場合は、ドキュメントを削除して、データを修正した後、ドキュメントをもう一度インポートします。ドキュメントの開き方、また、ドキュメントの削除およびインポート方法の詳細については、『ユーザーガイド』の「ドキュメントの使い方」を参照してください。</p> <p><u>インバウンド</u> 必要な操作について、トレーディングパートナーにお問い合わせください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
130	無効な条件付き関係です	<p>説明 ドキュメントの条件付き関係が有効ではありません。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータ レポートを使用して、ドキュメント内のエラーが発生した場所を特定します。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメント エディタを使用してドキュメントを入力した場合は、ドキュメントを開いて、条件付き関係を修正します。ドキュメントをシステムにインポートしていた場合は、ドキュメントを削除して、ドキュメントをもう一度インポートします。</p> <p><u>インバウンド</u> 必要な操作について、トレーディングパートナーにお問い合わせください。</p>
140	暗黙のルールの失敗	<p>説明 このフィールドに対して設定された検証ルールが、トランスレータで失敗しました。このエラーは、通常、排他フラグがスタンダード ルールに設定されている場合に、フィールドの値がデータ テーブルと一致しないときに発生します。</p> <p>ユーザーの処置 受信したデータの値が、フィールドで許可されている有効なデータと比較してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
200	必須のコンポーネントがありません	<p>説明 トランスレーションオブジェクトにより " 必須 " とされている複合エレメントのコンポーネント (サブエレメント) が、アウトバウンドドキュメントで作成されなかったか、インバウンドドキュメントで受信されませんでした。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータレポートの [セグメント ID]、[レコード ID]、[順番]、[エレメント]、および [複合] フィールドを使用して、ドキュメント内の欠落している必須コンポーネントを特定します。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメント エディタを使用してドキュメントを入力した場合は、ドキュメントを開いて、欠落しているフィールドを完了します。ドキュメントをシステムにインポートしていた場合は、ドキュメントを削除して、ドキュメントをもう一度インポートします。</p> <p><u>インバウンド</u> 必要な操作について、トレーディングパートナーにお問い合わせください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
210	コンポーネントの書式が正しくありません	<p>説明 トランスレーション オブジェクトにより " 必須 " とされている複合エレメントのコンポーネント (サブエレメント) が、正しくない書式で入力されたか (アウトバウンド)、受信されました (インバウンド)。正しくない書式の例には、次のようなものがあります。数値以外の文字を含む数値フィールド、(スタンダードで定義された) 最大長を超えている、または最小長に満たないフィールドなどです。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータ レポートの [セグメント ID]、[レコード ID]、[順番]、[エレメント]、および [複合] フィールドを使用して、ドキュメント内の無効なエレメントを特定します。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメント エディタを使用してドキュメントを入力した場合は、ドキュメントを開いて、無効なフィールドを修正します。ドキュメントをシステムにインポートしていた場合は、ドキュメントを削除して、データを修正した後、ドキュメントをもう一度インポートします。</p> <p><u>インバウンド</u> 必要な操作について、トレーディング パートナーにお問い合わせください。</p>
220	コンポーネント区切文字	<p>説明 予期されたエレメントの代わりに、コンポーネント区切文字が見つかりました。</p> <p>ユーザーの処置 必要な操作について、トレーディング パートナーまたはトランスレーション オブジェクトの作成者にお問い合わせください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
300	必須セグメント	<p>説明 トランスレーションオブジェクトにより " 必須 " とされているセグメントが、アウトバウンドドキュメントで作成されなかったか、インバウンドドキュメントで受信されませんでした。</p> <p>メモ このエラーは、さまざまなケースで発生することがあります。最もよくあるケースとして、入力データシーケンスが、データのトランスレーションに使用するトランスレーションオブジェクトで定義されているデータシーケンスに対応していない場合があります。この場合、メッセージと共に、データ内の1つのセグメントが示される場合があります。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータレポートの [セグメント ID] や [レコード ID] フィールドを使用して、ドキュメント内の欠落している必須セグメントを特定します。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメント エディタを使用してドキュメントを入力した場合は、ドキュメントを開いて、セグメントの生成に必要なフィールドにデータを入力します。ドキュメントをシステムにインポートしていた場合は、ドキュメントを削除して、セグメントの生成に必要なデータを追加した後、ドキュメントをもう一度インポートします。</p> <p><u>インバウンド</u> 必要な操作について、トレーディングパートナーにお問い合わせください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
310	無効なループの開始 / 終了構造	<p>説明 インバウンド ドキュメントで無効なループ開始 / ループ終了セグメントが見つかりました。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータ レポートの情報を使用して、無効な LS/LE の組み合わせを特定します。必要な操作について、トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
315	無効なセグメントまたはレコードの構造	<p>説明 インバウンド ファイルのセグメント (EDI ファイル内) またはレコード (固定長テキスト形式のファイル内) が、トランスレーション オブジェクトで予期されたものと一致しませんでした。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータ レポートの情報および EDI インターチェンジを参照して、無効なセグメントまたはレコードを特定します。必要な操作について、トレーディング パートナーに問い合わせてください。詳細については、『ユーザー ガイド』の「インターチェンジの表示方法」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
405	不明なパートナー	<p>説明 インターチェンジが受信されましたが、システムが送信パートナーを特定できませんでした。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータレポートの情報および EDI インターチェンジを参照して、インターチェンジを送信したパートナーを特定します。パートナーがシステムでリストされていない場合は、パートナーおよび関係を作成し、送信してきたパートナーにインターチェンジを添付します。パートナーが既にシステムに存在する場合は、インターチェンジを該当するパートナーに添付し、システムが自動的にパートナーを識別できなかった原因を調べます。</p>
410	最初と最後の Control Number が一致しません	<p>説明 スタンダードで指定されたとおりに、最初と最後の Control Number が一致しません。</p> <p>ユーザーの処置 EDI の表示を確認して EDI ファイル内にある control number を特定した後、必要な操作についてトレーディング パートナーに問い合わせてください。ドキュメントを表示する方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「ドキュメントの表示方法」を参照してください。</p>
415	Control の総数が正しくありません	<p>説明 トランスレータレポートのセグメント ID のフィールドにある EDI コントロールの総数が、エラーチェッカーの計算結果と異なります。</p> <p>ユーザーの処置 EDI の表示を確認して正しいコントロールの総数を特定した後、必要な操作についてトレーディング パートナーに問い合わせてください。ドキュメントを表示する方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「ドキュメントの表示方法」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
420	不明な関係	<p>説明 ドキュメントが受信されましたが、対応するインバウンド関係がパートナーのパートナー プロファイルに含まれていません。</p> <p>ユーザーの処置 トランスレータ レポートの情報および EDI インターチェンジを参照して、ドキュメントに必要な関係を特定し、該当するインバウンド関係をパートナーに作成します。インターチェンジを表示する方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「インターチェンジの表示方法」を参照してください。インバウンド関係を作成する方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「新しいインバウンド関係の作成方法」を参照してください。</p>
460	無効なテスト モード フラグです	<p>説明 パートナー関係が見つかりましたが、データ内のテスト モード フラグがインバウンド パートナー関係で定義されているテスト モードと一致しませんでした。</p> <p>ユーザーの処置 データのテスト モードと一致するように、インバウンド パートナー関係のテスト モードを変更します。インバウンド関係を作成する方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「新しいインバウンド関係の作成方法」を参照してください。また、インバウンド関係で定義されているテスト モードと一致するように、送信データのテスト モードを変更するようトレーニング パートナーに依頼してください。</p>

ユーザーレベルの エラー メッセージ

ユーザーレベルのエラーは、拡張ルールがマップ内で使用された場合に発生する場合があります。

ユーザーレベルのエラーメッセージをメッセージ ID の番号順にリストします。表には、エラーに関する説明とエラーを解決するために必要な操作も載せられています。

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
800	バッチ ファイル ヘッダー セクションがありません	<p>説明 バッチファイル内にヘッダー セクションレコードが見つかりません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
801	予期せぬヘッダー セグメント	<p>説明 00 以外の値が、ヘッダー セクションレコードのセグメント識別子 フィールド (701) に含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
802	予期せぬ伝送タイプ	<p>説明 T (トランザクション)、R (応答)、または E (エラー) 以外の伝送値が、ヘッダー セクションレコードの伝送タイプ フィールド (880-K6) に含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
803	Sender ID がありません	<p>説明 ヘッダー セクションレコードの Sender ID フィールド (880-K1) に値がありません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
804	無効なバッチ番号	<p>説明 バッチ番号フィールド (806-5C) に YYDDD 以外の書式が含まれています。YYDDD の意味は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ YY = 年 ▶ DDD = ユリウス日付 <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
805	予期せぬファイル タイプ	<p>説明 P (本番) または T (テスト) 以外の値が、ファイル タイプ フィールド (702) に含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
806	Receiver ID がありません	<p>説明 ヘッダー セクションの Receiver ID フィールド (880-K7) に値がありません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
807	バッチ ファイル 詳細データ レコードがありません	<p>説明 バッチ ファイル内に詳細データ レコードが見つかりません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
808	予期せぬデータ セグメント	<p>説明 G1 以外の値が、詳細データ レコードのセグメント識別子フィールド (701) に含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
809	Transaction Reference Number がありません	<p>説明 詳細データレコードの transaction Reference Number フィールド (880-K5) に値がありません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
810	バッチ ファイルトレーラー レコードがありません	<p>説明 バッチ ファイル内にトレーラ レコードが見つかりません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
811	無効なトレーラー セグメン ト ID	<p>説明 99 以外の値が、トレーラ レコードのセグメント識別子フィールド (701) に含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
812	予期せぬバッチ番号	<p>説明 トレーラ レコードのバッチ番号 フィールド (806-5C) が、ヘッダーレコードのバッチ番号フィールド (806-5C) と一致しません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
813	無効なレコード数です	<p>説明 トレーラ レコードのレコード カウント フィールド (751) に無効な数が含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
814	処理された DDR がレコード数と不一致です	<p>説明 実際の詳細データレコードの数が、トレーラレコードのレコードカウントフィールド (751) の値と異なります。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディングパートナーに問い合わせてください。</p>
815	トランザクション内のセグメントの重複	<p>説明 トランザクション内で同じセグメントが重複します。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディングパートナーに問い合わせてください。</p>
816	予期せぬトランザクションコード	<p>説明 次にリストされている値以外の値が、要求トランザクションヘッダーセグメントまたは応答ヘッダーセグメントのトランザクションコードフィールド (103-A3) に含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ E1 = 資格の確認 ▶ B1 = 請求 ▶ B2 = キャンセル ▶ P1 = 再請求 ▶ P2 = P.A. の要求および請求 ▶ P3 = P.A. の問い合わせ ▶ P4 = P.A. の要求のみ ▶ N1 = 情報レポート ▶ N2 = 情報レポートのキャンセル ▶ N3 = 情報レポートの再請求 ▶ C1 = 規制薬物レポート ▶ C2 = 規制薬物レポートのキャンセル ▶ C3 = 規制薬物レポートの再請求 <p>ユーザーの処置 トレーディングパートナーに問い合わせてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
817	無効なトランザクション数	<p>説明 次にリストされている値以外の値が、要求トランザクションヘッダーセグメントまたは応答トランザクションヘッダーセグメントのトランザクションカウントフィールド (109-A9) に含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ブランク = 指定しない ▶ 1 = 1 つ (既定値) ▶ 2 = 2 つ (トランザクションコード E および P を除く) ▶ 3 = 3 つ (トランザクションコード E および P を除く) ▶ 4 = 4 つ (トランザクションコード E および P を除く) <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
818	処理済トランザクション不一致トランザクション数	<p>説明 実際のトランザクションの数が、応答ヘッダーセグメントのトランザクションカウントフィールド (109-A9) の値と異なります。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
819	予期せぬヘッダー応答状況コード	<p>説明 A (受入中) または R (拒否) 以外の値が、応答ヘッダーセグメントのヘッダー応答状態フィールド (501-F1) に含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
820	予期せぬトランザクション 応答状況コード	<p>説明 次にリストされている値以外の値が、トランザクション応答状態フィールド (112-AN) に含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ A = 承認▶ C = 受理▶ D = 支払いのコピー▶ F = P.A. の延期▶ P = 支払い▶ Q = 受理のコピー▶ R = 拒否▶ S = 承認のコピー <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>

(次のページへ続く)

コアトランスレータ エラー メッセージ

コアトランスレータ エラーは、データの送受信時に発生する場合があります。

コアトランスレータ エラー メッセージをメッセージ ID の番号順にリストします。表には、エラーに関する説明とエラーを解決するために必要な操作も載せられています。

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
830	Null 文字	<p>説明 データ ファイルにバイナリ データが含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
833	途中でファイルの最後 (EOF) が見つかりました。	<p>説明 フィールドが、指定された長さに足りません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
835	予期せぬテキストの開始	<p>説明 レコードにテキストの終了文字がありません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
836	途中でテキストの終了	<p>説明 レコードにテキストの開始文字がありません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
837	ストリーム セパレータ 1 が 見つかりません	<p>説明 [連続セグメント] ボックスがオフになっているマップから、テンプレートを使用して非ストリームデータを読み込んでいます。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
838	ストリーム セパレータ 2 が 見つかりません	<p>説明 [連続セグメント] ボックスがオフ になっているマップから、テンプレ ートを使用して非ストリーム データを読み込んでいます。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
839	予期せぬセパレータ	<p>説明 グループ セパレータ、セグメント セパレータ、フィールド セパレー タ、STX、または ETX がデータ内 に存在します。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
840	予期せぬフィールド セパ レータ	<p>説明 マップによると、2つのフィール ド セパレータが連続して使用され ているか、予期したセパレータと は異なるセパレータが使用されて います。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
841	予期せぬグループ セパ レータ	<p>説明 マップによると、なにも指定され ていないタイミングでグループ セ パレータが存在します。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
842	グループ セパレータがあり ません	<p>説明 マップによると、グループ セパ レータが欠落しています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
843	予期せぬストリーム セパレータ 1	<p>説明 マップによると、なにも指定されていないタイミングでストリームセパレータ 1 が存在します。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
845	固定長タグが EOS を超えて定義されています	<p>説明 トランザクション コードの開始位置 (固定長レコード タグ) が、セグメントの終わりの後に設定されています。</p> <p>ユーザーの処置 セグメントの終わりより前で開始するように、NCPDP プロパティ タグの下にある固定長セグメントの値を変更してください。</p>
855	Delimited セグメントにフィールドがありません	<p>説明 区切文字付きセグメントには、少なくとも必須フィールドが含まれている必要があります。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
856	SS の後の Delimited FS がありません	<p>説明 セグメント セパレータの後に区切文字付きフィールド セパレータがありません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p>
857	フィールド ID データがマップ フィールド ID と一致しません	<p>説明 フィールド ID データが、定義されている Delimited フィールド ID タグと異なります。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い合わせてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
858	Delimited フィールド ID に 予期せぬ文字があります	<p>説明 Delimited フィールド ID データ内 にセパレータが見つかりました。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
859	Delimited フィールド ID に Null 文字があります	<p>説明 Delimited フィールド ID にバイナ リ データが含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
860	Delimited フィールド ID が 不完全です	<p>説明 フィールド ID データが、予期され た長さに足りません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
861	Delimited フィールド データ がありません	<p>説明 Delimited フィールド ID の後に データがありません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
862	Delimited フィールド データ に Null 文字があります	<p>説明 Delimited フィールド データにバイ ナリ データが含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
865	セグメント ID データがマッ プ セグメント ID と一致し ません	<p>説明 セグメント ID データが、定義され ている Delimited セグメント ID フィールドと異なります。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
866	Delimited セグメント ID に 予期せぬ文字があります	<p>説明 Delimited セグメント ID 内にセパ レータが見つかりました。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
867	Delimited セグメント ID に Null 文字があります	<p>説明 Delimited セグメント ID にバイナ リ データが含まれています。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
868	Delimited セグメント ID が 不完全です	<p>説明 Delimited セグメント ID が、予期 された長さに足りません。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
869	フィールド ID サイズがグ ローバル フィールド ID サ イズと一致しません	<p>説明 計算されたセグメント / フィール ド ID のサイズが、グローバル フィールド ID 長の値と異なり ます。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p>
885	バッチ セグメント内で STX の後にデータがありません	<p>説明 バッチ レコードにデータがありま せん。</p> <p>ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
886	バッチ セグメント内の予期 せぬ STX	説明 バッチ レコードに ETX 文字があ りません。 ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。
887	バッチ セグメント内に ETX がありません	説明 バッチ レコードに ETX 文字があ りません。 ユーザーの処置 トレーディング パートナーに問い 合わせてください。

(次のページへ続く)

**コアトランスレータ
エラー メッセージ:
NCPDP データレ
コード フィールド
を使用したバッチ
データの送信**

コアトランスレーション エラーは、NCPDP データ レコード フィールドを使用して、バッチ データをトレーディング パートナーに送信するときにも発生する場合があります。コアトランスレーション エラーは、多くの場合、バッチ ファイルの一部の文字列が欠落しているか、値が正しくないために発生します。

エラーを防止するには、バッチ ファイル文字列が次の詳細データ レコード (DDR) 書式に従っていることを確認します。

<セパレータ>ファイル名<セパレータ>StartOffset<セパレータ>EndOffset<セパレータ>

コアトランスレータ エラー メッセージをメッセージ ID の番号順にリストします。表には、エラーに関する説明とエラーを解決するために必要な操作も載せられています。

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
888	NCPDP データ ファイルを開けられませんでした	<p>説明 NCPDP データ ファイルが存在しないか、読み取れません。</p> <p>ユーザーの処置 選択しているファイル名が正しいことを確認するか、文字列フィールドで欠落している情報を入力します。</p>
890	DDR Info String 内でセパレータがありません	<p>説明 DDR 文字列フィールドのセパレータが欠落しています。</p> <p>ユーザーの処置 DDR 文字列フィールドに"," を挿入します。</p>
891	DDR Info String 内でファイル名がありません	<p>説明 DDR 文字列フィールドにファイル名がありません。</p> <p>ユーザーの処置 ファイル名を DDR に追加します。</p>
892	無効な DDR Info String 内の開始バイト オフセット	<p>説明 セットの先頭に数値以外のデータが見つかりました</p> <p>ユーザーの処置 有効なセット開始値 (数値) を追加します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
893	無効な DDR Info String 内の 終了バイト オフセット	<p>説明 セットの最後に数値以外のデータ が見つかりました。</p> <p>ユーザーの処置 有効なセット終了値 (数値) を追 加するか、データを削除 (ファイ ルの最後まで処理する場合) し ます。</p>
894	DDR Info String 内の開始 / 終 了バイト オフセットがあり ません	<p>説明 DDR 文字列フィールドに開始 / 終 了バイト オフセットがありませ ん。</p> <p>ユーザーの処置 DDR 文字列フィールドに開始 / 終 了バイト オフセットを追加する か、余分なセパレータを削除し ます。</p>
895	DDR Info String に余分な データがあります	<p>説明 DDR 文字列に余分なデータが含ま れています。</p> <p>ユーザーの処置 余分なデータを DDR 文字列から削 除します。</p>
896	読み込み予定バイト数と読み 込んだバイト数が不一致 です	<p>説明 実際に読み込まれたバイト数が、 セット内で指定されたバイト数に 足りません。</p> <p>ユーザーの処置 開始 / 終了バイト オフセットを確 認するか、終了バイト オフセッ トを削除 (ファイルの最後まで処理 する場合) します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明とユーザーの処置
897	開始バイト オフセットがファイルの最後 (EOF) を超えています	説明 開始バイト オフセットの開始位置が、ファイルの終わりの後に設定されています。 ユーザーの処置 開始バイト オフセットの開始位置を変更します。
898	開始バイト オフセットが終了バイト オフセットを超えています	説明 開始バイト オフセットの開始位置が、終了バイト オフセットの位置より後に設定されています。 ユーザーの処置 終了バイト オフセットの前で開始するように開始バイト オフセットの位置を変更するか、開始バイト オフセットの後で開始するように終了バイト オフセットの位置を変更します。

User Exit

目次

▶ 概要	2
▶ ActiveX 用語の定義	3
▶ Gentran:Server User Exit の概要	4
▶ User Exit の使用例	7
▶ オートメーション サーバーの例	12
▶ User Exit の作成方法	16

概要

仮定事項

この付録では、ユーザーが次の条件を満たしていることを前提としています。

- ▶ ActiveX オートメーション サーバーの使用や Visual Basic などの言語に慣れていること
- ▶ ActiveX オブジェクトの作成、操作、および削除を行うための TPL (Translator Programming Language) に関する知識があること
- ▶ ActiveX オブジェクトの ProgID、および公開されている ActiveX オブジェクトのインターフェイスすべてに関する知識があること
- ▶ 拡張ルールが呼び出される方法やタイミング、またそれらの適用範囲について理解していること

詳細機能

User Exit は、上記の条件を満たしたユーザーのみが使用する Gentran:Server の "詳細機能" です。

制限

Gentran:Server 拡張ルールは、ActiveX を部分的にサポートしています。

サポート対象

Gentran:Server 拡張ルールは、次をサポートしています。

- ▶ ActiveX オートメーション サーバー。
- ▶ 一部の "ActiveX コントロール"。ただし、オートメーション サーバーとして機能するものに限りです。

サポート対象外

Gentran:Server は、次をサポートしていません。

- ▶ ActiveX オートメーション サーバーではない ActiveX コントロール。これらの ActiveX コントロールは、グラフィカル ユーザー インターフェイス (GUI) ディスプレイにホストされる必要があるため、拡張ルールでは使用できません。
- ▶ ActiveX Array (VT_ARRAY データ型変換など)。
- ▶ メソッド呼び出しの出力パラメータ以外で使用する参照 (VT_BYREF データ型変換など)。この場合、参照はメソッド呼び出しの間だけ有効になります。
- ▶ 拡張ルールのコンパイル時に、Gentran:Server がレジストリ エントリやタイプ ライブラリを読み込み、プログラムの識別子 (ProgID) やインターフェイスの正確性を検証することはありません。
- ▶ ActiveX プロパティ間、メソッド結果間、または任意の ActiveX プロパティとメソッド結果を比較する拡張ルール。コンパイル前は、プロパティとメソッド タイプを特定できず、正しい比較コードを生成できません。したがって、この種の比較は無効です。

ActiveX 用語の定義

ActiveX について

ActiveX とは、アプリケーションによる情報の共有方法を定義する一連のルールを指す総称です。ActiveX は、OLE (Object Linking and Embedding) や COM (Component Object Model) など、Microsoft 社によって開発された技術をベースとしています。

ActiveX オートメーション サーバーについて

ActiveX オートメーション サーバーとは、ActiveX コンポーネント (.DLL または .EXE プログラム) の一つで、IDispatch インターフェイスを介し、その機能の一部 (プロパティやメソッドなど) をシステムの他のプログラムに公開することが可能です。

一部の ActiveX コントロールは、オートメーション サーバーとして機能します。

IDispatch インターフェイスについて

IDispatch インターフェイスとは、標準の COM インターフェイスです。オートメーション サーバーは、通常このインターフェイスを介して、メソッドとプロパティを公開します。

メソッドについて

メソッドとは、オブジェクトによって実行される動作または関数です (計算や検索など)。

プロパティについて

プロパティとは、オブジェクトの特性またはパラメータです (タイプ、サイズ、作成日など)。

ActiveX コントロールについて

ActiveX コントロールとは、ActiveX の技術を実装するために定義されたメソッドです。基本的に ActiveX コントロールは共通の作業を実行するソフトウェア コンポーネントで、必要な ActiveX コントロール ホスト機能を提供するアプリケーションのユーザー インターフェイスとの統合が可能です。

ActiveX コントロールの仕様では、アプリケーションと Gentrans:Server との通信を行うコンポーネント ソフトウェアを作成することが可能です。ActiveX コントロールはユーザー インターフェイスを必要とするため、トランスレーション User Exit には適していません。これらのコントロールは、Visual Basic などさまざまなプログラミング言語で開発できます。

Gentran:Server User Exit の概要

User Exit を使用する理由

User Exit を使用すると、既存の機能を向上したり、通常のトランスレーションでは Gentran:Server で実行されない特定の処理を実現できます。

Gentran での User Exit の使用

Gentran:Server は、Microsoft の ActiveX 技術の使用を可能にする拡張ルールにより、すべての種類のトランスレーション オブジェクトで、User Exit をサポートしています。これにより、拡張ルールを使用して、"ActiveX オートメーション サーバー" として作成されたカスタム機能呼び出すことができます。

具体的には、次の操作を行えます。

- ▶ オブジェクトの作成
- ▶ オブジェクトの削除
- ▶ オブジェクトの照会
- ▶ プロパティのアクセス
- ▶ メソッドの呼び出し

メモ

カスタム機能は、ActiveX オートメーション サーバーとして作成することも、サードパーティのオートメーション サーバーとして作成することもできます。

Gentran:Server は、ActiveX インデックス付きプロパティをサポートします。サポートするインデックスのタイプは、次のとおりです。

- ▶ variant
- ▶ numeric
- ▶ string

インデックスのサポートにより、これらのシンタックスを使用できるようになっています (使用するオートメーション サーバーでこれらのシンタックスがサポートされている場合)。

```
n = ob.property[1];  
n = ob.property["Count"];  
n = ob.property[ob.method()];
```

Gentran:Server は、ActiveX メソッド呼び出しおよびプロパティのチェーニングもサポートしています。これにより、比較的複雑なオブジェクト モデル (ADO など) を持つオートメーション サーバーの拡張ルールを簡略化することができます。

例

次に、チェーニング ステートメントの例を示します。

```
recordset.fields.item["MessageId"].value
```

(次のページへ続く)

User Exit の使用例

User Exit は、次の目的で使用できます。

- ▶ Gentran:Server テーブルを使用する代わりに自社のデータベース テーブルにアクセスし、クロスリファレンスや照合を行う。
- ▶ 複雑な価格計算を行う (複数の顧客、それらの住所、製品の販売店などが関係する計算など)。

サポートされているデータ型

次の表に、拡張ルール データ型と、User Exit との使用でサポートされている対応 ActiveX データ型を示します。

拡張ルール データ型	ActiveX データ型
INTEGER	VT_14
REAL	VT_R8
DATETIME	VT_DATE
STRING	VT_BSTR
OBJECT	VT_DISPATCH

データ型の変換

Gentran:Server トランスレータは、可能であれば拡張ルール データ型を ActiveX データ型に自動的に変換します。変換できない場合は、型の不一致エラーがオーディット ログへ書き込まれ、拡張ルールがすぐに終了します。トランスレータ レポートが操作で使用されている場合は、そのレポートにもエラーが書き込まれます。エクスポート 操作では、トランスレータ レポートが生成されないため、エクスポート トランスレーション中に発生した変換エラーは、オーディット ログだけに書き込まれます。

オブジェクト

ActiveX オートメーション サーバーは、データ型 OBJECT を使用します。これには、次の 2 つの要素があります。それらの要素とは、プロパティ (定義されたデータ セット) とメソッドです。メソッドとは、オブジェクトのインターフェイスによって定義される関数です。

オートメーション サーバーであるすべてのオブジェクトは、デフォルトの IDispatch インターフェイスを備えます。このインターフェイスにより、アプリケーションの内部関数が Gentran:Server に公開されます。他のインターフェイスを公開することもできます。

例

Internet Explorer は、IWebBrowser2 インターフェイスを公開します。

(次のページへ続く)

シンタックス

オブジェクトは、宣言され、次いで CREATEOBJECT コマンドによって作成される必要があります。これは、オブジェクトの IDispatch インターフェイスにポイントすることで行います。こうすることで、シンタックス *object.method(parameters)* により、オブジェクトのメソッドを呼び出せるようになります。

ユーザーは、ProgID とオプションの InterfaceID (IID) を指定できます。ProgID だけを指定した場合は、Gentran:Server によって既定の IDispatch インターフェイスが使用されます。IID とは、機械語で記述されたオブジェクトのインターフェイスを一意に指定する識別子です (例、{00020300-00B000-C00004005300})。インターフェイスは、人間が理解できる名前でも識別することもできます (例、IDispatch)。

メモ

各 IID は、中括弧 {} で囲む必要があります。

場所

User Exit をマップのどこに配置するかは、User Exit で行う処理、およびルールの適用範囲によって決まります。次に、例を示します。

- ▶ オブジェクトの宣言は、マップ入力側の "開始時" ルール (入力固定長ファイルの [ループレベル拡張ルール] ダイアログ ボックス) で行います。
- ▶ オブジェクトの作成と使用は、マップ入力側の "開始時" ルール (入力固定長ファイルの [ループレベル拡張ルール] ダイアログ ボックス) で行います。
- ▶ オブジェクトの削除は、出力側の "終了時" ルール (出力 EDI ファイルの [ループレベル拡張ルール] ダイアログ ボックス) で行います。

メモ

上記のサンプルは、例として示したものにすぎません。適切な場合は、任意の階層レベルにあるマップ コンポーネントの拡張ルール (フィールド レベルの拡張ルールを含む) 内で、オブジェクトを宣言、作成、使用、および削除することができます。

参照

さまざまなマップ コンポーネントの拡張ルールを作成する方法の詳細については、「[拡張ルールの定義](#)」を参照してください。

User Exit の使用例

はじめに

この項では、User Exist の構成例を示します。次の表記規則が使用されています。

- ▶ 太字のテキストは、ユーザーが入力する内容を示します。
- ▶ この項で 1 行に収まらないテキストは、行送りの記号 (↵) を使って、次の行に続けて記述されています。
- ▶ ダブル スラッシュ (//) は、コメントの開始を示します。

オブジェクト変数の定義

次の例では、ActiveX オートメーション サーバーを表す変数を定義します。

```
object ob;
```

デフォルト インターフェイスの作成

次の例では、インターネット エクスプローラ ActiveX オートメーション サーバーのデフォルト インターフェイスのインスタンスを作成します。

```
object ob;  
ob = createobject("InternetExplorer.Application");  
//ActiveX オートメーション サーバーの既定インターフェイスの  
// インスタンスを作成する。
```

(次のページへ続く)

特定のインターフェイスの作成

次の例では、インターネット エクスプローラ ActiveX オートメーション サーバーのインスタンスを作成し、特定のインターフェイスを要求します。

```
object ob;
ob = createobject("InternetExplorer.Application", "{EAB22AC1-30C1
↳-11CR-A7EB-000C05BAE0B}");
//ActiveX オートメーション サーバーの指定のインターフェイスの
// インスタンスを作成します。この場合の IID は既知 (括弧内に指定)。
// 注意:
//createobject コマンドは、インターフェイス名の代わりに IID を使用する場合に、
// より効率的になる。
```

次の例でも、インターネット エクスプローラ ActiveX オートメーション サーバーのインスタンスを作成します。この例の場合、目的のインターフェイス識別子は不明ですが、インターフェイス名は IWebBrowser です。

```
object ob;
string[50] iid;
iid = getiid("InternetExplorer.Application", "IWebBrowser2");
ob = createobject("InternetExplorer.Application", iid);
//ActiveX オートメーション サーバーの指定のインターフェイスの
// インスタンスを作成する。この場合の IID は既知であるため、
// インターフェイス (IWebBrowser) の ProgID および名前が指定され、
//Gentran:Server は IID を検索する。IID は文字列変数 "iid" に読み込まれ、
// オブジェクトの作成にその値が使用される。
```

オブジェクトの削除

オブジェクトは、そのオブジェクトを使用するマップの終了前に削除する必要があります。Gentran:Server トランスレータはマップの終了時にオブジェクトを自動的に削除しますが、不要になった時点ですぐにそのオブジェクトを削除する方が効率的です。また、あるオブジェクトを別のマップへ割り当てた場合、そのオブジェクトを正常にアンロードするには、それら両方のオブジェクトのコピーを削除する必要があります。

次の例では、前述の例で使用されていたオブジェクト "ob" を削除します。

```
deleteobject(ob);
```

(次のページへ続く)

プロパティ値の取得

次の例では、ActiveX オートメーション サーバーからプロパティ値を取得します。

```
object ob;
string[50] iid;
iid = getiid("InternetExplorer.Application", "IWebBrowser2");
ob = createobject("InternetExplorer.Application", iid);
IF ob.Visible = 1 THEN
BEGIN
// プロパティ値にアクセスする。
END
// システムによって Internet Explorer が表示されたかどうかをテストする。
```

プロパティ値の設定

次の例では、ActiveX オートメーション サーバーでプロパティ値を設定します。

```
object ob;
string[50] iid;
iid = getiid("InternetExplorer.Application", "IWebBrowser2");
ob = createobject("InternetExplorer.Application", iid);
ob.Visible = 1;
// プロパティ値が設定される。
// デスクトップに インターネット エクスプローラ が表示される。
```

**メソッドへのパラ
メータの受け渡し**

メソッドにパラメータを渡すには、シンタックス *objectname.methodname(parameters)* を使用します。Gentran:Server トランスレータは、可能であればプロパティの拡張ルールデータ型を ActiveX データ型に自動的に変換します。拡張ルールに直接対応するデータ型がない場合は、変換はオペレーティング システムで可能な限り実行されます。

メモ

Gentran:Server は、デフォルトのデータ型に依存します。たとえば、Gentran:Server は VT_CURRENCY (トランスレータプログラミング言語にとって不明なデータ型) を実数または数値のデータ型に変換します。変換できない場合は、型の不一致エラーがトランスレータ レポートへ書き込まれ、拡張ルールがすぐに終了します。

例

この例は、URL をインターネット エクスプローラの Navigate メソッドへ渡すことで、Web ページをナビゲートします。

```
object ob;
string[50] iid;
iid = getiid("InternetExplorer.Application", "IWebBrowser2");
ob = createobject("InternetExplorer.Application", iid);
ob.Navigate("www.sterlingcommerce.com");
// URL をインターネット エクスプローラの Navigate メソッドへ渡すことで、
// Sterling Commerce の Web ページをナビゲートする。
// 注意：
// URL は引用符で囲む必要がある。
```

(次のページへ続く)

出力パラメータで 値を返す

出力パラメータで値を返すには、シンタックス `objectname.methodname(InputParameter, OUT OutputParameter)` を使用します。

メモ

- ▶ 入力および出力パラメータは、パラメータ リストのどの場所にも挿入できます。
- ▶ 出力パラメータの前には、OUT キーワードが必要です。
- ▶ 出力パラメータとして拡張ルール変数を使用する場合は、ActiveX データ型に完全に一致している必要があります。

参照

ActiveX データ型とそれらに対応する拡張ルール データ型のリストについては、「[サポートされているデータ型](#)」を参照してください。

例

この例では、フィールドのデータを復号します。

```
object ob;  
ob = createobject("YourCompany.DecryptionUserExit");  
ob.Decrypt("EncryptionKey", OUT #Field_Name);
```

オブジェクトが正常 に作成されたかの テスト

この例は、オブジェクトが正常に作成されたかどうか確認するため、オブジェクトの値が 0 (ゼロ) になるかどうかテストします。

```
object ob;  
ob = createobject("YourCompany.DecryptionUserExit");  
IF ob = 0 THEN  
BEGIN  
// オブジェクトが正しく作成されない場合、タスク X を実行する。  
END  
// オブジェクトの作成に成功したかどうかをテストする。  
// 作成されていない場合には、指定のタスクを実行する。
```

既存オブジェクトの 別のインターフェイ スを取得

この例は、オブジェクトの IID を使用して、既存オブジェクト (object1) の別のインターフェイスを取得します。

```
object ob, ob2;  
ob = createobject("InternetExplorer.Application");  
ob2 = queryobject(ob, "{EAB22AC1-30C1-11CF-A7EB-0000C05BAE0B}");  
If the IID of the desired interface is unknown, use the getiid  
function to determine the correct IID and then use the queryobject  
function, as this example demonstrates:  
object ob, ob2;  
string[50] iid;  
ob = createobject("InternetExplorer.Application");  
iid = getiid("InternetExplorer.Application", "IWebBrowser2");  
ob2 = queryobject(ob, iid);
```

(次のページへ続く)

**データベースへの
アクセス**

この例は、User Exit を使用し、データベースの値で UPC コードをクロスリファレンスし、SKU 番号を返します。この例は、User Exit を請求書 (インポート) マップへ追加します (例として **Gentran:Server TUTORIAL** フォルダ内の **PET_810.MAP** を参照)。User Exit コードは、マップ内で一定の割合で実装され、各セクションがロジカル マップ コンポーネントへ追加されます。

" 開始時 " 拡張ルール

INPUT 固定長ファイルの " 開始時 " 拡張ルールに、次のコードを入力します。

```
// オブジェクトを宣言する。
object ob;
//Visual Basic Active X オートメーション サーバーのインスタンスを作成する。
ob = CreateObject ("SCUPCSKU.SKUResolve");
//C++ ActiveX オートメーション サーバーのインスタンスを作成するには、
// 代わりに次のコマンドを使用する。
//ob = CreateObject ("UpcSku.Application");

if ob = 0 then
begin
MessageBox ("Create Object failed",0);
end
```

INVDetail.UPCCODE フィールド拡張ルール

マップ入力側 (INVDetail レコード) の UPCCODE フィールド拡張ルールに、次のコードを入力します。

```
string [100] msg;
msg = "UPC Code = ";
concat (msg, #UPCCODE, 12);

// オートメーション サーバーを呼び出す。
#UPCCODE = ob.ResolveSKU (#UPCCODE);
concat (msg, ", SKU Code = ", 13);
concat (msg, #UPCCODE, len (#UPCCODE));

//UPC コードと SKU の一致をリストするメッセージ ボックスを表示する。
MessageBox (msg, 0);
```

" 開始時 " 拡張ルール

INPUT 固定長ファイルの " 開始時 " 拡張ルールに、次のコードを入力します。

```
// オブジェクトを削除する。
deleteobject (ob);
```

メモ

Microsoft Access データベースにアクセスし、SKU コードで UPC コードをクロスリファレンスするサンプルのオートメーション サーバー (Visual Basic および C++ で記述) については、「[オートメーション サーバーの例](#)」を参照してください。

オートメーション サーバーの例

はじめに

このページ以降には、サンプルのオートメーション サーバーが記述されています。このサーバーは、Microsoft Access データベースにアクセスし、SKU コードで UPC コードをクロスリファレンスします。最初の例は Visual Basic プログラミング言語、2 番目の例は C++ で記述されています。

メモ

次に示すオートメーション サーバーのいずれも、「[データベースへのアクセス](#)」で説明されている "データベースのアクセス" User Exit 拡張ルールと共に使用できます。

Visual Basic オートメーション サーバー

このサンプル オートメーション サーバーは、Visual Basic プログラミング言語で記述されています。このオートメーション サーバーは、Microsoft Access データベースにアクセスし、SKU コードで UPC コードをクロスリファレンスします。シンタックスは次のようになります。*ResolveSKU(UPCCode as String)*。この例で、オートメーション サーバー (SCUPCSKU.EXE) は、コンパイル後に REGSRV32.EXE によって登録されています。これは、オートメーション サーバーが自己登録型ではないためです。

```
// これは Visual Basic Active X EXE プロジェクトである。ここに示すすべてのコードは、
// SKUResolve クラス内にある。(Class 1 の名称が SKUResolve に変更された。)
// データベースにアクセスするために、プロジェクトには次の参照が含まれる:
// Microsoft DAO 2.5/3.5 Compatibility Library。
// 次の行によって、プログラム内で使用する前にすべての変数が宣言されることを
// コンパイラが確認するようになる。
Option Explicit
// この関数は、唯一のパラメータとして UPC コードを受け取り、
// 対応する SKU コードを取得するためにデータベース内の値を
// クロスリファレンスする。
Public Function ResolveSKU(UPCCode As String) As String
    Dim DB As Database, RS As Recordset
    Set DB = DBEngine.Workspaces(0).OpenDatabase
    ➡ ("c:¥GENSRVNT¥tutorial¥upcsku.mdb")
    Set RS = DB.OpenRecordset("UPCSKU", dbOpenDynaset)
// この関数に渡されるパラメータの末尾に空白スペースがないことを確認する。
    UPCCode = Trim(UPCCode)
```

(次のページへ続く)

Visual Basic オートメーション サーバー (続き)

```
// データベースでは大文字と小文字が区別されるため、パラメータの文字が
// すべて大文字であることを確認する。
    UPCCode = UCase(UPCCode)
    RS.MoveFirst
//UPC コードが検出されるまで、またはレコードセットの終わりが検出されるまで
// ループする。
    While Not RS.EOF
//UPC コードを検出した場合には、対応する SKU コードを返す。
        If RS("UPCCode") = UPCCode Then
            ResolveSKU = RS("SKUCode")
            Exit Function
        End If
        RS.MoveNext
    Wend
// 関数に渡されたパラメータに一致する UPC コードがない場合には、
// SKU が検出されなかったことを示す値を返す。
    ResolveSKU = "No Record Found"
End Function
```

C++ オートメー ション サーバー

このサンプル オートメーション サーバーは、C++ プログラミング 言語で記述されています。このオートメーション サーバーは、前述の Visual Basic サンプル User Exit とまったく同様に機能し、Microsoft Access データベースにアクセスして、SKU コードで UPC コードをクロスリファレンスします。この例で、オートメーション サーバー (UPCSKU.DLL) は、コンパイル後に REGSRV32.EXE によって登録されています。これは、オートメーション サーバーが自己登録型ではないためです。

```
// これは、オートメーション オプションが選択されている
// MFC AppWizard (dll) プロジェクトである。ここに示すすべてのコードは、
// CCmdTarget から派生した CUpcSkuMain クラスにある。クラスが作成されたときに、
// ProgID "UpcSku.Application" は "Createable by type ID:" フィールドに指定される。
// この ProgID は、VB example に使用されるものとは異なる。
// このため、レジストリに両方のオートメーション サーバーが共存できる。
```

```
// データベースにアクセスするには、CDaoRecordset から派生されたクラス
// (CUpcSkuDaoRecordset) が必要となる。ClassWizard でクラスが作成される際には、
// DAO および Snapshot オプションが選択され、データベース (Upcsku.mdb) の場所が
// 指定される。
```

(次のページへ続く)

C++ オートメーション サーバー (続き)

```
// 派生レコードセット クラスのヘッダ ファイルを含める。
#include "UpcSkuDaoRecordset.h"
// この関数は、このオートメーション オブジェクトの最後の参照がリリースされた
// ときに呼び出されます。

void CUpcSkuMain::OnFinalRelease ()
{
    CCmdTarget::OnFinalRelease ();

    // データベースにアクセスするために DAO を使用したため、
    // DAO を終了して DLL をアンロードできるようにする。

    if (AfxOleCanExitApp ())
        AfxDaoTerm ();
}
// この関数は、唯一のパラメータとして UPC コードを受け取り、対応する
// SKU コードを取得するためにデータベース内の値をクロスリファレンスする。

BSTR CUpcSkuMain::ResolveSKU (LPCTSTR UPCCode)
{
    CString strResult;
    CString sUPCCode = UPCCode;

    CDaoDatabase DB;
    DB.Open ("C:\¥GENSRVNT¥¥Tutorial¥¥Upcsku.mdb", FALSE, TRUE);

    CUpcSkuDaoRecordset RS (&DB);
    RS.Open ();

    // この関数に渡されるパラメータの末尾に空白スペースがないことを確認する。

    sUPCCode.TrimRight ();

    // データベースでは大文字と小文字が区別されるため、パラメータの文字が
    // すべて大文字であることを確認する。

    sUPCCode.MakeUpper ();

    RS.MoveFirst ();
```

(次のページへ続く)

C++ オートメーション サーバー (続き)

```
//UPC コードが検出されるまで、またはレコードセットの終わりが検出されるまで  
// ループする。
```

```
    while ( !RS.IsEOF() )  
    {  
//UPC コードを検出した場合には、対応する SKU コードを返す。  
  
        if ( RS.m_UPCCode == sUPCCode )  
        {  
            strResult = RS.m_SKUCode;  
  
            RS.Close();  
            DB.Close();  
  
            return strResult.AllocSysString();  
        }  
  
        RS.MoveNext();  
    }  
}
```

```
// 関数に渡されたパラメータに一致する UPC コードがない場合には、  
//SKU が検出されなかったことを示す値を返す。
```

```
    strResult = "No Record Found";  
  
    RS.Close();  
    DB.Close();  
  
    return strResult.AllocSysString();  
}
```

User Exit の作成方法

始める前に

ActiveX オートメーション サーバーは、Gentran:Server トランスレータ (User Exit を含むトランスレーション オブジェクトを使用するトランスレータ) と同じコンピュータにインストールされている必要があります。

手順

User Exit を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムを開始します。
2	User Exit を適用するマップを開きます。
3	マップのどの場所に User Exit を配置するか決定します (セッションルールまたは拡張ルールなど)。 メモ マップ コンポーネントに User Exit を適用すると、そのマップの下位コンポーネントでも同じ User Exit を実行できます。
4	User Exit を作成します。 参照 <ul style="list-style-type: none">さまざまなマップ コンポーネントの拡張ルールを作成する方法の詳細については、「拡張ルールの定義」を参照してください。createobject、deleteobject、および getiid コマンドの詳細については、「アルファベット順リファレンス」を参照してください。

GentranEx.DLL の使い方

目次

概要	2
▶ はじめに	2
データベース アクセス	3
▶ 概要	3
▶ データベース アクセスの実装	4
デバッグ	6
▶ 概要	6
▶ デバッグの実装	7
ルール拡張	10
▶ 概要	10
▶ ルール拡張の実装	11

概要

はじめに

この付録の内容

この付録では、Gentran:Server インプロセス オートメーション サーバーである GentranEx.DLL の使用方法について説明します。

メモ

GentranEx.DLL は、Gentran:Server のインストール時に自動的にインストールされます。

GentranEx.DLL について

GentranEx.DLL は、COM テクノロジと IDispatch インターフェイスを使用することで、Gentran:Server MAPPER.EXE (アプリケーション インテグレーション) および TX32.EXE (トランスレータ) プログラムの柔軟性を高めるインプロセス オートメーション サーバーです。

GentranEx.DLL により、通常の Gentran:Server の操作よりさらに高度な処理を実現できます。次に、その一部を示します。

- ▶ 任意の GentranDatabase テーブルにアクセスする
- ▶ トランスレーション セッションから情報を収集し、その情報をログ ファイルに書き込む
- ▶ アプリケーション インテグレーション拡張ルールの機能を高める

前提事項

この付録を理解するには、次の項目に関する知識が必要です。

- ▶ Gentran:Server for Windows
- ▶ アプリケーション インテグレーション サブシステム
- ▶ 使用するオペレーティング システム
- ▶ オートメーション サーバー
- ▶ 拡張ルールが呼び出される方法やタイミング、またそれらの適用範囲
- ▶ 拡張ルールの作成方法

参照

アプリケーション インテグレーションの拡張ルールの詳細については、「[拡張ルールの使い方](#)」を参照してください。

データベース アクセス

概要

はじめに

GentranEx.DLL により、TSql ステートメントの UPDATE および INSERT を使用して、任意の GentranDatabase テーブルにアクセスできるようになります。GentranEx.DLL は、データベースの接続に ODBC および Gentran:Server ODBC DSN (通常は GentranDatabase) を使用します。

メモ

TSql ステートメントは、ユーザーが生成して、Execute メソッドに渡す必要があります。Oracle® データベースへの接続をサポートするには、TSql ステートメントでテーブル名と列名を角括弧で囲む必要があります。これらの角括弧は、ステートメントを実行する際に、自動的に二重引用符に置換されます。

データベース アクセスの実装

プログラム ID "GentranEx.DispatchDBAccess"

インターフェイス ID {860AAE85-7DA8-11D2-ABDB-00C04FF3971C}

メソッド 次の表に、データベース アクセス メソッドを示します。

メソッド	説明
short ExecuteSQL (BSTR IpszSQLString)	成功すると 1 を、失敗すると -1 を返します。エラーは、アプリケーション イベント ビューアに書き込まれます。
BSTR GetLastError ()	最後に ExecuteSQL メソッドを呼び出したときのエラー文字列を返します。呼び出しに成功している場合は、NULL 文字列を返します。
BSTR GetLastSQL ()	最後に実行した、ExecuteSQL (...) 関数を使用する SQL ステートメントが含まれる文字列を返します。

プロパティ なし

(次のページへ続く)

拡張ルールの例

次に、GentranEx.DLL を使用して GentranDatabase にアクセスする拡張ルールの例を示します。

```
Object obDBAccess;
Integer result;
String [64] szPartnerKEY;
String [1024] szMsg;

obDBAccess = CreateObject ("GentranEx.DispatchDBAccess");
szTSQL = "Update [interchange_tb] Set [AppField6]=""+"
#STATUS+
"" where [PartnerKEY]=""+"
szPartnerKEY+
"" and [Direction]=1 and [ControlNumber]=""+#REF+"";
result = obDBAccess.ExecuteSQL(szTSQL);
if result = -1 then
  Begin
    szMsg = obDBAccess.GetLastError();
    messagebox(szMsg,0);
    szMsg = obDBAccess.GetLastSQL();
    messagebox(szMsg,0);
  End

deleteobject(obDBAccess);
```

デバッグング

概要

はじめに

GentranEx.DLL を使用すると、GentranEx.DLL がインストールされているコンピュータで実行されるトランスレーションセッションから情報を収集し、その情報をログファイルに記録できます。この機能はユーザーによる操作を必要としないため、マップをデバッグングするときに Messagebox 関数の代わりに使用できます。

作成される各エントリは次の情報を含むため、ログは参照しやすくなっています。

- ▶ 日付 / 時刻スタンプ
- ▶ ログの所有者名
- ▶ メッセージのソース
- ▶ メッセージ

メモ

ログの所有者名、メッセージのソース、およびメッセージのすべては、ユーザーが OpenLog() および WriteLog() 関数を使って指定します。

デバッグの実装

プログラム ID "GentranEx.TraceLog"

インターフェイス ID {7DA17F77-8090-11D2-ABE4-00C04FF3971C}

メソッド 次の表に、デバッグ メソッドを示します。

メソッド	説明
short OpenLog (BSTR PathFilename, BSTR Owner, short WriteMode)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 成功すると 1 を、失敗すると -1 を、ファイルが既に開かれている場合は -2 を返します。 ▶ 1 番目の引数では、作成されるログファイルのパスとファイル名を指定します。 ▶ 2 番目の引数では、ログの所有者を指定します。この値が、ログファイルに書き込まれます。これにより、ログが参照しやすくなります。 ▶ 3 番目の引数では、書き込みモードを指定します (1 = append (既定値)、2 = truncate)。 ▶ 生成されるログファイルの所有者の列幅は 20 文字です。したがって、ログファイルへの書き込み時に、2 番目の引数で 20 文字を超える部分は切り捨てられます。
short Open ()	<p>GENSRVNT ホーム ディレクトリに、トレース ログファイル (名前は GentranTrace.log) を開きます。ファイルは APPEND モードで開かれ、GentranEx という所有者名が割り当てられます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) メソッド	説明
short WriteLog (BSTR Source, BSTR Message)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 成功すると 1 を、失敗すると -1 を返します。 ▶ 1 番目の引数では、書き込まれるメッセージのソースを指定します。 ▶ 2 番目の引数では、メッセージテキストを指定します。どちらの引数も、参照しやすくするために、ログファイルの個別の列に書き込まれています。 ▶ ログファイルのソースの列幅は、20 文字です。したがって、1 番目の引数で 20 文字を超える部分は切り捨てられます。 ▶ ログファイルのメッセージの列幅は 256 文字です。したがって、ログファイルへの書き込み時に、2 番目の引数で 256 文字を超える部分は切り捨てられます。
BSTR GetLastError ()	最後にログファイルを開こうとしたときのエラー文字列を返します。
short CloseLog ()	<p>ログファイルを閉じ、成功すると 1 を、失敗すると -1 を返します。</p> <p>メモ 使用中のトレースオブジェクトが適用範囲外になる前に、必ずログファイルを閉じる必要があります。</p>

プロパティ

なし

(次のページへ続く)

拡張ルールの例

次に、GentranEx.DLL を使用してデバッグする拡張ルールの例を示します。

```
Object obTrace;
Integer result;
String [32] szPartnerKEY;

obTrace = CreateObject ("GentranEx.TraceLog");
result = obTrace.OpenLog ("D:¥GENSRVNT¥TraceTest.txt", "ICLANA", 2);
if result = -1 then
  Begin
    obTrace.WriteLog ("Start of Log", "Trace Test");
    obTrace.WriteLog ("Converted TUN#", szPartnerKEY);
  End
obTrace.CloseLog();
deleteobject (obTrace);
```

ルール拡張

概要

はじめに

GentranEx.DLL には、アプリケーション インテグレーション拡張ルール ロジックの機能を向上させるメソッドとプロパティが用意されています。たとえば、文字列を大文字から小文字へ変換するメソッドがあります。このメソッドは、文字列を比較するロジックで非常に役立ちます。また、現在の日付や時刻を返す関数もあります。さらに、オートメーション サーバーが非対話環境で実行されているかどうかを確認できるプロパティもあります。

ルール拡張の実装

プログラム ID "GentranEx.Rules"

インターフェイス ID {387C0F34-82F5-11D2-ABEA-00C04FF3971C}

メソッド 次の表に、ルール拡張メソッドを示します。

メソッド	説明
DATE GetDate ()	現在の日付を返します。代入演算子 (=) を使用して、このメソッドによって返される値に日 / 時変数や日 / 時タイプフィールドを設定することもできます。
DATE GetTime ()	現在の時刻を返します。代入演算子 (=) を使用して、このメソッドによって返される値に日 / 時変数や日 / 時タイプフィールドを設定することもできます。
BSTR ToUpper (BSTR szMixedCase)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 引数として、変換対象の文字列を使用します。 ▶ 大文字に変換された当初の文字列を返します。1 番目の引数には、任意の文字列変数、文字列フィールド、または文字列リテラルを指定できます。
BSTR ToLower (BSTR szMixedCase)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 引数として、変換対象の文字列を使用します。 ▶ 小文字に変換された当初の文字列を返します。1 番目の引数には、任意の文字列変数、文字列フィールド、または文字列リテラルを指定できます。

プロパティ short **InteractiveState**

(次のページへ続く)

拡張ルールの例

次に、GentranEx.DLL を使用して、通常の拡張ルール ロジックをさらに高度化した拡張ルールの例を示します。

```
Object obRules;
String [32] szLowerCaseStr;
String [32] szUpperCaseStr;
String [32] szResultString;
date d;

// 文字列変数の値を初期化する。
szLowerCaseStr = "abcdefg";
szUpperCaseStr = "WXYZ";

//Rules オブジェクトを作成する。
obRules = CreateObject("GentranEx.Rules");

// 文字列の変換メソッドをテストし、結果を表示する。
szResultString = obRules.ToUpper(szLowerCaseStr);
messagebox(szResultString,0);
szResultString = obRules.ToLower(szUpperCaseStr);
messagebox(szResultString,0);

// 日付メソッドをテストする。
d = obRules.GetDate();
#TimeField = obRules.GetTime();

// 相互動作をテストする。
if obRules.InteractiveState = 1 then
    messagebox("We're running on the desktop",0);
else
    Begin
        // 非インタラクティブの動作であるため、ログ ファイルの書き込みに
        //TraceLog オブジェクトを使用する。
    End

deleteobject (obRules);
```

トランスレータ コマンドライン インターフェイスの使い方

目次

▶ はじめに	2
▶ コマンドライン シンタックス	3

はじめに

この付録の内容

この付録では、トランスレータ コマンドライン インターフェイスを使用して、XML 形式によるトランスレータ レポートの生成などを行う TX32.EXE のサービスを呼び出す方法を説明します。

メモ

- ▶ XML 形式パラメータを指定しないと、トランスレータ レポートは既定のバイナリ形式で生成されます。
 - ▶ 現在、トランスレータ コマンドライン インターフェイスは、TX32.EXE トランスレータのサービスを呼び出すすべてのアプリケーションで使用されます。
-

コマンドライン シンタックス

はじめに

コマンドラインのシンタックスは次のとおりです。

```
tx32 [-n] [-q]
      [-a server]
      [-e eventid]
      [-i ipckey [hwnd] ]
      [-f infile templatefile outfile report file]
      [-u param -u param 0]
      [-t tracefile]
      [-x XMLformattedreport]
```

シンタックスの パラメータ

次の表に、コマンドライン シンタックスのパラメータを示します。

パラメータ	説明	
-n	印刷またはエクスポートの後、ドキュメントを [インドローワ] に移動しません。	
-q	Quiet モード (メッセージ ボックスまたはステータスのダイアログ ボックスを表示しません)。	
-a	サーバー (TX32.EXE の接続先オーディット サーバーの名前)	
-e	イベント ID (このトランスレータが属するオーディット イベントの識別子)	
-i	IPC (Inter-Process Communication) モード	
	サブパラメータ	説明
	ipckey	ipcfile へのキー (トランスレータはこの IpcMsg フォルダを使用し、.IPC を追加します)
hwnd	親アプリケーションのメイン ウィンドウ ハンドルを示す番号	
(次のページへ続く)		

パラメータ	説明	
-f	Simple-translator モード	
	サブパラメータ	説明
	infile	トランスレーションするファイルへのパス
	templatefile	使用するトランスレーション オブジェクトへのパス
	outfile	トランスレーションされた出力の書き込み先ファイルのパス
	reportfile	トランスレータ レポートを作成するためのパス
-u	拡張ルールからアクセス可能な、ユーザー定義のパラメータ	
	サブパラメータ	説明
	param	パラメータの値
-t	Trace モード	
	サブパラメータ	説明
	tracefile	使用されるファイルをトレースするときのパス
-x	XMLformattedreport	XML 形式でトランスレータ レポートを生成します。 メモ このパラメータを指定しないと、レポートは既定のバイナリ形式で生成されます。

用語解説

? インドキュメント	この Gentran:Server ブラウザには、システム内で受信されたがエラーがあるドキュメント、または識別可能なパートナーまたはトランザクションセットを持たないドキュメントのリストが表示されます。
? アウトドキュメント	この Gentran:Server ブラウザには、自動処理でシステムにインポートされたが無効になったドキュメントのリストが表示されます。
AIAG	自動車産業アクショングループ (AIAG: Automotive Industry Action Group) は、自動車業界の標準制定団体です。これらのスタンダードは、ANSI X12 スタンダードのサブセットになっています。
ANA	商品番号割当協会 (Article Numbering Association)
ANSI	米国規格協会 (American National Standards Institute)。ANSI では、安全ガラスやバッテリー容量をはじめ、さまざまな製品やサービスの標準を制定しています。ANSI X12 委員会は、米国での EDI スタンダードの制定における中心的な組織です。
Communicator	Gentran:Server のコミュニケーションソフトウェア。Communicator を使用すると、送信、受信、再送信、コミュニケーションポート定義の設定、コミュニケーションプロファイルの設定、コミュニケーションスクリプトの設定、およびコミュニケーションセッションの表示と削除を行うことができます。
Constant	このスタンダードルールを使用して、指定したエレメントやフィールドにリテラル定数値を移動したり、他のエレメントやフィールドとの修飾関係を示したり、指定したエレメントやフィールドに現在の日時をマッピングしたりできます。

(次のページへ続く)

EANA	国際商品番号割当協会 (International Article Numbering Association)、ベルギーのブリュッセルに設置。
EDI	電子データ交換 (EDI: Electronic Data Interchange) とは、企業がコンピュータを使用して、書類を印刷することなくビジネスドキュメントをアプリケーション間で直接交換するためのプロセスのことです。
EDIA	電子データ交換協会 (Electronic Data Interchange Association)。前身は輸送データ調整委員会 (TDCC: Transportation Data Coordinating Committee) です。
EDIFACT	国連経済社会理事会 (United Nations Economic and Social Council) の標準機構。行政、商業、運輸向け電子データ交換 (Electronic Data Interchange for Administration, Commerce, and Transport) の頭文字です。
EDI スタandard	ビジネスドキュメントを EDI ドキュメントに変換するためのルールです。
Loop count	このスタANDARD ルールを使用すると、エレメントやフィールドがループの一部である場合に、ループの回数を数えることができます。ループがネストされている場合、現在のループまたは外側のループを数えることができます。たとえば、ループ Y がループ X にネストされていて、ループ Y が 15 回、またループ X が 3 回繰り返されています。この場合、ユーザーは、15 (ループ Y) または 3 (ループ X) のいずれかを数えることができます。
ODETTE	ヨーロッパ遠隔送信データ交換機構 (Organization for Data Exchange by Tele-Transmission in Europe)
Select	このスタANDARD ルールを使用すると、Gentran:Server パートナー エディタで作成した所在地テーブル、クロスリファレンス テーブル、パートナー テーブル、または照合テーブルからエントリを選択することができます。次に、これらのテーブルのフィールドをデータ内の 1 つ以上のフィールドにマップできます。Select 機能では現在のフィールドの値を使用して選択が行われます。

(次のページへ続く)

string	この種類のフィールドまたはエレメントには、1つ以上の印刷可能文字が入りません。フィールドまたはエレメントを string 型と指定する場合、シンタックストークンを指定して書式を設定します。
TDC	「 EDIA 」を参照してください。
TDF	トランザクションデータファイル (Transaction Data File) の略。このファイルは、ドキュメントファイルと Gentran:Server トランスレータ間で、フィルタの役割をします。アウトバウンド処理では、データは TDF Import トランスレーションオブジェクトを使用して、 TDF ファイルからインポートされ、 EDI 形式にトランスレーションされます。その後、データはポストされ、トレーディングパートナーに送信できる状態になります。インバウンド処理では、 Gentran:Server で受信した EDI ドキュメントは TDF Export トランスレーションオブジェクトを使用して、 TDF 形式ファイルにエクスポートされます。その後、このデータファイルは処理したり、または内部アプリケーションファイルに変換したりできる状態になります。
TRADACOMS	商品番号割当協会 (UK Article Numbering Association) が公開している英国の EDI スタンドアード。
UCS	統一通信標準 (Uniform Communications Standard) は、食料雑貨業界で使用するスタンダードです。
Update	<p>このスタンダードルールを使用すると、ドキュメントレコード、エンベロープセグメント、インターチェンジ、グループ、現在のパートナー、またはドキュメント (マップの作業側の形式が EDI の場合) の特定のフィールドを、エレメント、またはフィールドのコンテンツで更新することができます。</p> <p>注意 この機能は、内部 Gentran:Server データベース テーブルを更新します。内部データベース テーブルを更新する必要があるときにだけ、この機能を使用するようお勧めします。</p> <p>この機能は、通常、ドキュメント テーブルのドキュメント名や参照を更新するとき以外は使用されません。この機能を他の目的で使用すると、致命的な障害が発生することがあります！</p>

(次のページへ続く)

Use accum

このスタンダードルールを使用すると、数値演算により操作できる一連の数値変数を利用できます。その後、その変数をフィールド間でやり取りできます。この機能を使用すると、ハッシュトータル(たとえば、数量や価格など数値フィールドの値を累積するのに使用)を含むエレメントやフィールドの計算を追加、変更または削除できます。また、累積したトータルを **Control** の総数のフィールドにマッピングし、アキュムレータを使用できます。通常、アキュムレータは、特定のエレメントが実行される回数を数えたり、増加または連続レコード数またはラインアイテム数を生成するために使用されます。

Use code

このスタンダードルールを使用すると、定義済みコードテーブルに対してエレメントやフィールドを照合させたり、エレメントやフィールドにコードテーブルの値が1つも含まれていない場合エラーを生成するかどうかを指定したり、他のエレメントやフィールドにコードの説明を格納したりできます。

VICS

任意産業間通信標準 (Voluntary Inter-industry Communication Standards) は小売業界のスタンダード制定団体であり、ANSI X12 のサブセットを定めています。

X12

EDI スタンダードを制定し公開する ANSI の委員会。

アウト ドキュメント

Gentran:Server ブラウザには、送信の準備が完了しているドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントは、正常に送信された後、自動的に [アウト ドローワ] に転送されます。

アウト ドローワ

この Gentran:Server ブラウザには、正常に送信されたドキュメントのリストが表示されます。

**アウトバウンド
マッピング**

ドキュメントをパートナーへ送信できるように、アプリケーションファイル形式が EDI スタンダード形式にトランスレーションされます。アウトバウンドデータをトランスレーションするには、Gentran:Server でインポート マップとシステム インポート マップを作成する必要があります。

(次のページへ続く)

アクティブ化

この機能によって、マップ コンポーネントを使用可能にします。スタンダードによって"必須"(存在している)と定義されているすべてのグループ、セグメント、複合およびエレメントがアクティブにされます。必須のグループ、セグメント、複合およびエレメントをユーザーが非アクティブにすることはできません。データをトランスレートする際、アクティブにされていないグループ、セグメント、複合、およびエレメント(またはレコードおよびフィールド)は処理されません。したがって、スタンダードによって必須と定義されていないグループ、セグメント、複合、およびエレメントをマッピングに使用すると決定した場合、それらをユーザーがアクティブにする必要があります。

アプリケーションシステム

特定のビジネス機能を遂行するように設計されている、EDI の外にあるコンピュータ システム。会計、購買、資材管理、人事、出荷などのシステムがあります。

アプリケーションファイル

インポート マップまたはエクスポート マップを作成する場合、自社で使用しているアプリケーションを Gentran:Server に定義する必要があります。Gentran:Server の用語では、自社で使用しているアプリケーション ファイルは"固定長形式ファイル"または"固定長ファイル"とも呼びます。データが正確に処理されるためには、アプリケーション ファイルに、パートナーのドキュメントから抽出する必要がある情報(マップがインバウンドの場合)、またはパートナーに送る必要がある情報(マップがアウトバウンドの場合)のいずれかのすべての情報が含まれている必要があります。

色

この機能を使用すると、前景色や背景色を選択して、さまざまなマップ コンポーネントを視覚的に定義することができます。色の使用は、オプションです。

印刷物

トレーディング パートナーから受け取ったデータが印刷トランスレーション オブジェクトへ渡されると出力されます。データを実際に印刷する必要はありません。印刷物は、ファイルとしてハードディスクに保存することもできます。

インターチェンジ

インターチェンジには、同じ伝送において、ある送信者からある受信者に送られたドキュメント(トランザクション セット)の全ファンクショナル グループが含まれます。

(次のページへ続く)

**インターチェンジ
ブラウザ**

この Gentran:Server ブラウザには、送信または受信したすべてのインターチェンジの階層リストを表示できます。インターチェンジのステータスに関する情報 (ファンクショナル受信確認を受信したかどうか、およびその受信確認のステータスなど) が表示されます。また、このブラウザでは、インターチェンジ内のドキュメントを表示できます。インターチェンジブラウザは常に使用可能です。

イン ドキュメント

この Gentran:Server ブラウザには、システム内で受信したがユーザーがまだ処理していないドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントの処理 (印刷またはエクスポート) が終了すると、ドキュメントは [イン ドローワ] に転送されます。

イン ドローワ

この Gentran:Server ブラウザには、受信および処理が完了したドキュメントのリストが表示されます。

**インバウンド
マッピング**

トレーディング パートナーからドキュメントを受信できるように、パートナーの EDI スタンダード形式ビジネスドキュメントが、自社のアプリケーション ファイル形式にトランスレーションされます。インバウンド データをトランスレーションするには、エクスポート マップを作成する必要があります。

インポート

このコマンドを実行すると、外部アプリケーション ファイルからデータをインポートできます。ファイルの内容に応じて、パートナー、トランザクション、またはトランスレーション オブジェクトの情報の入力を要求される場合があります。

**インポート
トランスレーション
オブジェクト**

「[インポート マップ](#)」を参照してください。

インポート マップ

このマップは、自社のアプリケーション ファイル (テキスト形式のファイル定義。複数のドキュメントで構成される場合もある) のデータを、パートナーが受け取る EDI スタンダード形式ドキュメントへ変換する方法を定義します。インポート マップは、アウトバウンド処理に必要になります。

**エクスポート
トランスレーション
オブジェクト**

「[エクスポート マップ](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

エクスポート マップ

このマップは、パートナーが送信した EDI スタンドード書式のドキュメントのデータを自分が使用するアプリケーションに移動する方法を定義します (テキスト形式のファイル定義)。インバウンド処理に必要なになります。

エレメント

使用可能な情報の最小単位のことであり、スタンドードによって定義されます。たとえば、数量、単価、または説明について定義します。個々のエレメントは、それぞれの状況に応じて意味合いが多少異なります。したがって、エレメントは通常、組み合わせられてセグメントとなるまでは、有用な意味を持つものとはみなされません。また、エレメントとは EDI マップ コンポーネントのことで、対応するアプリケーションフィールドにマッピング (連結) して、EDI ファイルとの間でデータをやり取りします。

以下のように、3 種類のデータ エレメントがあります。

データ エレメント	定義
単純データ エレメント	スタンドードで定義されている最小単位の情報
複合データ エレメント	複数のコンポーネント エレメントで構成されるデータ エレメント
コンポーネントデータ エレメント	複合データ エレメントを構成する個々のデータ エレメント。サブエレメントとも言います。

エンベロープ

処理の便宜を図るために、伝送時に情報を分割する手段のひとつ。エンベロープには、それぞれヘッダー セグメントとトレーラ セグメントが含まれています。これらのセグメントは、そのエンベロープとほかのエンベロープとを区別し、エンベロープの内容に関する情報を提供します。

エンベロープには、次に示す 3 つのレベルがあります。

- **トランザクション セット**
 各トランザクション セット (ビジネス ドキュメント) は、トランザクション セット エンベロープに入っています。
- **ファンクショナル グループ**
 関連するビジネス ドキュメントが入っているエンベロープです。スタンドードにより、ファンクショナル グループ エンベロープにまとめなければならないトランザクション セットが定義されています。
- **インターチェンジ エンベロープ**
 1 回のコミュニケーションで 1 つのトレーディング パートナーに送信されるすべてのデータ。インターチェンジ エンベロープは、ANSI で使用されている用語です。EDIA ではこのレベルのエンベロープを意味する用語として「伝送エンベロープ」を使用しています。しかし、ここでは「伝送 (transmission)」という用語について別の使い方をしているため、インターチェンジ エンベロープと呼ぶことにします。

(次のページへ続く)

応答	この Gentran:Server の機能を使用すると、インドローウ内で選択されている 1 つ以上のドキュメントへの応答として、(パートナー関係に設定されたターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを使用して) ターンアラウンドドキュメントを作成できます。
拡張ルール	このルールを使用すると、 Gentran:Server 用プログラミング言語を使用して、ほとんどすべてのマッピング処理を実行できます。
関係付ける条件	この機能を使用すると、シンタックスまたは適合性の理由から、フィールドを結びつけることができます。たとえば、フィールド A はフィールド B が存在しないと無効になります。したがって、フィールド A とフィールド B をペアにする条件を設定した場合、どちらか片方のフィールドが存在しないときに、エラーが生成されます。
既定値	定義済みの値 — 特に変更していない限り、プログラムではあらかじめ組み込まれている値が使用されます。
均等化	この機能を使用すると、フォーカスされているマップの入力側と出力側のサイズを同じサイズに戻すことができます。"均等化"機能の使用は、オプションです。
クリック	クリックとは、指定されたアイテムの上にカーソルを置き、第 1 マウス ボタンを押してから離すことを言います。第 1 マウス ボタンは、マウス操作を右手と左手のどちらで行う場合でも、人差し指を使って押すボタンのことです。
グループ	ループ構造のことで、この構造にはグループ データが終了するまで、あるいはループの繰り返し可能最大数に達成するまで、順次繰り返される関連するレコード / セグメントとグループまたはどちらか一方が含まれます。他のグループに従属するグループ (サブグループ) を作成する場合、このグループはネストされたループ構造 (ループ内のループ) になります。アプリケーション (固定長) ファイルと EDI ファイルは共にグループなので、それらのファイルは、 Gentran:Server の他のグループやサブグループと同じように見えます。
クロスリファレンス テーブル	このテーブルはパートナー エディタで作成され、アウトバウンド処理中は、ユーザーの値をトレーディング パートナーの値に、インバウンド処理中は、パートナーの値をユーザーの値に変換するのに使用されます。

(次のページへ続く)

**コードリスト
テーブル**

コードリスト テーブルは、コードのリストの保管場所として、EDI スタンダードによって使用されます。各 EDI スタンダードによって、追加定義される各エレメントのコードリストが用意されます。

固定形式ファイル

「[アプリケーションファイル](#)」を参照してください。

固定長ファイル

「[アプリケーションファイル](#)」を参照してください。

**コミュニケーション
セッション**

1 回の連続接続期間における、ある電話番号との間でのすべてのやり取り。これには、異なるトレーディング パートナー向けの 2 つまたは 3 つのインターチェンジエンベロープをネットワークへ送信することも含まれます。

コンパイル

この機能は、マップをコンパイルしたりトランスレーション オブジェクトを作成したりします。Gentran:Server を使用して作成したマップは、"ソース マップ"と呼ばれます。ソース マップがコンパイルされると、"コンパイルされたトランスレーション オブジェクト"となります。作成されたトランスレーション オブジェクトは、使用する前に Gentran:Server システムに登録する必要があります。

**コンポーネント
データ エレメント**

複合データ エレメントに属する単純なデータ エレメント。サブエレメントとも言います。

**サード パーティ
ネットワーク**

「[ネットワーク](#)」を参照してください。

**システムインポート
トランスレーション
オブジェクト**

「[システム インポート マップ](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

**システムインポート
マップ**

このマップを使って、トランスレータはアプリケーション ファイル内の各ドキュメントに対応する取引関係 (パートナー エディタで確立) を識別します。これにより、ドキュメントの処理にどのインポート マップを使用するかが識別されます。アウトバウンド データをトランスレーションするには、EDIMGR.INI で定義されたシステム インポート マップが必要です。

**システム
トランスレーション
オブジェクト**

これらのトランスレーション オブジェクトでは、インターチェンジ、ファンクショナルグループ、およびトランザクション セットの作成と分割を制御します。また、ファンクショナル受信確認を生成したり、ファンクショナル受信確認との整合性をとるためにも使用されます。必要なシステム トランスレーション オブジェクトはすべて、Gentran:Server システムによって自動的にインストールされます。

実数

実数には、明示的な小数点 (たとえば、2.01 は、2.01 と書式化される) があり、末尾のゼロが切り捨てられます。

修飾子

コードで表現される値を持つエレメントで、他のエレメントの機能に特定の意味を付与します。修飾関係とは、エレメントとその修飾子との間の相互作用のことです。エレメントの機能は、修飾に含まれるコードによって異なります。

受信

この Gentran:Server の機能を使用すると、トレーディング パートナーからデータを受信するためのコミュニケーション セッションを手動で開始できます。

受信確認

この用語は、ANSI 997 ファンクショナル受信確認、EDIA 999 受理 / 拒絶アドバイス、および EDIFACT CNTRL ドキュメントを示すために使用されます。

主要な機関

EDI コミュニケーションのスタンダードの開発および更新を行う組織。ANSI、EDIA、AIAG、UCS、EDIFACT、ODETTE、および VICS などの組織があります。

条件

「[関係付ける条件](#)」を参照してください。

照合テーブル

パートナー エディタで作成されるテーブルの 1 つ。インバウンドまたはアウトバウンド データの値に関連した情報を選択するのに使用します。

(次のページへ続く)

所在地テーブル

パートナー エディタで作成されるテーブルの 1 つ。パートナーの住所情報を格納できます。

シンプルなマッピング

「[連結](#)」を参照してください。

数字

この型のフィールドまたはエレメントには、整数または実数が入ります。フィールドまたはエレメントを番号型と指定する場合、N (整数) または R (実数) のいずれかの書式を指定し、小数点以下の桁数を指定して、書式を決めます。

スタンダードルール

これらのルールを使用すると、拡張ルールほど複雑ではないものの、単純な連結よりアドバンスド マッピング操作を実行できます。各スタンダードルールは、相互に両立しません (1 つのフィールドに使用できるスタンダードルールは 1 つだけです)。

ステータス バー

アプリケーション ウィンドウのステータス バーの機能には、選択、コマンド、またはプロセスに関する情報の定義、各アイテムを反転表示にしたときのメニューバー アイテムの定義、および入力時の現在のキーボード開始モード (たとえば、Caps Lock キーに対しては CAP、Num Lock キーに対しては NUM) の表示などがあります。シンタックス トークン

この機能を使用すると、string 型のエレメントやフィールドに使用できる文字や数字の範囲を定義する "トークン" を指定できます。その後、指定したシンタックス トークンを [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスの [書式] フィールドで使用できます。これにより、各エレメント / フィールドのエラーチェック中に使用する文字の種類 (ある範囲内の英数字、ある範囲内の数値など) を定義できます。

整数

含意の小数点を持つ数字 (たとえば、2.01 は、201 と書式設定される)。

(次のページへ続く)

セグメント

有用なデータをやり取りするために組み合わせられた関連エレメントまたは複合データ エレメントのグループ。セグメントは EDI スタンドードによって定義されます。1つのセグメントは、一度だけ実行される場合と、複数回繰り返される場合があります。たとえば、カタログ定価セグメントはアイテムの説明、数量、価格、リード タイムなどのエレメントで構成されているとします。これらのエレメントが単独で有用な情報を伝えるわけではありません。しかし、これらのエレメントを組み合わせることにより、そのアイテムが希望に合うかどうか、または価格が妥当なものかどうかなどを判断するために必要な情報になります。複数のセグメントが集まるとトランザクション セットになります。

セット

「[トランザクション セット \(ドキュメント\)](#)」を参照してください。

送信

Gentran:Server のこの機能を使用すると、トレーディング パートナーにデータを送信するためのコミュニケーション セッションを手動で開始できます。選択されたドキュメントのみがエンベロープに収められて送信されます。ドキュメントが選択されていない場合は、すべてのドキュメントが送信されます。正常に送信されたドキュメントは、アウト ドローワへ移動します。

**ターンアラウンド
ドキュメント**

ソース ドキュメントからのデータ エレメントが、ターンアラウンド マップを使用して自動的に転送される際の転送先のドキュメント。

**ターンアラウンド
マップ**

インバウンド (ソース) ドキュメントからターンアラウンド ドキュメント (ソースへの論理的応答ドキュメント) を作成するために使用される一連の命令。ソース ドキュメントからターゲット ドキュメント (トランスレーション オブジェクト) にデータを転送することによって作成されます。

ダイアログ ボックス

ダイアログ ボックスには、ユーザーが取る必要のある動作の追加情報またはオプションが表示されています。オプションを指定した場合、コマンドを実行するためのボタンを選択できます。要求された作業を実行できない理由を示す警告またはメッセージが表示されるダイアログ ボックスもあります。ダイアログ ボックスにタイトルバーがある場合には、デスクトップの別の場所にそれを移動することができます。

タイトル バー

アプリケーション ウィンドウのタイトル バーにはアプリケーション名が表示されます。タイトル バーを使用して、デスクトップ上の別の場所にウィンドウを移動できます。

(次のページへ続く)

チェックボックス	チェックボックスによって、リストからオプションを選択またはクリアできません。オプションをリストから必要なだけ選択できます。チェックボックスを選択すると、チェックマークが表示されます。使用できないオプションのラベルは、グレー表示されます。
ツールバー	ツールバーには、メニューバーで使用可能なコマンドがグラフィカルなボタンで表示されます。
定義済み	データ登録トランスレーションオブジェクトにおける、特定のエレメントの既定値。必要に応じて値を変更できます。
適合	ドキュメントが、トランスレーションオブジェクトで定義されたとおり、EDIスタンダードに準拠していることを意味します。
伝送	「コミュニケーションセッション」 を参照してください。
伝送チェーン	EDIコミュニケーションがたどることのできるパス。パスには、1つの会社、1つのトレーディングパートナー、および1つ以上のネットワークサービスが含まれます。
ドキュメント	<p>実データが含まれ、単一の実体として処理される1つのトランザクションセット。ドキュメントであるか否かの識別は、データ量とは関係なく、単一の実体として処理されるかどうかによってのみ判定されます。たとえば、発注書に記載されているアイテムが1件であろうと、1万件であろうと、それが1枚の発注書である限り1つのドキュメントとなります。</p> <p>10枚の発注書が含まれるコミュニケーションをトレーディングパートナーが送信した場合、自社側では10枚のドキュメントを受け取るようになります。コミュニケーションに15枚の請求書が含まれていれば、15枚のドキュメントを受け取るようになります。</p>

(次のページへ続く)

**トランザクション
セット
(ドキュメント)**

スタンダードで定義されているビジネス書式。たとえば、ANSI 850 発注書や UCS 880 請求書などです。スタンダードでは、フォームを構成するセグメントおよびエレメント、それらが表示される順序、およびそれらの関係について、それぞれのトランザクションセットを定義しています。これはヨーロッパでは "メッセージ" とも呼ばれています。

**トランスレーション
オブジェクト**

特定のトランザクションセットの入力または出力が確実に存在し、使用可能な形で表示されるように設定された、あらかじめ設計済みの配置。各パートナー関係で使用するトランスレーションオブジェクトを指定する必要があります。

インバウンド トランスレーション オブジェクト :

ターンアラウンド : このトランスレーションオブジェクトは、ドキュメント受信時にそのドキュメントからできるだけ多くのエレメントが含まれる自然な応答ドキュメントを作成するために使用します。

エクスポート ファイル : このトランスレーションオブジェクトでは、ドキュメントの受信時にそのドキュメントを指定されたファイル形式にエクスポートするように指定します。

印刷 : このトランスレーションオブジェクトを使用して、ドキュメントを印刷します。

アウトバウンド トランスレーション オブジェクト :

インポート : このトランスレーションオブジェクトは、アプリケーションファイルからデータをインポートする場合に使用します。

印刷 : このトランスレーションオブジェクトを使用して、ドキュメントを印刷します。

画面入力 : このトランスレーションオブジェクトは、ドキュメント エディタにデータを入力する場合に使用します。

トランスレータ

Gentran:Server、アプリケーション インテグレーション サブシステム、およびフォーム インテグレーションのデータを処理するエンジン。

**トレーディング
パートナー**

ドキュメントを交換する相手先となる企業。パートナーとも言います。

日 / 時

この種類のフィールドまたはエレメントには、日付または時刻が入ります。フィールドまたはエレメントを日 / 時型と指定する場合、日付または時刻の書式を正確に指定しなければなりません。

(次のページへ続く)

ネットワーク	企業からの伝送を受け入れてトレーディング パートナー側で受信準備ができるまで保持するサード パーティ ネットワークまたは付加価値ネットワーク (VAN: Value-Added Network) とも呼ばれます。
バージョン	各スタンダード制定団体は、定期的にスタンダードを更新します。それぞれの正式な更新のことをバージョンと呼びます。
パートナー	ドキュメントを交換する相手の企業。トレーディング パートナーとも言います。
パートナー エディタ	この Gentran:Server の機能を使用すると、自社および全トレーディング パートナーのすべてのパートナー情報を定義、編集、および削除できます。
非アクティブ化	この機能によって、マップ コンポーネントをシステムが使用できないようにします。必須グループ、セグメント、複合およびエレメントを非アクティブにすることはできません。
ファンクショナルグループ	関連するトランザクション セット間の互換性を確保する目的で、スタンダード制定団体 (ANSI など) によって定義されたトランザクション セットのグループ。たとえば、すべての購買トランザクション セットをまとめたものとして定義されているファンクショナルグループがあります。
フィールド	アプリケーション ファイルで定義される情報の最小単位。また、フィールドとはアプリケーション マップ コンポーネントのことで、対応する EDI エレメントにマッピング (連結) して、アプリケーション ファイルとの間でデータをやり取りします。
フォント	この機能を使用すると、すべてのマップの表示に使用されるフォントをグローバルに変更できます。Gentran:Server の既定のフォントは、9 ポイントの Sans Serif です。"フォント" 機能を使用すると、フォントの種類、スタイル、およびポイント サイズを変更できます。この機能によって、フォントを自由にカスタマイズすることが可能になります。たとえば、マップのより広い範囲を画面に表示する必要がある場合にフォントを小さくしたり、またはフォントを大きくしたり、さらにまたフォントをより読みやすい種類やスタイルに変更したりできます。

(次のページへ続く)

**複合データ
エレメント**

2つ以上のコンポーネント データ エレメントまたはサブエレメントから構成されます。複合は、それらの複合を使用する EDI スタンドアード (EDIFACT、TRADACOMS、および一部の ANSI X12 スタンドアード) によって定義されます。

ブラウザ

ブラウザは、ドキュメント (トランザクションセット)、インターチェンジ、トランスレーションオブジェクトなどのアイテムのリストを表示するウィンドウです。ドキュメントブラウザには、ドキュメントのみが表示されます。

プロモート

この機能は、グループまたは繰り返されるセグメントから1つの繰り返し (インスタンス) を抽出します。この機能を使用すると、アプリケーションファイルから一意のデータをマッピングして、特別な定義を入力することができます。Gentran:Server では、1対1 (ループなし) および複数対複数 (ループ) のみが有効です。

分割

この機能を使用すると、グループや繰り返されるセグメントを2つのループに分割することができます。通常この機能は、複数回出現する同じマップコンポーネントのインスタンスが1つ以上必要な場合に使用します。

ポスト

この Gentran:Server の機能を使用すると、適合するドキュメントをワークスペースからアウトドキュメントに移動することができます。

ボタン

ボタンを使用して、コマンドを実行できます。ボタンを選択するには、そのボタンをクリックするか、使用したいボタンが選択されるまで **TAB** を押し、次に **ENTER** を押します。使用できないボタンは、グレー表示になっており、現在選択されているボタンは、他のボタンより縁が濃くなっています。

マップ

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムで定義する一連の手順。自社のアプリケーションファイルと EDI スタンドアード間の対応関係を示し、システムがデータをトランスレーションする方法を定義します。

メニュー

選択するアイテムのリスト。各アイテムは、コマンドを表します。使用できないアイテムはメニュー上でグレー表示され、無効であることが示されます。

(次のページへ続く)

メニューバー	アプリケーション メニューのリストが表示されます。
ユーザー トランスレーション オブジェクト	これらのトランスレーション オブジェクトでは、画面入力、インポート、エクスポート、ターンアラウンド ドキュメント、および印刷レポート作成を制御します。これらのトランスレーション オブジェクトは、アプリケーション インテグレーションまたはフォーム インテグレーション サブシステムを使用して作成されます。アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、インポート、エクスポート、およびターンアラウンド ドキュメントのトランスレーション オブジェクトを作成できます。フォーム インテグレーション サブシステムでは、画面入力および印刷のトランスレーション オブジェクトを作成できます。
リテラル定数	システムがマップで後で使用する情報を保存しておく保管場所。通常、定数はアウトバウンド マップで修飾子を生成するために使用されます。
ループ開始 / ループ終了	一部の EDI スタンドアードでは、ループ開始 (LS: Loop Start) およびループ終了 (LE: Loop End) セグメントが使用されます。同じタイプのループが複数ある場合、LS および LE セグメントによって区別されます。トランザクションに LS および LE セグメントが含まれている場合、マップで使用しているループの LS および LE セグメントを定義する必要があります。マップがインバウンドかアウトバウンドかによって、2つのうちいずれか1つの方法で定義します。
レコード	関連フィールドのグループで構成されます。1つのレコードは一度だけ実行される場合と、複数回繰り返される場合があります。
連結	この機能を使用すると、マップの入力側のフィールドまたはエレメントを出力側のフィールドまたはエレメントにマッピングすることができます。2つのマップ コンポーネント (以下フィールドと呼ぶ) 間の連結は、2つのフィールドをつなぐ線として表示されます。
ワークスペース	Gentran:Server ブラウザには、アウトバウンド "処理中" ドキュメントのリストが表示されます。最近インポートしたドキュメントや画面入力ドキュメントも表示されます。
